

令和7年度
「市民による市政評価」
結果報告書

令和7年10月

大仙市 企画部 総合政策課

目 次

1 はじめに

1.1 市政評価について	1
1.2 調査の種類	1
1.3 調査の手法	2
1.4 調査票	2
1.5 調査期間	2
1.6 集計・分析上の注意事項について	2

2 市民による市政評価

2.1 調査対象	4
2.2 回答率	4
2.3 回答者の属性	5
2.4 満足度及び重要度	7
2.4.1 満足の度合い	7
2.4.2 満足度における選択肢別の回答割合	9
2.4.3 満足度における属性別比較	10
2.4.4 重要の度合い	14
2.4.5 重要度における選択肢別の回答割合	16
2.4.6 重要度における属性別比較	17
2.4.7 項目別の要望度	21
2.4.8 満足度、重要度の総括	23
2.4.9 満足度、重要度の年齢層別比較	24
2.5 さらに推進すべき取組	26
2.5.1 産業分野	26
2.5.2 出会い・結婚・子育て分野	29

2.5.3 健康福祉・スポーツ分野	32
2.5.4 環境・安全分野	35
2.5.5 都市基盤分野	38
2.5.6 教育・交流分野	41
2.5.7 地域活性化・市民との協働・行政運営分野	44
2.5.8 さらに推進すべき取組の総括	47
2.6 市の情報発信や行政サービスのデジタル化	50
2.6.1 市政情報の入手手段	50
2.6.2 市が行っている行政サービスのデジタル化	53
2.7 あなたが思う大仙市について	57
2.7.1 市内在住の経緯	57
2.7.2 「住みやすさ」	59
2.8 経年比較（5か年分）	63

3 市民による個別事業評価

3.1 個別事業評価	82
3.1.1 広報活動	82
3.1.2 地域公共交通対策事業	95
3.1.3 地球温暖化対策事業	107

4 自由意見

5 資料（調査票）

令和7年度「市民による市政評価」調査票

1 はじめに

1.1 市政評価について

市の政策に対して、市民の皆さんが感じている思い（施策の満足度・重要度等）や個別具体の施策や事業の見直しを図りながら、効率的で効果的な行政運営につなげるとともに、調査を通じて市民の皆さんに市政への関心や理解を深めていただき、協働・共創のまちづくりをより一層推進することを目的に実施している。

1.2 調査の種類

調査は、次の区分により実施した。

(1) 市民による市政評価

第2次大仙市総合計画基本構想の体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目について、次の事項を調査した。

- 満足度（本市の現状に対してどのくらい満足しているか。）
- 重要度（本市のまちづくりにとってどのくらい重要であると考えているか。）
- 今後、さらに推進すべき取組

また、「市の情報発信や行政サービスのデジタル化について」として、市政情報の入手手段や行政のデジタル化に期待することを伺ったほか、「あなたが思う大仙市について」として、大仙市の住みやすさなどに関する意識調査も行った。

(2) 個別事業評価

個別具体の施策や事業の認知度、利用状況、意識等を把握するため、次の3テーマについて調査した。

No.	テーマ
1	広報活動
2	地域公共交通対策事業
3	地球温暖化対策事業

1.3 調査の手法

調査票を郵送したうえで、回答は郵送かインターネットを選択していただく方式とした。

1.4 調査票

本調査は、次の調査票により実施した。

○令和7年度「市民による市政評価」（「個別事業評価」の3テーマを含む）

※「5 資料（調査票）」参照

1.5 調査期間

令和7年4月30日（水）～5月30日（金）（31日間）※延長期間1週間含む

1.6 集計・分析上の注意事項について

- 回答者の属性においては無回答を含めた回答者数を「n」とし、その他の設問においては、有効回答内での割合を求めるため、無回答者を除いた有効回答者数を「n」として表記しており、設問により母数となる回答者数「n」は異なる場合がある。
- 属性等とのクロス集計では、属性等が不明な回答を除いているため、属性等の項目ごとに集計した対象者の合計と、全体の集計対象者の合計は一致しない場合がある。
- 市政評価における満足度、重要度及び要望度の平均値については、小数点第3位以下を、その他の設問の構成比（％）については、小数点第2位以下を四捨五入して表記している。
- 単一回答の設問における構成比（％）は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になっていない場合がある。
- 複数回答の設問における構成比（％）は、集計対象者数に対する回答者数の比率を示すものであり、その合計は100%を超える場合がある。

2 市民による市政評価

2 市民による市政評価

2.1 調査対象

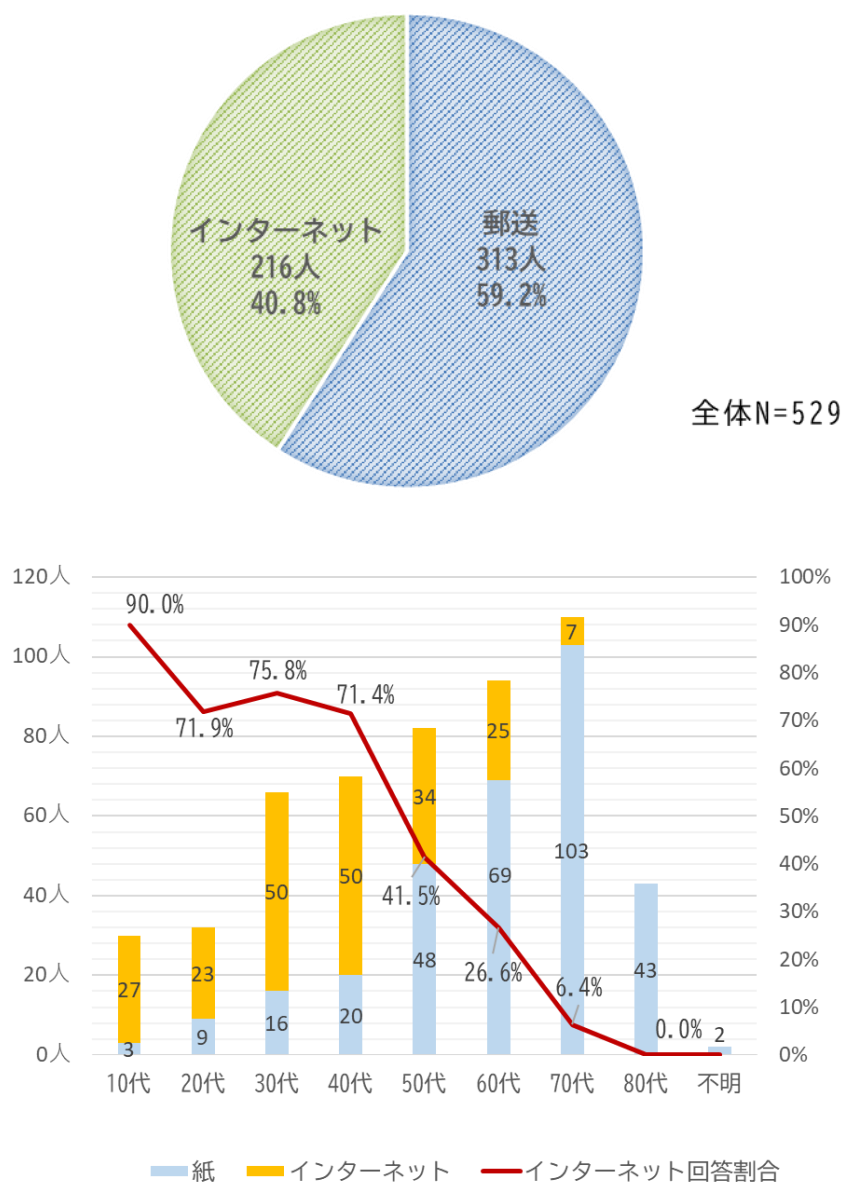
16 歳以上 85 歳未満の市民の中から無作為に抽出した 1,000 人（性別、年齢、地域については考慮）

2.2 回答率

送付者数・・・1,000 人

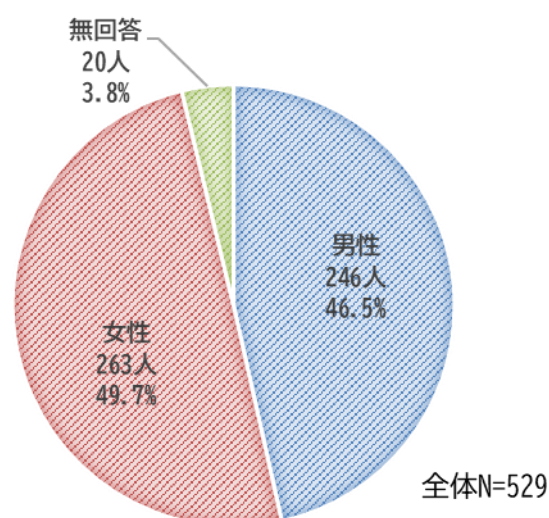
回答者数・・・529 人 回答率・・・52.9%

図表 1 回答方法の内訳

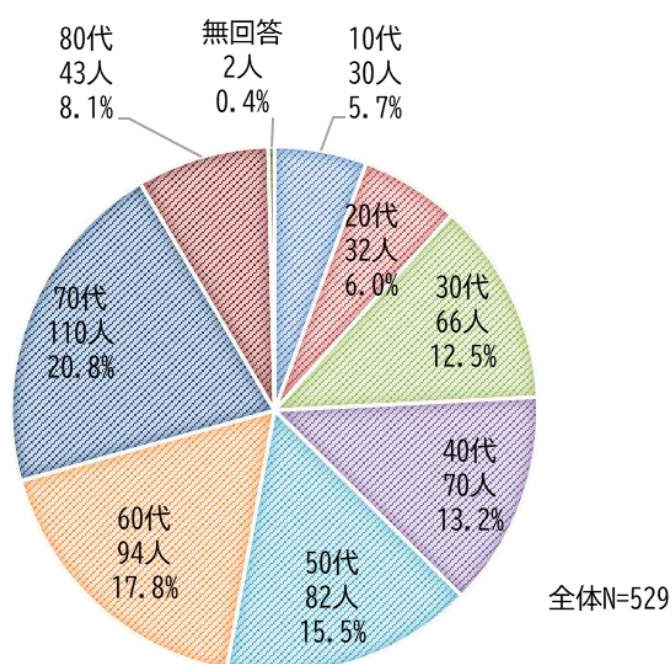


2.3 回答者の属性

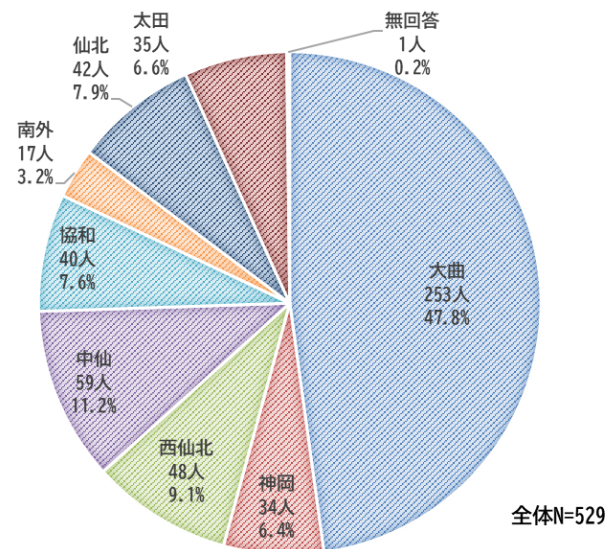
図表2 回答者の性別の内訳



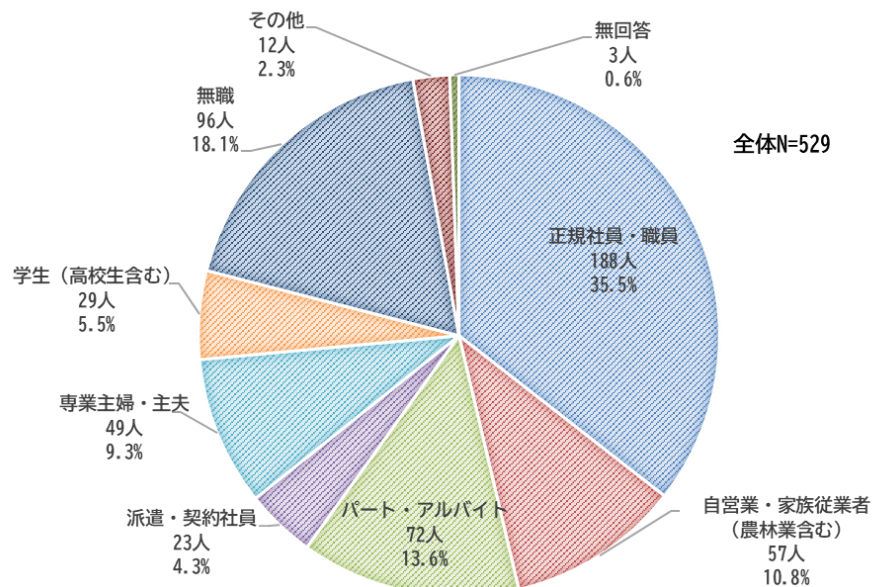
図表3 回答者の年代の内訳



図表4 回答者の居住地の内訳



図表5 回答者の就業状況の内訳



2.4 満足度及び重要度

2.4.1 満足の度合い

満足度の高い項目は、上位から「保健・医療」が 3.62（昨年度 3.66）、「自然・衛生環境」が 3.49（昨年度 3.52）、「安全・安心体制」が 3.44（昨年度 3.51）の順となっている。上位項目では、上位 4 項目については昨年度までと変わらないものの、昨年度 4 位の「子育て」が 8 位に下降している。そのほか、「スポーツ」が昨年度 5 位から 4 位に上昇している。

一方、満足度の低い項目は、下位から「商工業」が 2.68（昨年度 2.80）、「雇用・就労」が 2.73（昨年度 2.81）、「空き家対策」が 2.82（昨年度 2.82）の順となっている。下位項目では、「農林水産業」が昨年度 21 位から 23 位に下降しており、昨年度 22 位の「移住・定住」が 21 位に上昇している。そのほか、「男女共同参画」が昨年度 19 位から 16 位に上昇している。

昨年度と比較すると、全体的な評価に大きな変動は無いものの、満足度の低下が見られ、29 項目中、26 項目で低下しているほか、変動が無かったのは 1 項目、上昇したのは 2 項目となっている。なお、0.05 ポイント以上上昇した項目は見られなかった。

0.05 ポイント以上低下した主な項目は、3.31 で 8 位の「子育て」（0.17 減）、3.12 で 17 位の「道路・河川」（0.12 減）、2.68 で 29 位の「商工業」（0.12 減）、3.08 で 19 位の「地域活性化」（0.10 減）、3.00 で 23 位の「農林水産業」（0.10 減）などの 17 項目となっている。

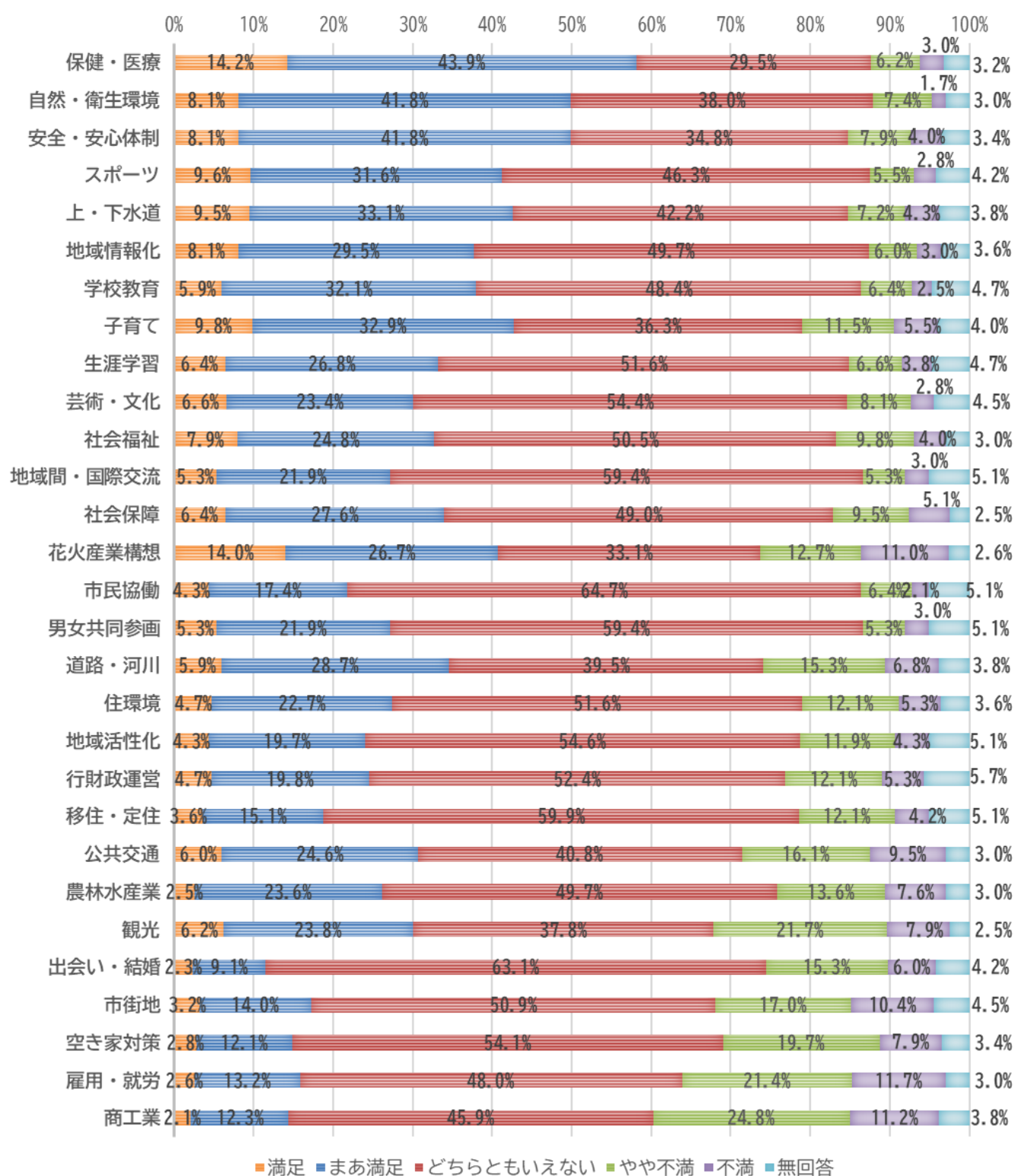
12 項目は昨年度から 0.05 ポイント未満の増減でほぼ横ばいとなっている。

図表6 満足度の一覧

順位		項 目	満足度		
R7	R6		R 7	R 6	増減 (R7-R6)
1	1	【保健・医療】 特定健診・がん検診の受診促進や地域医療体制の充実、予防接種の推進など、よりよい保健・医療体制づくりを進めています。	3.62	3.66	▲ 0.04
2	2	【自然・衛生環境】 豊かな自然の保護や環境に優しいまちづくり、ごみの減量化、公害防止など、自然環境の保全と衛生環境の整備に努めています。	3.49	3.52	▲ 0.03
3	3	【安全・安心体制】 消防・防災体制や雪対策の強化、交通安全の推進、防犯体制の強化など、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。	3.44	3.51	▲ 0.07
4	5	【スポーツ】 500歳野球大会の開催、スポーツ少年団への支援、スポーツ施設の充実など、生涯スポーツの推進、スポーツによる地域の活性化に取り組んでいます。	3.41	3.44	▲ 0.03
5	6	【上・下水道】 施設設備の計画的な更新や、適正な維持管理など、生活の基盤となる上・下水道事業の安定した運営に努めています。	3.38	3.40	▲ 0.02
6	7	【地域情報化】 地上デジタル放送難視聴地域の解消やインターネット環境の整備、FMはなびによる防災・災害情報発信などに取り組んでいます。	3.35	3.34	0.01
7	8	【学校教育】 キャリア教育の推進、英語教育の充実、地域との交流による多様な学びなど、地域一体となって社会で活躍できる子どもを育む取組を進めています。	3.34	3.32	0.02
8	4	【子育て】 全年齢層の保育料無償化など、保育サービスの充実や放課後児童クラブの設置、高校生までの医療費助成など、安心して子育てできる環境づくりを進めています。	3.31	3.48	▲ 0.17
9	8	【生涯学習】 ライフステージにあわせた学習活動の提供、生涯学習施設の整備など、生涯を通じて学び、活かせる環境づくりを進めています。また、図書館運営の充実などにより、読書活動の促進に取り組んでいます。	3.27	3.32	▲ 0.05
10	11	【芸術・文化】 芸術鑑賞機会の創出や音楽祭の開催、文化財を活用したイベントなど、芸術・文化を通じた潤いのあるまちづくりを進めています。	3.24	3.29	▲ 0.05
10	14	【社会福祉】 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など、安心して暮らせる社会福祉の充実に取り組んでいます。	3.24	3.27	▲ 0.03
12	11	【地域間・国際交流】 宮崎県宮崎市、神奈川県座間市、岩手県宮古市、韓国唐津市、台湾新北市との間で多様な交流を行っています。	3.22	3.29	▲ 0.07
13	10	【社会保障】 国民健康保険、生活保護制度など、市民の皆さまの生活を守る社会保障の充実に取り組んでいます。	3.21	3.30	▲ 0.09
13	13	【花火産業構想】 「大曲の花火」ブランドを戦略的に活用し、観光、商工業、農業など、幅広い分野にわたる活性化策を展開しています。	3.21	3.28	▲ 0.07
15	16	【市民協働】 ボランティアやNPOなどの市民主体の活動に対する支援や、ふるさと納税制度を通じた大仙ファンの創出など、協働・共創のまちづくりを進めています。	3.16	3.20	▲ 0.04
16	19	【男女共同参画】 男女共同参画や女性活躍の推進に関する講座の開催など、性別にかかわらず、誰もが活躍できる社会づくりを進めています。	3.13	3.15	▲ 0.02
17	15	【道路・河川】 幹線・生活道路の整備、迅速な道路修繕、橋りょうの長寿命化、国県河川の早期整備要望、内水対策などに取り組んでいます。	3.12	3.24	▲ 0.12
18	17	【住環境】 住宅リフォームへの支援、市営住宅や公園・緑地の維持管理など、良好で快適な住生活環境づくりに努めています。	3.10	3.19	▲ 0.09
19	18	【地域活性化】 地域協議会の活動や地域枠予算の確保、自治会活動への支援など、住民主体の地域づくりを応援しています。	3.08	3.18	▲ 0.10
20	20	【行財政運営】 財政健全化や組織機構改革、人口規模に見合った公共施設の配置適正化、行政サービスのデジタル化など、効率的かつ効果的で持続可能な行財政運営に努めています。	3.07	3.11	▲ 0.04
21	22	【移住・定住】 無料職業紹介所の設置など、移住やAターンの促進と定住に向けた環境づくりを進めています。	3.02	3.09	▲ 0.07
21	23	【公共交通】 地域の実情に応じて循環バスや市民バス、コミュニティバス、乗合タクシーを運行するなど、公共交通の維持確保に努めています。	3.02	3.07	▲ 0.05
23	21	【農林水産業】 売れる米づくりの推進や複合農業化、6次産業化、通年農業化、担い手の育成、生産基盤の整備などに取り組んでいます。	3.00	3.10	▲ 0.10
24	23	【観光】 各地の花火大会や祭り、史跡・文化財、温泉、自然等の地域資源を活かした観光振興に取り組んでいます。	2.99	3.07	▲ 0.08
25	25	【出会い・結婚】 出会いイベントの開催に対する支援による交流、出会いの場づくりや、結婚に伴う住居取得への支援などを通じ、地域全体で応援する環境づくりを進めています。	2.86	2.90	▲ 0.04
26	26	【市街地】 利便性が高く機能的な都市づくりや無秩序な市街地の拡散抑制、中心市街地の活性化などに取り組んでいます。	2.82	2.87	▲ 0.05
26	27	【空き家対策】 所有者への助言や指導、解体補助、空き家バンクによる移住希望者への情報提供など、空き家の適正管理と活用促進に努めています。	2.82	2.82	0.00
28	28	【雇用・就労】 雇用・就業支援や資格取得支援、職場見学事業、Aターン希望者への就業支援などに取り組んでいます。	2.73	2.81	▲ 0.08
29	29	【商工業】 企業誘致の推進や地元企業の規模拡大、企業の人材獲得に対する支援、商店街の取組や創業への支援などに取り組んでいます。	2.68	2.80	▲ 0.12

2.4.2 満足度における選択肢別の回答割合

図表7 満足度における選択肢別の回答割合



2.4.3 満足度における属性別比較

性別で見ると、上位・下位項目とも、昨年度までと同様に、全体と同じ項目が挙げられているが、男女間で評価項目に差が生じており、総じて女性の満足度が高い傾向にある。

年代別で見ると、上位項目については、20代以上の全年代で「保健・医療」が挙げられており、30代以上の年代では1位となっている。また、70代を除く全ての年代で「自然・衛生環境」、30代から50代で「地域情報化」、40代・50代・70代で「子育て」が挙げられている。

下位項目については、全ての年代で「雇用・就労」「空き家対策」が挙げられており、20代以上で「商工業」、50代以外の年代で「出会い・結婚」が挙げられている。

地域別で見ると、上位項目については、全ての地域で「保健・医療」が挙げられており、協和地域以外で「スポーツ」、中仙・協和・太田地域で「学校教育」、南外・仙北地域で「花火産業構想」が挙げられている。

下位項目については、全ての地域で「商工業」が挙げられており、太田地域以外で「市街地」、西仙北・南外地域以外で「空き家対策」、西仙北・南外・太田地域で「公共交通」、大曲・神岡・中仙・協和地域で全体と同じ項目が挙げられている。

図表8 性別による満足度

■男性 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.50
2	自然・衛生環境	3.44
3	安全・安心体制	3.40
4	スポーツ	3.32
5	上・下水道	3.30

(下位)

順位	項目	満足度
25	市街地	2.77
	出会い・結婚	2.77
27	空き家対策	2.76
28	雇用・就労	2.68
29	商工業	2.59

■女性 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.73
2	自然・衛生環境	3.53
3	スポーツ	3.51
4	安全・安心体制	3.49
5	上・下水道	3.46

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	2.95
26	市街地	2.87
27	空き家対策	2.86
28	商工業	2.78
29	雇用・就労	2.76

図表9 年代別による満足度

■10代

(上位)

順位	項目	満足度
1	上・下水道	3.80
2	自然・衛生環境	3.77
3	学校教育	3.63
4	安全・安心体制	3.60
	芸術・文化	3.60

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	3.03
26	雇用・就労	2.97
27	公共交通	2.90
	空き家対策	2.90
29	市街地	2.70

■20代

(上位)

順位	項目	満足度
1	自然・衛生環境	3.56
2	上・下水道	3.53
	保健・医療	3.53
	社会福祉	3.53
	道路・河川	3.53

(下位)

順位	項目	満足度
25	空き家対策	2.88
26	出会い・結婚	2.75
27	雇用・就労	2.69
28	市街地	2.59
29	商工業	2.56

■30代

(上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.49
2	自然・衛生環境	3.37
3	地域情報化	3.34
4	上・下水道	3.28
5	安全・安心体制	3.26
	花火産業構想	3.26

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	2.71
26	市街地	2.66
27	空き家対策	2.60
28	雇用・就労	2.58
29	商工業	2.53

■40代

(上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.70
2	安全・安心体制	3.61
3	地域情報化	3.49
4	自然・衛生環境	3.47
5	子育て	3.46

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	2.91
26	市街地	2.87
27	空き家対策	2.81
28	商工業	2.73
29	雇用・就労	2.66

■50代

(上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.48
2	地域情報化	3.38
	自然・衛生環境	3.38
4	スポーツ	3.33
5	子育て	3.28

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.82
26	空き家対策	2.72
27	雇用・就労	2.68
28	市街地	2.66
29	商工業	2.57

■60代

(上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.54
2	自然・衛生環境	3.51
3	安全・安心体制	3.40
4	学校教育	3.35
5	生涯学習	3.32
	スポーツ	3.32

(下位)

順位	項目	満足度
23	観光	2.91
	市街地	2.91
	移住・定住	2.91
26	空き家対策	2.82
27	出会い・結婚	2.75
28	雇用・就労	2.64
29	商工業	2.60

■70代 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.79
2	スポーツ	3.55
3	安全・安心体制	3.52
4	上・下水道	3.50
5	子育て	3.48

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	2.97
26	雇用・就労	2.95
27	空き家対策	2.93
	市街地	2.93
29	商工業	2.78

■80代 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.85
2	スポーツ	3.79
3	自然・衛生環境	3.69
4	生涯学習	3.67
5	安全・安心体制	3.65

(下位)

順位	項目	満足度
25	道路・河川	3.03
26	空き家対策	2.97
27	出会い・結婚	2.92
28	商工業	2.86
29	雇用・就労	2.74

図表 10 地域別による満足度

■大曲地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.65
2	自然・衛生環境	3.54
3	スポーツ	3.45
	安全・安心体制	3.45
	地域情報化	3.45

(下位)

順位	項目	満足度
25	出会い・結婚	2.91
26	市街地	2.86
27	空き家対策	2.85
28	雇用・就労	2.69
29	商工業	2.66

■神岡地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.53
2	安全・安心体制	3.48
3	上・下水道	3.45
4	社会福祉	3.44
5	スポーツ	3.41
	社会保障	3.41

(下位)

順位	項目	満足度
25	空き家対策	2.81
26	出会い・結婚	2.75
27	雇用・就労	2.67
28	市街地	2.62
29	商工業	2.57

■西仙北地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	安全・安心体制	3.55
2	上・下水道	3.53
3	保健・医療	3.47
4	スポーツ	3.40
5	自然・衛生環境	3.38

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.87
26	市街地	2.85
	商工業	2.85
28	出会い・結婚	2.76
29	雇用・就労	2.70

■中仙地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.64
2	自然・衛生環境	3.53
3	学校教育	3.39
4	スポーツ	3.36
	安全・安心体制	3.36

(下位)

順位	項目	満足度
25	雇用・就労	2.79
26	市街地	2.72
27	出会い・結婚	2.70
28	空き家対策	2.67
29	商工業	2.55

■協和地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.74
2	自然・衛生環境	3.56
3	安全・安心体制	3.51
4	上・下水道	3.46
5	学校教育	3.42

■南外地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	自然・衛生環境	3.47
	花火産業構想	3.47
3	保健・医療	3.35
4	子育て	3.29
5	スポーツ	3.24
	観光	3.24

■仙北地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.66
2	安全・安心体制	3.54
3	自然・衛生環境	3.46
4	花火産業構想	3.39
5	スポーツ	3.38

■太田地域 (上位)

順位	項目	満足度
1	保健・医療	3.56
2	スポーツ	3.39
3	芸術・文化	3.38
4	市民協働	3.31
5	自然・衛生環境	3.30
	学校教育	3.30

(下位)

順位	項目	満足度
25	市街地	2.97
26	商工業	2.95
27	出会い・結婚	2.85
28	空き家対策	2.79
29	雇用・就労	2.72

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.76
	住環境	2.76
	商工業	2.76
28	雇用・就労	2.71
29	市街地	2.47

(下位)

順位	項目	満足度
25	観光	2.88
26	雇用・就労	2.85
27	空き家対策	2.80
28	市街地	2.71
29	商工業	2.66

(下位)

順位	項目	満足度
25	公共交通	2.79
	農林水産業	2.79
	道路・河川	2.79
28	空き家対策	2.72
29	商工業	2.61

2.4.4 重要の度合い

重要度の高い項目は、上位から「保健・医療」が4.40（昨年度4.35）、「子育て」が4.38（昨年度4.35）と「雇用・就労」が4.38（昨年度4.34）の同順となっている。上位項目では、上位3項目については、昨年度までと変わらないものの、昨年度5位の「商工業」が7位に下降している。そのほか、「農林水産業」が昨年度7位から4位に上昇している。

一方、重要度の低い項目は、下位から「地域間・国際交流」が3.39（昨年度3.40）、「スポーツ」が3.52（昨年度3.45）、「花火産業構想」が3.54（昨年度3.61）の順となっている。下位項目では、「移住・定住」が昨年度19位から15位に上昇しており、「花火産業構想」は昨年度25位から27位に下降している。そのほか、「生涯学習」が昨年度23位から21位に上昇している。

昨年度と比較すると、満足度同様、全体的な評価に大きな変動は無いものの、29項目中、重要度が上昇したのは24項目となっている。中でも0.05ポイント以上上昇した主な項目は、3.98で15位の「移住・定住」（0.20増）、3.90で17位の「住環境」（0.11増）、3.81で21位の「生涯学習」（0.11増）、4.32で4位の「農林水産業」（0.10増）、4.15で11位の「公共交通」（0.10増）、3.91で16位の「市街地」（0.10増）となっている。

一方、0.05ポイント以上低下した項目は、3.54で27位の「花火産業構想」（0.07減）のみとなっている。

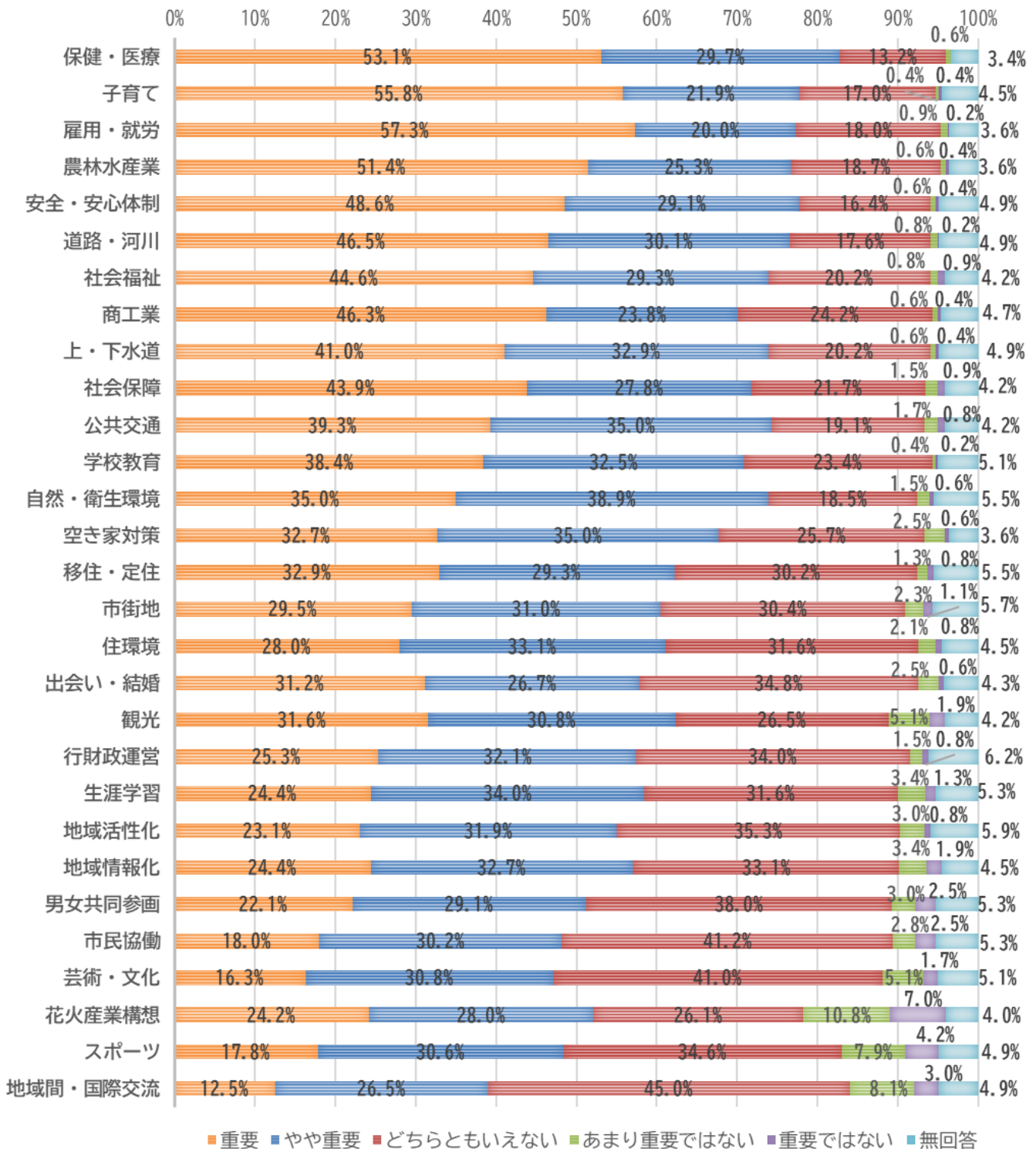
12項目は昨年度から0.05ポイント未満の増減でほぼ横ばいとなっている。

図表 11 重要度の一覧

順位		項 目		重要度		
R7	R6			R 7	R 6	増減 (R7-R6)
1	1	【保健・医療】	特定健診・がん検診の受診促進や地域医療体制の充実、予防接種の推進など、よりよい保健・医療体制づくりを進めています。	4.40	4.35	0.05
2	1	【子育て】	全年齢層の保育料無償化など、保育サービスの充実や放課後児童クラブの設置、高校生までの医療費助成など、安心して子育てできる環境づくりを進めています。	4.38	4.35	0.03
2	3	【雇用・就労】	雇用・就業支援や資格取得支援、職場見学事業、Aターン希望者への就業支援などに取り組んでいます。	4.38	4.34	0.04
4	7	【農林水産業】	売れる米づくりの推進や複合農業化、6次産業化、通年農業化、担い手の育成、生産基盤の整備などに取り組んでいます。	4.32	4.22	0.10
5	4	【安全・安心体制】	消防・防災体制や雪対策の強化、交通安全の推進、防犯体制の強化など、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。	4.31	4.25	0.06
6	8	【道路・河川】	幹線・生活道路の整備、迅速な道路修繕、橋りょうの長寿命化、国県河川の早期整備要望、内水対策などに取り組んでいます。	4.28	4.19	0.09
7	5	【社会福祉】	母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など、安心して暮らせる社会福祉の充実に努めています。	4.21	4.24	▲ 0.03
7	5	【商工業】	企業誘致の推進や地元企業の規模拡大、企業の人材獲得に対する支援、商店街の取組や創業への支援などに取り組んでいます。	4.21	4.24	▲ 0.03
9	10	【上・下水道】	施設設備の計画的な更新や、適正な維持管理など、生活の基盤となる上・下水道事業の安定した運営に努めています。	4.19	4.13	0.06
10	9	【社会保障】	国民健康保険、生活保護制度など、市民の皆さまの生活を守る社会保障の充実に努めています。	4.17	4.17	0.00
11	12	【公共交通】	地域の実情に応じて循環バスや市民バス、コミュニティバス、乗合タクシーを運行するなど、公共交通の維持確保に努めています。	4.15	4.05	0.10
12	11	【学校教育】	キャリア教育の推進、英語教育の充実、地域との交流による多様な学びなど、地域一体となって社会で活躍できる子どもを育む取組を進めています。	4.14	4.06	0.08
13	13	【自然・衛生環境】	豊かな自然の保護や環境に優しいまちづくり、ごみの減量化、公害防止など、自然環境の保全と衛生環境の整備に努めています。	4.12	4.04	0.08
14	14	【空き家対策】	所有者への助言や指導、解体補助、空き家バンクによる移住希望者への情報提供など、空き家の適正管理と活用促進に努めています。	4.00	3.99	0.01
15	19	【移住・定住】	無料職業紹介所の設置など、移住やAターンの促進と定住に向けた環境づくりを進めています。	3.98	3.78	0.20
16	17	【市街地】	利便性が高く機能的な都市づくりや無秩序な市街地の拡散抑制、中心市街地の活性化などに取り組んでいます。	3.91	3.81	0.10
17	18	【住環境】	住宅リフォームへの支援、市営住宅や公園・緑地の維持管理など、良好で快適な住生活環境づくりに努めています。	3.90	3.79	0.11
18	15	【出会い・結婚】	出会いイベントの開催に対する支援による交流、出会いの場づくりや、結婚に伴う住居取得への支援などを通じ、地域全体で応援する環境づくりを進めています。	3.89	3.85	0.04
18	15	【観光】	各地の花火大会や祭り、史跡・文化財、温泉、自然等の地域資源を活かした観光振興に取り組んでいます。	3.89	3.85	0.04
20	20	【行財政運営】	財政健全化や組織機構改革、人口規模に見合った公共施設の配置適正化、行政サービスのデジタル化など、効率的かつ効果的で持続可能な行財政運営に努めています。	3.85	3.76	0.09
21	23	【生涯学習】	ライフステージにあわせた学習活動の提供、生涯学習施設の整備など、生涯を通じて学び、活かせる環境づくりを進めています。また、図書館運営の充実などにより、読書活動の促進に取り組んでいます。	3.81	3.70	0.11
22	22	【地域活性化】	地域協議会の活動や地域予算の確保、自治会活動への支援など、住民主体の地域づくりを応援しています。	3.78	3.72	0.06
22	21	【地域情報化】	地上デジタル放送難視聴地域の解消やインターネット環境の整備、FMはなびによる防災・災害情報発信などに取り組んでいます。	3.78	3.74	0.04
24	24	【男女共同参画】	男女共同参画や女性活躍の推進に関する講座の開催など、性別にかかわらず、誰もが活躍できる社会づくりを進めています。	3.69	3.65	0.04
25	26	【市民協働】	ボランティアやNPOなどの市民主体の活動に対する支援や、ふるさと納税制度を通じた大仙ファンの創出など、協働・共創のまちづくりを進めています。	3.62	3.60	0.02
26	27	【芸術・文化】	芸術鑑賞機会の創出や音楽祭の開催、文化財を活用したイベントなど、芸術・文化を通じた潤いのあるまちづくりを進めています。	3.58	3.53	0.05
27	25	【花火産業構想】	「大曲の花火」ブランドを戦略的に活用し、観光、商工業、農業など、幅広い分野にわたる活性化策を展開しています。	3.54	3.61	▲ 0.07
28	28	【スポーツ】	500歳野球大会の開催、スポーツ少年団への支援、スポーツ施設の充実など、生涯スポーツの推進、スポーツによる地域の活性化に取り組んでいます。	3.52	3.45	0.07
29	29	【地域間・国際交流】	宮崎県宮崎市、神奈川県座間市、岩手県宮古市、韓国唐津市、台湾新北市との間で多様な交流を行っています。	3.39	3.40	▲ 0.01

2.4.5 重要度における選択肢別の回答割合

図表 12 重要度における選択肢別の回答割合



2.4.6 重要度における属性別比較

性別で見ると、男女ともに「雇用・就労」、「子育て」、「保健・医療」については、上位となっている。上位項目、下位項目ともに男女間で差が生じているほか、男性は、上位と下位項目で重要度に大きな差がある。上位項目については、男性の3位に全体4位の「農林水産業」が挙げられており、女性の3位に全体5位の「安全・安心体制」が挙げられている。

下位項目については、順位の入れ替わりはあるが、男女とも全体の項目と同じ項目が挙げられている。

年代別で見ると、上位項目については、10代と80代以外で「子育て」、10代以外で「保健・医療」、70代以外で「雇用・就労」が挙げられている。また、「保健・医療」は50代、70代と80代で、「子育て」は30代、40代で1位となっている。そのほか、全体4位の「農林水産業」は40代以上で上位となっており、30・50・60・80代で「道路河川」、20代と70代で「社会福祉」となっている。

下位項目については、全ての年代で「地域間・国際交流」が挙げられている。また、80代以外で「芸術・文化」、「スポーツ」、20代から60代で「市民協働」が挙げられている。そのほか、20代、30代以外で「花火産業構想」、10代で「出会い・結婚」が挙げられている。

地域別で見ると、上位項目については、太田地域以外で「雇用・就労」が挙げられており、神岡・仙北地域では1位となっている。また、仙北地域以外で「子育て」が挙げられており、大曲地域では1位となっている。そのほか、西仙北・中仙・協和・南外・仙北・太田地域で「農林水産業」、大曲・西仙北・中仙・南外・仙北・太田地域で「安全・安心体制」、神岡・仙北地域で「商工業」、南外地域以外で「保健・医療」がそれぞれ挙げられている。

下位項目については、南外地域以外で「地域間・国際交流」、仙北地域以外で「スポーツ」が挙げられている。また、神岡・南外・仙北・太田地域で「地域情報化」、南外地域以外で「花火産業構想」が挙げられている。

図表 13 性別による重要度

■男性

(上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.47
2	子育て	4.42
3	農林水産業	4.39
4	保健・医療	4.35
5	道路・河川	4.31

(下位)

順位	項目	重要度
25	市民協働	3.53
26	芸術・文化	3.45
	スポーツ	3.45
28	花火産業構想	3.41
29	地域間・国際交流	3.27

■女性

(上位)

順位	項目	重要度
1	保健・医療	4.46
2	子育て	4.37
3	安全・安心体制	4.35
4	雇用・就労	4.32
5	公共交通	4.28

(下位)

順位	項目	重要度
25	芸術・文化	3.70
26	市民協働	3.69
27	花火産業構想	3.67
28	スポーツ	3.60
29	地域間・国際交流	3.50

図表 14 年代別による重要度

■10代

(上位)

順位	項目	重要度
1	安全・安心体制	4.40
	雇用・就労	4.40
3	自然・衛生環境	4.37
4	社会保障	4.33
	上・下水道	4.33

(下位)

順位	項目	重要度
24	出会い・結婚	3.80
	芸術・文化	3.80
	花火産業構想	3.80
27	スポーツ	3.77
	地域間・国際交流	3.77
29	地域情報化	3.76

■20代

(上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.63
2	子育て	4.59
3	安全・安心体制	4.50
	保健・医療	4.50
5	社会福祉	4.45

(下位)

順位	項目	重要度
24	生涯学習	3.91
	地域情報化	3.91
26	市民協働	3.88
27	芸術・文化	3.81
28	スポーツ	3.59
29	地域間・国際交流	3.56

■30代

(上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.63
2	雇用・就労	4.45
3	安全・安心体制	4.40
4	保健・医療	4.35
5	道路・河川	4.34

(下位)

順位	項目	重要度
25	芸術・文化	3.45
26	男女共同参画	3.44
27	スポーツ	3.37
28	市民協働	3.24
29	地域間・国際交流	3.23

■40代

(上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.54
2	雇用・就労	4.46
3	保健・医療	4.40
4	農林水産業	4.36
	安全・安心体制	4.36

(下位)

順位	項目	重要度
25	スポーツ	3.57
26	市民協働	3.56
27	芸術・文化	3.47
28	花火産業構想	3.43
29	地域間・国際交流	3.33

■50代 (上位)

順位	項目	重要度
1	保健・医療	4.49
2	雇用・就労	4.46
3	子育て	4.39
4	道路・河川	4.36
5	農林水産業	4.35
	商工業	4.35

(下位)

順位	項目	重要度
25	市民協働	3.62
26	芸術・文化	3.56
27	スポーツ	3.46
28	花火産業構想	3.40
29	地域間・国際交流	3.19

■60代 (上位)

順位	項目	重要度
1	農林水産業	4.41
2	保健・医療	4.37
3	雇用・就労	4.34
4	子育て	4.33
5	道路・河川	4.31

(下位)

順位	項目	重要度
25	芸術・文化	3.57
26	市民協働	3.54
27	花火産業構想	3.42
28	スポーツ	3.40
29	地域間・国際交流	3.31

■70代 (上位)

順位	項目	重要度
1	保健・医療	4.44
2	社会福祉	4.31
	農林水産業	4.31
4	子育て	4.29
5	安全・安心体制	4.28

(下位)

順位	項目	重要度
25	観光	3.64
26	芸術・文化	3.58
27	地域間・国際交流	3.56
28	スポーツ	3.54
29	花火産業構想	3.52

■80代 (上位)

順位	項目	重要度
1	保健・医療	4.24
2	上・下水道	4.15
3	農林水産業	4.12
4	道路・河川	4.11
5	雇用・就労	4.09
	学校教育	4.09

(下位)

順位	項目	重要度
25	住環境	3.65
26	地域情報化	3.61
27	市街地	3.56
28	地域間・国際交流	3.54
29	花火産業構想	3.44

図表 15 地域別による重要度

■大曲地域

(上位)

順位	項目	重要度
1	子育て	4.48
2	保健・医療	4.44
3	雇用・就労	4.39
4	安全・安心体制	4.32
	道路・河川	4.32

(下位)

順位	項目	重要度
24	花火産業構想	3.74
	男女共同参画	3.74
26	市民協働	3.70
27	芸術・文化	3.66
28	スポーツ	3.58
29	地域間・国際交流	3.48

■神岡地域

(上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.61
2	商工業	4.47
3	保健・医療	4.42
4	道路・河川	4.39
5	子育て	4.29

(下位)

順位	項目	重要度
25	市民協働	3.42
26	地域情報化	3.39
27	花火産業構想	3.38
28	スポーツ	3.35
29	地域間・国際交流	3.25

■西仙北地域

(上位)

順位	項目	重要度
1	保健・医療	4.39
2	雇用・就労	4.36
3	安全・安心体制	4.35
4	子育て	4.33
5	農林水産業	4.27

(下位)

順位	項目	重要度
25	市民協働	3.70
26	スポーツ	3.50
27	芸術・文化	3.47
28	地域間・国際交流	3.27
29	花火産業構想	3.11

■中仙地域

(上位)

順位	項目	重要度
1	農林水産業	4.31
2	雇用・就労	4.30
3	保健・医療	4.29
4	安全・安心体制	4.25
5	子育て	4.24

(下位)

順位	項目	重要度
25	スポーツ	3.57
26	市民協働	3.54
27	芸術・文化	3.36
28	地域間・国際交流	3.30
29	花火産業構想	3.26

■協和地域

(上位)

順位	項目	重要度
1	保健・医療	4.51
2	子育て	4.46
3	農林水産業	4.41
4	雇用・就労	4.38
5	道路・河川	4.37

(下位)

順位	項目	重要度
25	花火産業構想	3.44
26	生涯学習	3.37
	芸術・文化	3.37
28	スポーツ	3.24
29	地域間・国際交流	3.13

■南外地域

(上位)

順位	項目	重要度
1	農林水産業	4.47
	公共交通	4.47
3	子育て	4.41
4	雇用・就労	4.35
	道路・河川	4.35
	安全・安心体制	4.35

(下位)

順位	項目	重要度
25	行財政運営	3.65
	市民協働	3.65
27	男女共同参画	3.56
28	地域情報化	3.53
	スポーツ	3.53

■仙北地域 (上位)

順位	項目	重要度
1	雇用・就労	4.49
2	安全・安心体制	4.40
3	農林水産業	4.37
4	保健・医療	4.34
5	商工業	4.32

(下位)

順位	項目	重要度
25	地域情報化	3.66
26	花火産業構想	3.63
27	市民協働	3.58
28	芸術・文化	3.54
29	地域間・国際交流	3.37

■太田地域 (上位)

順位	項目	重要度
1	安全・安心体制	4.28
2	保健・医療	4.27
3	社会福祉	4.25
4	農林水産業	4.23
5	子育て	4.18

(下位)

順位	項目	重要度
25	地域情報化	3.50
26	市民協働	3.42
27	地域間・国際交流	3.41
28	スポーツ	3.34
29	花火産業構想	3.03

2.4.7 項目別の要望度

本問では、重要度から満足度を引いた数値を「要望度」と定義している。

要望度の高い項目は、上位から「雇用・就労」が1.65（昨年度1.53）、「商工業」が1.53（昨年度1.44）、「農林水産業」が1.32（昨年度1.12）の順となっており、上位4項目までは、昨年度と同じ項目となっている。そのほか、「道路・河川」が7位から5位に上昇している。

一方、要望度が低い項目は、下位から「スポーツ」が0.11（昨年度0.01）、「地域間・国際交流」が0.17（昨年度0.11）、「花火産業構想」が0.33（昨年度0.33）、「芸術・文化」が0.34（昨年度0.24）の順となっている。下位2項目は昨年度と同じ順位、昨年度26位の「花火産業構想」と昨年度27位の「芸術・文化」がそれぞれ27位と26位となり、昨年度25位の「生涯学習」は23位に上昇している。

昨年度と比較すると、全体的に満足度が低下した一方で、重要度は上昇したことから、要望度は上昇している。

要望度が0.15ポイント以上上昇した主な項目は0.96で11位の「移住・定住」（0.27増）、1.16で5位の「道路・河川」（0.21増）、1.32で3位の「農林水産業」（0.20増）、1.07で8位の「子育て」（0.20増）、0.80で16位の「住環境」（0.20増）など9項目となっている。

図表 16 項目別の要望度（重要度－満足度）の一覧表

順位		項 目	要望度		
R7	R6		R 7	R 6	増減 (R7-R6)
1	1	【雇用・就労】 雇用・就業支援や資格取得支援、職場見学事業、Aターン希望者への就業支援などに取り組んでいます。	1.65	1.53	0.12
2	2	【商工業】 企業誘致の推進や地元企業の規模拡大、企業の人材獲得に対する支援、商店街の取組や創業への支援などに取り組んでいます。	1.53	1.44	0.09
3	4	【農林水産業】 売れる米づくりの推進や複合農業化、6次産業化、通年農業化、担い手の育成、生産基盤の整備などに取り組んでいます。	1.32	1.12	0.20
4	3	【空き家対策】 所有者への助言や指導、解体補助、空き家バンクによる移住希望者への情報提供など、空き家の適正管理と活用促進に努めています。	1.18	1.17	0.01
5	7	【道路・河川】 幹線・生活道路の整備、迅速な道路修繕、橋りょうの長寿命化、国県河川の早期整備要望、内水対策などに取り組んでいます。	1.16	0.95	0.21
6	5	【公共交通】 地域の実情に応じて循環バスや市民バス、コミュニティバス、乗合タクシーを運行するなど、公共交通の維持確保に努めています。	1.13	0.98	0.15
7	9	【市街地】 利便性が高く機能的な都市づくりや無秩序な市街地の拡散抑制、中心市街地の活性化などに取り組んでいます。	1.09	0.94	0.15
8	10	【子育て】 全年齢層の保育料無償化など、保育サービスの充実や放課後児童クラブの設置、高校生までの医療費助成など、安心して子育てできる環境づくりを進めています。	1.07	0.87	0.20
9	7	【出会い・結婚】 出会いイベントの開催に対する支援による交流、出会いの場づくりや、結婚に伴う住居取得への支援などを通じ、地域全体で応援する環境づくりを進めています。	1.03	0.95	0.08
10	6	【社会福祉】 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など、安心して暮らせる社会福祉の充実に努めています。	0.97	0.97	0.00
11	10	【社会保障】 国民健康保険、生活保護制度など、市民の皆さまの生活を守る社会保障の充実に努めています。	0.96	0.87	0.09
11	16	【移住・定住】 無料職業紹介所の設置など、移住やAターンの促進と定住に向けた環境づくりを進めています。	0.96	0.69	0.27
13	12	【観光】 各地の花火大会や祭り、史跡・文化財、温泉、自然等の地域資源を活かした観光振興に取り組んでいます。	0.90	0.78	0.12
14	13	【安全・安心体制】 消防・防災体制や雪対策の強化、交通安全の推進、防犯体制の強化など、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。	0.87	0.74	0.13
15	15	【上・下水道】 施設設備の計画的な更新や、適正な維持管理など、生活の基盤となる上・下水道事業の安定した運営に努めています。	0.81	0.73	0.08
16	13	【学校教育】 キャリア教育の推進、英語教育の充実、地域との交流による多様な学びなど、地域一体となって社会で活躍できる子どもを育む取組を進めています。	0.80	0.74	0.06
16	19	【住環境】 住宅リフォームへの支援、市営住宅や公園・緑地の維持管理など、良好で快適な住生活環境づくりに努めています。	0.80	0.60	0.20
18	16	【保健・医療】 特定健診・がん検診の受診促進や地域医療体制の充実、予防接種の推進など、よりよい保健・医療体制づくりを進めています。	0.78	0.69	0.09
18	18	【行財政運営】 財政健全化や組織機構改革、人口規模に見合った公共施設の配置適正化、行政サービスのデジタル化など、効率的かつ効果的で持続可能な行財政運営に努めています。	0.78	0.65	0.13
20	20	【地域活性化】 地域協議会の活動や地域枠予算の確保、自治会活動への支援など、住民主体の地域づくりを応援しています。	0.70	0.54	0.16
21	21	【自然・衛生環境】 豊かな自然の保護や環境に優しいまちづくり、ごみの減量化、公害防止など、自然環境の保全と衛生環境の整備に努めています。	0.63	0.52	0.11
22	22	【男女共同参画】 男女共同参画や女性活躍の推進に関する講座の開催など、性別にかかわらず、誰もが活躍できる社会づくりを進めています。	0.56	0.50	0.06
23	25	【生涯学習】 ライフステージにあわせた学習活動の提供、生涯学習施設の整備など、生涯を通じて学び、活かせる環境づくりを進めています。また、図書館運営の充実などにより、読書活動の促進に取り組んでいます。	0.54	0.38	0.16
24	23	【市民協働】 ボランティアやNPOなどの市民主体の活動に対する支援や、ふるさと納税制度を通じて大仙ファンの創出など、協働・共創のまちづくりを進めています。	0.46	0.40	0.06
25	23	【地域情報化】 地上デジタル放送難視聴地域の解消やインターネット環境の整備、FMはなびによる防災・災害情報発信などに取り組んでいます。	0.43	0.40	0.03
26	27	【芸術・文化】 芸術鑑賞機会の創出や音楽祭の開催、文化財を活用したイベントなど、芸術・文化を通じた潤いのあるまちづくりを進めています。	0.34	0.24	0.10
27	26	【花火産業構想】 「大曲の花火」ブランドを戦略的に活用し、観光、商工業、農業など、幅広い分野にわたる活性化策を展開しています。	0.33	0.33	0.00
28	28	【地域間・国際交流】 宮崎県宮崎市、神奈川県座間市、岩手県宮古市、韓国唐津市、台湾新北市との間で多様な交流を行っています。	0.17	0.11	0.06
29	29	【スポーツ】 500歳野球大会の開催、スポーツ少年団への支援、スポーツ施設の充実など、生涯スポーツの推進、スポーツによる地域の活性化に取り組んでいます。	0.11	0.01	0.10

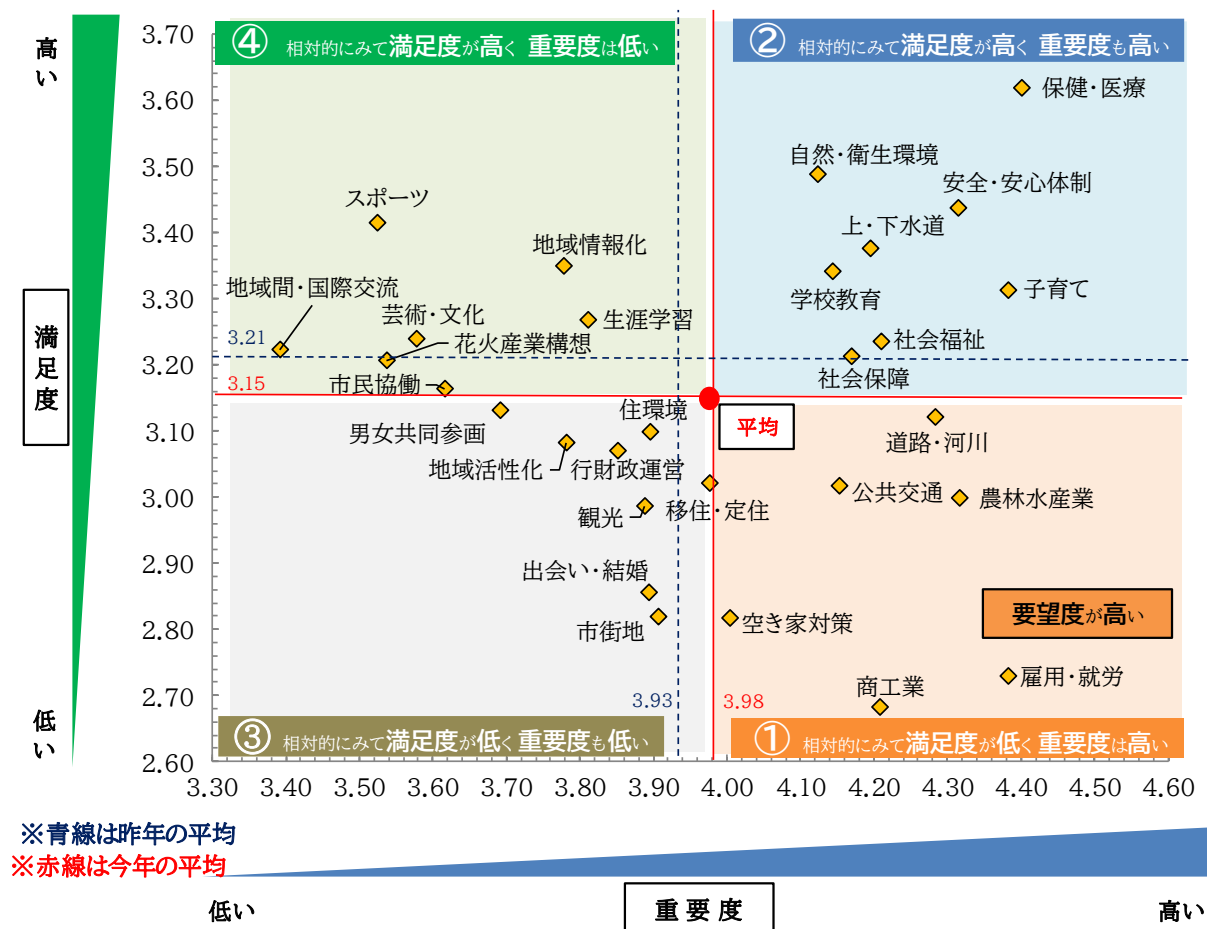
2.4.8 満足度、重要度の総括

満足度、重要度の総括として、満足度を縦軸、重要度を横軸として要望度の高さを示した散布図を作成した。図表 17 は、29 項目の満足度と重要度のそれぞれの位置を示したものである。

図の右上に位置するほど満足度と重要度が高い項目であり、逆に図の左下に位置するほど満足度と重要度が低い項目となっている。満足度が低く重要度が高い項目（図の右下にある項目）ほど相対的に要望度が高い項目となっている。

今回の満足度と重要度の結果から相対的に要望度が高い項目は、昨年度同様「雇用・就労」「商工業」となっている。

図表 17 満足度・重要度の項目別比較



2.4.9 満足度、重要度の年齢層別比較

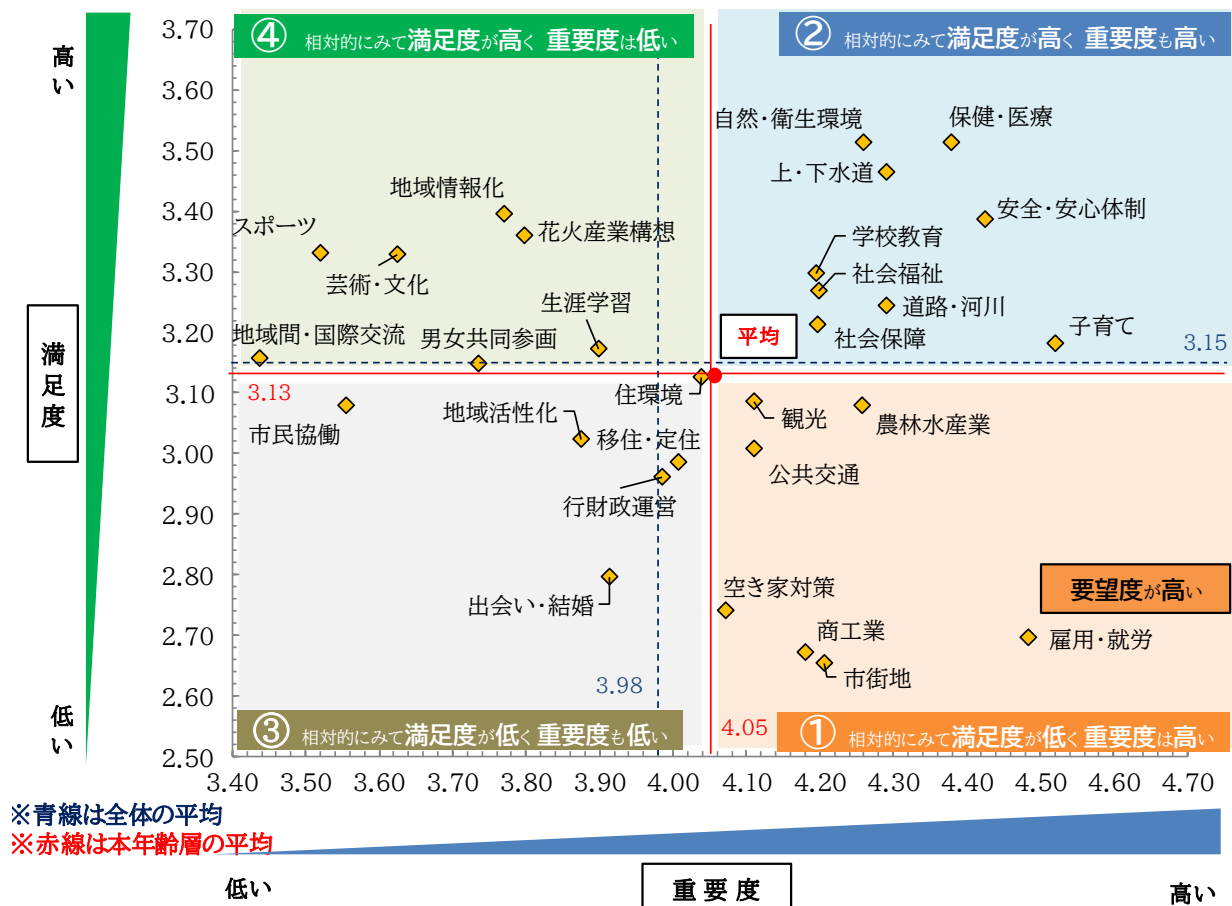
16 歳から 39 歳まで(図表 18)、40 歳から 64 歳まで(図表 19)、65 歳以上(図表 20) の 3 つの年齢層別に散布図を作成し比較した。

16 歳から 39 歳までの年齢層では、全体の平均と比べて重要度は高くなっているものの、満足度が低くなっており、相対的に要望度が高い項目は「雇用・就労」「市街地」「商工業」という結果になった。また、満足度は「保健・医療」「自然・衛生環境」が最も高く、重要度は「子育て」が最も高くなっている。他の年齢層と比較した場合、40 歳から 64 歳まで、65 歳以上ともに、満足度は「商工業」が最も低くなっているのに対し、本年齢層では「市街地」が最も低い結果となった。

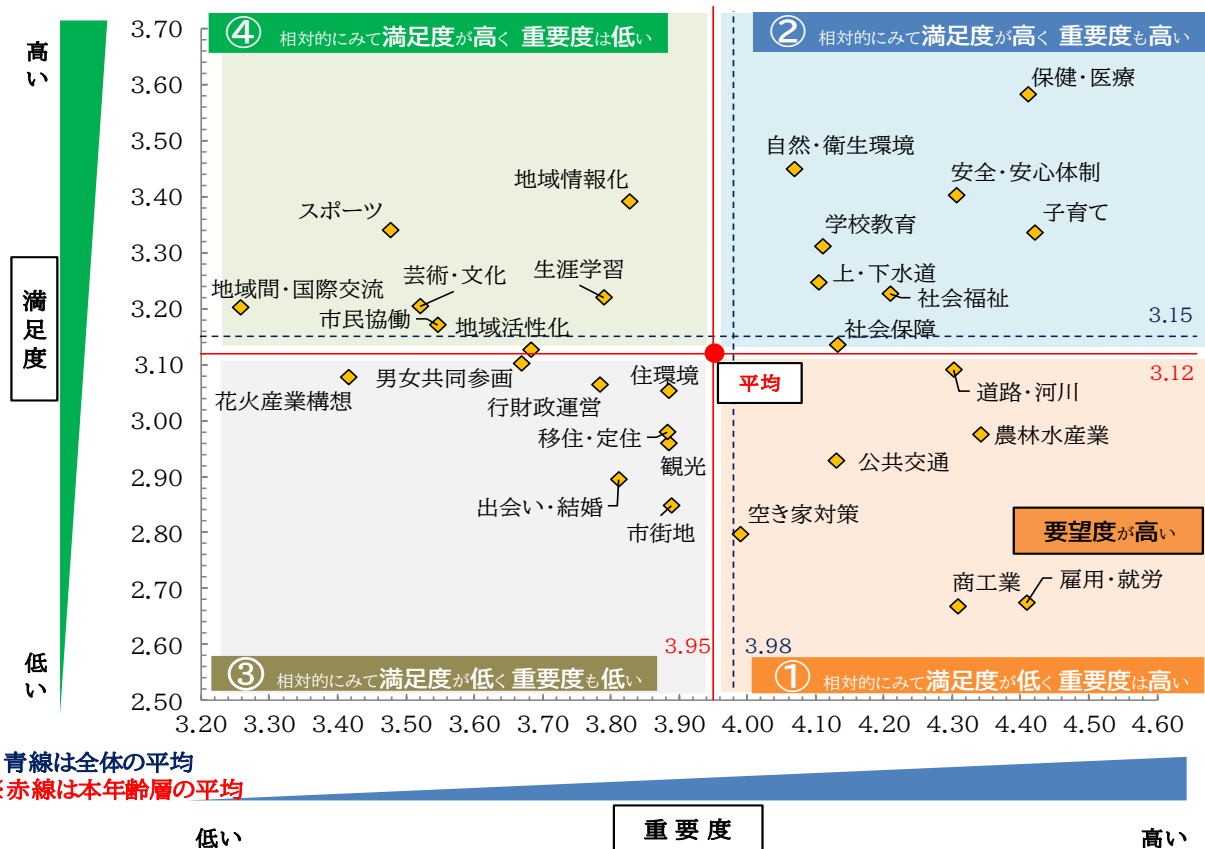
40 歳から 64 歳までの年齢層は、満足度及び重要度が全体の平均を下回っており、相対的に要望度が高い項目は「雇用・就労」「商工業」となっている。満足度は「保健・医療」、重要度は「子育て」が最も高くなっている。

65 歳以上の年齢層では、全体の平均と比べて満足度が高くなっているものの、重要度が低くなっており、相対的に要望度が高い項目は、他の年齢層同様「雇用・就労」「商工業」となっている。

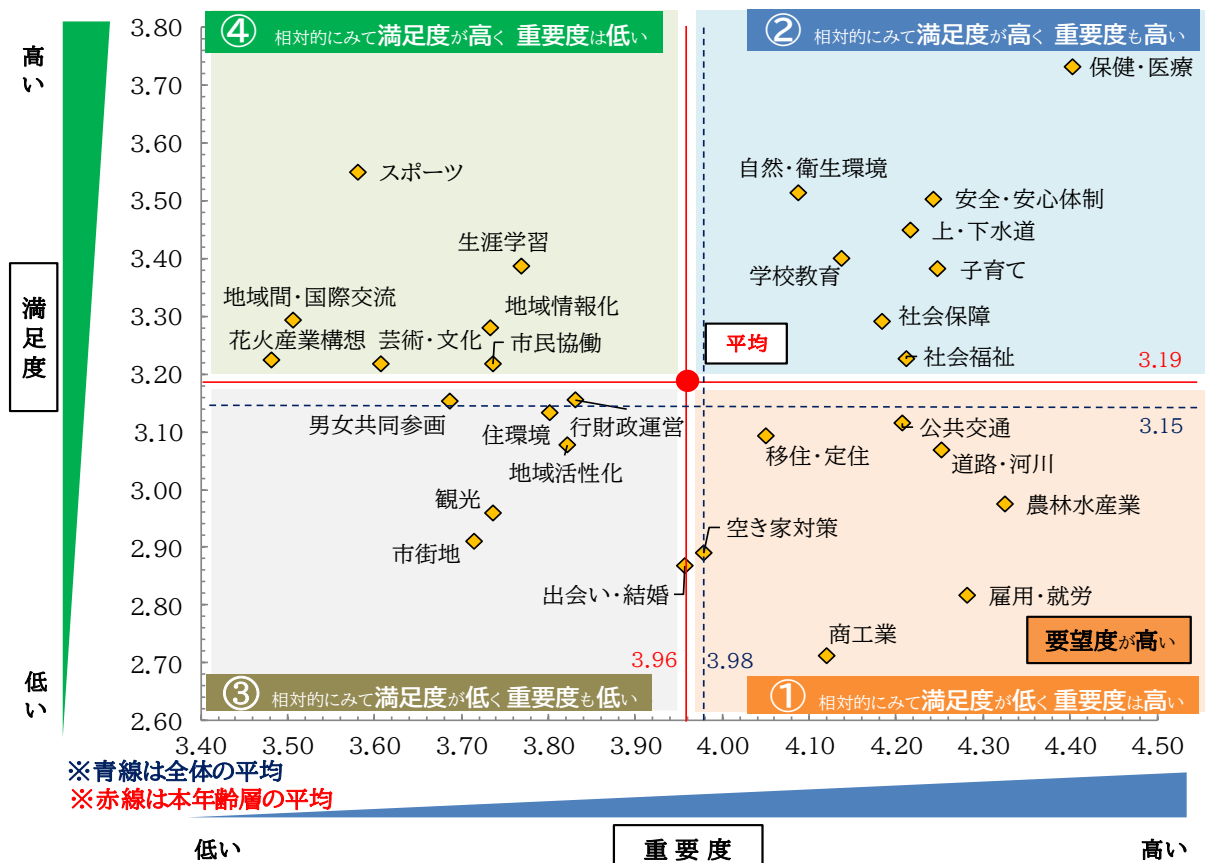
図表 18 満足度・重要度の項目別比較（16 歳から 39 歳）



図表 19 満足度・重要度の項目別比較（40 歳から 64 歳）



図表 20 満足度・重要度の項目別比較（65 歳以上）



2.5 さらに推進すべき取組

2.5.1 産業分野

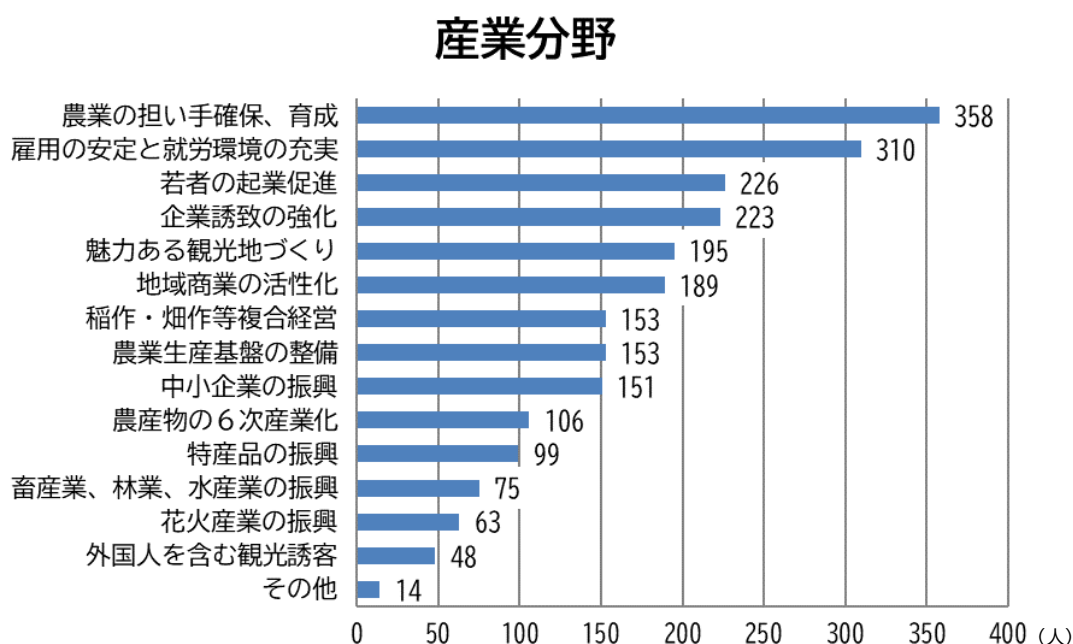
さらに推進すべき取組の上位は、「農業の担い手確保、育成」「雇用の安定と就労環境の充実」「若者の起業促進」の順となっている。

一方、下位は、「外国人を含む観光誘客」「花火産業の振興」「畜産業、林業、水産業の振興」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「農業の担い手確保、育成」が最も多くなっている。そのほか、全ての年代で「雇用の安定と就労環境の充実」、30代を除く全ての年代で「若者の起業促進」、10代・20代・30代・60代で「地域商業の活性化」、30代以上で「企業誘致の強化」が上位に入っている。

地域別で見ると、神岡地域以外で「農業の担い手確保、育成」が最も多くなっているほか、全ての地域で「雇用の安定と就労環境の充実」「若者の起業促進」が上位に入っている。そのほか、大曲・仙北・太田地域で「魅力ある観光地づくり」、神岡・協和・南外地域で「地域商業の活性化」、西仙北・仙北地域で「稲作・畑作等複合経営」、南外地域で「中小企業の振興」が上位に入っている。

図表 21 さらに推進すべき取組（回答数順）
産業分野



図表 22 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）

産業分野

■10代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	19
2	若者の起業促進	15
3	雇用の安定と就労環境の充実	13
	地域商業の活性化	13
5	魅力ある観光地づくり	12

■20代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	24
2	雇用の安定と就労環境の充実	19
	魅力ある観光地づくり	19
4	若者の起業促進	17
5	地域商業の活性化	16

■30代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	41
2	雇用の安定と就労環境の充実	39
3	魅力ある観光地づくり	36
4	企業誘致の強化	28
5	地域商業の活性化	26

■40代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	45
2	雇用の安定と就労環境の充実	42
3	若者の起業促進	35
4	企業誘致の強化	33
5	中小企業の振興	30

■50代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	53
2	雇用の安定と就労環境の充実	51
3	企業誘致の強化	40
4	若者の起業促進	38
5	魅力ある観光地づくり	31

■60代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	69
2	雇用の安定と就労環境の充実	64
3	若者の起業促進	40
4	企業誘致の強化	37
5	地域商業の活性化	33

■70代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	77
2	雇用の安定と就労環境の充実	61
3	企業誘致の強化	50
4	若者の起業促進	43
5	稲作・畑作等複合経営	38

■80代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	30
2	雇用の安定と就労環境の充実	20
3	企業誘致の強化	16
	若者の起業促進	16
5	稲作・畑作等複合経営	15

図表 23 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

産業分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	172
2	雇用の安定と就労環境の充実	152
3	企業誘致の強化	109
	若者の起業促進	109
5	魅力ある観光地づくり	106

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	企業誘致の強化	19
2	雇用の安定と就労環境の充実	18
3	農業の担い手確保、育成	16
4	地域商業の活性化	15
5	若者の起業促進	13

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	35
2	雇用の安定と就労環境の充実	31
3	企業誘致の強化	20
	若者の起業促進	20
5	稲作・畑作等複合経営	18

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	43
2	雇用の安定と就労環境の充実	36
3	若者の起業促進	29
4	企業誘致の強化	25
	農業生産基盤の整備	25

■協和地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	29
2	雇用の安定と就労環境の充実	23
3	若者の起業促進	18
4	地域商業の活性化	13
5	企業誘致の強化	12
	中小企業の振興	12

■南外地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	12
2	雇用の安定と就労環境の充実	11
3	若者の起業促進	7
	地域商業の活性化	7
	中小企業の振興	7

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	28
2	雇用の安定と就労環境の充実	27
3	企業誘致の強化	19
4	魅力ある観光地づくり	18
5	若者の起業促進	17
	稲作・畑作等複合経営	17

■太田地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	23
2	企業誘致の強化	14
3	若者の起業促進	13
4	雇用の安定と就労環境の充実	12
	魅力ある観光地づくり	12

2.5.2 出会い・結婚・子育て分野

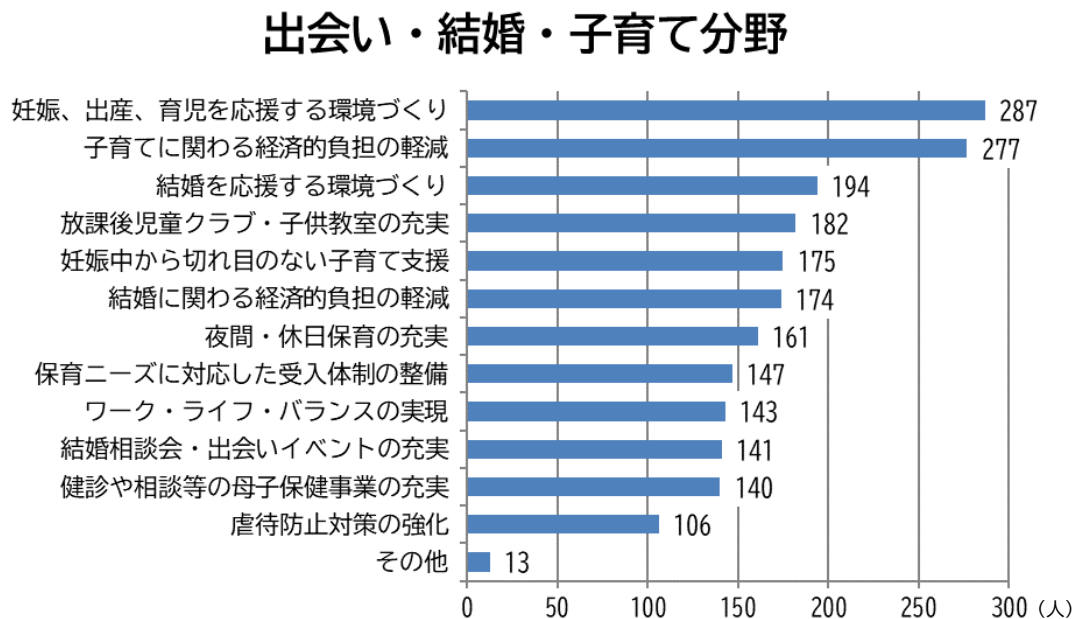
さらに推進すべき取組の上位は、「妊娠、出産、育児を応援する環境づくり」「子育てに関わる経済的負担の軽減」「結婚を応援する環境づくり」となっている。

一方、下位は、「虐待防止対策の強化」「健診や相談等の母子保健事業の充実」「結婚相談会・出会いイベントの充実」となっている。

年代別で見ると、50代以下は「妊娠、出産、育児を応援する環境づくり」、60代・70代は「子育てに関わる経済的負担の軽減」、80代は「結婚を応援する環境づくり」が最も多くなっている。また、30代・50代・60代は全体の上位5項目に入っていない「夜間・休日保育の充実」が上位に入っている。そのほか、10代から30代で「結婚に関わる経済的負担の軽減」、10代から40代で「ワーク・ライフ・バランスの実現」、30代から70代で「放課後児童クラブ・子供教室の充実」が上位となっている。

地域別で見ると、西仙北、南外地域以外は、「子育てに関わる経済的負担の軽減」「妊娠、出産、育児を応援する環境づくり」が上位2項目になっており、西仙北、南外地域では、「子育てに関わる経済的負担の軽減」「結婚を応援する環境づくり」が上位2項目となっている。

図表 24 さらに推進すべき取組（回答数順）
出会い・結婚・子育て分野



図表 25 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）

出会い・結婚・子育て分野

■10代

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	19
2	ワーク・ライフ・バランスの実現	17
3	結婚に関わる経済的負担の軽減	16
4	子育てに関わる経済的負担の軽減	15
5	結婚を応援する環境づくり	13

■20代

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	23
2	子育てに関わる経済的負担の軽減	21
3	結婚に関わる経済的負担の軽減	20
4	ワーク・ライフ・バランスの実現	18
	結婚を応援する環境づくり	18

■30代

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	48
2	子育てに関わる経済的負担の軽減	42
3	妊娠中から切れ目のない子育て支援	35
4	結婚に関わる経済的負担の軽減	28
	夜間・休日保育の充実	26
5	ワーク・ライフ・バランスの実現	26
	放課後児童クラブ・子供教室の充実	26

■40代

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	39
2	子育てに関わる経済的負担の軽減	34
3	ワーク・ライフ・バランスの実現	28
4	放課後児童クラブ・子供教室の充実	25
5	妊娠中から切れ目のない子育て支援	24

■50代

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	46
2	子育てに関わる経済的負担の軽減	42
3	放課後児童クラブ・子供教室の充実	38
4	妊娠中から切れ目のない子育て支援	29
	夜間・休日保育の充実	29

■60代

順位	項目	回答数
1	子育てに関わる経済的負担の軽減	53
2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	52
3	結婚を応援する環境づくり	37
4	放課後児童クラブ・子供教室の充実	36
5	夜間・休日保育の充実	33

■70代

順位	項目	回答数
1	子育てに関わる経済的負担の軽減	56
2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	48
3	結婚を応援する環境づくり	47
4	結婚相談会・出会いイベントの充実	34
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	32

■80代

順位	項目	回答数
1	結婚を応援する環境づくり	23
2	結婚相談会・出会いイベントの充実	16
3	結婚に関わる経済的負担の軽減	15
4	子育てに関わる経済的負担の軽減	14
5	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	12

図表 26 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

出会い・結婚・子育て分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	143
2	子育てに関わる経済的負担の軽減	133
3	放課後児童クラブ・子供教室の充実	90
4	夜間・休日保育の充実	88
5	妊娠中から切れ目のない子育て支援	86

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	子育てに関わる経済的負担の軽減	18
2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	16
3	結婚を応援する環境づくり	11
	結婚に関わる経済的負担の軽減	11
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	10

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	26
2	結婚を応援する環境づくり	24
3	子育てに関わる経済的負担の軽減	23
4	結婚に関わる経済的負担の軽減	20
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	17

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	35
2	子育てに関わる経済的負担の軽減	31
3	結婚を応援する環境づくり	28
4	放課後児童クラブ・子供教室の充実	24
	妊娠中から切れ目のない子育て支援	24

■協和地域

順位	項目	回答数
1	子育てに関わる経済的負担の軽減	24
2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	19
3	妊娠中から切れ目のない子育て支援	18
4	結婚を応援する環境づくり	15
	放課後児童クラブ・子供教室の充実	15

■南外地域

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	10
2	結婚を応援する環境づくり	9
3	子育てに関わる経済的負担の軽減	6
	ワーク・ライフ・バランスの実現	6
5	放課後児童クラブ・子供教室の充実	5

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	子育てに関わる経済的負担の軽減	23
2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	20
3	結婚に関わる経済的負担の軽減	14
4	ワーク・ライフ・バランスの実現	13
	妊娠中から切れ目のない子育て支援	13
	健診や相談等の母子保健事業の充実	13

■太田地域

順位	項目	回答数
1	子育てに関わる経済的負担の軽減	19
2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	18
3	健診や相談等の母子保健事業の充実	12
	結婚を応援する環境づくり	12
	放課後児童クラブ・子供教室の充実	12

2.5.3 健康福祉・スポーツ分野

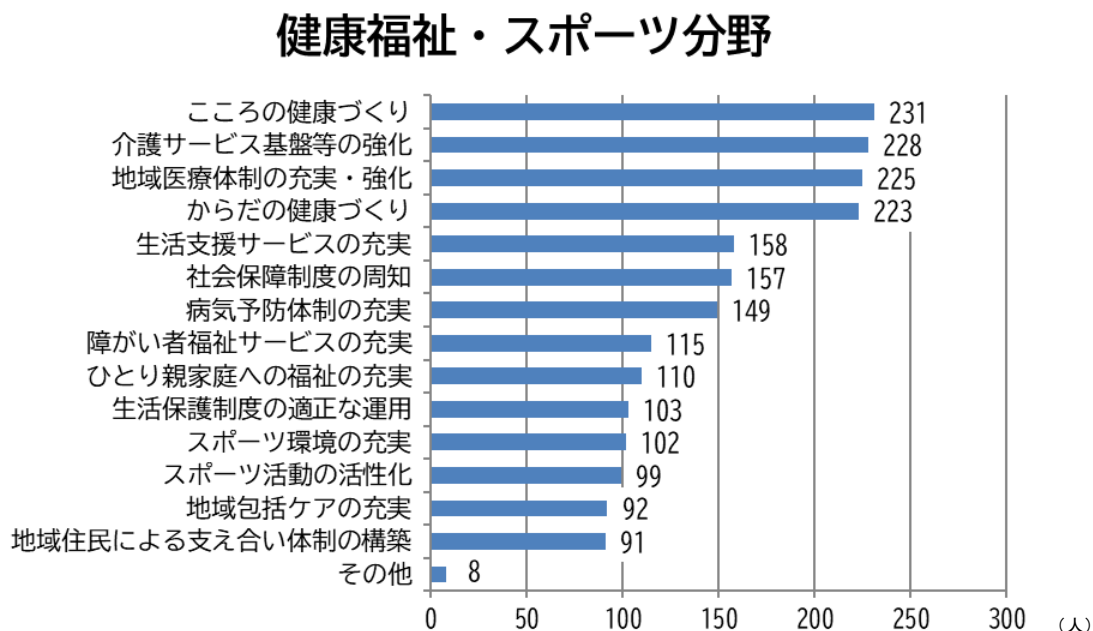
さらに推進すべき取組の上位は、「こころの健康づくり」「介護サービス基盤等の強化」「地域医療体制の充実・強化」の順となっている。

一方、下位は、「地域住民による支え合い体制の構築」「地域包括ケアの充実」「スポーツ活動の活性化」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「こころの健康づくり」「からだの健康づくり」「介護サービス基盤等の強化」、80代以外で「地域医療体制の充実・強化」、20代・60代・70代・80代で「生活支援サービスの充実」が上位に入っている。そのほか、10代・20代で「スポーツ環境の充実」「スポーツ活動の活性化」、40代・50代で「社会保障制度の周知」が上位に入っている。

地域別で見ると、全ての地域で、全体の上位に入っている「こころの健康づくり」「介護サービス基盤等の強化」の項目が上位に入っている。一方で、南外・仙北・太田地域で「病気予防体制の充実」、大曲・仙北地域で「社会保障制度の周知」、南外地域で「地域包括ケアの充実」が、全体の上位5項目に入っていない項目として、それぞれの地域で上位に入っている。

図表 27 さらに推進すべき取組（回答数順）
健康福祉・スポーツ分野



図表 28 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）

健康福祉・スポーツ分野

■10代

順位	項目	回答数
1	こころの健康づくり	15
2	からだの健康づくり	13
3	スポーツ環境の充実	11
4	スポーツ活動の活性化	10
5	地域医療体制の充実・強化 介護サービス基盤等の強化	8

■20代

順位	項目	回答数
1	からだの健康づくり	22
2	こころの健康づくり	20
3	地域医療体制の充実・強化	12
4	スポーツ環境の充実	11
	スポーツ活動の活性化	11
	介護サービス基盤等の強化	11
	生活支援サービスの充実	11

■30代

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の充実・強化	35
2	からだの健康づくり	31
3	介護サービス基盤等の強化	26
4	こころの健康づくり	25
5	病気予防体制の充実	21

■40代

順位	項目	回答数
1	こころの健康づくり	37
2	地域医療体制の充実・強化	31
	からだの健康づくり	31
4	介護サービス基盤等の強化	29
5	社会保障制度の周知	26

■50代

順位	項目	回答数
1	介護サービス基盤等の強化	42
2	こころの健康づくり	39
3	からだの健康づくり	34
4	地域医療体制の充実・強化	32
5	社会保障制度の周知	29

■60代

順位	項目	回答数
1	介護サービス基盤等の強化	50
2	地域医療体制の充実・強化	47
3	こころの健康づくり	37
4	からだの健康づくり	33
	生活支援サービスの充実	33

■70代

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の充実・強化	50
2	介護サービス基盤等の強化	43
3	こころの健康づくり	42
4	からだの健康づくり	40
5	生活支援サービスの充実	39

■80代

順位	項目	回答数
1	介護サービス基盤等の強化	19
	からだの健康づくり	19
3	こころの健康づくり	16
4	生活支援サービスの充実	14
5	地域住民による支え合い体制の構築	13

図表 29 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

健康福祉・スポーツ分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	からだの健康づくり	116
	こころの健康づくり	116
3	介護サービス基盤等の強化	105
4	地域医療体制の充実・強化	100
5	社会保障制度の周知	79

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の充実・強化	17
2	生活支援サービスの充実	15
3	介護サービス基盤等の強化	14
4	こころの健康づくり	13
5	からだの健康づくり	12

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	介護サービス基盤等の強化	27
2	からだの健康づくり	26
3	地域医療体制の充実・強化	25
4	こころの健康づくり	24
5	病気予防体制の充実	21

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の充実・強化	28
	こころの健康づくり	28
3	からだの健康づくり	26
4	介護サービス基盤等の強化	25
5	生活支援サービスの充実	20

■協和地域

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の充実・強化	20
	介護サービス基盤等の強化	20
3	生活支援サービスの充実	17
4	こころの健康づくり	14
5	からだの健康づくり	13

■南外地域

順位	項目	回答数
1	生活支援サービスの充実	8
2	こころの健康づくり	7
	地域住民による支え合い体制の構築	7
4	介護サービス基盤等の強化	6
	病気予防体制の充実	6
	地域包括ケアの充実	6

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	地域医療体制の充実・強化	18
2	介護サービス基盤等の強化	17
3	こころの健康づくり	14
	からだの健康づくり	14
	生活支援サービスの充実	12
5	病気予防体制の充実	12
	社会保障制度の周知	12

■太田地域

順位	項目	回答数
1	こころの健康づくり	15
2	介護サービス基盤等の強化	14
3	地域医療体制の充実・強化	12
4	からだの健康づくり	11
	病気予防体制の充実	11

2.5.4 環境・安全分野

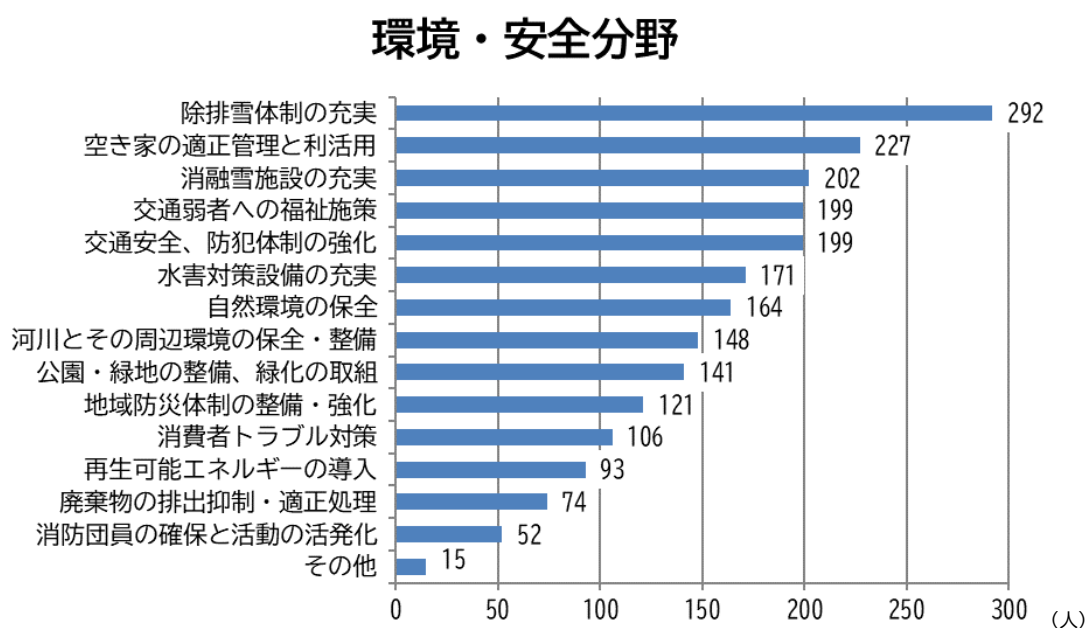
さらに推進すべき取組の上位は、昨年度と同順で「除排雪体制の充実」「空き家の適正管理と利活用」「消融雪施設の充実」の順となっている。

一方、下位は、「消防団員の確保と活動の活発化」「廃棄物の排出抑制・適正処理」「再生可能エネルギーの導入」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「除排雪体制の充実」が上位に入っており、10代・30代から60代では最も多くなっているほか、80代を除く全ての年代で「消融雪施設の充実」も上位に入っている。そのほか、20代以外で「空き家の適正管理と利活用」、50代以上で「交通弱者への福祉施策」、60代・70代を除く年代で「交通安全・防犯体制の強化」、10代で「再生可能エネルギーの導入」、10代・30代で「公園・緑地の整備、緑化の取組」が上位に入っている。

地域別で見ると、昨年度と同様、太田地域以外で「除排雪体制の充実」が最も多く、太田地域では「空き家の適正管理と利活用」が最も多くなっている。また、大曲・中仙地域以外で「交通弱者への福祉施策」、大曲・西仙北地域で「水害対策設備の充実」、中仙・南外・仙北地域で「自然環境の保全」が上位に入っている。

図表 30 さらに推進すべき取組（回答数順）
環境・安全分野



図表 31 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）

環境・安全分野

■10代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	17
2	空き家の適正管理と利活用	13
3	再生可能エネルギーの導入	12
4	消融雪施設の充実	11
	交通安全、防犯体制の強化	11
	公園・緑地の整備、緑化の取組	11

■20代

順位	項目	回答数
1	自然環境の保全	18
2	除排雪体制の充実	17
3	消融雪施設の充実	15
4	河川とその周辺環境の保全・整備	14
5	交通安全、防犯体制の強化	13

■30代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	43
2	空き家の適正管理と利活用	34
3	消融雪施設の充実	30
4	交通安全、防犯体制の強化	28
	公園・緑地の整備、緑化の取組	28

■40代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	42
2	交通安全、防犯体制の強化	31
3	空き家の適正管理と利活用	30
	消融雪施設の充実	30
5	水害対策設備の充実	29

■50代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	47
2	空き家の適正管理と利活用	38
3	交通安全、防犯体制の強化	37
4	消融雪施設の充実	36
5	交通弱者への福祉施策	35

■60代

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	57
2	空き家の適正管理と利活用	40
3	交通弱者への福祉施策	35
4	河川とその周辺環境の保全・整備	34
5	消融雪施設の充実	33

■70代

順位	項目	回答数
1	交通弱者への福祉施策	55
2	除排雪体制の充実	53
3	空き家の適正管理と利活用	43
4	消融雪施設の充実	37
	自然環境の保全	37

■80代

順位	項目	回答数
1	水害対策設備の充実	18
2	空き家の適正管理と利活用	17
3	交通弱者への福祉施策	15
	除排雪体制の充実	15
5	交通安全、防犯体制の強化	13
	地域防災体制の整備・強化	13

図表 32 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

環境・安全分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	140
2	空き家の適正管理と利活用	112
3	消融雪施設の充実	110
4	水害対策設備の充実	99
5	交通安全、防犯体制の強化	90

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	19
2	交通弱者への福祉施策	16
3	空き家の適正管理と利活用	12
4	消融雪施設の充実	11
	河川とその周辺環境の保全・整備	11

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	25
2	交通弱者への福祉施策	23
3	消融雪施設の充実	21
	交通安全、防犯体制の強化	21
5	水害対策設備の充実	18

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	34
2	交通安全、防犯体制の強化	30
3	空き家の適正管理と利活用	26
4	河川とその周辺環境の保全・整備	22
5	自然環境の保全	21

■協和地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	24
2	交通弱者への福祉施策	19
3	消融雪施設の充実	16
4	空き家の適正管理と利活用	15
5	交通安全、防犯体制の強化	14
	地域防災体制の整備・強化	14

■南外地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	12
2	交通弱者への福祉施策	7
	空き家の適正管理と利活用	7
	公園・緑地の整備、緑化の取組	7
5	消融雪施設の充実	5
	自然環境の保全	5
	再生可能エネルギーの導入	5
	廃棄物の排出抑制・適正処理	5

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	23
2	空き家の適正管理と利活用	21
	交通安全、防犯体制の強化	21
4	自然環境の保全	17
5	交通弱者への福祉施策	16

■太田地域

順位	項目	回答数
1	空き家の適正管理と利活用	16
2	除排雪体制の充実	15
3	交通安全、防犯体制の強化	12
	消融雪施設の充実	12
5	交通弱者への福祉施策	11

2.5.5 都市基盤分野

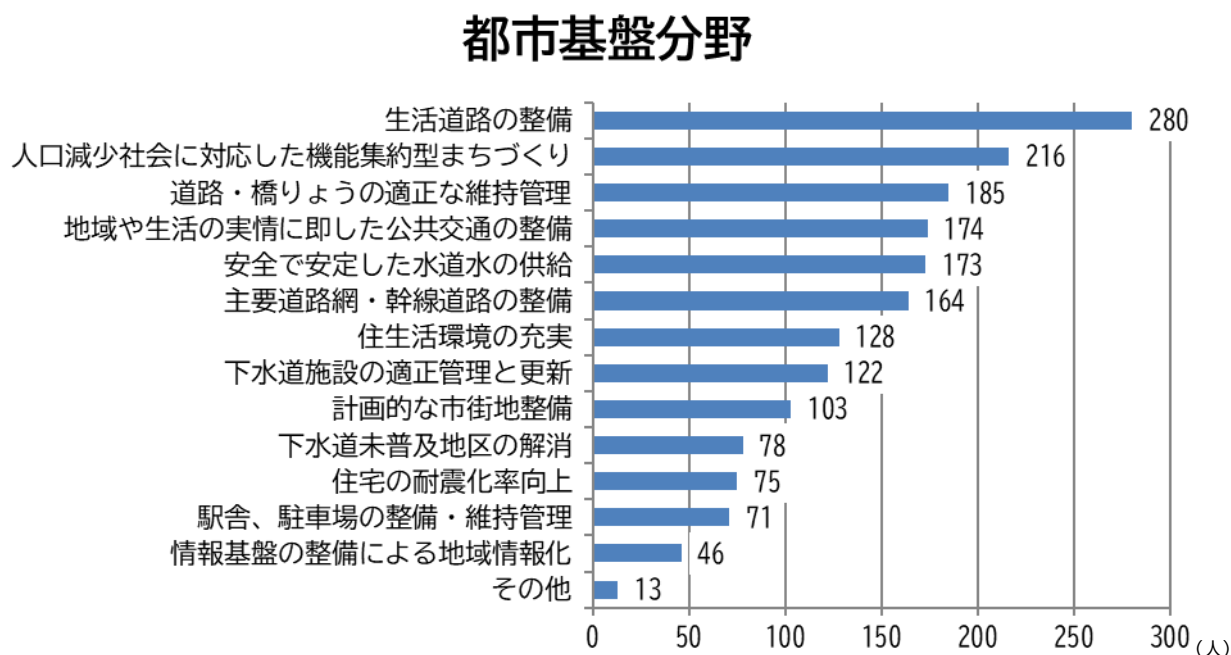
さらに推進すべき取組の上位は、「生活道路の整備」に次ぎ、「人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり」「道路・橋りょうの適正な維持管理」の順となっている。

一方、下位は、昨年度と同順で「情報基盤の整備による地域情報化」「駅舎、駐車場の整備・維持管理」「住宅の耐震化率向上」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「生活道路の整備」「道路・橋りょうの適正な維持管理」が上位に入っており、「生活道路の整備」については全ての年代で最も多くなっている。また、40代を除く全ての年代で「人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり」、10代・40代・60代以上で「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」、30代・50代以上で「安全で安定した水道水の供給」が上位に入っている。

地域別で見ると、全ての地域で「生活道路の整備」「人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり」が上位に入っている。また、仙北・太田地域以外で「安全で安定した水道水の供給」、大曲地域以外では「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」が上位に入っている。

図表 33 さらに推進すべき取組（回答数順）
都市基盤分野



図表 34 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）

都市基盤分野

■10代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	18
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	15
3	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	10
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	9
	主要道路網・幹線道路の整備	9
	計画的な市街地整備	9

■20代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	18
2	主要道路網・幹線道路の整備	16
3	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	15
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	10
	住生活環境の充実	10

■30代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	35
2	道路・橋りょうの適正な維持管理	34
3	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	31
4	安全で安定した水道水の供給	30
5	下水道施設の適正管理と更新	29

■40代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	42
2	主要道路網・幹線道路の整備	28
3	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	27
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	23
5	住生活環境の充実	22

■50代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	45
2	道路・橋りょうの適正な維持管理	33
	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	33
4	主要道路網・幹線道路の整備	32
5	安全で安定した水道水の供給	29

■60代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	49
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	38
3	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	33
4	安全で安定した水道水の供給	32
5	道路・橋りょうの適正な維持管理	31

■70代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	50
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	48
3	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	46
4	安全で安定した水道水の供給	32
	道路・橋りょうの適正な維持管理	32

■80代

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	23
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	17
3	安全で安定した水道水の供給	14
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	13
5	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	11

図表 35 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

都市基盤分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	130
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	105
3	道路・橋りょうの適正な維持管理	98
4	安全で安定した水道水の供給	87
5	主要道路網・幹線道路の整備	85

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	16
2	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	14
3	生活道路の整備	12
	道路・橋りょうの適正な維持管理	12
5	安全で安定した水道水の供給	7
	主要道路網・幹線道路の整備	7
	下水道未普及地区の解消	7

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	29
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	25
3	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	23
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	17
	安全で安定した水道水の供給	17
	主要道路網・幹線道路の整備	17

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	31
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	27
3	主要道路網・幹線道路の整備	25
4	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	21
5	安全で安定した水道水の供給	20

■協和地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	21
	安全で安定した水道水の供給	21
3	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	16
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	15
5	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	13

■南外地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	11
2	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	7
3	安全で安定した水道水の供給	6
	住生活環境の充実	6
5	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	5

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	27
2	道路・橋りょうの適正な維持管理	17
3	主要道路網・幹線道路の整備	14
4	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	13
	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	13

■太田地域

順位	項目	回答数
1	生活道路の整備	19
2	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	14
3	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	10
4	道路・橋りょうの適正な維持管理	7
	住生活環境の充実	7
	計画的な市街地整備	7

2.5.6 教育・交流分野

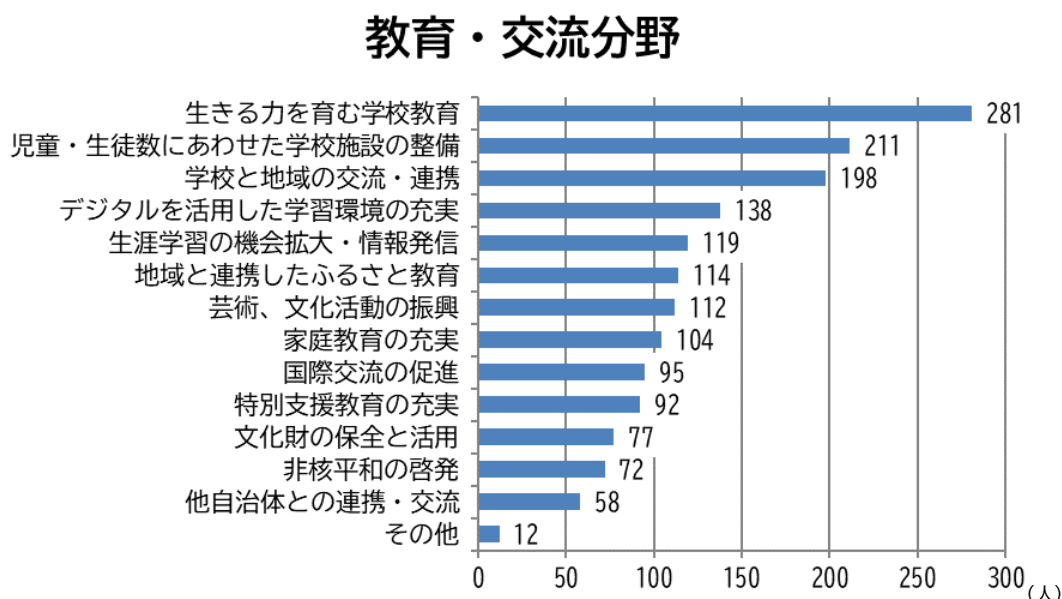
さらに推進すべき取組の上位は、昨年と同順で「生きる力を育む学校教育」「児童・生徒数にあわせた学校施設の整備」「学校と地域の交流・連携」の順となっている。

一方、下位は、「他自治体との連携・交流」「非核平和の啓発」「文化財の保全と活用」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「生きる力を育む学校教育」「学校と地域の交流・連携」が上位に入っており、「生きる力を育む学校教育」については、全ての年代で最も多くなっている。そのほか、10代を除く全ての年代で「児童・生徒数にあわせた学校施設の整備」、60代以上で「地域と連携したふるさと教育」、40代以下で「デジタルを活用した学習環境の充実」が上位に入っている。

地域別で見ると、全ての地域で「生きる力を育む学校教育」「児童・生徒数にあわせた学校施設の整備」が上位に入っており、西仙北・中仙地域で「児童・生徒数にあわせた学校施設の整備」、大曲・神岡・協和・南外・太田地域で「生きる力を育む学校教育」が最も多くなっている。そのほか、大曲・太田地域以外で「デジタルを活用した学習環境の充実」、南外地域以外で「学校と地域の交流・連携」、西仙北・中仙・協和・太田地域では「地域と連携したふるさと教育」が上位に入っている。

図表 36 さらに推進すべき取組（回答数順）
教育・交流分野



図表 37 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）

教育・交流分野

■10代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	14
2	デジタルを活用した学習環境の充実	13
3	学校と地域の交流・連携	10
	芸術、文化活動の振興	10
	国際交流の促進	10

■20代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	20
2	学校と地域の交流・連携	16
3	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	12
	家庭教育の充実	12
5	デジタルを活用した学習環境の充実	11

■30代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	37
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	30
3	学校と地域の交流・連携	28
4	芸術、文化活動の振興	23
5	デジタルを活用した学習環境の充実	20

■40代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	41
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	32
3	学校と地域の交流・連携	30
4	デジタルを活用した学習環境の充実	20
	家庭教育の充実	20

■50代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	45
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	33
3	学校と地域の交流・連携	25
4	生涯学習の機会拡大・情報発信	20
5	芸術、文化活動の振興	18

■60代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	54
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	38
3	学校と地域の交流・連携	37
4	デジタルを活用した学習環境の充実	32
5	地域と連携したふるさと教育	24

■70代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	53
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	48
3	学校と地域の交流・連携	39
4	生涯学習の機会拡大・情報発信	26
5	地域と連携したふるさと教育	22

■80代

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	16
2	学校と地域の交流・連携	13
3	地域と連携したふるさと教育	11
4	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	9
5	生涯学習の機会拡大・情報発信	8

図表 38 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

教育・交流分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	138
2	学校と地域の交流・連携	94
3	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	92
4	芸術、文化活動の振興	65
5	生涯学習の機会拡大・情報発信	64

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	19
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	14
3	デジタルを活用した学習環境の充実	11
4	学校と地域の交流・連携	10
5	芸術、文化活動の振興	6
	家庭教育の充実	6
	国際交流の促進	6

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	23
2	生きる力を育む学校教育	21
3	学校と地域の交流・連携	19
4	デジタルを活用した学習環境の充実	14
5	地域と連携したふるさと教育	12

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	29
	生きる力を育む学校教育	29
3	学校と地域の交流・連携	24
4	デジタルを活用した学習環境の充実	18
	地域と連携したふるさと教育	18
	家庭教育の充実	18

■協和地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	20
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	16
3	学校と地域の交流・連携	14
4	デジタルを活用した学習環境の充実	11
	地域と連携したふるさと教育	11

■南外地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	13
2	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	9
3	デジタルを活用した学習環境の充実	6
4	国際交流の促進	6
5	家庭教育の充実	5

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	学校と地域の交流・連携	17
2	生きる力を育む学校教育	16
	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	16
4	デジタルを活用した学習環境の充実	10
5	生涯学習の機会拡大・情報発信	8

■太田地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	25
2	学校と地域の交流・連携	16
3	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	12
4	地域と連携したふるさと教育	11
5	生涯学習の機会拡大・情報発信	7

2.5.7 地域活性化・市民との協働・行政運営分野

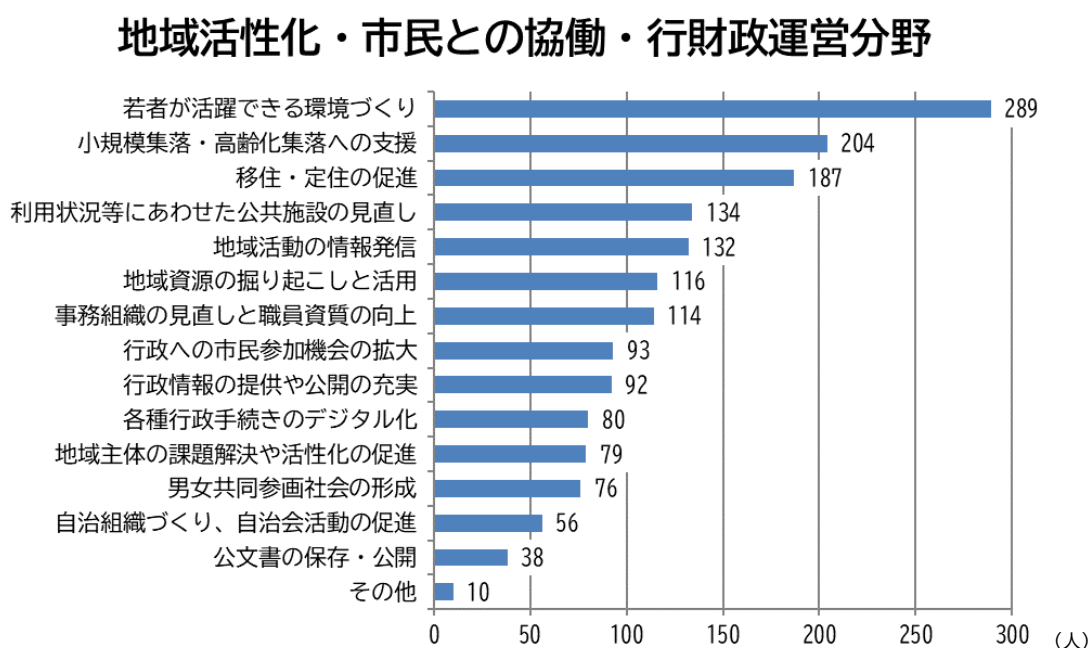
さらに推進すべき取組の上位は、昨年と同順の「若者が活躍できる環境づくり」「小規模集落・高齢化集落への支援」「移住・定住の促進」の順となっている。

一方、下位は、「公文書の保存・公開」「自治組織づくり、自治会活動の促進」「男女共同参画社会の形成」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「若者が活躍できる環境づくり」「移住・定住の促進」が上位に入っており、30代と80代を除く年代では「若者が活躍できる環境づくり」が最も多くなっている。また、30代以上で「小規模集落・高齢化集落への支援」「利用状況等にあわせた公共施設の見直し」、30代以下で「地域資源の掘り起こしと活用」が上位に入っている。

地域別で見ると、全ての地域で「若者が活躍できる環境づくり」「小規模集落・高齢化集落への支援」「移住・定住の促進」が上位に入っており、協和、南外地域では「小規模集落・高齢化集落への支援」が最も多く、それ以外の地域では「若者が活躍できる環境づくり」が最も多くなっている。そのほか、大曲・神岡・西仙北・南外・仙北地域で「利用状況等にあわせた公共施設の見直し」、神岡・中仙・協和・仙北地域で「事務組織の見直しと職員資質の向上」、協和・南外地域以外で「地域活動の情報発信」が上位に入っている。

図表 39 さらに推進すべき取組（回答数順）
地域活性化・市民との協働・行政運営分野



図表 40 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）
地域活性化・市民との協働・行政運営分野

■10代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	21
2	地域活動の情報発信	13
3	移住・定住の促進	12
4	地域資源の掘り起こしと活用	6
	男女共同参画社会の形成	6

■20代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	27
2	地域資源の掘り起こしと活用	14
3	地域活動の情報発信	13
	男女共同参画社会の形成	13
5	移住・定住の促進	12

■30代

順位	項目	回答数
1	移住・定住の促進	29
2	若者が活躍できる環境づくり	28
3	小規模集落・高齢化集落への支援	24
4	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	22
5	事務組織の見直しと職員資質の向上	20
	地域資源の掘り起こしと活用	20

■40代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	45
2	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	22
3	移住・定住の促進	21
4	小規模集落・高齢化集落への支援	19
5	地域活動の情報発信	18

■50代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	37
2	移住・定住の促進	31
3	小規模集落・高齢化集落への支援	30
4	事務組織の見直しと職員資質の向上	24
5	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	22

■60代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	55
2	小規模集落・高齢化集落への支援	40
3	移住・定住の促進	37
4	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	23
	地域活動の情報発信	23
	行政情報の提供や公開の充実	23

■70代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	57
2	小規模集落・高齢化集落への支援	56
3	移住・定住の促進	30
4	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	28
5	地域活動の情報発信	26

■80代

順位	項目	回答数
1	小規模集落・高齢化集落への支援	21
2	若者が活躍できる環境づくり	19
3	移住・定住の促進	15
4	行政への市民参加機会の拡大	9
5	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	8

図表 41 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

地域活性化・市民との協働・行政運営分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	145
2	移住・定住の促進	99
3	小規模集落・高齢化集落への支援	77
4	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	74
5	地域活動の情報発信	64

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	17
2	小規模集落・高齢化集落への支援	14
3	移住・定住の促進	11
4	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	10
5	地域活動の情報発信	8
	事務組織の見直しと職員資質の向上	8

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	21
2	小規模集落・高齢化集落への支援	18
3	地域活動の情報発信	16
4	移住・定住の促進	12
5	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	11
	行政情報の提供や公開の充実	11

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	42
2	小規模集落・高齢化集落への支援	30
3	移住・定住の促進	17
	事務組織の見直しと職員資質の向上	17
5	地域活動の情報発信	16

■協和地域

順位	項目	回答数
1	小規模集落・高齢化集落への支援	21
2	若者が活躍できる環境づくり	14
3	地域資源の掘り起こしと活用	13
4	移住・定住の促進	12
5	事務組織の見直しと職員資質の向上	9

■南外地域

順位	項目	回答数
1	小規模集落・高齢化集落への支援	12
2	若者が活躍できる環境づくり	10
3	移住・定住の促進	9
4	行政への市民参加機会の拡大	5
	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	5

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	24
2	小規模集落・高齢化集落への支援	19
3	移住・定住の促進	14
4	利用状況等にあわせた公共施設の見直し	9
5	事務組織の見直しと職員資質の向上	8
	地域資源の掘り起こしと活用	8
	地域活動の情報発信	8

■太田地域

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	16
2	小規模集落・高齢化集落への支援	13
	移住・定住の促進	13
4	地域活動の情報発信	11
5	地域資源の掘り起こしと活用	9

2.5.8 さらに推進すべき取組の総括

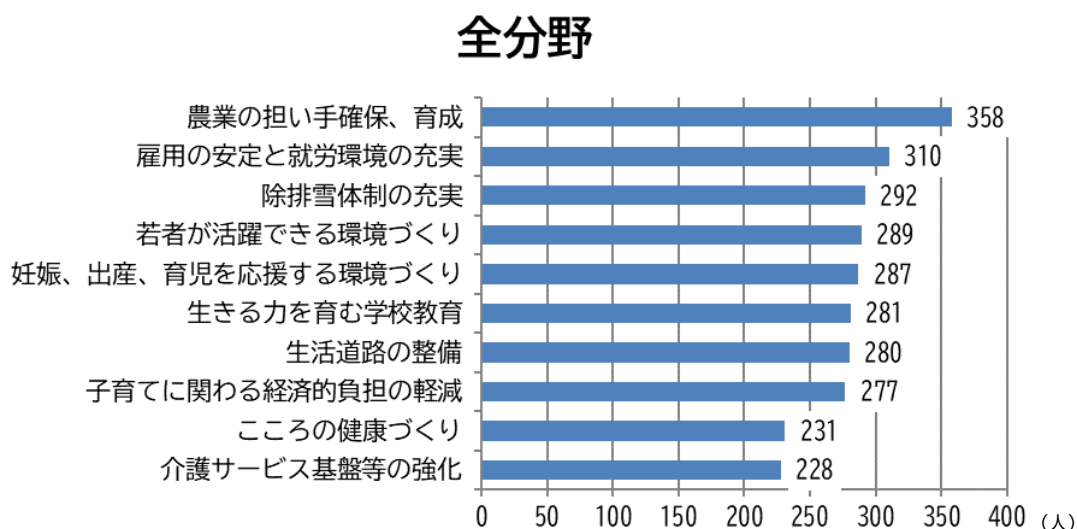
分野を分けずに全ての項目において比較すると、さらに推進すべき取組の上位となっているのは、「農業の担い手確保、育成」「雇用の安定と就労環境の充実」「除排雪体制の充実」「若者が活躍できる環境づくり」「妊娠、出産、育児を応援する環境づくり」の順となっている。

年代別で見ると、全ての年代で「農業の担い手確保、育成」が上位に挙げられており、特に40代以上では、最も多くなっている。また、30代で「妊娠中から切れ目のない子育て支援」、60代以下で「妊娠、出産、育児を応援する環境づくり」、70代以下で「子育てに関わる経済的負担の軽減」が上位に入るなど、幅広い年代で子育てに関する項目が挙げられている。そのほか、10代・20代では「若者が活躍できる環境づくり」、30代で「妊娠、出産、育児を応援する環境づくり」が最も多くなっている。10代以外では「雇用の安定と就労環境の充実」、20・30代で「魅力ある観光地づくり」が上位に入るなど、産業に関する項目も上位となっている。

地域別で見ると、大曲・西仙北・中仙・協和・仙北地域では「農業の担い手確保、育成」が最も多く、南外・太田地域でも2番目に多くなっている。神岡地域では「除排雪体制の充実」が最も多くなっており、その他の地域でも上位に入っている。神岡・南外・太田地域では「生きる力を育む学校教育」が最も多くなっており、西仙北・仙北地域以外でも上位に入っている。地域別においても年代別と同様に、産業、妊娠や出産、子育て、若者の活躍や起業に関する項目が全ての地域で上位に入っている。

図表 42 さらに推進すべき取組（回答数順）

全分野



図表 43 年代別による「さらに推進すべき取組」（上位）
全分野

■10代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	21
2	農業の担い手確保、育成	19
	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	19
4	生活道路の整備	18
5	除排雪体制の充実	17
	ワーク・ライフ・バランスの実現	17
7	結婚に関わる経済的負担の軽減	16
	子育てに関わる経済的負担の軽減	15
8	若者の起業促進	15
	こころの健康づくり	15
	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	15

■20代

順位	項目	回答数
1	若者が活躍できる環境づくり	27
2	農業の担い手確保、育成	24
3	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	23
4	からだの健康づくり	22
5	子育てに関わる経済的負担の軽減	21
	結婚に関わる経済的負担の軽減	20
6	こころの健康づくり	20
	生きる力を育む学校教育	20
9	雇用の安定と就労環境の充実	19
	魅力ある観光地づくり	19

■30代

順位	項目	回答数
1	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	48
2	除排雪体制の充実	43
3	子育てに関わる経済的負担の軽減	42
4	農業の担い手確保、育成	41
5	雇用の安定と就労環境の充実	39
6	生きる力を育む学校教育	37
7	魅力ある観光地づくり	36
	生活道路の整備	35
8	地域医療体制の充実・強化	35
	妊娠中から切れ目のない子育て支援	35

■40代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	45
	若者が活躍できる環境づくり	45
	雇用の安定と就労環境の充実	42
3	除排雪体制の充実	42
	生活道路の整備	42
6	生きる力を育む学校教育	41
7	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	39
8	こころの健康づくり	37
9	若者の起業促進	35
10	子育てに関わる経済的負担の軽減	34

■50代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	53
2	雇用の安定と就労環境の充実	51
3	除排雪体制の充実	47
4	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	46
5	生活道路の整備	45
	生きる力を育む学校教育	45
7	子育てに関わる経済的負担の軽減	42
	介護サービス基盤等の強化	42
9	企業誘致の強化	40
10	こころの健康づくり	39

■60代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	69
2	雇用の安定と就労環境の充実	64
3	除排雪体制の充実	57
4	若者が活躍できる環境づくり	55
5	生きる力を育む学校教育	54
6	子育てに関わる経済的負担の軽減	53
7	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	52
8	介護サービス基盤等の強化	50
9	生活道路の整備	49
10	地域医療体制の充実・強化	47

■70代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	77
2	雇用の安定と就労環境の充実	61
3	若者が活躍できる環境づくり	57
4	子育てに関わる経済的負担の軽減	56
	小規模集落・高齢化集落への支援	56
6	交通弱者への福祉施策	55
7	除排雪体制の充実	53
	生きる力を育む学校教育	53
	生活道路の整備	50
9	地域医療体制の充実・強化	50
	企業誘致の強化	50

■80代

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	30
2	生活道路の整備	23
	結婚を応援する環境づくり	23
4	小規模集落・高齢化集落への支援	21
5	雇用の安定と就労環境の充実	20
	若者が活躍できる環境づくり	19
6	介護サービス基盤等の強化	19
	からだの健康づくり	19
9	水害対策設備の充実	18
10	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	17
	空き家の適正管理と利活用	17

図表 44 地域別による「さらに推進すべき取組」（上位）

全分野

■大曲地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	172
2	雇用の安定と就労環境の充実	152
3	若者が活躍できる環境づくり	145
4	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	143
5	除排雪体制の充実	140
6	生きる力を育む学校教育	138
7	子育てに関わる経済的負担の軽減	133
8	生活道路の整備	130
9	からだの健康づくり	116
	こころの健康づくり	116

■神岡地域

順位	項目	回答数
1	除排雪体制の充実	19
	生きる力を育む学校教育	19
	企業誘致の強化	19
4	雇用の安定と就労環境の充実	18
	子育てに関わる経済的負担の軽減	18
6	若者が活躍できる環境づくり	17
	地域医療体制の充実・強化	17
8	農業の担い手確保、育成	16
	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	16
	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	16
	交通弱者への福祉施策	16

■西仙北地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	35
2	雇用の安定と就労環境の充実	31
3	生活道路の整備	29
4	介護サービス基盤等の強化	27
5	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	26
	からだの健康づくり	26
	除排雪体制の充実	25
7	地域医療体制の充実・強化	25
	人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり	25
10	こころの健康づくり	24
	結婚を応援する環境づくり	24

■中仙地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	43
2	若者が活躍できる環境づくり	42
3	雇用の安定と就労環境の充実	36
4	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	35
5	除排雪体制の充実	34
6	生活道路の整備	31
	子育てに関わる経済的負担の軽減	31
8	交通安全、防犯体制の強化	30
	小規模集落・高齢化集落への支援	30
10	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	29
	生きる力を育む学校教育	29
	若者の起業促進	29

■協和地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	29
2	除排雪体制の充実	24
	子育てに関わる経済的負担の軽減	24
4	雇用の安定と就労環境の充実	23
5	生活道路の整備	21
	小規模集落・高齢化集落への支援	21
	安全で安定した水道水の供給	21
8	生きる力を育む学校教育	20
	地域医療体制の充実・強化	20
	介護サービス基盤等の強化	20

■南外地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	13
2	農業の担い手確保、育成	12
	除排雪体制の充実	12
	小規模集落・高齢化集落への支援	12
5	雇用の安定と就労環境の充実	11
	生活道路の整備	11
7	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	10
	若者が活躍できる環境づくり	10
	児童・生徒数にあわせた学校施設の整備	9
9	結婚を応援する環境づくり	9
	移住・定住の促進	9

■仙北地域

順位	項目	回答数
1	農業の担い手確保、育成	28
2	雇用の安定と就労環境の充実	27
	生活道路の整備	27
4	若者が活躍できる環境づくり	24
5	除排雪体制の充実	23
	子育てに関わる経済的負担の軽減	23
7	空き家の適正管理と利活用	21
	交通安全、防犯体制の強化	21
9	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	20
10	小規模集落・高齢化集落への支援	19
	企業誘致の強化	19

■太田地域

順位	項目	回答数
1	生きる力を育む学校教育	25
2	農業の担い手確保、育成	23
3	生活道路の整備	19
	子育てに関わる経済的負担の軽減	19
5	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	18
6	若者が活躍できる環境づくり	16
	空き家の適正管理と利活用	16
	学校と地域の交流・連携	16
9	除排雪体制の充実	15
	こころの健康づくり	15

2.6 市の情報発信や行政サービスのデジタル化

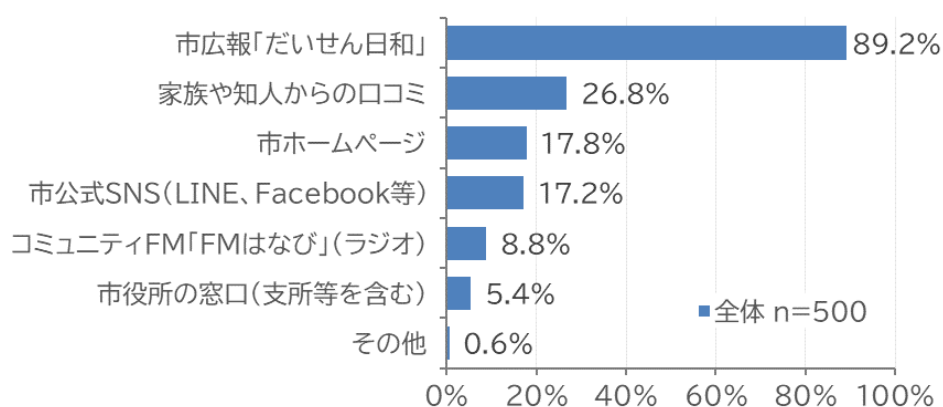
- ◆ 調査目的： 市では、「行かなくても済む『市役所』」を目指し、これまで各種証明書のコンビニ交付サービス、窓口支払いのキャッシュレス化、市公式 LINE アカウントからオンライン申請を可能とする機能の追加など、各種手続きのデジタル化を進めてきた。本調査では、市政情報の入手手段や行政サービスのデジタル化に関する意見を伺い、人口減少が進行する中であっても、デジタル技術を積極的に活用しながら、持続可能で、より質の高い行政サービスを提供し続けることができる環境づくりの参考とする。

2.6.1 市政情報の入手手段

【問1】市では様々な方法で市政情報を発信していますが、あなたがこの情報を入手するため、主に利用している手段は何ですか。（2つまで）

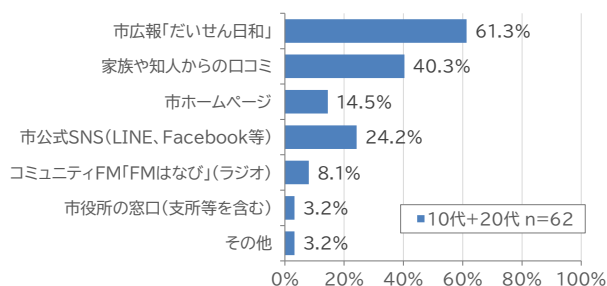
- 全体では、「市広報『だいせん日和』」（以下、「広報紙」）の割合が89.2%で最も高く、次いで「家族や知人からの口コミ」（以下、「口コミ」）が26.8%、「市ホームページ」が17.8%となっている。
- 年代別で見ると、全ての年代で「広報紙」が最も高く40代以上では9割を超えている。「家族や知人からの口コミ」は、10代と20代を合わせた年代で40.3%と最も高く、続いて70代で36.6%、80代で33.3%となっており、若年者層や高齢者層での割合が高くなっている。60代以下では「市ホームページ」や「市公式 SNS（LINE、Facebook 等）」の割合も高く、30代以下と60代では「市公式 SNS（LINE、Facebook 等）」の割合が「市ホームページ」を上回っている。

図表 45 「市政情報入手手段」（全体）

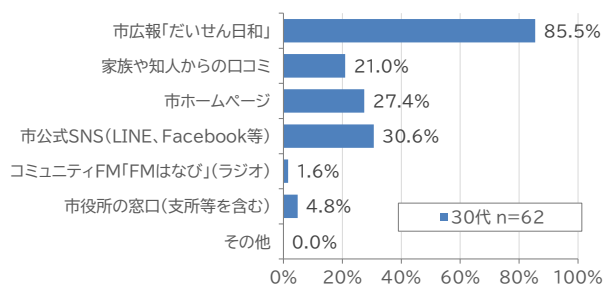


図表 46 年代別による「市政情報入手手段」

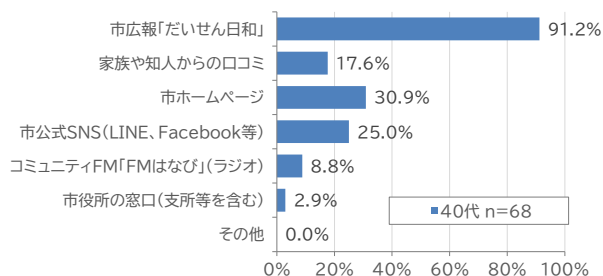
■10代+20代



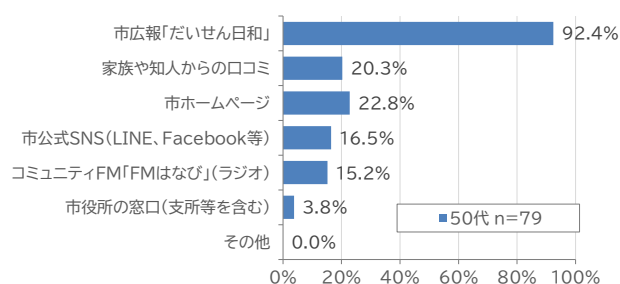
■30代



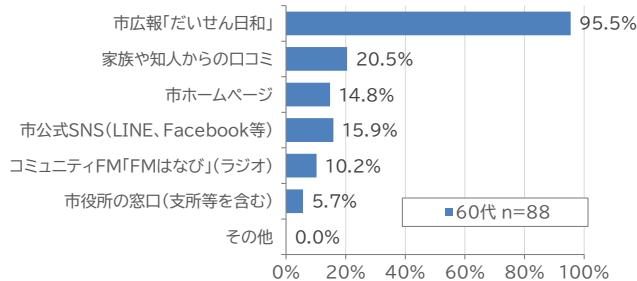
■40代



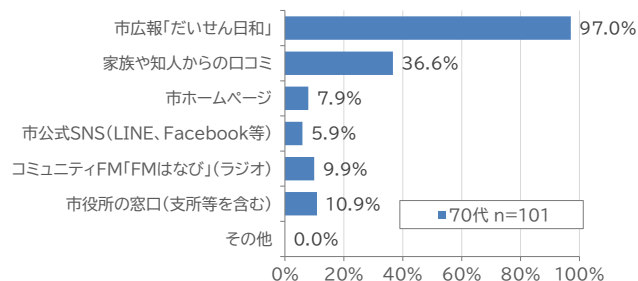
■50代



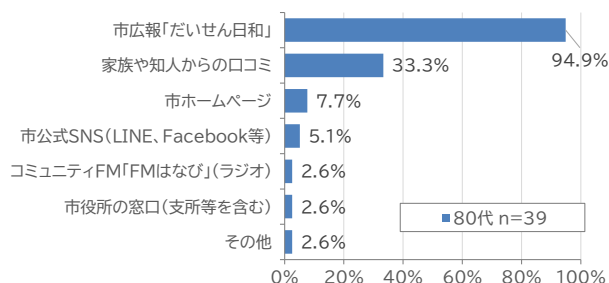
■60代



■70代



■80代



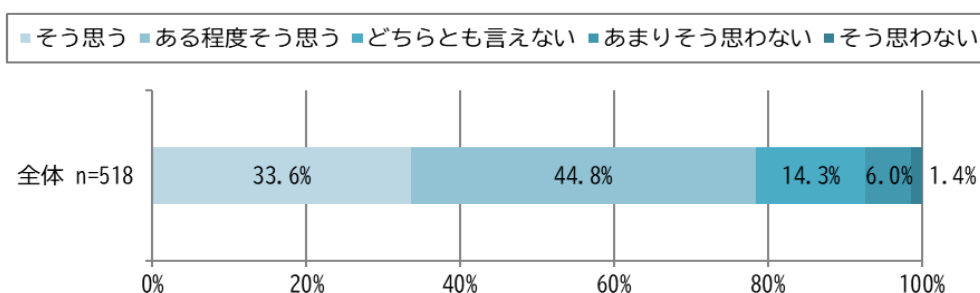
【問2】あなたにとって問1の情報入手手段は利用しやすいと思いますか。

(情報の入手しやすさ)

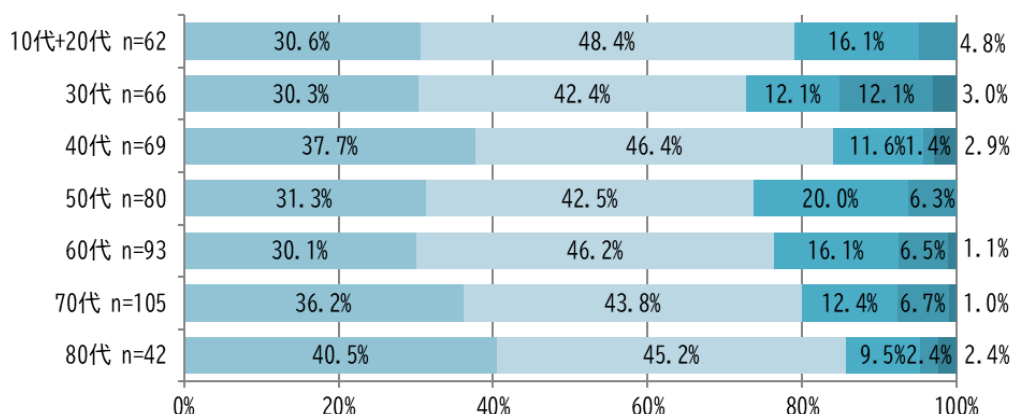
- 全体では、「そう思う（入手しやすい）」が33.6%、「ある程度そう思う（ある程度入手しやすい）」が44.8%となっており、「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた割合は、78.4%と8割近くになっている。
- 年代別で見ると、「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた割合が最も高いのは80代で85.7%、最も低いのは30代の72.7%となっており、13.0ポイントの差がある。「あまりそう思わない（あまり入手しやすいとは思わない）」「そう思わない（入手しやすいとは思わない）」を合わせた割合が最も高いのは30代で15.1%、最も低いのは40代で4.3%となっており、その差は10.8ポイントとなっている。

図表 47 市政情報の入手しやすさ

■全体



■年代別



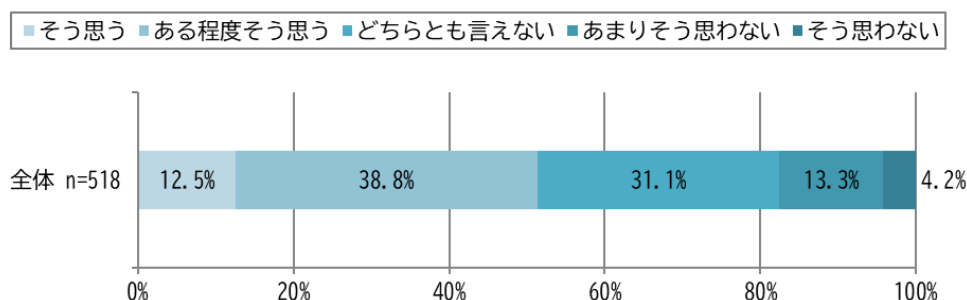
2.6.2 市が行っている行政サービスのデジタル化

【問3】あなたにとって市のサービスは利用しやすいと思いますか。

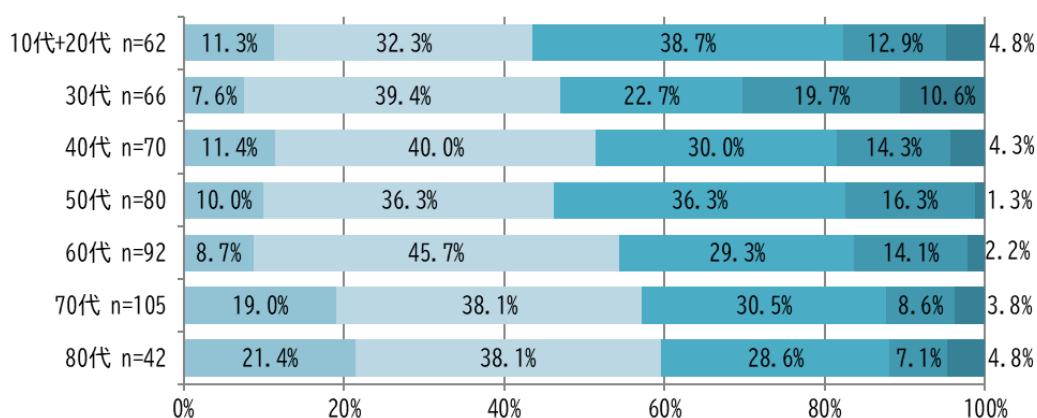
- 全体では、「そう思う（利用しやすい）」が12.5%、「ある程度そう思う（ある程度利用しやすい）」が38.8%となっており、「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた割合は51.3%と約5割となっている。
- 年代別で見ると、「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた割合は80代で59.5%と最も高くなっている一方、10代と20代を合わせた年代で43.6%と最も低くなっており、15.9ポイントの差がある。「あまりそう思わない（あまり利用しやすいとは思わない）」「そう思わない（利用しやすいとは思わない）」を合わせた割合は30代が30.3%で最も高くなっており、比較的若い年代の方が市のサービスを利用しにくいと感じている傾向がある。

図表 48 「市のサービスの利用しやすさ」

■全体



■年代別

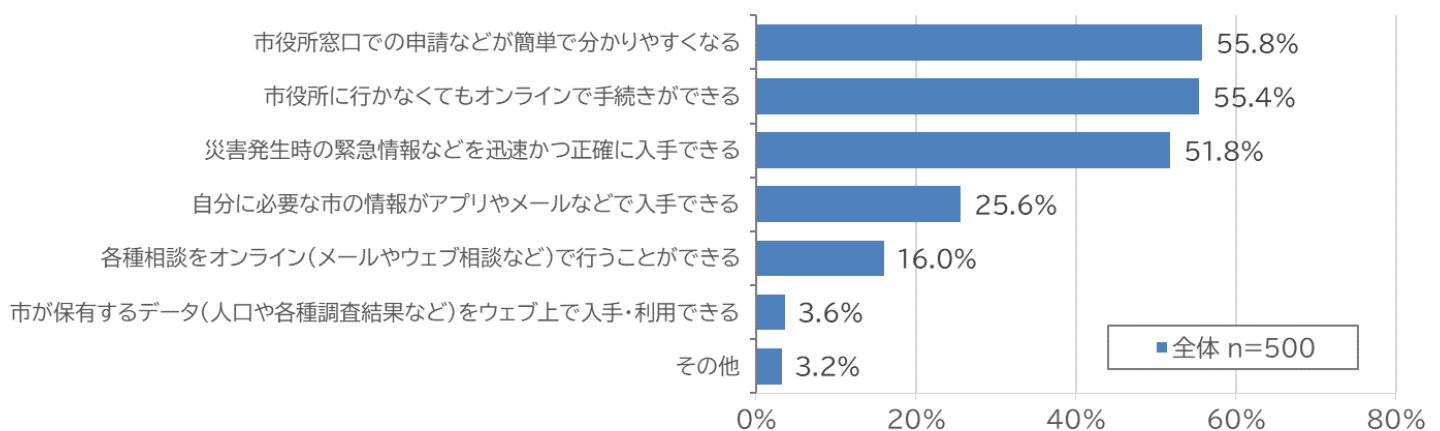


【問4】あなたは行政サービスのデジタル化が進むことで、市が行っているサービスがどのように良くなることを期待しますか。（3つまで）

- 全体では、「市役所窓口での申請などが簡単で分かりやすくなる」（以下、「申請が簡単になる」）の割合が55.8%で最も高く、次いで「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができる」（以下、「オンライン手続き」）が55.4%、「災害発生時の緊急情報などを迅速かつ正確に入手できる」（以下、「緊急情報」）が51.8%となっている。上記3つは、他の回答と比較して20ポイント以上の差があり、期待が高い項目となっている。
- 年代別にみると、全年代で「申請が簡単になる」の割合が4割以上となっており、60代から80代では最も高くなっている。一方で、50代以下では「オンライン手続き」が最も高くなり、40代以下は7割を超えている。また、50代以上では「その他」が他の年代と比べて高くなり、その内容としてデジタル化への不安が多く挙げられている。

図表 49 「行政サービスのデジタル化に期待すること」

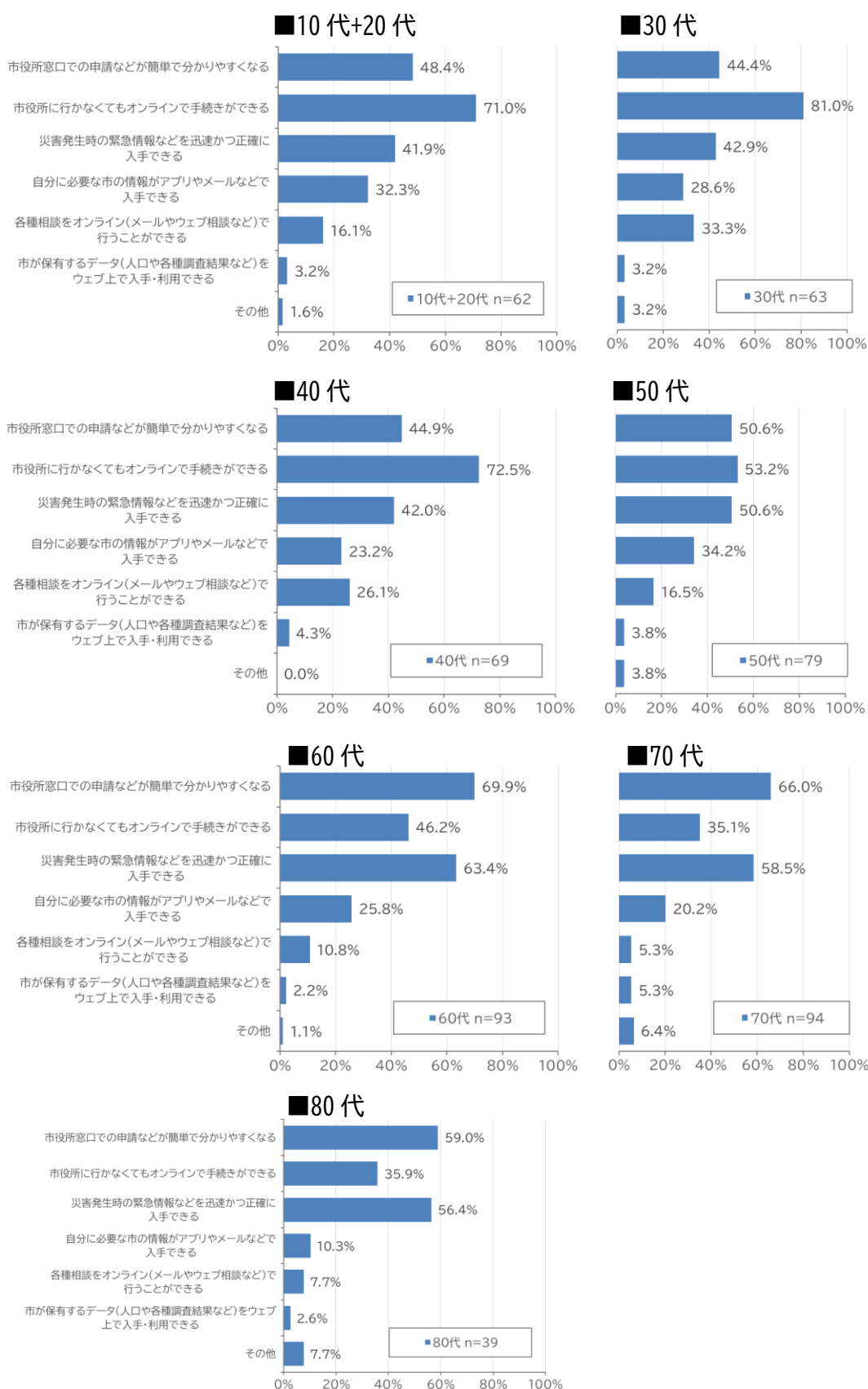
■全体



■その他の回答

- ・ スピーディーさの充実。(30代/男性/パート・アルバイト)
- ・ コンビニ手続きでできないことを、オンラインで申請して土日どちらか窓口受け取りに。
(30代/女性/正規社員・職員)
- ・ 携帯一つで多忙者が、24時間いつでも全てが行えること。(20代/無回答/正規社員・職員)
- ・ デジタルに慣れない人にも、親切な対応をとること。(50代/女性/パート・アルバイト)
- ・ 老人のため、デジタル化にはついていけません。
(80代/女性/自営業・家族従事者(農林業含む))
- ・ スマホ、パソコン持ってない。(70代/男性/正規社員・職員)
- ・ 家庭にデジタル情報で得るものがないので進むことで不便になっています。
(80代/女性/正規社員・職員)
- ・ スマホしか持ってないのに、その利用の仕方もよくわからない。(70代/女性/正規社員・職員)
- ・ 良くなると思うが、自分ではオンラインが出来ないので分からない。(70代/女性/その他)
- ・ デジタル化が進んでも、この年齢になっては使いこなせないと思う。(70代/女性/その他)
- ・ デジタル化は、わかりづらいので困ります。(60代/女性/正規社員・職員)
- ・ 市民全員がデジタル化に特化しているわけではない。取りこぼしがないようにと言うが、どうすれば実現出来るのか知りたい。デジタル化して便利なのは納得だが、それに伴う不都合な事も増えている気がする。(50代/女性/正規社員・職員)
- ・ デジタル化に付いていけない人にはどうでも良い事。面倒な操作が増えるだけ。
(50代/男性/自営業・家族従事者(農林業含む))
- ・ デジタル化に対応出来ないので期待しない。(70代/男性/正規社員・職員)

図表 50 年代別による「行政サービスのデジタル化に期待すること」



2.7 あなたが思う大仙市について

2.7.1 大仙市に住んでいる経緯

現在、大仙市に住んでいる経緯については、「生まれてからずっと住んでいる（以下、「生まれてからずっと」）」が53.9%で最も高く、次いで「市外に住んだことがあり、家族、仕事などの理由で引っ越して来た（以下、「市外経験あり、家族仕事都合で転入」）」が30.6%、「市外に住んだことがあり、自分の意志で引っ越して来た（以下、「市外経験あり、自己都合で転入」）」が15.4%となっている。

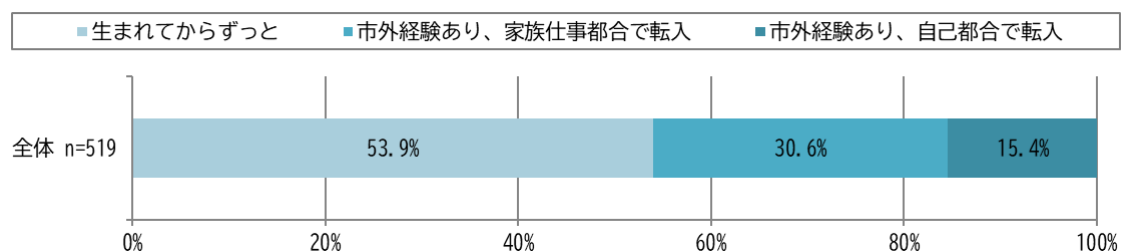
性別で見ると、「生まれてからずっと」は男性が60.9%となっており、女性の46.3%より14.6ポイント高くなっている。一方、「市外経験あり、家族仕事都合で転入」は男性が22.6%となっており、女性は16.7ポイント高い39.3%となっている。

年代別で見ると、「生まれてからずっと」が最も高いのは10代と20代を合わせた年代で77.4%となっており、次いで80代が69.0%で2番目に高くなっている。一方、最も低いのは40代で32.9%となっている。また、「市外経験あり、家族仕事都合で転入」が最も高いのは40代で45.7%となっており、「市外経験あり、自己都合で転入」が最も高いのは40代と80代で、21.4%となっている。

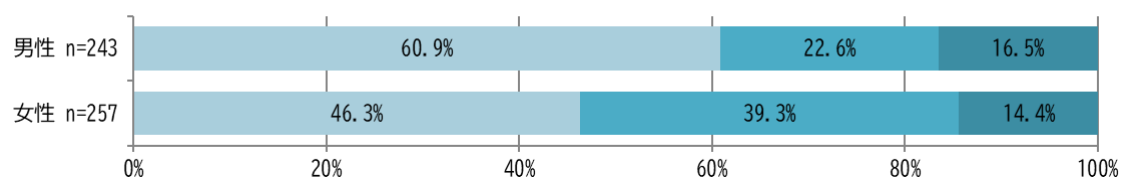
地域別で見ると、「生まれてからずっと」が最も高いのは西仙北地域で66.7%となっており、最も低いのは大曲地域で47.4%となっている。また、「市外経験あり、家族仕事都合で転入」が最も高いのは大曲地域で35.1%、「市外経験あり、自己都合で転入」が最も高いのは協和地域で18.4%となっている。

図表 51 大仙市に住んでいる経緯

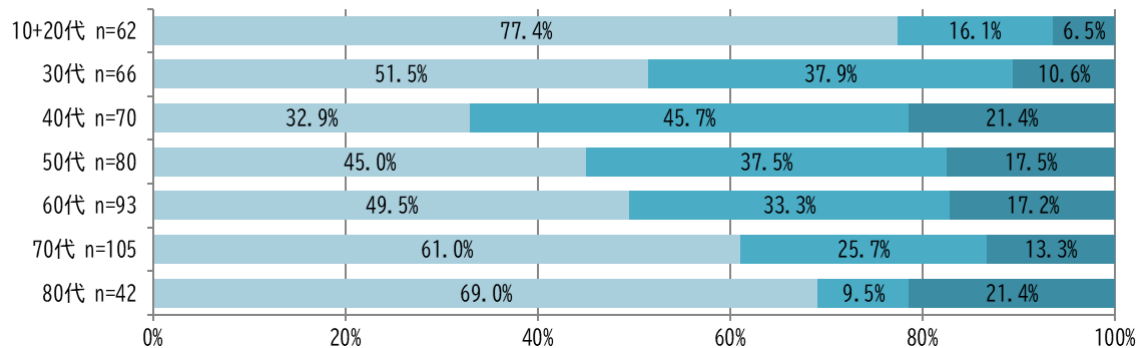
■全体



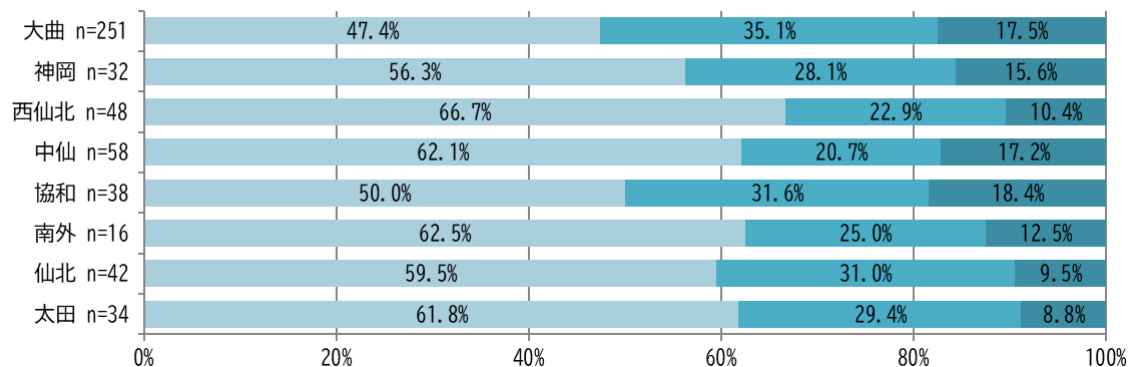
■性別



■年代別



■地域別



2.7.2 「住みやすさ」

■ 住みやすさ

「大仙市は住みやすいまちだと思いますか」という設問については、「どちらかといえば住みやすい」が 58.8%で最も高く、次いで「住みやすい」が 24.4%となっており、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は 83.2%となっている。

性別で見ると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合に大きな差異は見られないが、「住みやすい」は男性が 23.1%、女性が 25.1%となっており、女性が 2.0ポイント高くなっている。また、「どちらかといえば住みやすい」は男性が 59.9%、女性が 59.1%となっており、大きな差異は見られない。

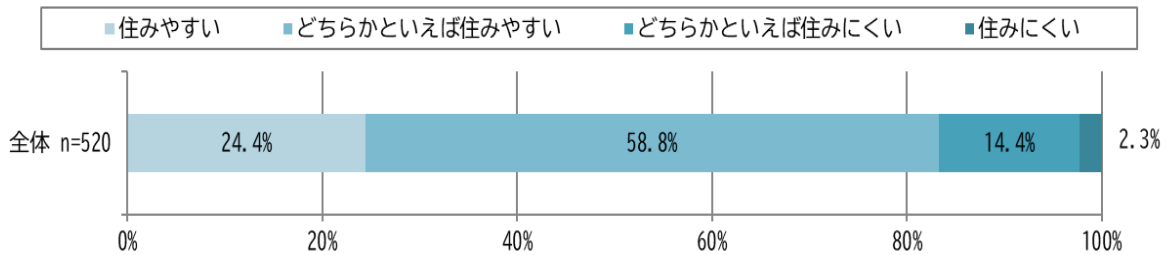
年代別で見ると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は、80代が 97.5%で最も高く、30代が 78.7%で最も低くなっている。また、「住みにくい」の割合が最も高いのは 40代で 4.3%となっており、他の年代よりも比較的高くなっている。

地域別で見ると、「住みやすい」は太田地域が 31.4%で最も高くなっており、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は、大曲地域が 86.5%で最も高くなっている。「どちらかといえば住みにくい」は西仙北地域が 25.0%で最も高くなっており、「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」を合わせた割合は南外地域が 35.3%で最も高くなっている。

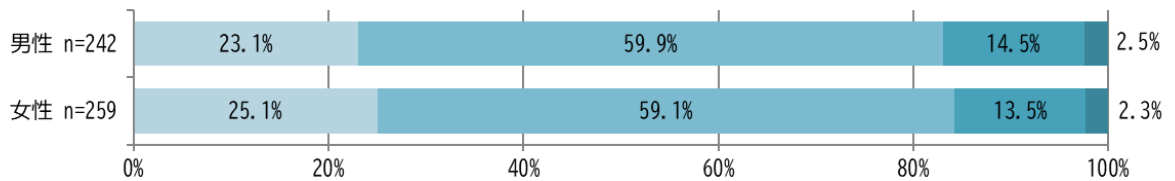
大仙市に住んでいる経緯別で見ると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は、「生まれてからずっと」と回答した方が 85.9%と最も高くなっており、「市外経験あり、自己都合で転入」と回答した方も 84.8%と高い割合となっている。一方で、「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合わせた割合は、「市外経験あり、家族仕事都合で転入」と回答した方が 22.7%と最も高くなっている。

図表 52 大仙市は住みやすいか

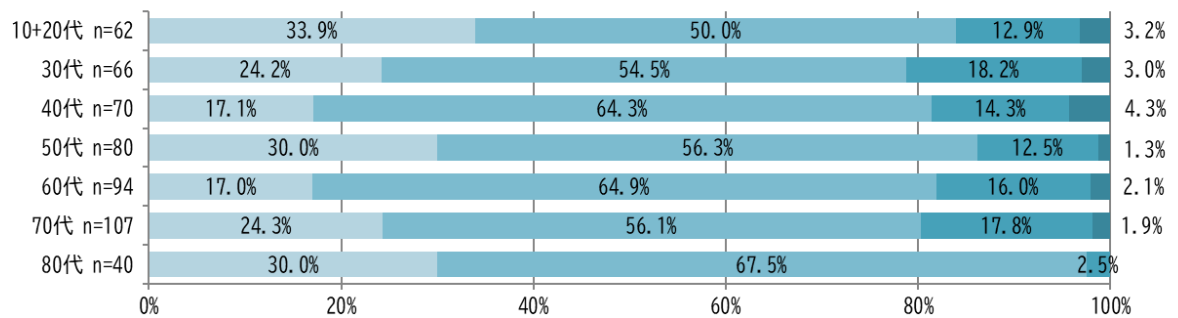
■全体



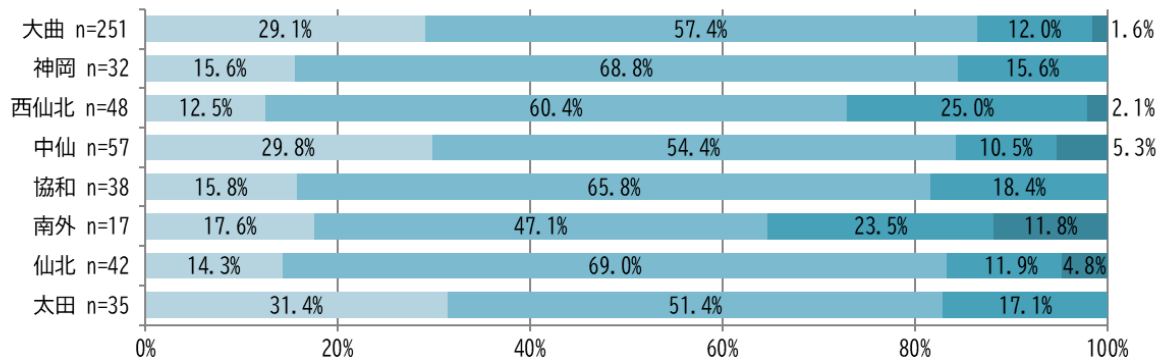
■性別



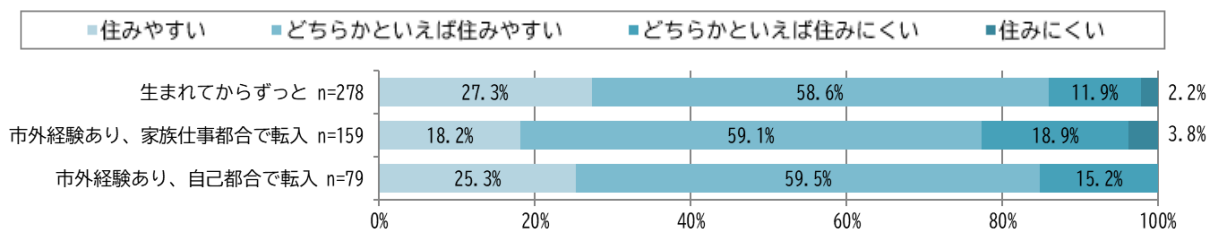
■年代別



■地域別



■住んでいる経緯別



■ 住み続けたさ

「これからも大仙市に住み続けたいと思いますか」という設問については、「今の場所に住み続けたい」と「市内の別の場所へ移りたい」をあわせた割合は、83.8%となっている。

性別で見ると、女性は「今の場所に住み続けたい」が72.9%となっており、男性の68.0%、よりも4.9ポイント高くなっている。男性は「市内の別の場所へ移りたい」「市外に移りたい」及び「住み続けたいが、移らざるを得ない」がそれぞれ女性よりも高くなっている。

年代別で見ると、全ての年代で「今の場所に住み続けたい」と回答した割合が最も高くなっており、年代が上がるにつれて高くなる傾向がある。また、「今の場所に住み続けたい」と「市内の別の場所へ移りたい」をあわせた割合は、40代以上で8割を超えている。一方で、「市外に移りたい」は、年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、10代と20代を合わせた年代では25.8%となっている。

地域別で見ると、「今の場所に住み続けたい」は中仙地域が77.6%、「市内の別の場所へ移りたい」「市外に移りたい」は南外地域が、それぞれ18.8%、31.3%と最も高くなっている。

大仙市に住んでいる経緯別で見ると、「今の場所に住み続けたい」は「市外経験あり、自己都合で転入」と回答した方が78.5%で最も高くなっている。一方、「市外に移りたい」が最も高くなっているのは「市外経験あり、家族仕事都合で転入」と回答した方となっている。

■ 「住みやすさ」と「住み続けたさ」の比較

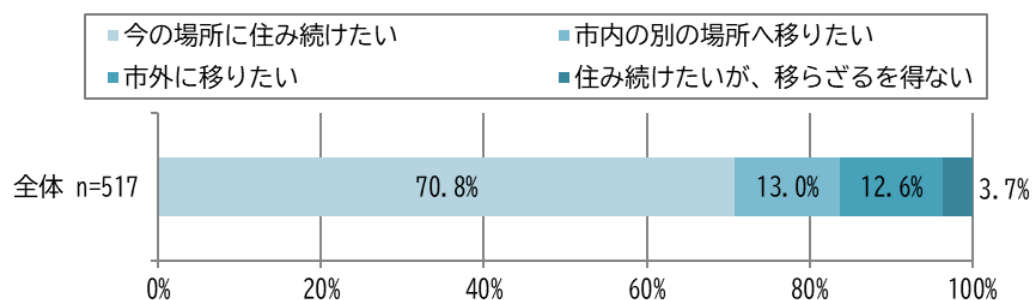
性別で見ると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は、女性がやや高い傾向となっている。また、「今の場所に住み続けたい」「市内の別の場所へ移りたい」「住み続けたいが、移らざるを得ない」を合わせた、市内のどこかに住み続けたいと思っている男性の割合は87.5%と、女性の87.2%よりも0.3ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は、10代と20代、50代、80代が高い傾向となっている。また、「今の場所に住み続けたい」の割合は、60代、70代、80代が比較的高い傾向となっている。

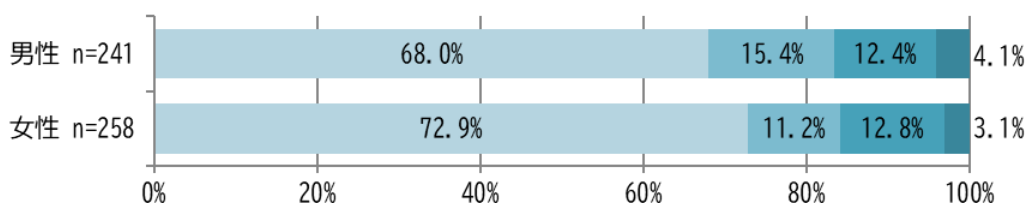
大仙市に住んでいる経緯別で見ると、「市外経験あり、家族仕事都合で転入」と回答した方は、「市外に移りたい」の割合が19.1%と高くなっているものの、7割を超える方が「住みやすい」「住み続けたい」と回答している。そのほか、10代+20代では「住みやすい」と感じているものの、「住み続けたさ」は低くなっている。一方、40代は「住みやすさ」は低いが、「住み続けたさ」は高い結果となっている。

図表 53 大仙市に住み続けたいか

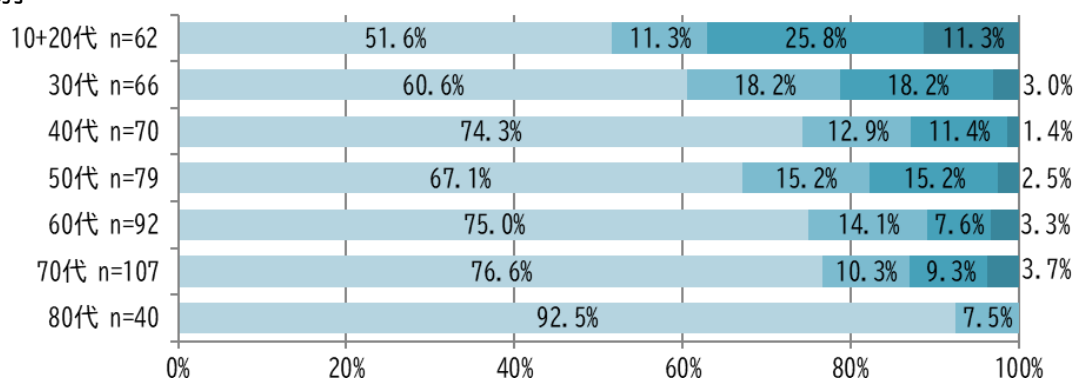
■全体



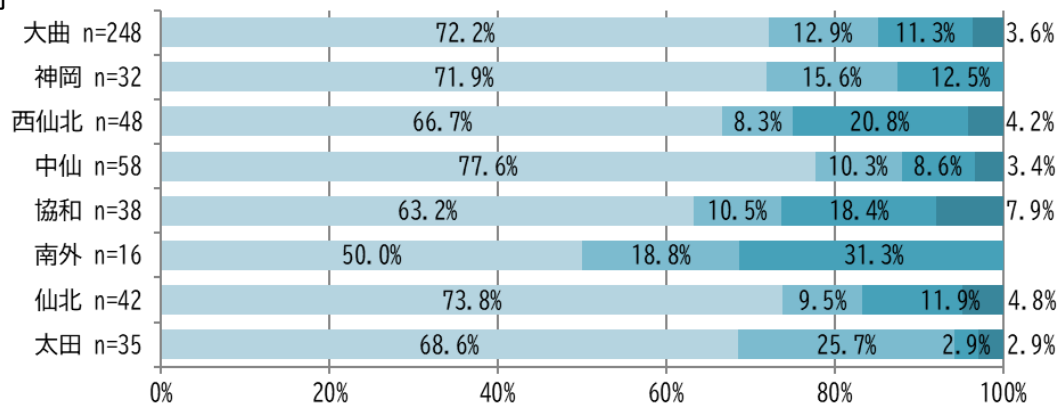
■性別



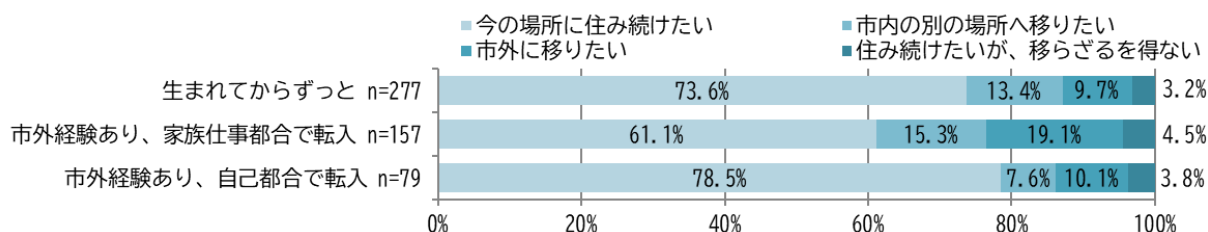
■年代別



■地域別



■住んでいる経緯別



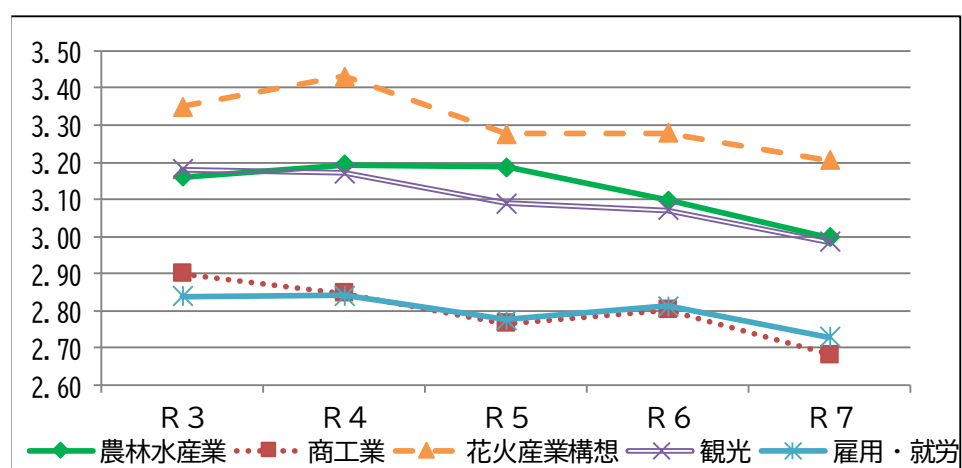
2.8 経年比較（5 か年分）

令和３年度から令和７年度までの５年間ににおける満足度、重要度、要望度の推移と本市の住みやすさについての５年間の推移をまとめた。

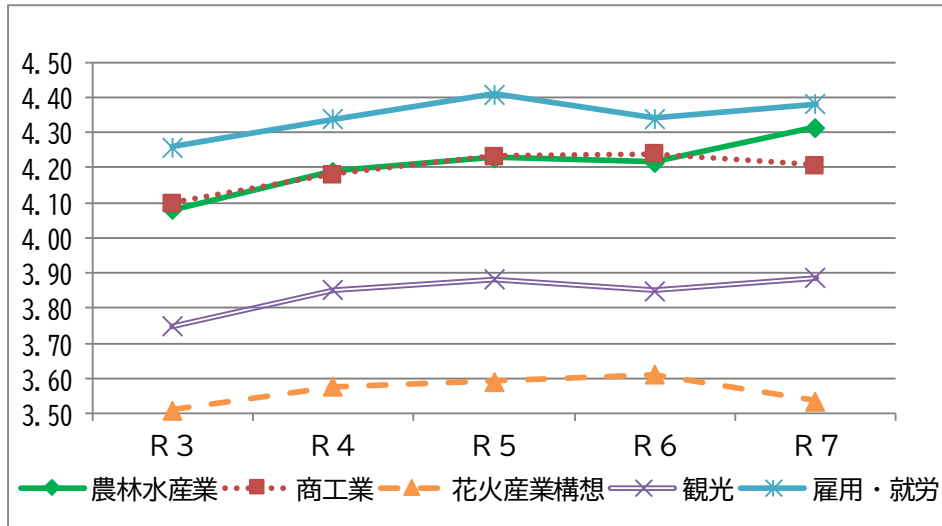
I 魅力ある産業のまちを創ります！～産業振興・雇用など～

満足度は全ての項目で、令和３年度から低下傾向で推移している。重要度は令和３年度から「農林水産業」「商工業」「雇用・就労」は高い割合で推移している。要望度は満足度の低下と重要度の上昇により、全ての項目で令和３年度から上昇傾向となっている。

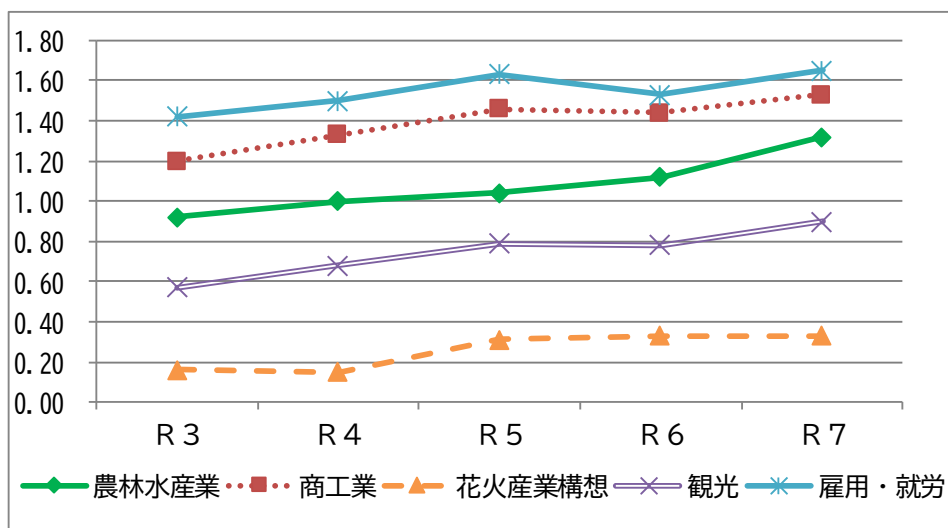
満足度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
農林水産業	3.16	3.19	3.19	3.10	3.00
商工業	2.90	2.85	2.77	2.80	2.68
花火産業構想	3.35	3.43	3.28	3.28	3.21
観光	3.18	3.17	3.09	3.07	2.99
雇用・就労	2.84	2.84	2.78	2.81	2.73



重要度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
農林水産業	4.08	4.19	4.23	4.22	4.32
商工業	4.10	4.18	4.23	4.24	4.21
花火産業構想	3.51	3.58	3.59	3.61	3.54
観光	3.75	3.85	3.88	3.85	3.89
雇用・就労	4.26	4.34	4.41	4.34	4.38



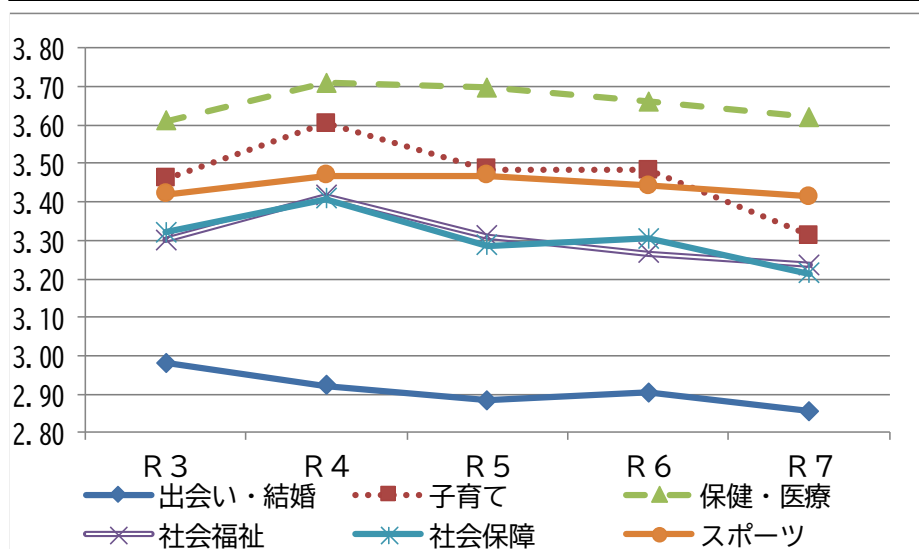
要望度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
農林水産業	0.92	1.00	1.04	1.12	1.32
商工業	1.20	1.33	1.46	1.44	1.53
花火産業構想	0.16	0.15	0.31	0.33	0.33
観光	0.57	0.68	0.79	0.78	0.90
雇用・就労	1.42	1.50	1.63	1.53	1.65



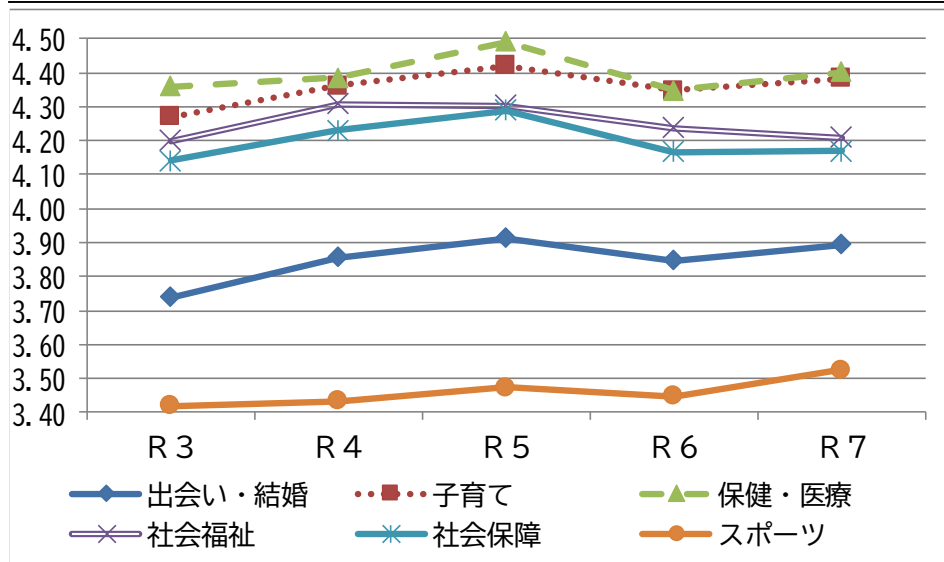
Ⅱ みんなの元気を応援します！～出会い・結婚・子育て、健康・福祉など～

満足度は昨年度と比較すると、全ての項目で低下傾向にあり、特に「子育て」が大きく低下している。重要度は昨年度と比較すると、「社会福祉」と「社会保障」以外の項目で上昇しており、令和３年度と比較した場合も上昇が見られる。要望度は、令和３年度と比較すると上昇傾向で推移している。

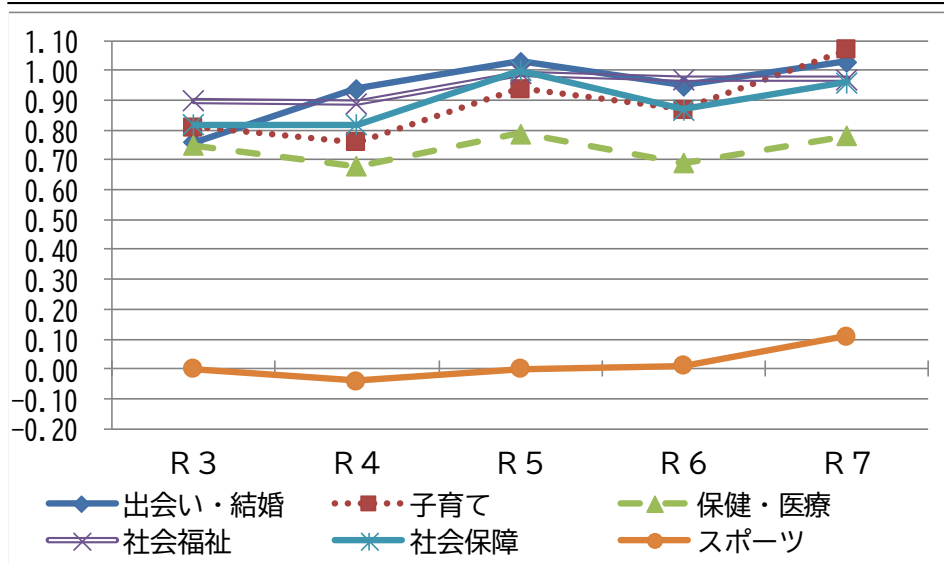
満足度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
出会い・結婚	2.98	2.92	2.88	2.90	2.86
子育て	3.46	3.60	3.48	3.48	3.31
保健・医療	3.61	3.71	3.70	3.66	3.62
社会福祉	3.30	3.42	3.31	3.27	3.24
社会保障	3.32	3.41	3.29	3.30	3.21
スポーツ	3.42	3.47	3.47	3.44	3.41



重要度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
出会い・結婚	3.74	3.86	3.91	3.85	3.89
子育て	4.27	4.36	4.42	4.35	4.38
保健・医療	4.36	4.39	4.49	4.35	4.40
社会福祉	4.20	4.31	4.30	4.24	4.21
社会保障	4.14	4.23	4.29	4.17	4.17
スポーツ	3.42	3.43	3.47	3.45	3.52



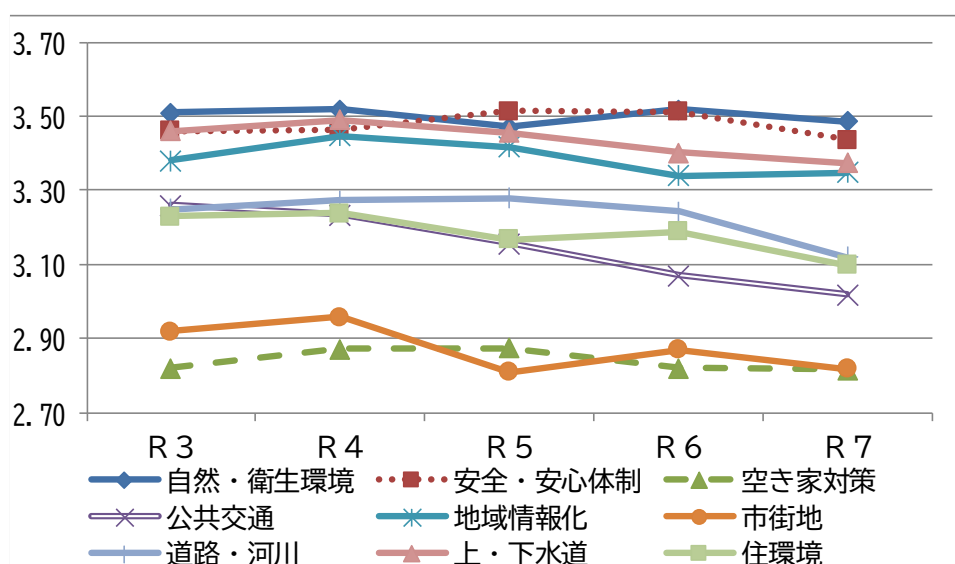
要望度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
出会い・結婚	0.76	0.94	1.03	0.95	1.03
子育て	0.81	0.76	0.94	0.87	1.07
保健・医療	0.75	0.68	0.79	0.69	0.78
社会福祉	0.90	0.89	0.99	0.97	0.97
社会保障	0.82	0.82	1.00	0.87	0.96
スポーツ	0.00	-0.04	0.00	0.01	0.11



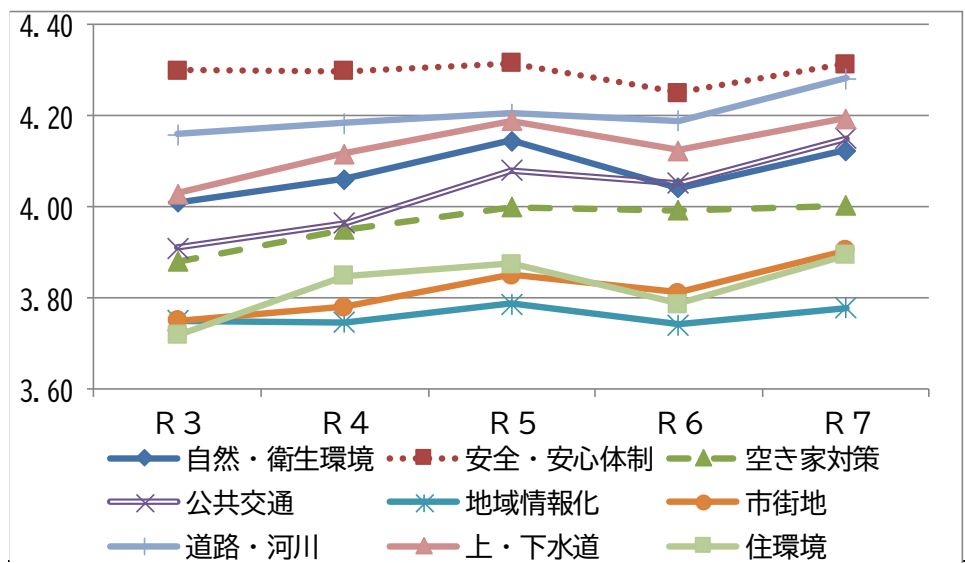
Ⅲ 住みよいまちを築きます！～安全・安心、都市整備など～

満足度は、全体的に横ばい、あるいは低下傾向にあり、昨年度と比較すると「空き家対策」以外の項目が低下しており、特に「道路・河川」が大きく低下している。重要度は、全ての項目で令和３年度から概ね横ばい又は上昇傾向にある。要望度は、重要度と同様に、上昇傾向にあり、特に「公共交通」「住環境」の上昇率が高い。

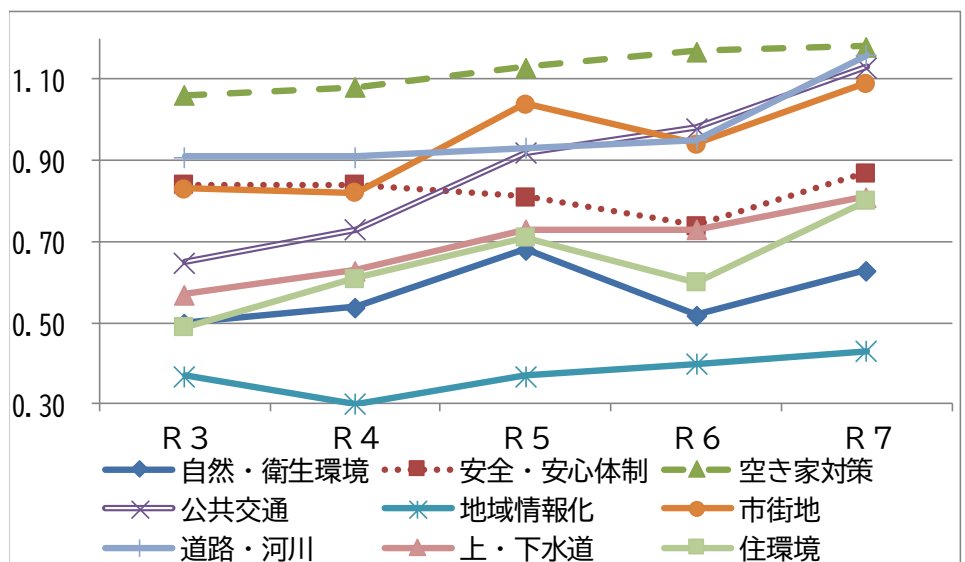
満足度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
自然・衛生環境	3.51	3.52	3.47	3.52	3.49
安全・安心体制	3.46	3.46	3.51	3.51	3.44
空き家対策	2.82	2.87	2.87	2.82	2.82
公共交通	3.26	3.23	3.16	3.07	3.02
地域情報化	3.38	3.45	3.42	3.34	3.35
市街地	2.92	2.96	2.81	2.87	2.82
道路・河川	3.25	3.27	3.28	3.24	3.12
上・下水道	3.46	3.49	3.46	3.40	3.38
住環境	3.23	3.24	3.17	3.19	3.10



重要度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
自然・衛生環境	4.01	4.06	4.15	4.04	4.12
安全・安心体制	4.30	4.30	4.32	4.25	4.31
空き家対策	3.88	3.95	4.00	3.99	4.00
公共交通	3.91	3.96	4.08	4.05	4.15
地域情報化	3.75	3.75	3.79	3.74	3.78
市街地	3.75	3.78	3.85	3.81	3.91
道路・河川	4.16	4.18	4.21	4.19	4.28
上・下水道	4.03	4.12	4.19	4.13	4.19
住環境	3.72	3.85	3.88	3.79	3.90



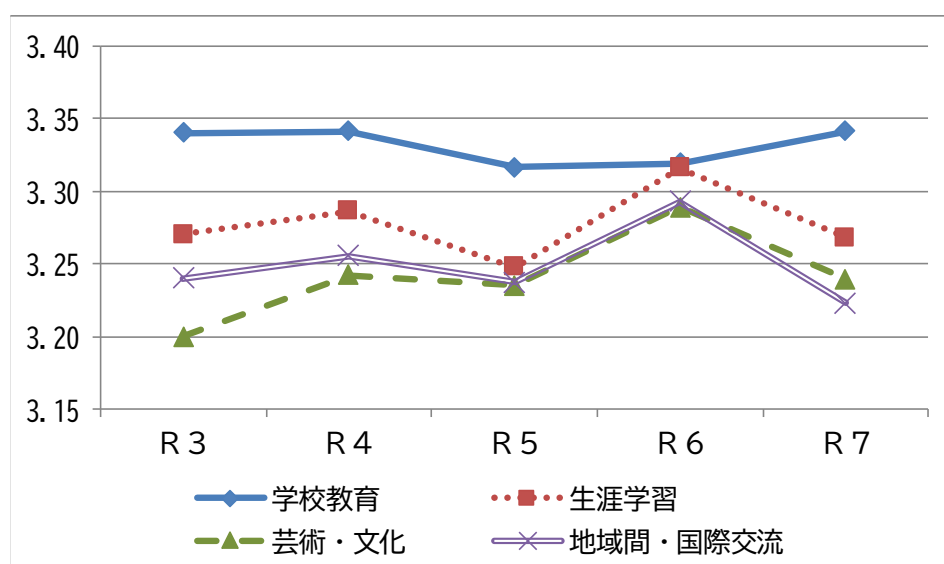
要望度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
自然・衛生環境	0.50	0.54	0.68	0.52	0.63
安全・安心体制	0.84	0.84	0.81	0.74	0.87
空き家対策	1.06	1.08	1.13	1.17	1.18
公共交通	0.65	0.73	0.92	0.98	1.13
地域情報化	0.37	0.30	0.37	0.40	0.43
市街地	0.83	0.82	1.04	0.94	1.09
道路・河川	0.91	0.91	0.93	0.95	1.16
上・下水道	0.57	0.63	0.73	0.73	0.81
住環境	0.49	0.61	0.71	0.60	0.80



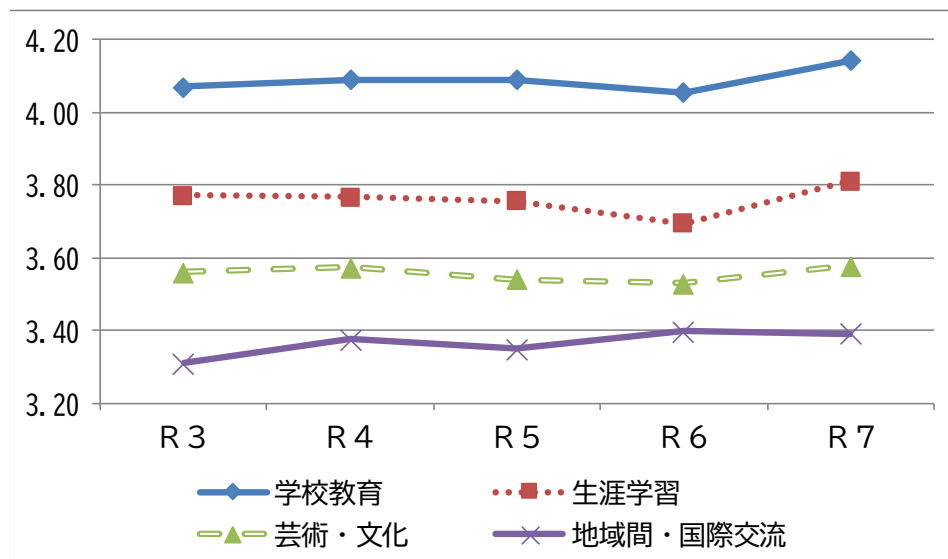
IV 豊かな心と創造力を育みます！～教育、生涯学習、芸術・文化など～

満足度は、昨年度と比較すると「学校教育」は概ね横ばい、「生涯学習」「芸術文化」「地域間・国際交流」は低下している。また、令和3年度と比較すると全ての項目で、概ね横ばいで推移している。重要度は、概ね横ばいで推移していたが、昨年度と比較すると「地域間・国際交流」以外が上昇している。要望度は昨年度と比較すると全ての項目で上昇しており、特に「芸術・文化」「生涯学習」は大きく上昇している。

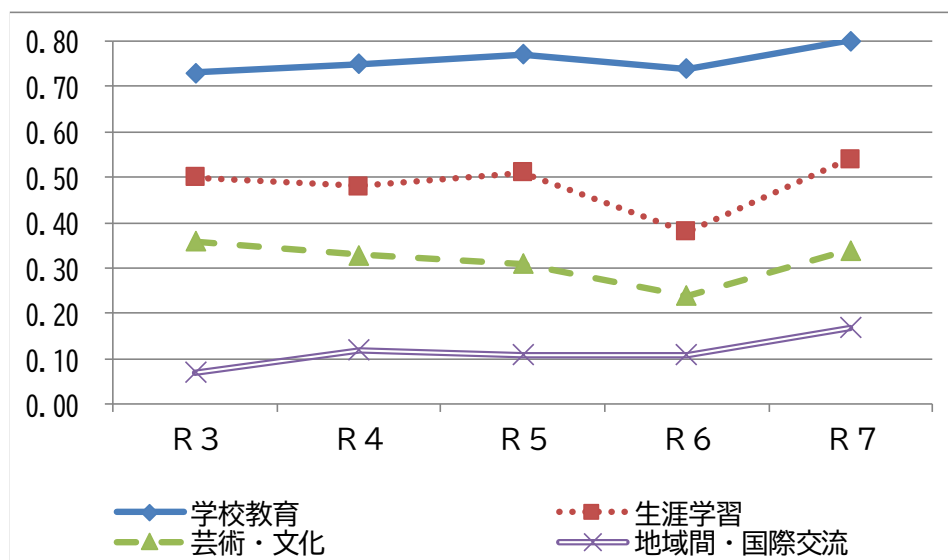
満足度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
学校教育	3.34	3.34	3.32	3.32	3.34
生涯学習	3.27	3.29	3.25	3.32	3.27
芸術・文化	3.20	3.24	3.23	3.29	3.24
地域間・国際交流	3.24	3.26	3.24	3.29	3.22



重要度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
学校教育	4.07	4.09	4.09	4.06	4.14
生涯学習	3.77	3.77	3.76	3.70	3.81
芸術・文化	3.56	3.57	3.54	3.53	3.58
地域間・国際交流	3.31	3.38	3.35	3.40	3.39



要望度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
学校教育	0.73	0.75	0.77	0.74	0.80
生涯学習	0.50	0.48	0.51	0.38	0.54
芸術・文化	0.36	0.33	0.31	0.24	0.34
地域間・国際交流	0.07	0.12	0.11	0.11	0.17

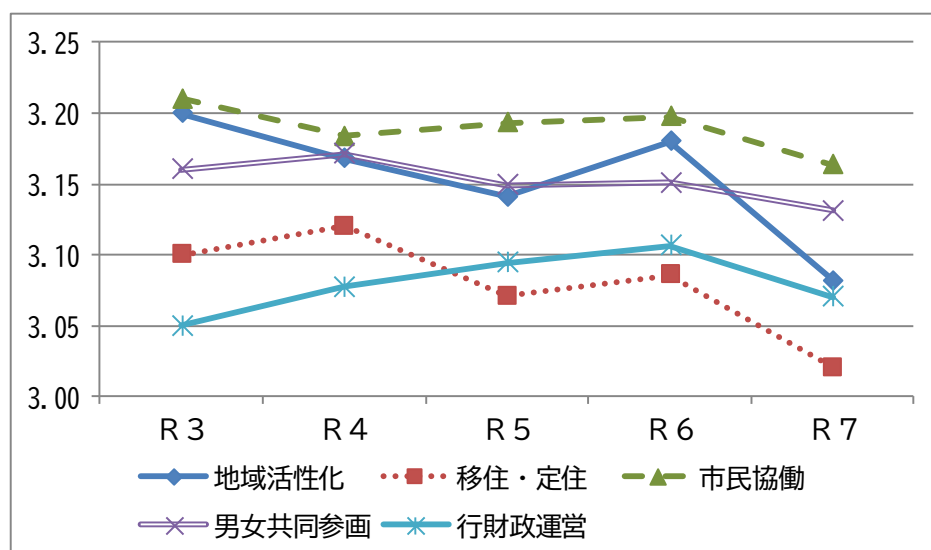


V 時代に合った地域を創ります！

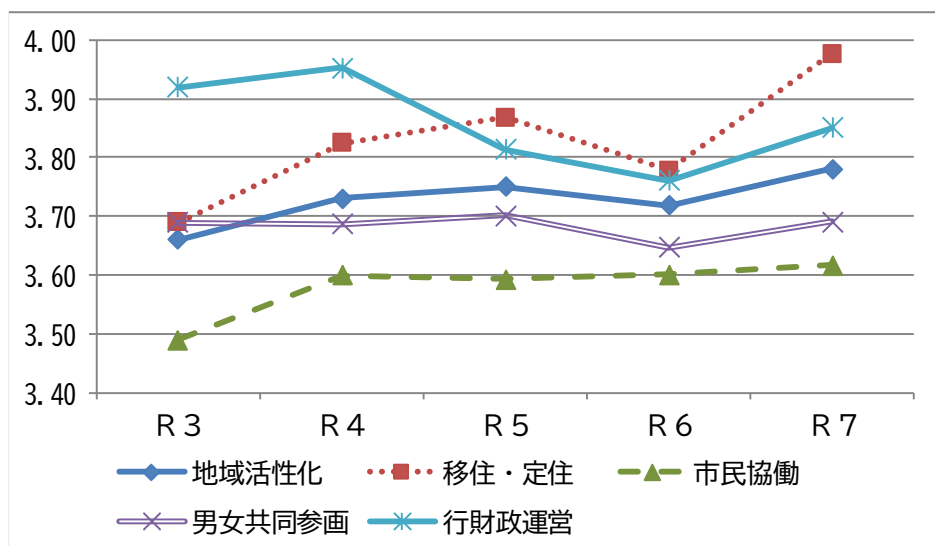
～地域社会の維持・活性化、市民との協働、行財政運営など～

満足度は全ての項目が、昨年度と比較して低下している。また、令和3年度と比較して「行財政運営」「男女共同参画」は概ね横ばいになっているものの、それ以外の項目は低下している。重要度は全ての項目が、昨年度と比較して概ね横ばい、あるいは上昇している。また、令和3年度と比較して特に「移住・定住」が大きく上昇している。要望度は「地域活性化」「移住・定住」「市民協働」が昨年度と比較して上昇している。また、令和3年度と比較して特に「地域活性化」「移住・定住」「市民協働」が上昇している一方、「行財政運営」は低下している。

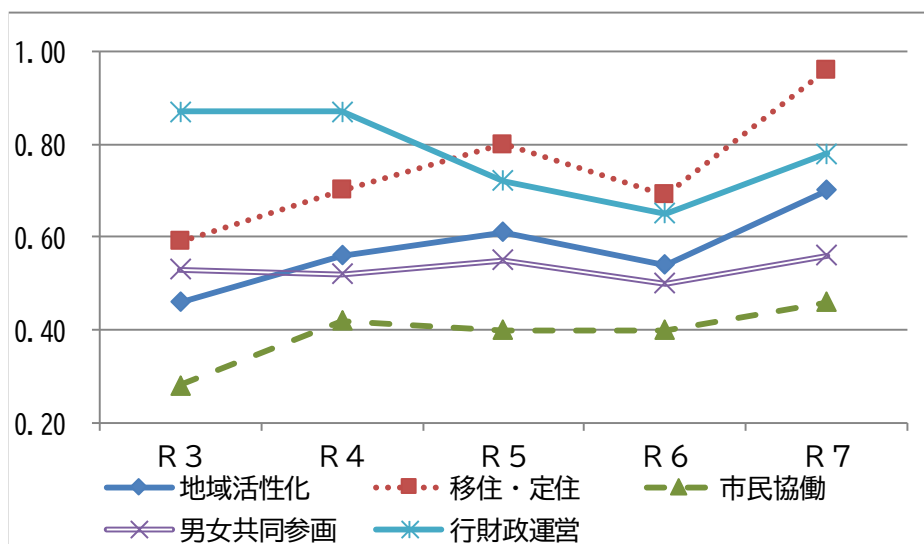
満足度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域活性化	3.20	3.17	3.14	3.18	3.08
移住・定住	3.10	3.12	3.07	3.09	3.02
市民協働	3.21	3.18	3.19	3.20	3.16
男女共同参画	3.16	3.17	3.15	3.15	3.13
行財政運営	3.05	3.08	3.09	3.11	3.07



重要度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域活性化	3.66	3.73	3.75	3.72	3.78
移住・定住	3.69	3.82	3.87	3.78	3.98
市民協働	3.49	3.60	3.59	3.60	3.62
男女共同参画	3.69	3.69	3.70	3.65	3.69
行財政運営	3.92	3.95	3.81	3.76	3.85



要望度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域活性化	0.46	0.56	0.61	0.54	0.70
移住・定住	0.59	0.70	0.80	0.69	0.96
市民協働	0.28	0.42	0.40	0.40	0.46
男女共同参画	0.53	0.52	0.55	0.50	0.56
行財政運営	0.87	0.87	0.72	0.65	0.78



大仙市の住みやすさについて

「大仙市は住みやすいか」

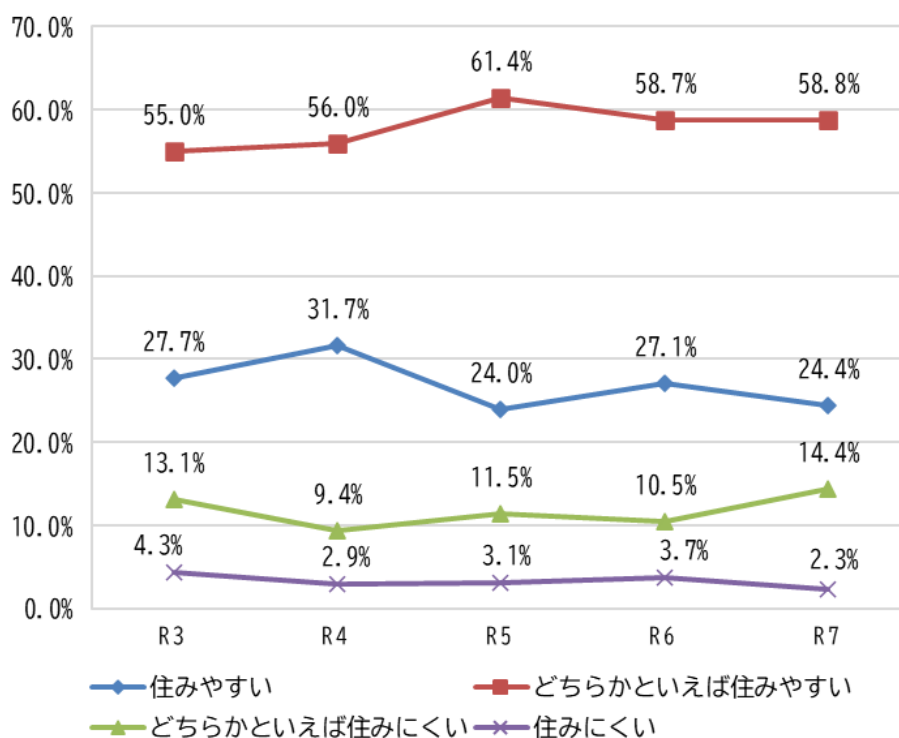
「どちらかといえば住みやすい」は昨年度から 0.1 ポイント上昇したものの、「住みやすい」が昨年度から 2.7 ポイント低下したため、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合は昨年度から 2.6 ポイント低下した。一方、「住みにくい」は 1.4 ポイント改善したものの、「どちらかといえば住みにくい」が 3.9 ポイント上昇する結果になった。令和 3 年度からの推移をみると「住みにくい」と回答した割合は、低下傾向にある。

性別で見ると、「住みやすい」と回答した割合は、女性が 25.1%と男性よりも 2.0 ポイント高い結果となった。過去 5 か年の結果を見ると、令和 4 年以外は、女性の方が男性よりも「住みやすい」と回答した方の割合が高くなっている。

■ 全体

大仙市は住みやすいか	R3	R4	R5	R6	R7
住みやすい	27.7%	31.7%	24.0%	27.1%	24.4%
どちらかといえば住みやすい	55.0%	56.0%	61.4%	58.7%	58.8%
(住みやすい+どちらかといえば住みやすい)	82.7%	87.7%	85.4%	85.8%	83.2%
どちらかといえば住みにくい	13.1%	9.4%	11.5%	10.5%	14.4%
住みにくい	4.3%	2.9%	3.1%	3.7%	2.3%
(どちらかといえば住みにくい+住みにくい)	17.4%	12.3%	14.6%	14.2%	16.7%

※数値表記について、小数点第 2 位以下で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

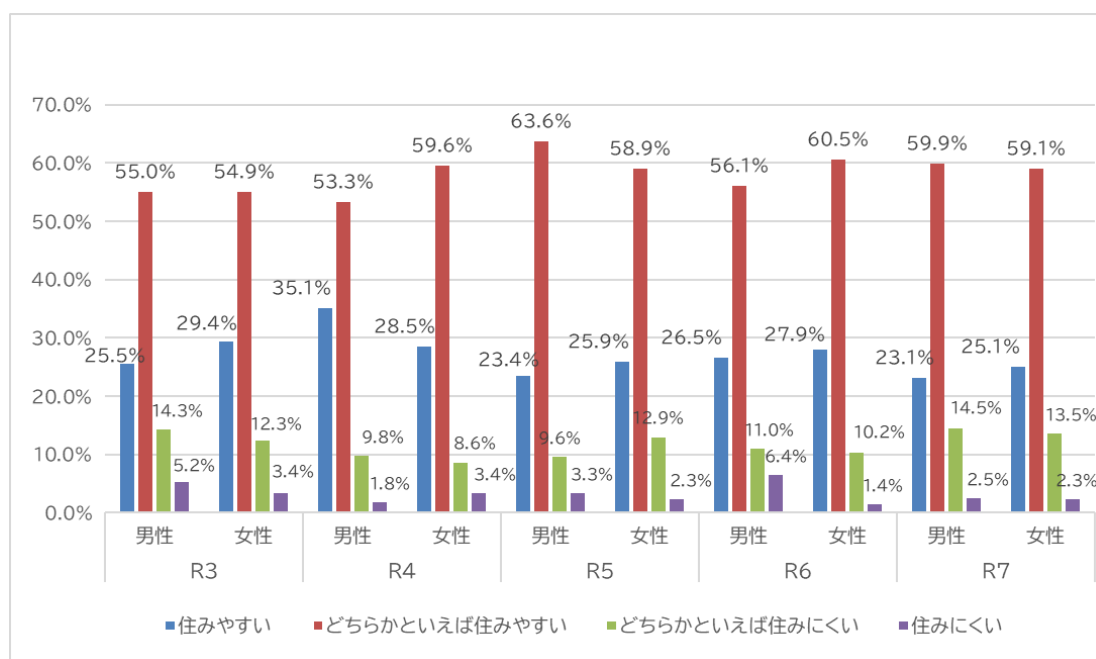


「大仙市は住みやすいか」

■ 性別

大仙市は住みやすいか	R3		R4		R5		R6		R7	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
住みやすい	25.5%	29.4%	35.1%	28.5%	23.4%	25.9%	26.5%	27.9%	23.1%	25.1%
どちらかといえば住みやすい	55.0%	54.9%	53.3%	59.6%	63.6%	58.9%	56.1%	60.5%	59.9%	59.1%
(住みやすい+どちらかといえば住みやすい)	80.5%	84.3%	88.4%	88.0%	87.0%	84.8%	82.6%	88.4%	83.1%	84.2%
どちらかといえば住みにくい	14.3%	12.3%	9.8%	8.6%	9.6%	12.9%	11.0%	10.2%	14.5%	13.5%
住みにくい	5.2%	3.4%	1.8%	3.4%	3.3%	2.3%	6.4%	1.4%	2.5%	2.3%
(どちらかといえば住みにくい+住みにくい)	19.5%	15.7%	11.6%	12.0%	13.0%	15.2%	17.4%	11.6%	16.9%	15.8%

※数値表記について、小数点第2位以下で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。



大仙市の住みやすさについて

「大仙市に住み続けたいか」

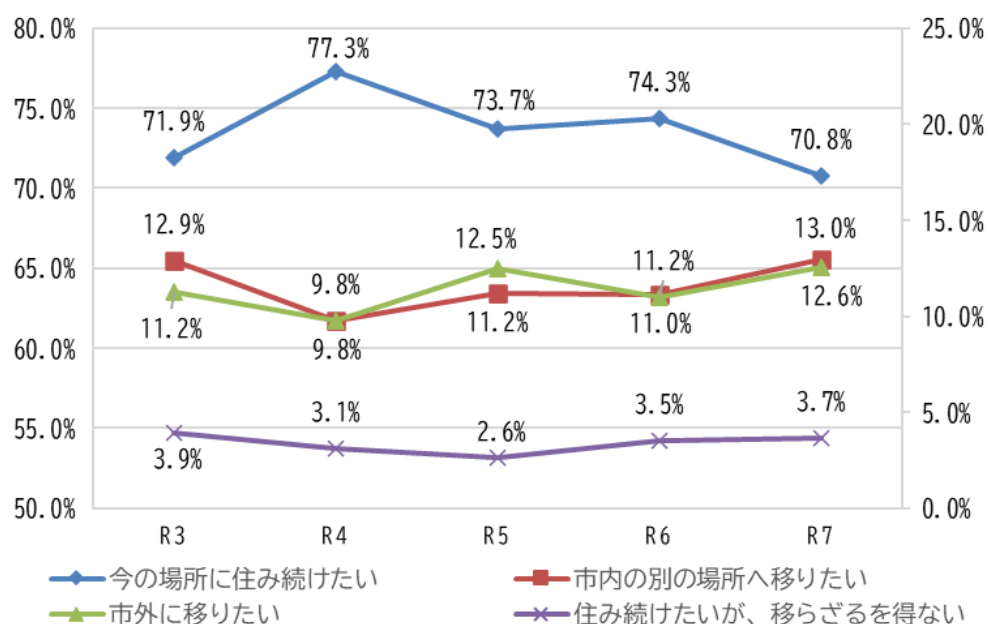
「今の場所に住み続けたい」は昨年度と比較すると 3.5 ポイント低下しており、「市内の別の場所へ移りたい」は 1.8 ポイント上昇している。一方、「市外に移りたい」「住み続けたいが、移らざるを得ない」は、昨年度と比較するとそれぞれ 1.6 ポイント、0.2 ポイント上昇している。

性別で見ると、「今の場所に住み続けたい」と回答した割合は、女性が 72.9%と男性よりも 4.9 ポイント高い結果となった。過去 5 か年の結果を見ると、女性は「今の場所に住み続けたい」と回答した割合が 7 割を超えている。

■ 全体

大仙市に住み続けたいか	R3	R4	R5	R6	R7
今の場所に住み続けたい	71.9%	77.3%	73.7%	74.3%	70.8%
市内の別の場所へ移りたい	12.9%	9.8%	11.2%	11.2%	13.0%
(今の場所に住み続けたい+ 市内の別の場所へ移りたい)	84.8%	87.1%	84.9%	85.5%	83.8%
市外に移りたい	11.2%	9.8%	12.5%	11.0%	12.6%
住み続けたいが、移らざるを得ない	3.9%	3.1%	2.6%	3.5%	3.7%
(市外に移りたい+ 住み続けたいが、移らざるを得ない)	15.1%	12.9%	15.1%	14.5%	16.3%

※数値表記について、小数点第 2 位以下で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

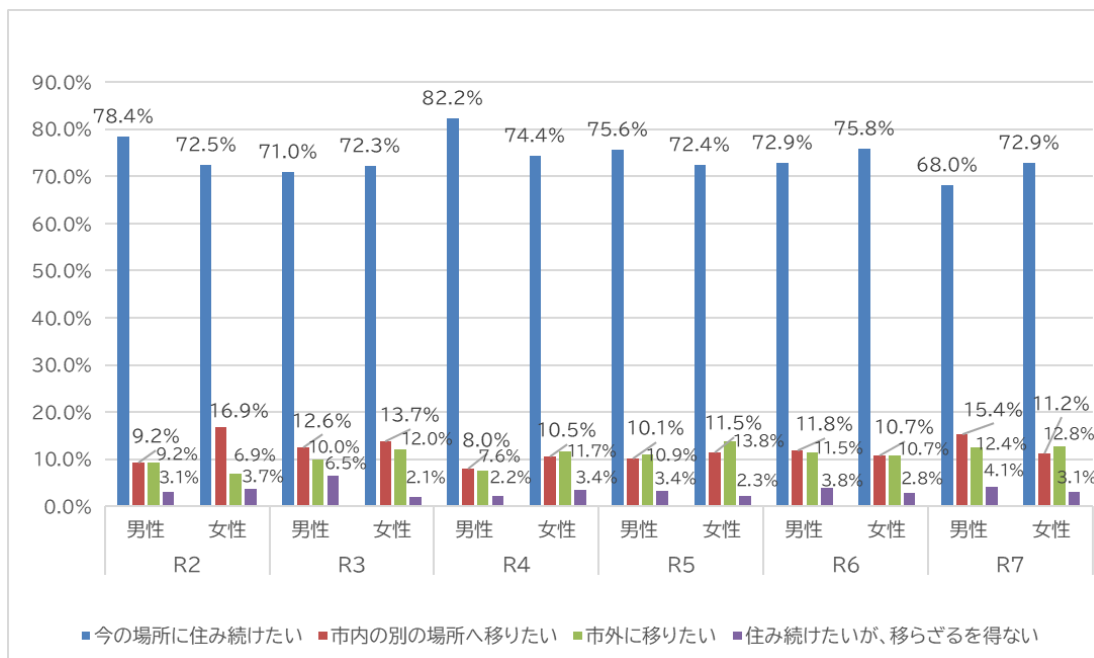


「大仙市に住み続けたいか」

■ 性別

大仙市に住み続けたいか	R3		R4		R5		R6		R7	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
今の場所に住み続けたい	71.0%	72.3%	82.2%	74.4%	75.6%	72.4%	72.9%	75.8%	68.0%	72.9%
市内の別の場所へ移りたい (今の場所に住み続けたい+ 市内の別の場所へ移りたい)	12.6%	13.7%	8.0%	10.5%	10.1%	11.5%	11.8%	10.7%	15.4%	11.2%
市外に移りたい	10.0%	12.0%	7.6%	11.7%	10.9%	13.8%	11.5%	10.7%	12.4%	12.8%
住み続けたいが、移らざるを得ない (市外に移りたい+ 住み続けたいが、移らざるを得ない)	6.5%	2.1%	2.2%	3.4%	3.4%	2.3%	3.8%	2.8%	4.1%	3.1%
	16.5%	14.0%	9.8%	15.0%	14.3%	16.1%	15.3%	13.5%	16.6%	15.9%

※数値表記について、小数点第2位以下で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

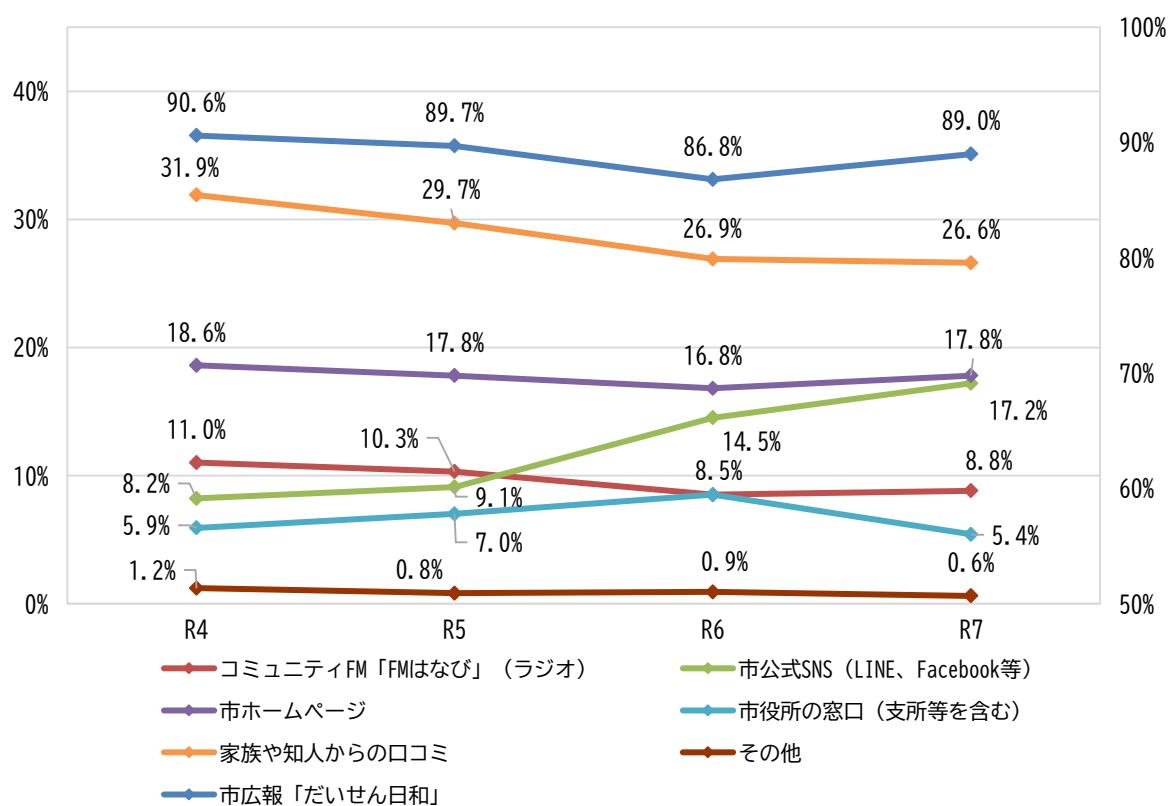


市の情報発信や行政サービスのデジタル化について

「市政情報の入手手段」

「市広報『だいせん日和』」は、昨年度と比較すると2.2ポイント上昇しているほか、「市公式SNS(LINE、Facebook等)」は2.7ポイント上昇している。一方で、「市役所の窓口(支所等を含む)」は、昨年度と比較すると3.1ポイント低下している。「市公式SNS(LINE、Facebook等)」は、調査を開始した令和4年度から上昇しており、「市ホームページ」とほぼ同じ割合になっている。

市政情報の入手手段	R4	R5	R6	R7
市広報「だいせん日和」	90.6%	89.7%	86.8%	89.0%
コミュニティFM「FMはなび」(ラジオ)	11.0%	10.3%	8.5%	8.8%
市公式SNS(LINE、Facebook等)	8.2%	9.1%	14.5%	17.2%
市ホームページ	18.6%	17.8%	16.8%	17.8%
市役所の窓口(支所等を含む)	5.9%	7.0%	8.5%	5.4%
家族や知人からの口コミ	31.9%	29.7%	26.9%	26.6%
その他	1.2%	0.8%	0.9%	0.6%

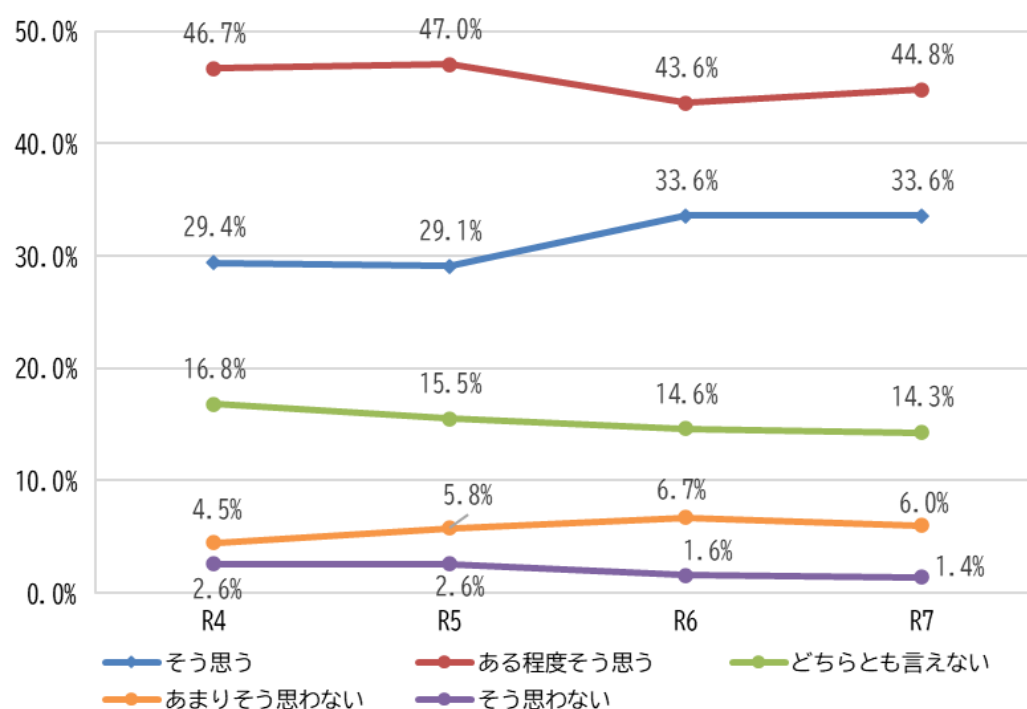


「市政情報の入手しやすさ」

「そう思う」は昨年度と変わらず、「ある程度そう思う」は、昨年度と比較して 1.2 ポイント上昇しており、「ある程度そう思う」「そう思う」を合わせた割合が 1.2 ポイント上昇している。一方で、「あまりそう思わない」は 0.7 ポイント改善、「そう思わない」が 0.2 ポイント改善しているため、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、0.9 ポイント改善している。

市政情報の入手しやすさ	R4	R5	R6	R7
そう思う	29.4%	29.1%	33.6%	33.6%
ある程度そう思う	46.7%	47.0%	43.6%	44.8%
(そう思う+ある程度そう思う)	76.1%	76.1%	77.2%	78.4%
どちらとも言えない	16.8%	15.5%	14.6%	14.3%
あまりそう思わない	4.5%	5.8%	6.7%	6.0%
そう思わない	2.6%	2.6%	1.6%	1.4%
(あまりそう思わない+そう思わない)	7.1%	8.4%	8.3%	7.4%

※数値表記について、小数点第2位以下で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。



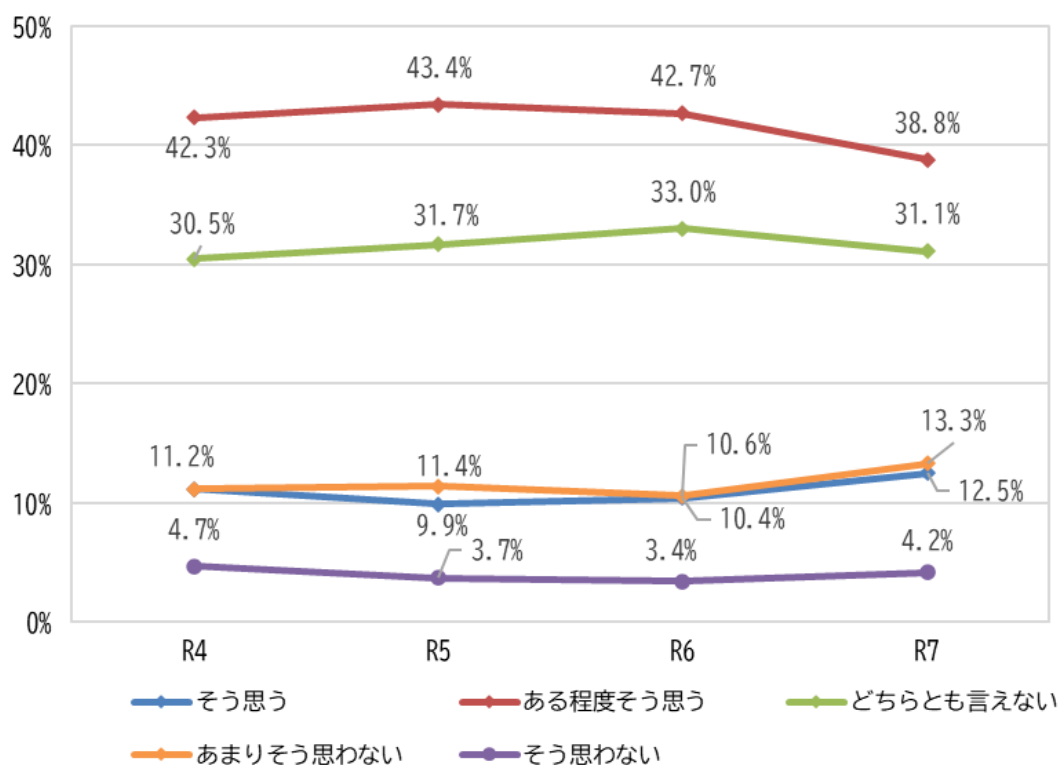
市の情報発信や行政サービスのデジタル化について

市の行政サービスの利用しやすさ

「そう思う」は、昨年度と比較して2.1ポイント上昇しているものの、「ある程度そう思う」が昨年度から3.9ポイント低下しているため、「そう思う」「ある程度そう思う」を合わせた割合は1.8ポイント低下している。そのほか、「あまりそう思わない」が2.7ポイント、「そう思わない」は0.8ポイント上昇しており、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は3.5ポイント上昇している。

市の行政サービスの利用しやすさ	R4	R5	R6	R7
そう思う	11.2%	9.9%	10.4%	12.5%
ある程度そう思う	42.3%	43.4%	42.7%	38.8%
(そう思う+ある程度そう思う)	53.5%	53.3%	53.1%	51.3%
どちらとも言えない	30.5%	31.7%	33.0%	31.1%
あまりそう思わない	11.2%	11.4%	10.6%	13.3%
そう思わない	4.7%	3.7%	3.4%	4.2%
(あまりそう思わない+そう思わない)	15.9%	15.1%	14.0%	17.5%

※数値表記について、小数点第2位以下で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

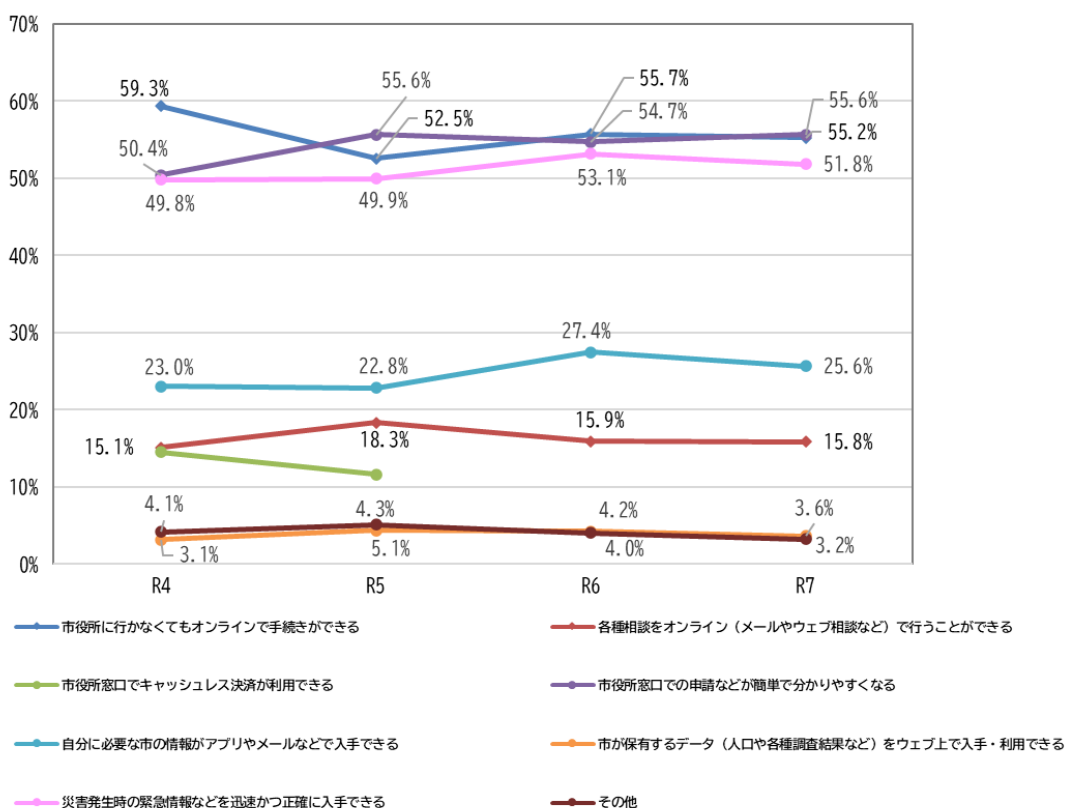


行政サービスのデジタル化に期待すること

「市役所に行かなくてもオンラインで手続きができる」「市役所窓口での申請などが簡単で分かりやすくなる」「災害発生時の緊急情報などを迅速かつ正確に入手できる」と回答した割合がそれぞれ50%を超えており、調査開始時から高い割合で推移している。その他の項目については 順位に変動はないが、「自分に必要な市の情報がアプリやメールなどで入手できる」が昨年度と比較して1.8ポイント低下している。

行政サービスのデジタル化に期待すること	R4	R5	R6	R7
市役所に行かなくてもオンラインで手続きができる	59.3%	52.5%	55.7%	55.2%
各種相談をオンライン（メールやウェブ相談など）で行うことができる	15.1%	18.3%	15.9%	15.8%
市役所窓口でキャッシュレス決済が利用できる	14.5%	11.6%	-	-
市役所窓口での申請などが簡単で分かりやすくなる	50.4%	55.6%	54.7%	55.6%
自分に必要な市の情報がアプリやメールなどで入手できる	23.0%	22.8%	27.4%	25.6%
が保有するデータ（人口や各種調査結果など）をウェブ上で入手・利用できる	3.1%	4.3%	4.2%	3.6%
災害発生時の緊急情報などを迅速かつ正確に入手できる	49.8%	49.9%	53.1%	51.8%
その他	4.1%	5.1%	4.0%	3.2%

※「市役所窓口でキャッシュレス決済が利用できる」は、既に実施済であるため、令和6年度調査からは設問項目に含めていない。



3 市民による個別事業評価

3 市民による個別事業評価

3.1 個別事業評価

今年度の個別事業評価については、市民全体を対象に、3つの施策・事業に対する評価・意見を伺うこととし、「2 市民による市政評価」の調査票に合冊し、併せて実施した。

従って、調査対象、回答率、回答者の属性については、市民による市政評価の結果と同様である。（P4～6を参照）

3.1.1 広報活動

（企画部 広報広聴課）

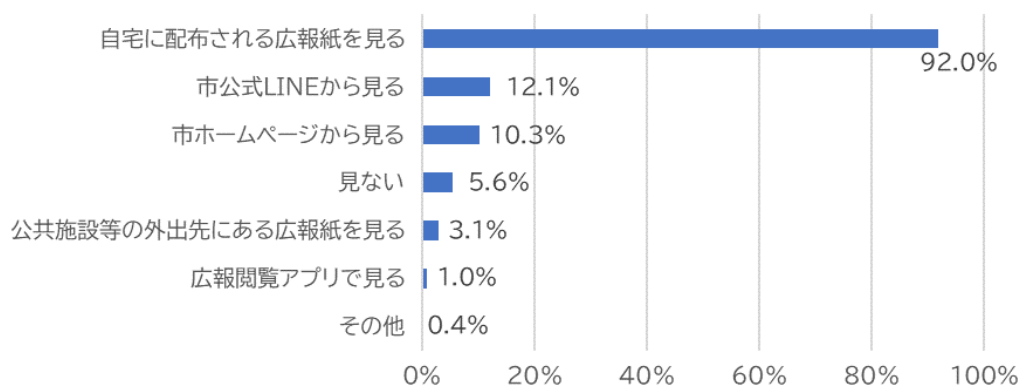
- ◆ 調査目的： 市では、これまで市民の理解と信頼に基づく公正で開かれた市政の発展に資することを目的に、市広報紙「だいせん日和」の発行をはじめ、ホームページ、SNS、コミュニティ FM、アプリ等を活用して、市の施策等に関する情報の分かりやすい提供に努めてきたところである。一方で、広報紙をはじめとする行政刊行物の配布に携わる行政協力員の担い手不足や、近年の SNS 等の普及に伴う情報入手手段の多様化など、広報活動を取りまく環境は大きく変化している。

こうした状況を踏まえ、本調査では、広報「だいせん日和」の閲覧方法や市政情報の入手手段等について市民の皆さまのご意見を伺い、幅広い年代の生活スタイルに即した、より利便性が高く、効率的な広報活動の参考とする。

【問1】これまで市では、紙での全戸配布のほかに、WEB やアプリから閲覧できるデジタル版の広報「だいせん日和」も配信してきました。市広報「だいせん日和」をどのようにして見えていますか。（複数回答可）

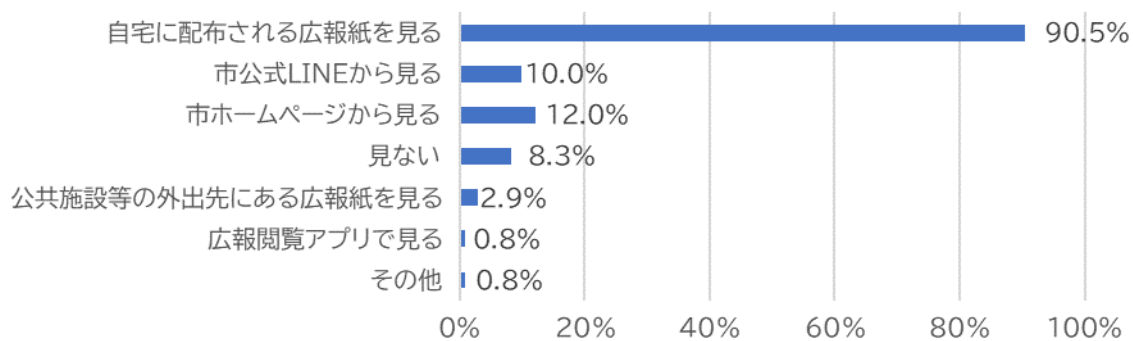
- 全体では、「自宅に配布される広報紙を見る」と回答した割合が 92.0%となっており、紙媒体が主要な情報源となっていることがうかがえる。次いで、「市公式 LINE から見る」が 12.1%、「市ホームページから見る」が 10.3%となっており、「見ない」と回答した割合は 5.6%となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「自宅に配布される広報紙を見る」と回答した割合が最も高く、ともに 9 割を超えている。これに次いで、女性は「市公式 LINE から見る」が 13.7%となっており、「市ホームページから見る」「見ない」と続いている。一方、男性では「市ホームページから見る」が 12.0%で、続いて「市公式 LINE から見る」「見ない」の順になっている。
- 16 歳から 39 歳まで、40 歳から 59 歳まで、60 歳以上の 3 つ年齢層別に見ると、全ての年齢層で「自宅に配布される広報紙を見る」と回答した割合が最も高く、特に 60 歳以上で 99.2%となっている。これに続き、40 歳から 59 歳までは、「市公式 LINE から見る」「公共施設等の外出先にある広報紙を見る」となっており、16 から 39 歳までは、「見ない」「市公式 LINE から見る」となっている。

■ 全体(N=522)

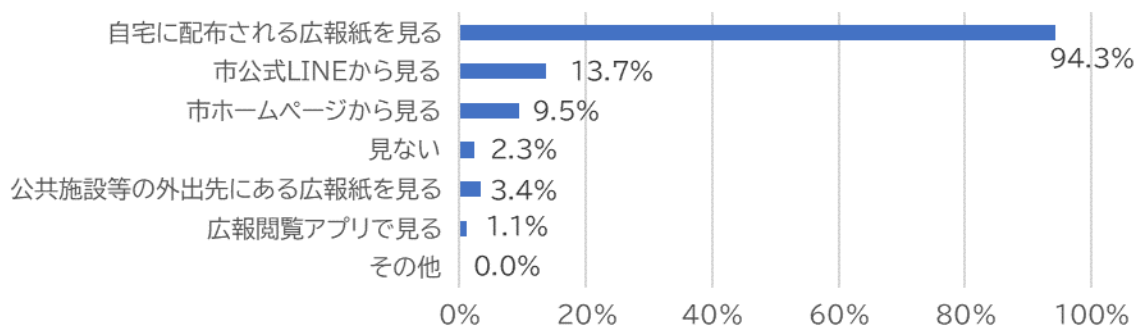


■ 性別

■ 男性(N=241)

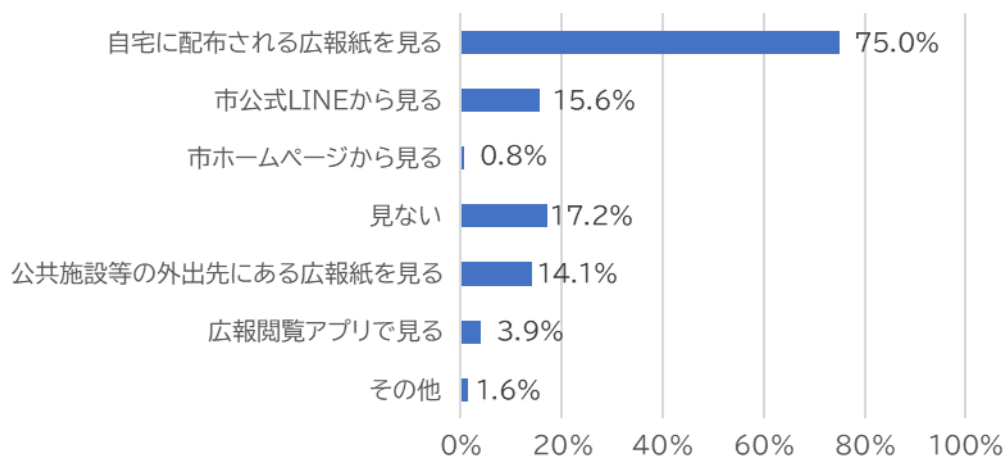


■ 女性(N=262)

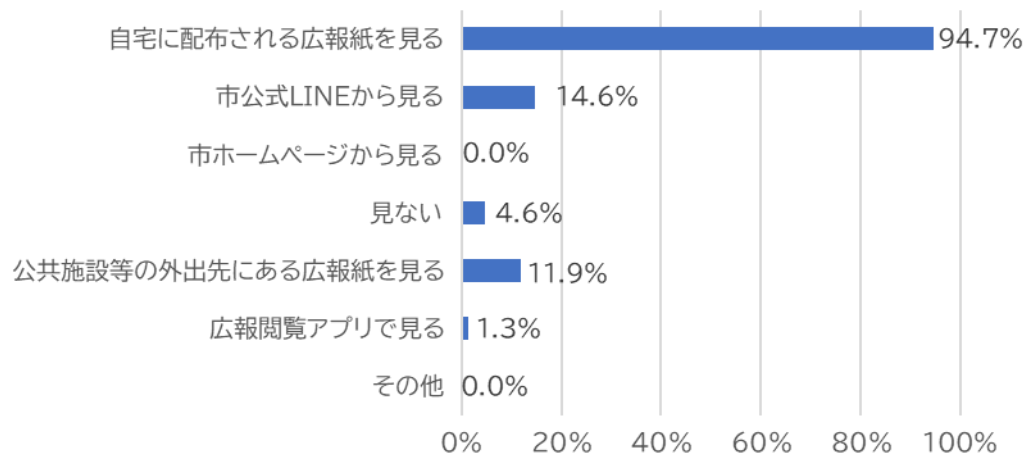


■ 年代別

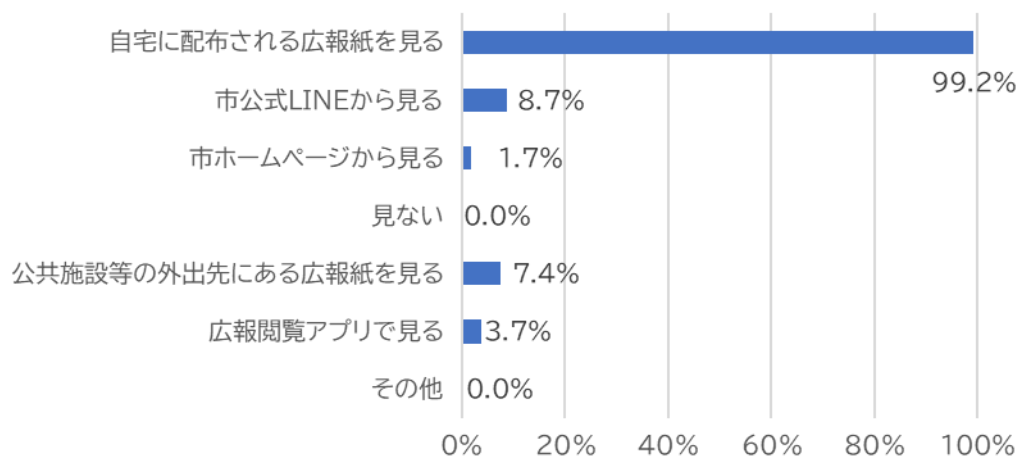
■16-39歳(N=128)



■40-59歳(N=151)



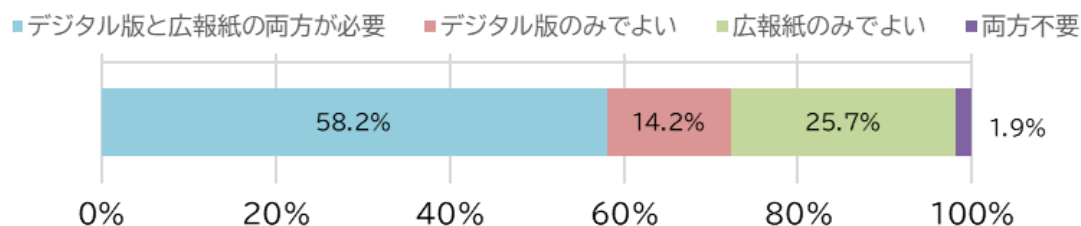
■60歳以上(N=242)



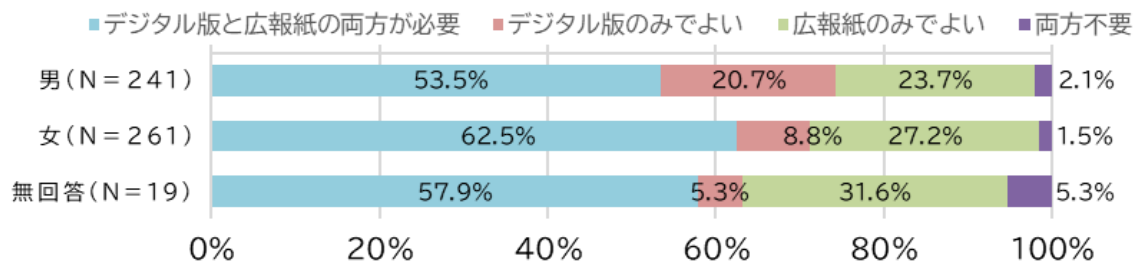
【問1-1】今後、更に人口減少が進み、個人の考え方が多様化する中、行政協力員の担い手不足も懸念されます。また、情報入手手段が多様化し、広報紙のあり方を見直しせざるを得ない状況になりつつあります。広報紙をデジタル版に切り替えることについてどう思いますか。

- 全体では、「デジタル版と広報紙の両方が必要」と回答した人が 58.2%と最も多く、次いで「広報紙のみでよい」が 25.7%となっている。
- 性別で見ると、「デジタル版と広報紙の両方が必要」と回答した割合は男性が 53.5%、女性が 62.5%となっている。また、「デジタル版のみでよい」と回答した割合は、男性が 20.7%で、女性の 8.8%より 11.9 ポイント高くなっている。
- 年代別で見ると、70 代以下では「デジタル版と広報紙の両方が必要」と回答した割合が最も高く、幅広い年代が、デジタルと紙媒体の併存を望んでいることがうかがえる。一方で、「広報紙のみでよい」と回答した割合は、年代が上がるにつれて上昇する傾向にあり、特に 80 代以上では 58.5%となっている。10 代・30 代・40 代は「デジタル版のみでよい」と回答した割合が他の年代に比べて高く、特に 10 代では 33.3%、30 代では 28.8%となっている。

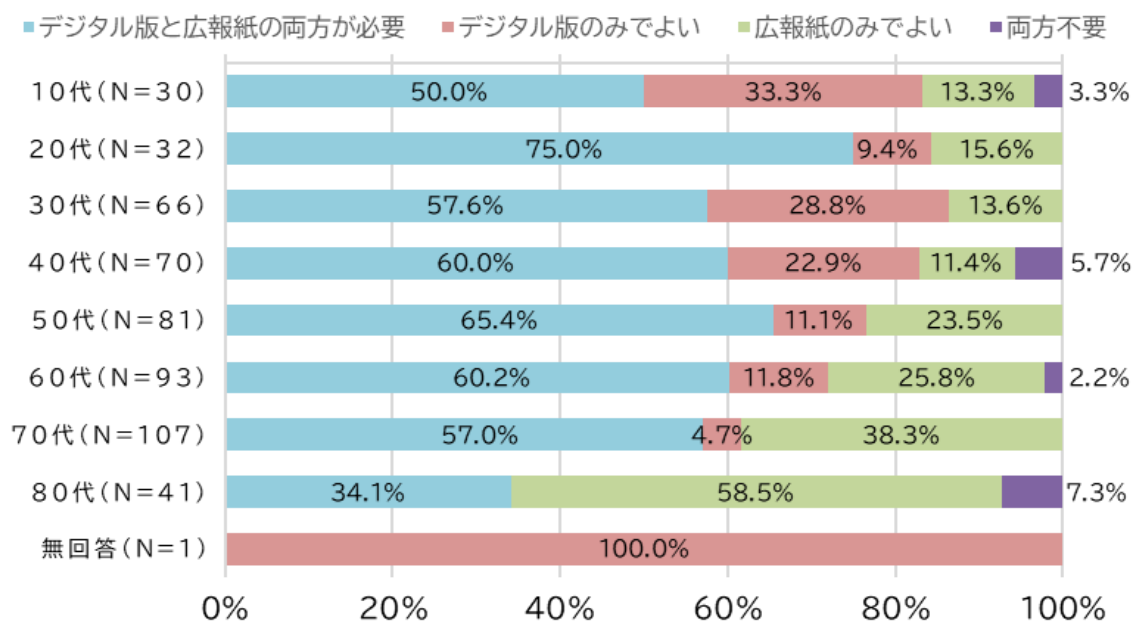
■ 全体(N=521)



■ 性別



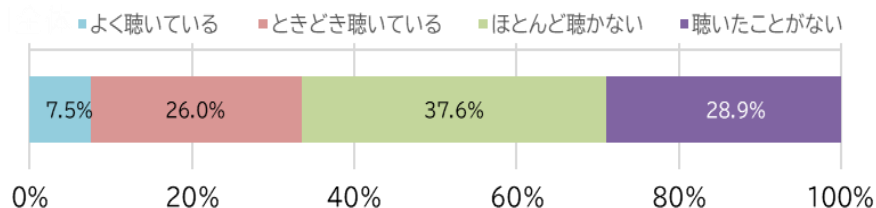
■ 年代別



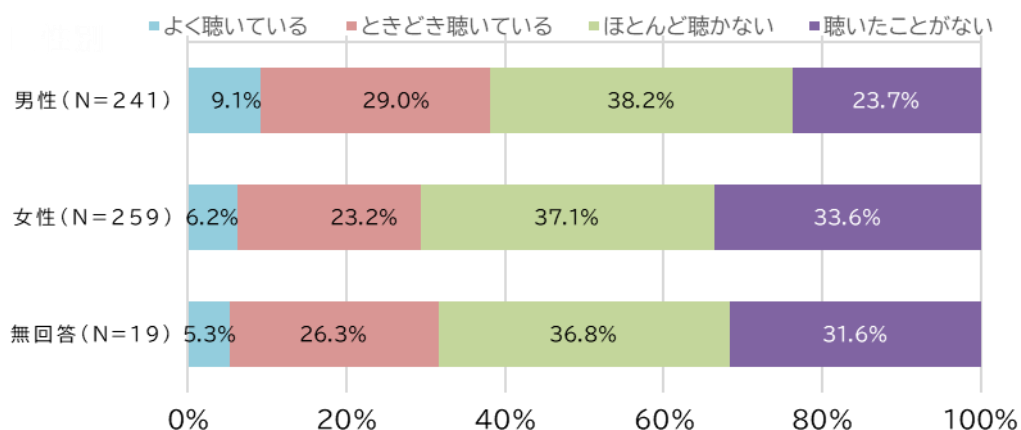
【問2】コミュニティ FM「FMはなび」を聞いたことがありますか。

- 全体では、「ほとんど聴かない」が37.6%と最も高く、「聴いたことがない」の28.9%とあわせて、66.5%となっている。
- 性別で見ると、「よく聴いている」と「ときどき聴いている」をあわせた回答割合は、男性が38.1%と、女性の29.4%を8.7ポイント上回っている。「聴いたことがない」と回答した割合は、男性が23.7%、女性が33.6%で回答者の3割前後を占めている。
- 年代別で見ると、「よく聴いている」と「ときどき聴いている」をあわせた回答割合は、年代が上がるにつれて上昇する傾向にあり、70代が最も高く、46.7%となっている。反対に、「ほとんど聴かない」と「聴いたことがない」をあわせた割合は、年代が下がるにつれて上昇する傾向にあり、20代が最も高くなっている。
- 地域別で見ると、仙北地域以外では「聴いたことがない」と「ほとんど聴かない」をあわせた回答割合は概ね6割を超えており、特に、協和地域では「聴いたことがない」が45.0%に達している。一方、「よく聴いている」と「ときどき聴いている」をあわせた回答割合は、仙北地域で52.4%、中仙地域で40.3%となっている。

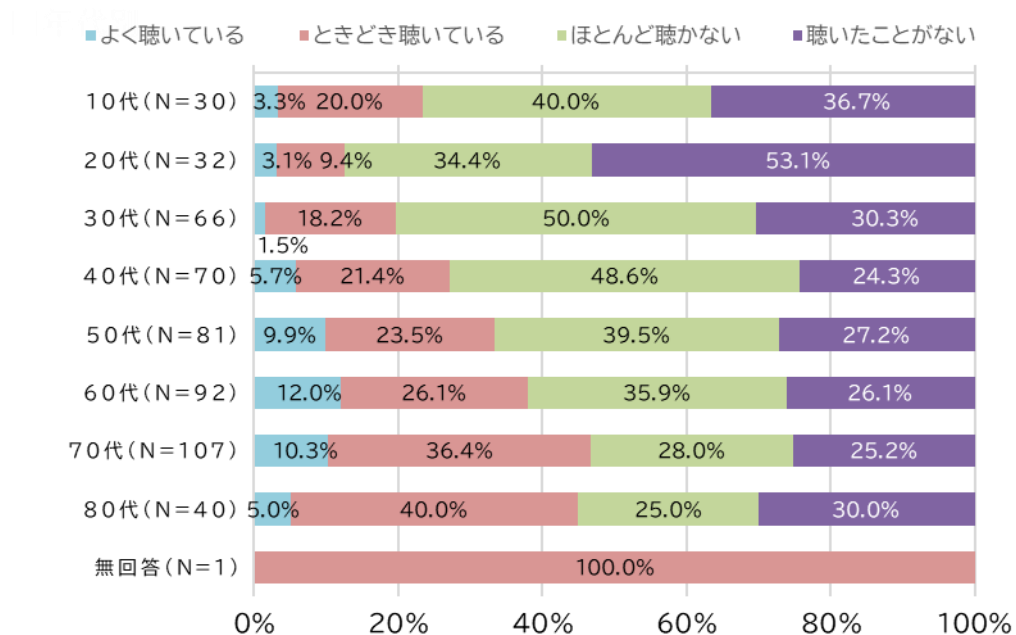
■ 全体(N=519)



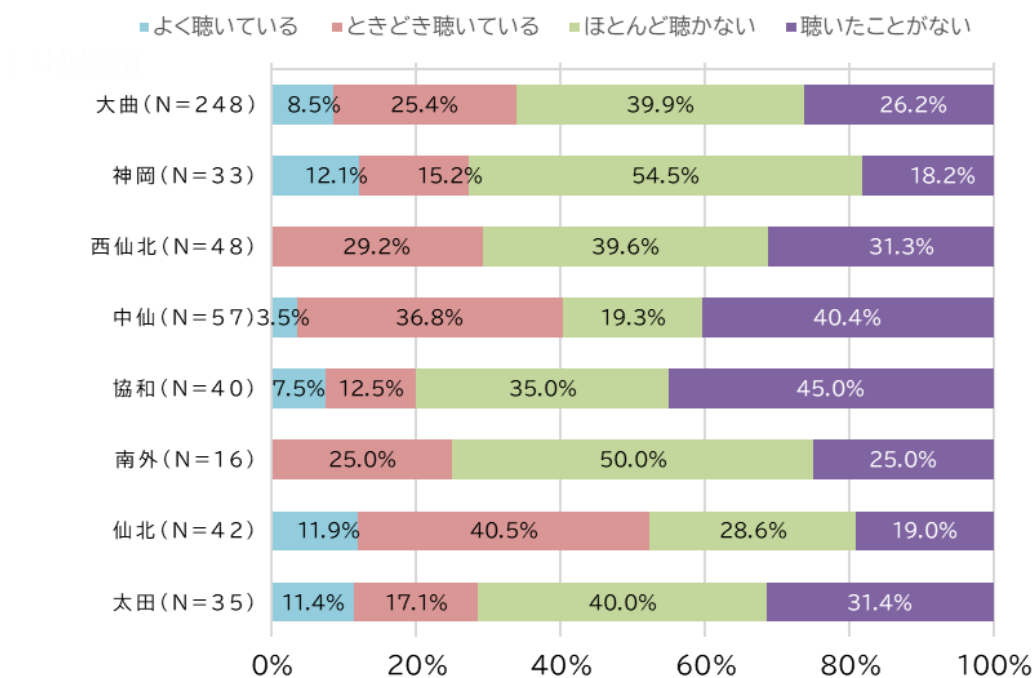
■ 性別



■ 年代別



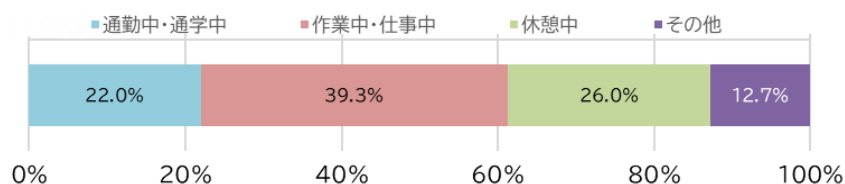
■ 地域別



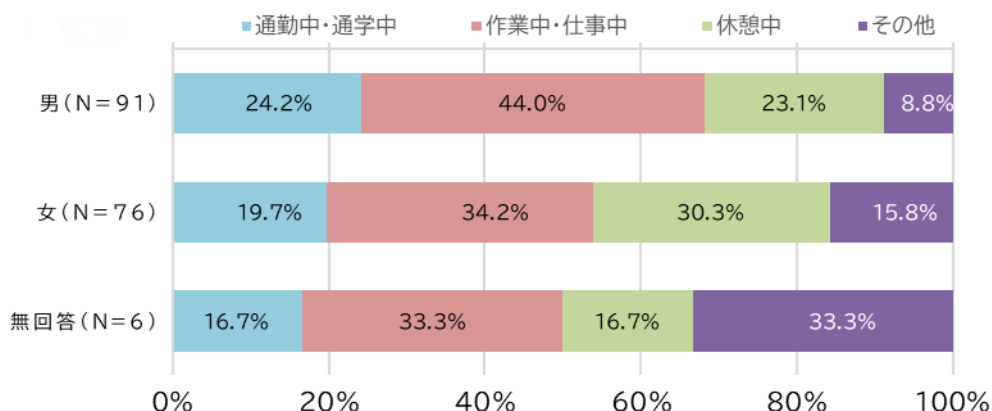
【問3】問2で「1.よく聴いている」、「2.ときどき聴いている」と回答された方にお聞きします。主にどのような場面で聴いていますか。

- 全体では、「作業中・工作中」と回答した割合が39.3%と最も高く、次いで「休憩中」が26.0%、「通勤中・通学中」が22.0%となっている。
- 性別で見ると、「作業中・工作中」と回答した割合は、男性が44.0%で女性の34.2%よりも9.8ポイント高く、一方で、女性は「休憩中」と回答した割合が30.3%と男性の23.1%よりも7.2ポイント高くなっている。
- 年代別で見ると、20代と40代の5割以上が「通勤中・通学中」と回答している。また、50代から70代では「作業中・工作中」と回答した割合が4割を超えている。

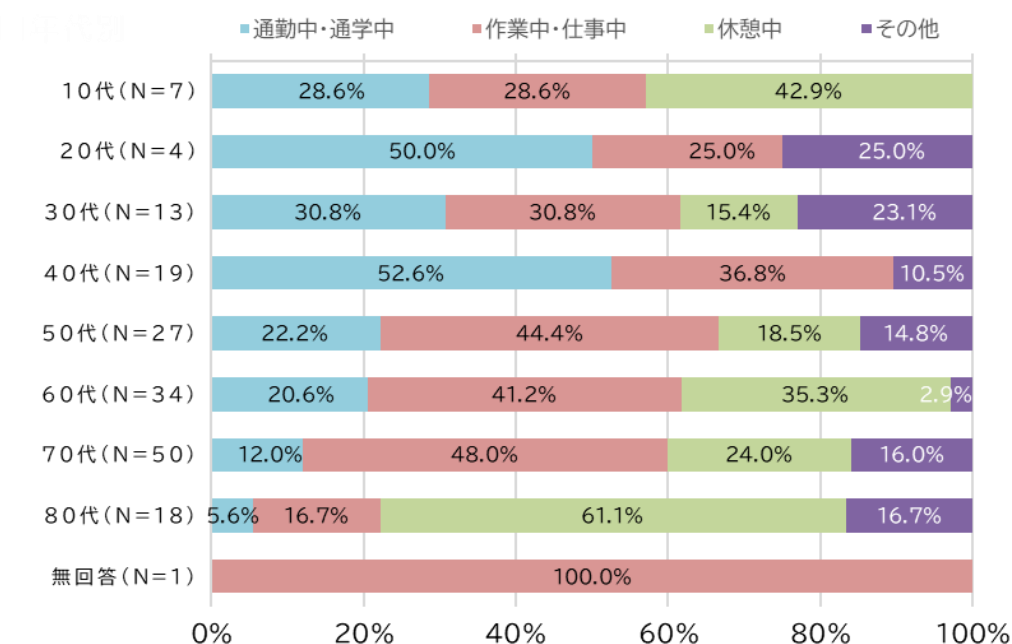
■ 全体(N=173)



■ 性別



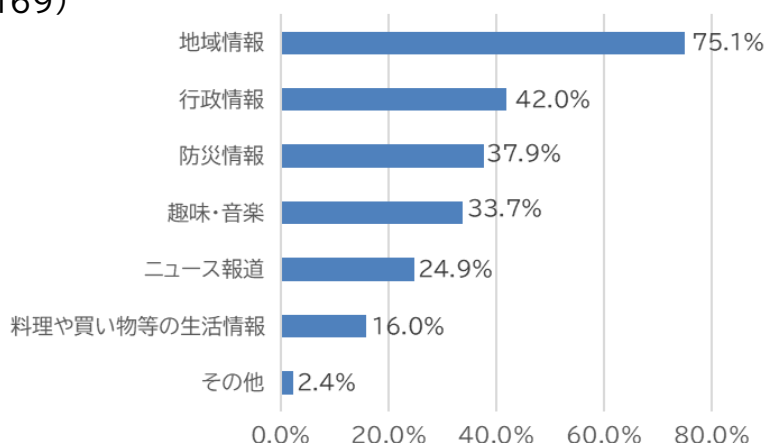
■ 年代別



【問4】問2で「1.よく聴いている」、「2.ときどき聴いている」と回答された方にお聞きします。コミュニティ FM「FMはなび」で、充実してほしい情報は何か。
(〇は3つまで)

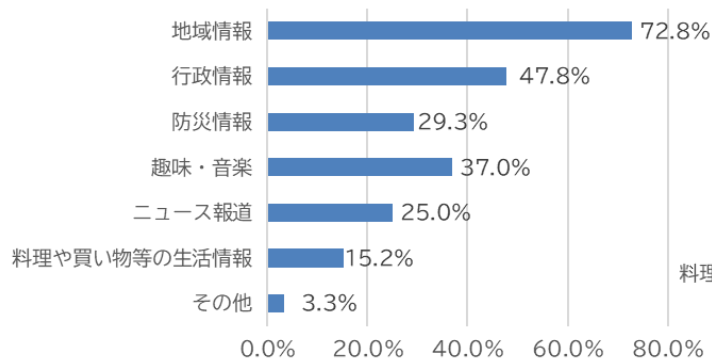
- 全体では、「地域情報」と回答した割合が75.1%と最も高く、次いで「行政情報」が42.0%、「防災情報」が37.9%、「趣味・音楽」が33.7%、「ニュース報道」が24.9%、「料理や買い物等の生活情報」が16.0%の順となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「地域情報」の割合が最も高く、女性の割合は78.9%で、男性の72.8%を6.1ポイント上回っている。次いで、男性では「行政情報」が47.8%となっており、「趣味・音楽」「防災」と続いている。一方、女性は「防災」が49.3%で、続いて「行政情報」「趣味・音楽」「ニュース報道」となっている。
- 年代別で見ると、全ての年代で「地域情報」の割合が最も高く、特に60歳以上では77.8%となっている。これに次いで、16歳から39歳では、「行政情報」「趣味・音楽」の割合が高く、続いて「ニュース報道」となっている。40歳から59歳、60歳以上では、「行政情報」「防災」の割合が高く、続いて「趣味・音楽」となっている。

■ 全体(N=169)

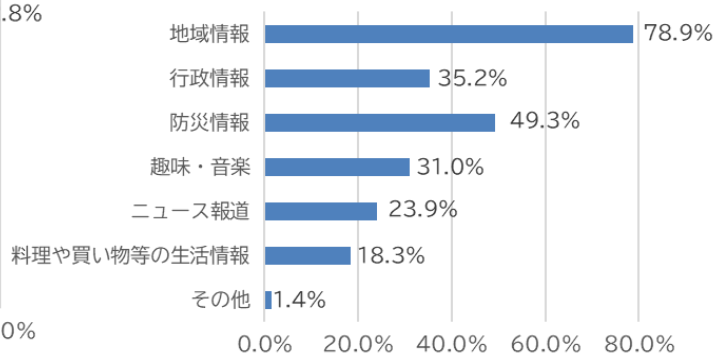


■ 性別

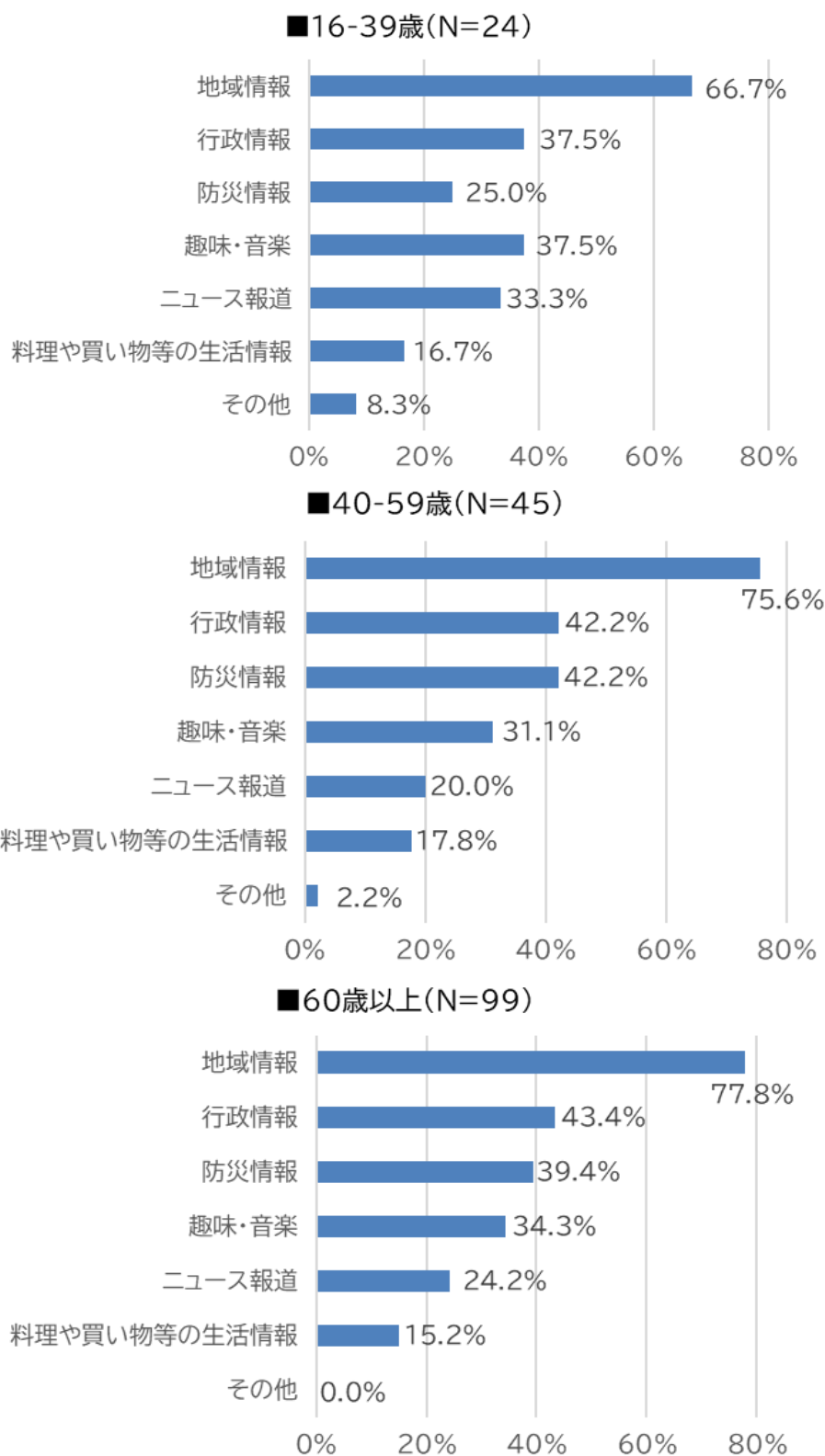
■ 男性(N=92)



■ 女性(N=71)



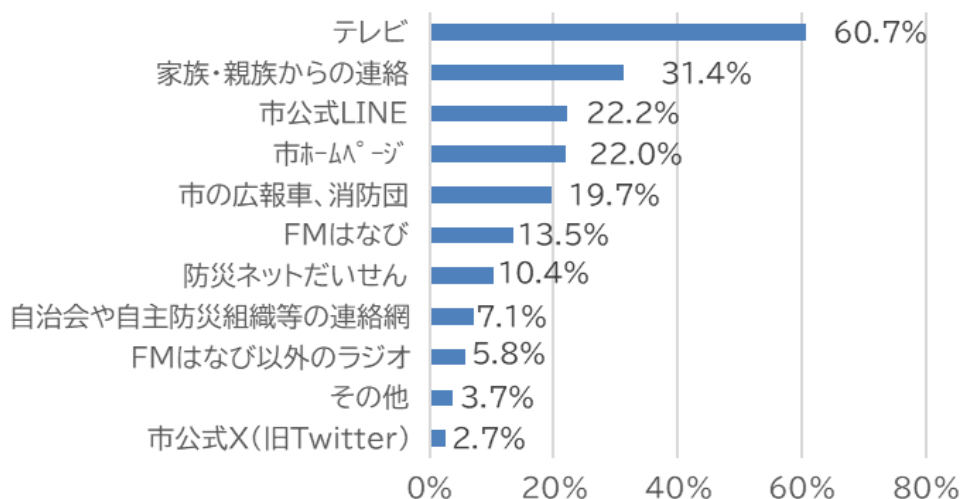
■ 年代別



【問5】緊急時の避難情報や災害情報をどのようにして入手していますか。（複数回答可）

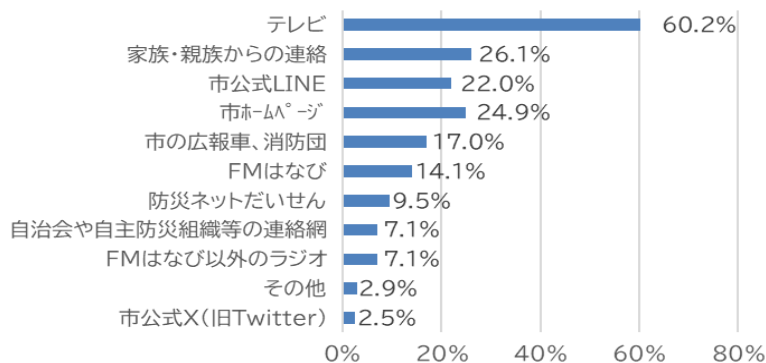
- 全体では、「テレビ」が60.7%と高い割合になっており、次いで「家族・親族からの連絡」が31.4%、「市公式LINE」が22.2%となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「テレビ」の割合が最も高く、女性の回答割合は62.3%で、男性の60.2%を2.1ポイント上回っている。次いで、女性は「家族・親族からの連絡」が35.8%となっており、「市の広報車・消防団」「市公式LINE」が続いている。一方、男性は「家族・親族からの連絡」が26.1%となっており、「市ホームページ」「市公式LINE」と続いている。
- 年代別で見ると、全ての年代で「テレビ」の割合が最も高く、特に60歳以上では、66.7%となっている。これに次いで、16歳から39歳では、「家族・親族からの連絡」「市公式LINE」の割合が高く、続いて「市ホームページ」となっている。40歳から59歳では、「市ホームページ」「市公式LINE」の割合が高く、続いて「家族・親族からの連絡」となっている。60歳以上では、「家族・親族からの連絡」が35.4%と高く、続いて「市の広報車・消防団」「FMはなび」となっている。

■ 全体(N=519)

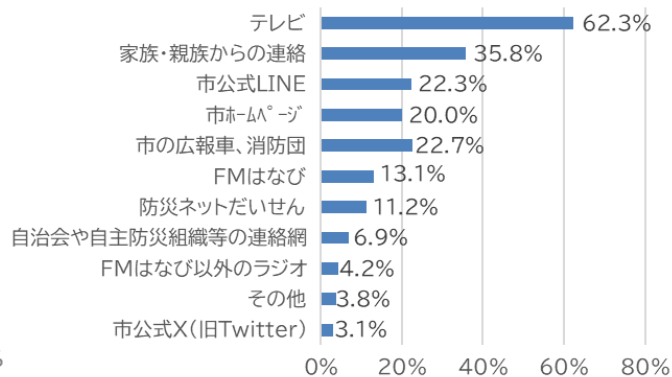


■ 性別

■ 男(N=241)

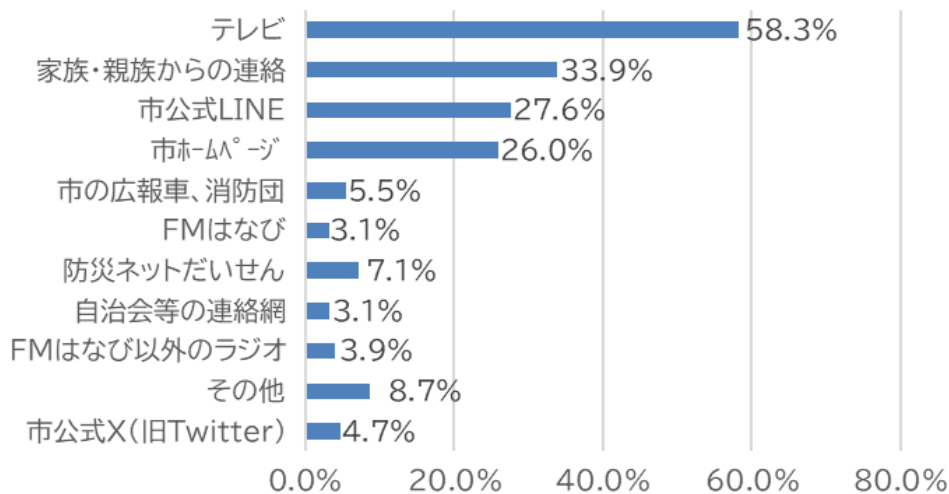


■ 女(N=260)

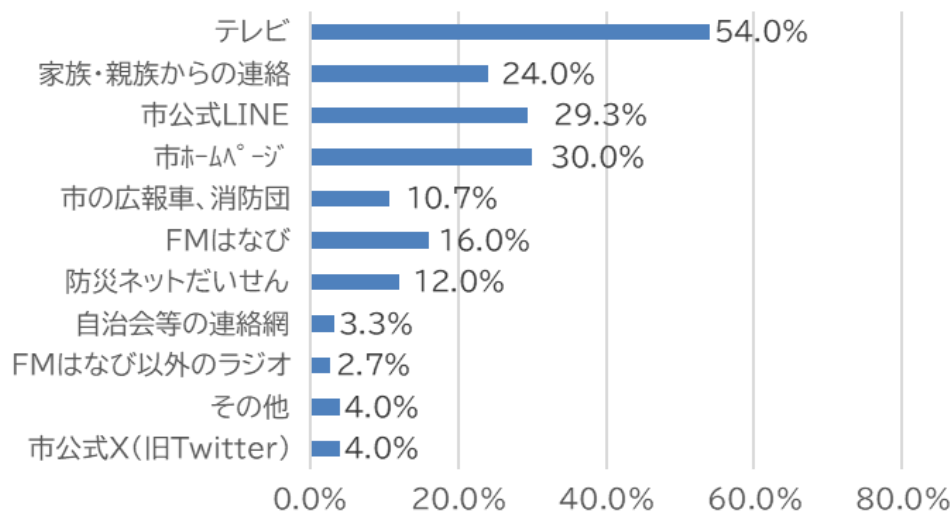


■ 年代別

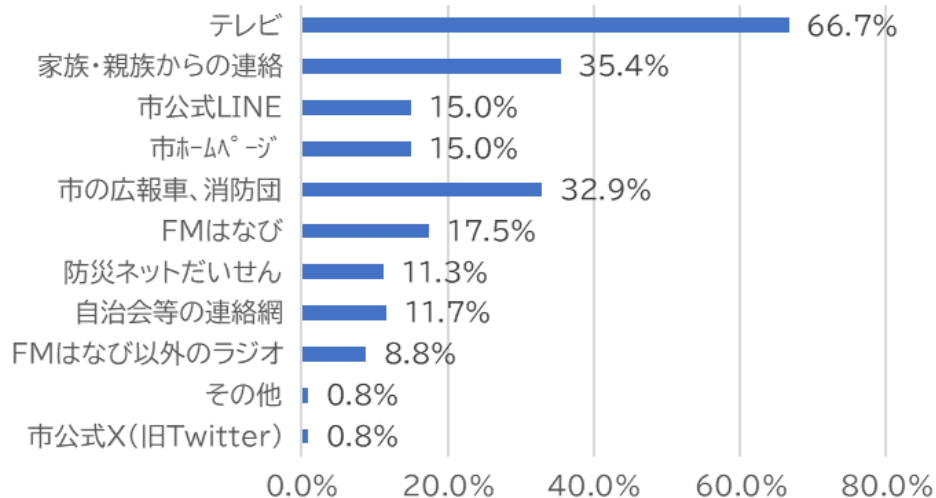
■16歳～39歳(N=128)



■40歳～59歳(N=150)



■60歳以上(N=240)



◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 問 1 の広報の閲覧方法については、全体の 9 割以上が「自宅に配布される広報紙を見る」と回答している。また、問 1-1 の調査結果を見ると、広報紙の今後のあり方については「デジタル版と広報紙の両方必要」「広報紙のみでよい」をあわせた割合が 8 割を超えており、デジタル化が進む中であっても、紙の広報紙を必要する方が大勢であることが分かった。一方で、広報を「見ない」と回答した方が一定数おり、特に 16 歳から 39 歳までは約 2 割に上っているほか、閲覧方法について「デジタル版のみでよい」と回答した割合が、他の年代に比べて高くなっている。

以上の結果から、今後も広報紙の全戸配布を継続し、紙媒体とデジタル媒体それぞれのメリットを生かして、全ての世代に情報を効果的かつ効率的に届ける広報活動に取り組みながら、中長期的にはデジタル版広報への移行も視野に、広報紙等の配布にご協力いただける行政協力員の充足状況や、多様化する情報入手手段の動向を注視していく。

また、「広報紙を見ない」と回答した方への確に情報を届けるために、広報紙の形態にとらわれず、市の公式 LINE や市ホームページなどのデジタル媒体を活用しながら、情報発信の強化に取り組んでいく。

- 問 2 の「FM はなび」の聴取頻度について、「よく聴いている」「ときどき聴いている」と回答した方の割合が 4 割近くに上っている。総務省の「ラジオ放送聴取等の実態に関する調査研究報告書」（令和 7 年 3 月）によると、月に 1 回以上ラジオを聴いている方は 35.6% となっており、概ね全国調査と同様の結果となっている。年代別で見ると、年代が上がるにつれて高くなっており、70 代では約 5 割に上っている一方で、全体の 6 割を超える方が「ほとんど聴かない」「聴いたことがない」と回答している。

- 問 3 では、問 2 で「FM はなび」を聴いていると回答した方に、どのような場面で聴いているか伺ったところ、全体では「作業中・工作中」が最も高い結果となった。年代別では、20 代から 40 代は「通勤中・通学中」、50 代から 70 代は「作業中・工作中」が最も多くなっており、何らかのついでに聴取している方が多いと分かった。また、問 4 の「FM はなび」で充実すべき情報については、全体では「地域情報」が最も高く、次いで「行政情報」となっている。

こうした結果を踏まえ、災害などの緊急時に有効な情報ツールであることを改めて PRしながら認知度の向上を図っていくとともに、「FM はなび」が身近な地域密着型メディアとして定着するよう、地域の出来事やイベントなどの地元に関連した話題や、聴取シーンを意識した情報の発信など、放送局と連携しながら、リスナーの満足度向上につながる番組づくりに努めていく。

- 問 5 の避難情報や災害情報の入手については、「テレビ」と回答した方が最も高くなっている。年代別では、16 歳から 59 歳までの年代で「公式 LINE」と「市ホームページ」の割合が高くなっている一方で、60 歳以上では「家族・親族からの連絡」「市の広報車、消防団」の割合が高くなっており、市民一人ひとりが信頼でき、利用しやすい方法で緊急情報を確実に入手できるよう、関係する部署や機関、団体と連携しながら、多様なツールでの情報発信を強化していく。

3.1.2 地域公共交通対策事業

(企画部 地域活動応援課)

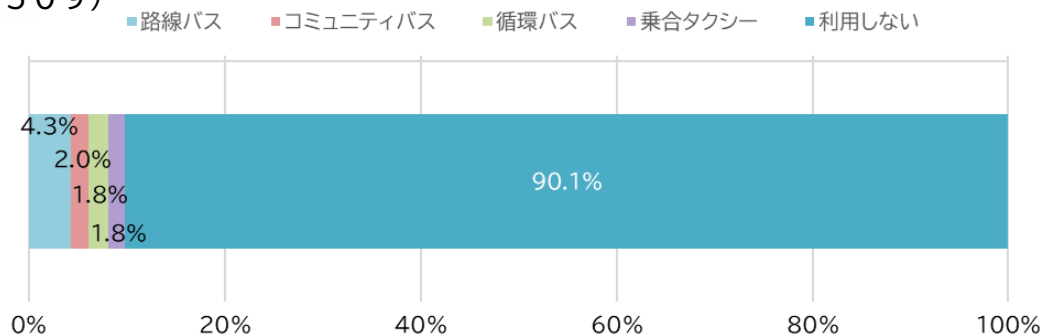
- ◆ 調査目的： 市では、地域間を結ぶ基幹路線として路線バスを維持するとともに、地域の実情にあわせて循環バスや市民バス、コミュニティバス、乗合タクシーを運行することで公共交通の維持確保に努めている。

本調査では、市民の皆さまの公共交通に対するご意見を伺い、今後の取組の参考とする。

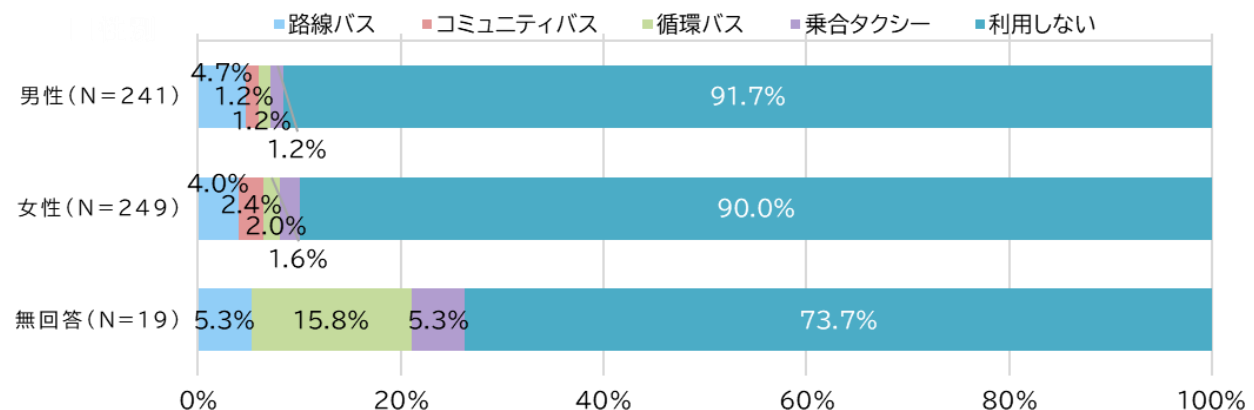
【問1】 普段、主にどの公共交通を利用していますか。

- 全体では「路線バス」「コミュニティバス」「循環バス」「乗合タクシー」を合わせた割合は9.9%にとどまっており、回答者の約9割が「利用しない」と回答している。
- 性別で見ると、公共交通を利用している割合は女性が10.0%で、男性の8.3%を1.7ポイント上回っている。
- 年代別で見ると、公共交通を利用していると回答した割合は、80代が34.3%と最も高く、次いで10代が20.0%、70代が12.5%と続いている。一方で、50代が1.2%と最も低く、次いで40代が4.3%となっている。
- 地域別で見ると、公共交通を利用していると回答した割合は、南外地域が17.7%と最も高く、次いで大曲地域が14.6%となっている。一方、太田地域は利用者がなく、仙北地域も2.4%と低い水準にある。

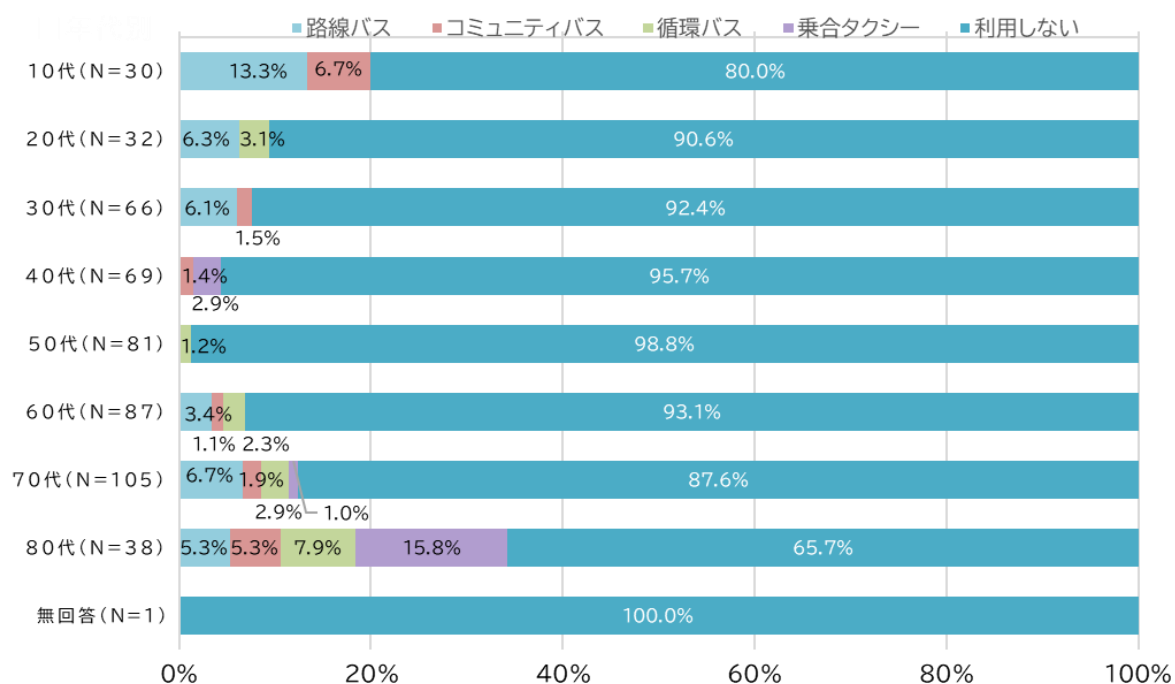
■全体 (N=509)



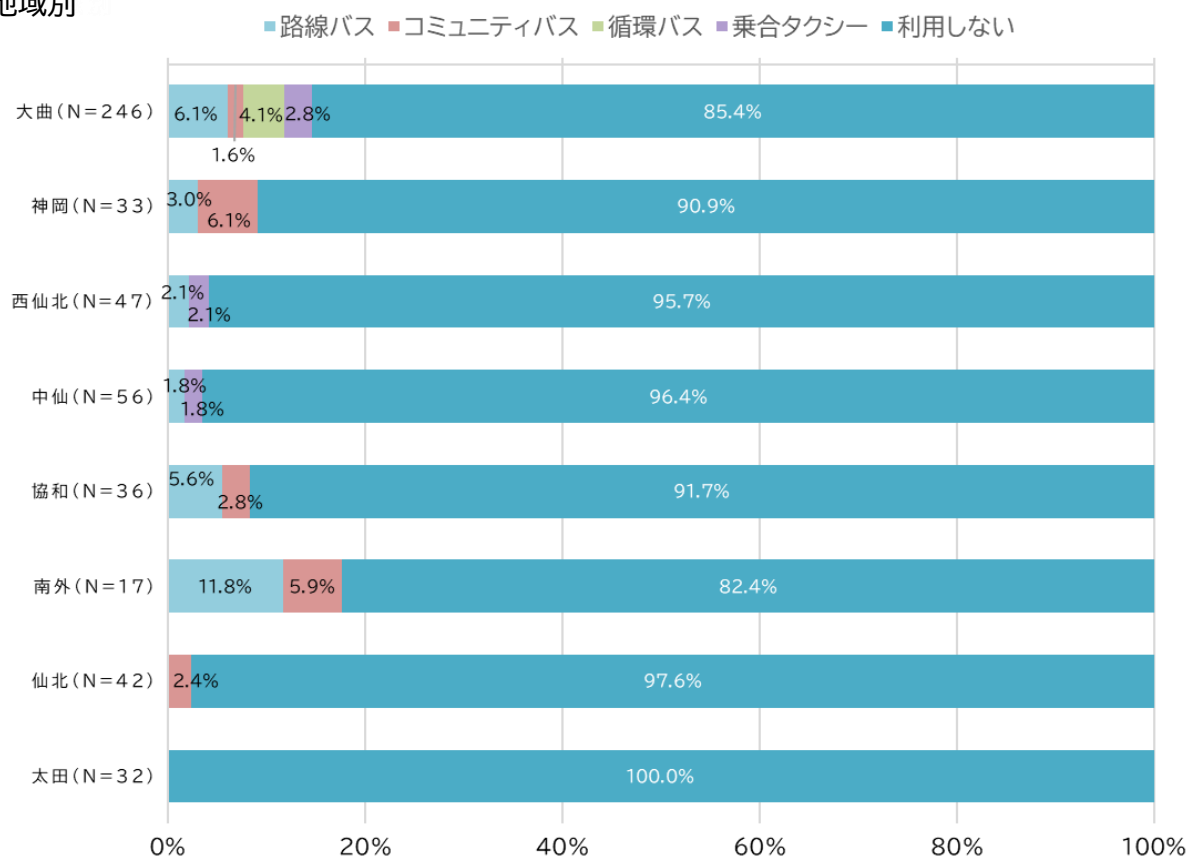
■性別



年代別



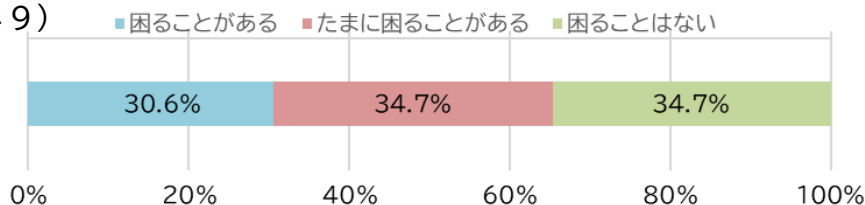
地域別



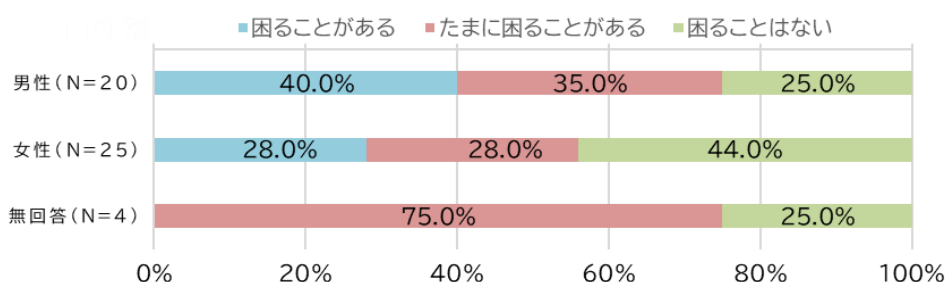
【問2】問1で「公共交通を利用している」と回答した方にお聞きします。公共交通を利用する際、困ることはありますか。

- 全体では「困ることがある」の30.6%と「たまに困ることがある」の34.7%をあわせて、何らかの不便を感じている利用者の割合が65.3%となっている。
- 性別で見ると、「困ることがある」と「たまに困ることがある」をあわせた割合は、男性が75.0%、女性が56.0%となっており、男性が19.0ポイント上回っている。
- 年代別で見ると、「困ることがある」と「たまに困ることがある」と回答した方は、70代が8人、80代が6人となっており、年代が上がるにつれて多くなる傾向にある。
- 地域別で見ると、「困ることがある」と「たまに困ることがある」と回答した方は、大曲地域が24人と最も多くなっている。神岡・西仙北・仙北地域では利用している方全員が困っていると回答している一方で、中仙地域では全員が「困ることがない」と回答しており、協和・南外地域でも「困っていることはない」との回答が多い結果となった。

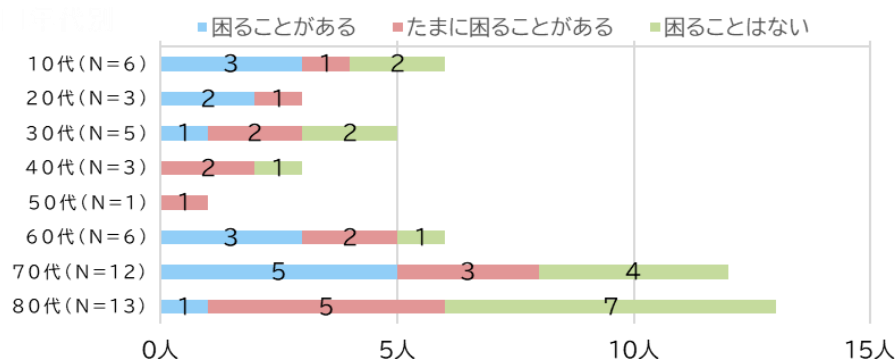
■全体（N=49）



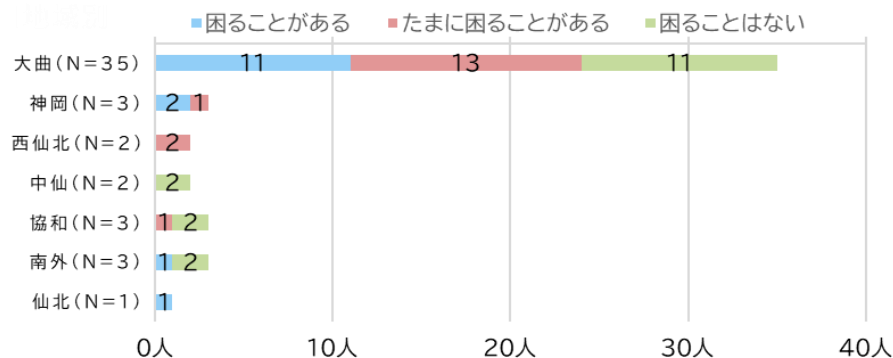
■性別



■年代別



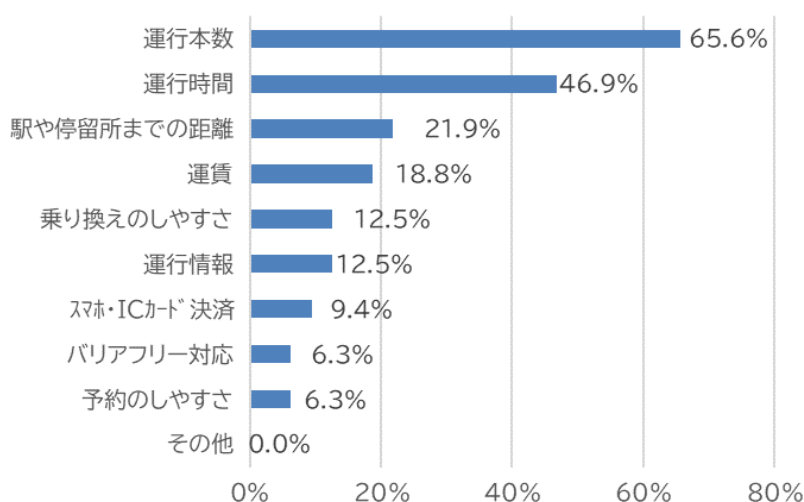
■地域別



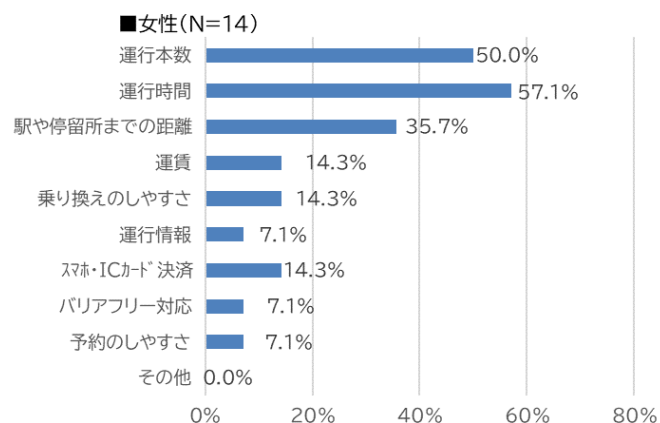
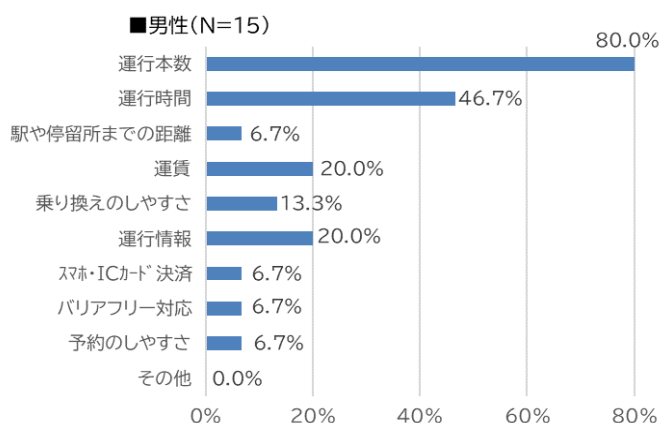
【問3】問2で「1.困ることがある」「2.たまに困ることがある」と回答された方にお聞きします。どのような点を改善や充実すると利用しやすくなると思いますか。
(〇は3つまで)

- 全体では「運行本数」が65.6%と最も高く、続いて「運行時間」が46.9%、「駅や停留所までの距離」が21.9%となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「運行本数」「運行時間」と回答した割合が高くなっている。また、「駅や停留所までの距離」と回答した割合は女性が35.7%と、男性の6.7%より29.0ポイント高くなっているほか、「運行情報」と回答した割合は男性が20.0%と、女性の7.1%より12.9ポイント高くなっている。それ以外の項目については、大きな差は見られなかった。
- 年代別では、全ての年代で「運行本数」と回答した割合が最も高くなっている。また、40歳から59歳では、「駅や停留所までの距離」も66.7%と最も高い回答割合になっている。

■全体 (N=32)

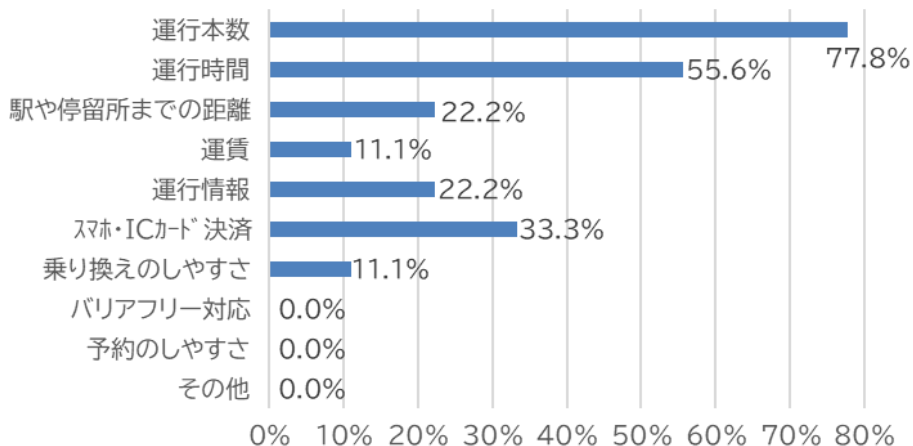


■性別

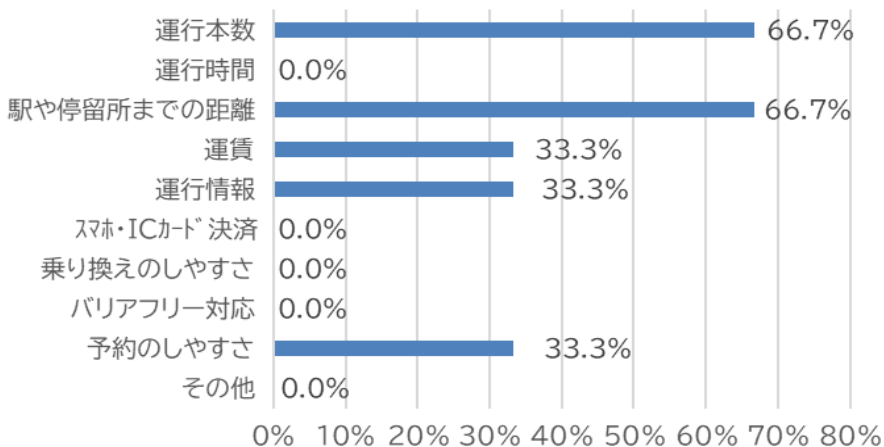


■年代別

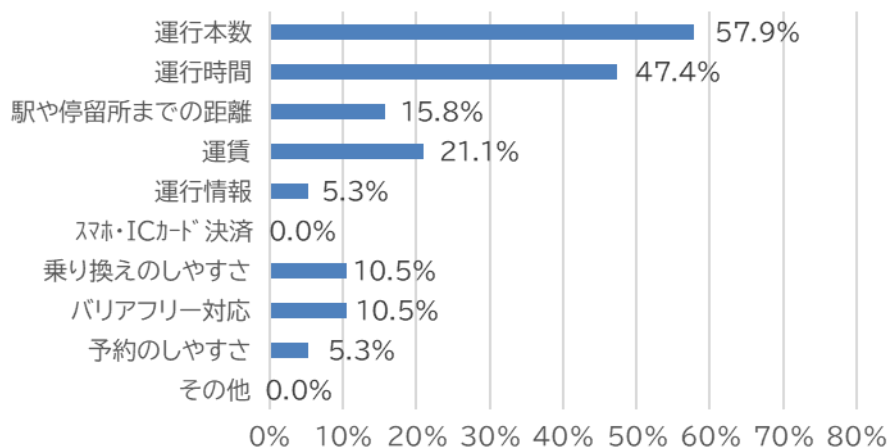
■16歳～39歳(N=9)



■40歳～59歳(N=3)



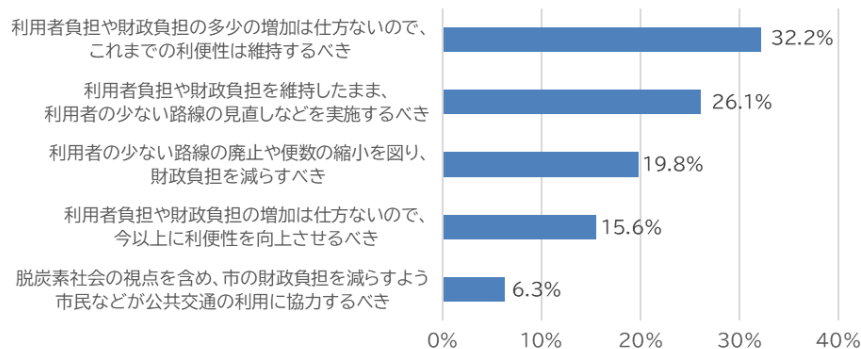
■60歳以上(N=19)



【問4】市では、公共交通における利用者の減少や運行経費の増加により、利用者負担（運賃収入）だけでは路線の維持が難しいため、毎年多くの税金を投入しています。
こうした状況を踏まえて、今後の公共交通のあり方について、あなたの考えをお聞かせください。

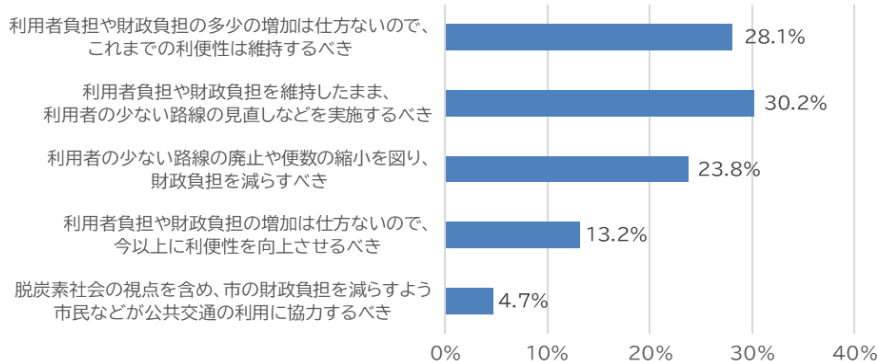
- 全体では「利用者負担や財政負担の多少の増加は仕方ないので、これまでの利便性は維持すべき（以下「負担増・利便性維持」）」と回答した割合が32.2%と最も高くなった。次いで、「利用者負担や財政負担を維持したまま、利用者の少ない路線の見直しなどを実施すべき（以下「負担維持・路線見直し」）」が26.1%と続いている。
- 性別では、「負担増・利便性維持」と回答した割合は女性が36.9%と、男性の28.1%より8.8ポイント高くなっている。
- 年代別では、「負担増・利便性維持」と回答した割合が40歳から59歳までと60歳以上で最も高く、それぞれ35.8%、34.1%となっている。16歳から39歳までは、「利用者負担や財政負担を維持したまま、利用者の少ない路線の見直しなどを実施すべき」と「利用者の少ない路線の廃止や便数の縮小を図り、財政負担を減らすべき」が27.6%と最も高くなっている。

■全体（N=494）

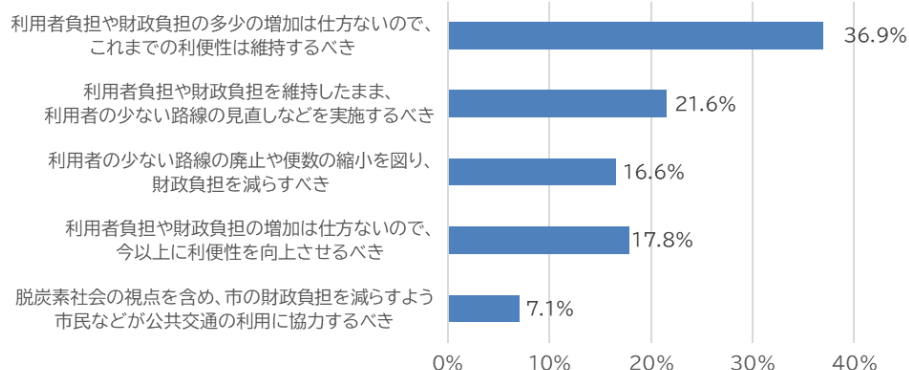


■性別

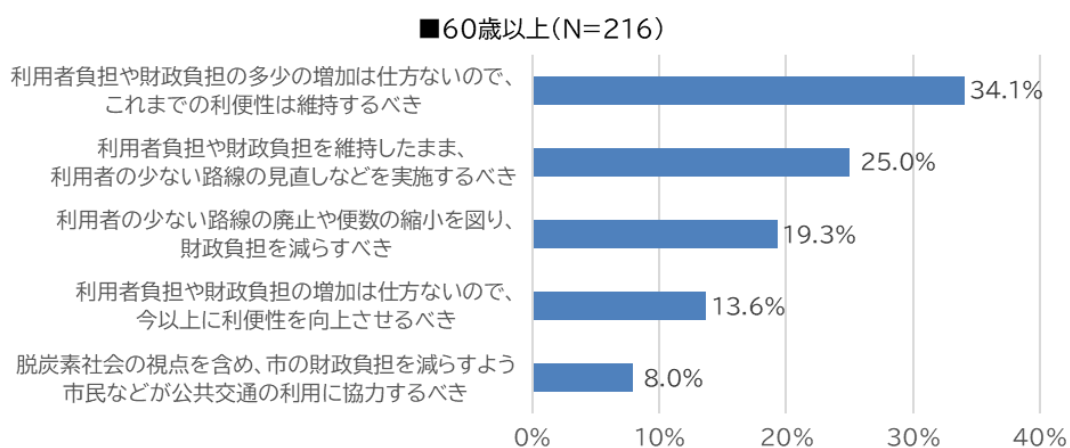
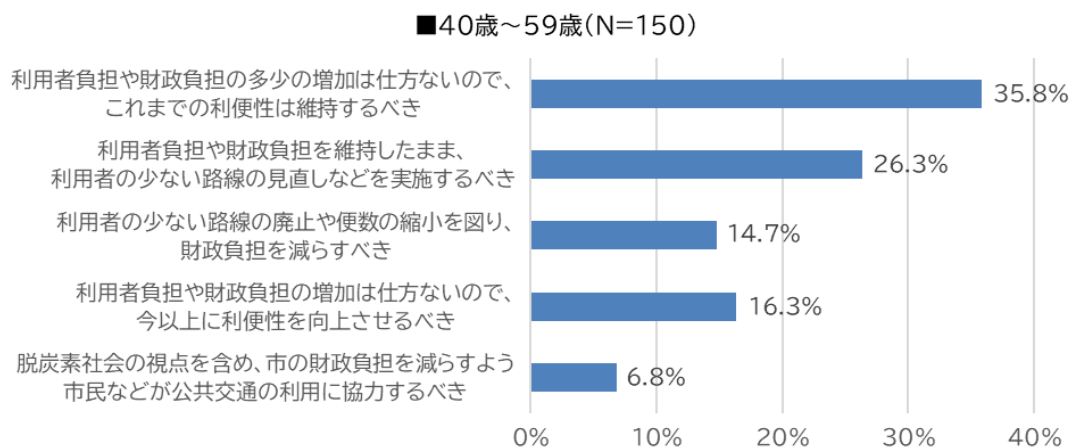
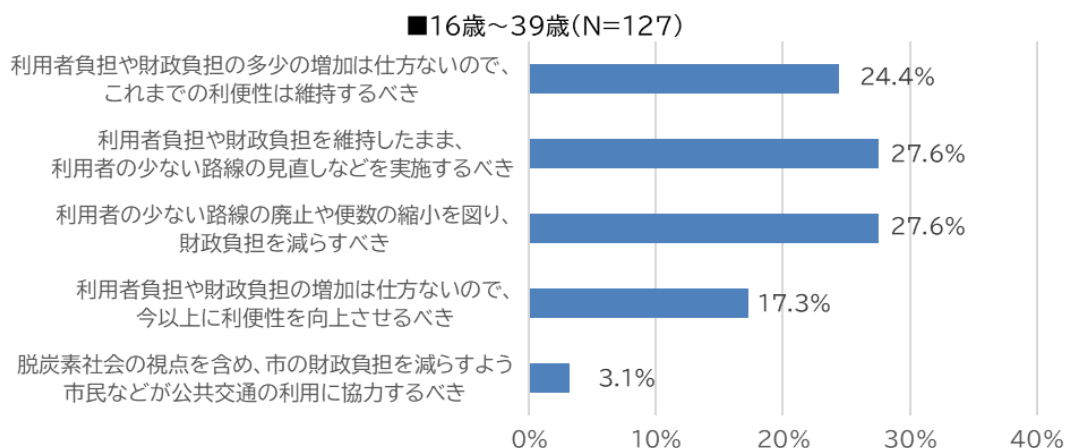
■男性(N=235)



■女性(N=241)



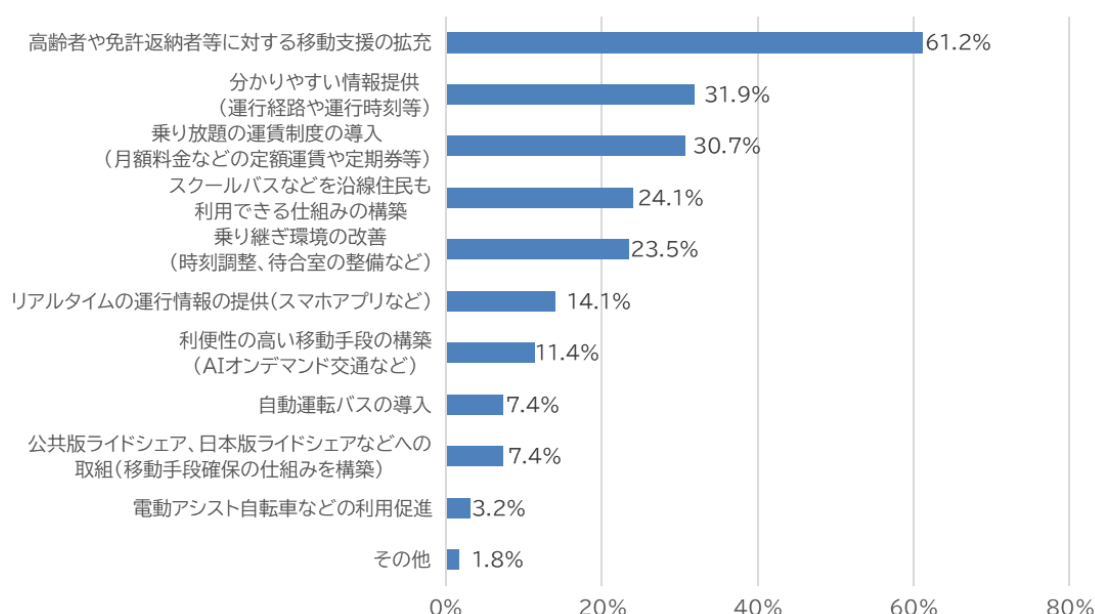
■年代別



【問5】今後、公共交通が利用しやすくなる、あるいは暮らしに必要な移動手段を確保していくためには、どのような取組が効果的だと思いますか。（〇は3つまで）

- 全体では「高齢者や免許返納者等に対する移動支援の拡充」と回答した割合が61.2%と最も高く、次いで「分かりやすい情報提供（運行経路や運行時刻等）」が31.9%、「乗り放題の運賃制度の導入（月額料金などの定額運賃や定期券等）」が30.7%と続いている。一方、「電動アシスト自転車などの利用促進」と回答した割合が3.2%と最も低く、次いで「自動運転バスの導入」と「公共版ライドシェア、日本版ライドシェアなどへの取組（移動手段確保の仕組みを構築）」が7.4%と続いている。
- 性別で見ると、男女ともに「高齢者や免許返納者等に対する移動支援の拡充」の割合が最も高く、女性の66.5%は男性の55.7%を10.8ポイント上回っている。
- 年代別では、全ての年代で「高齢者や免許返納者等に対する移動支援の拡充」と回答した割合が最も多く、年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。

■全体（N＝498）

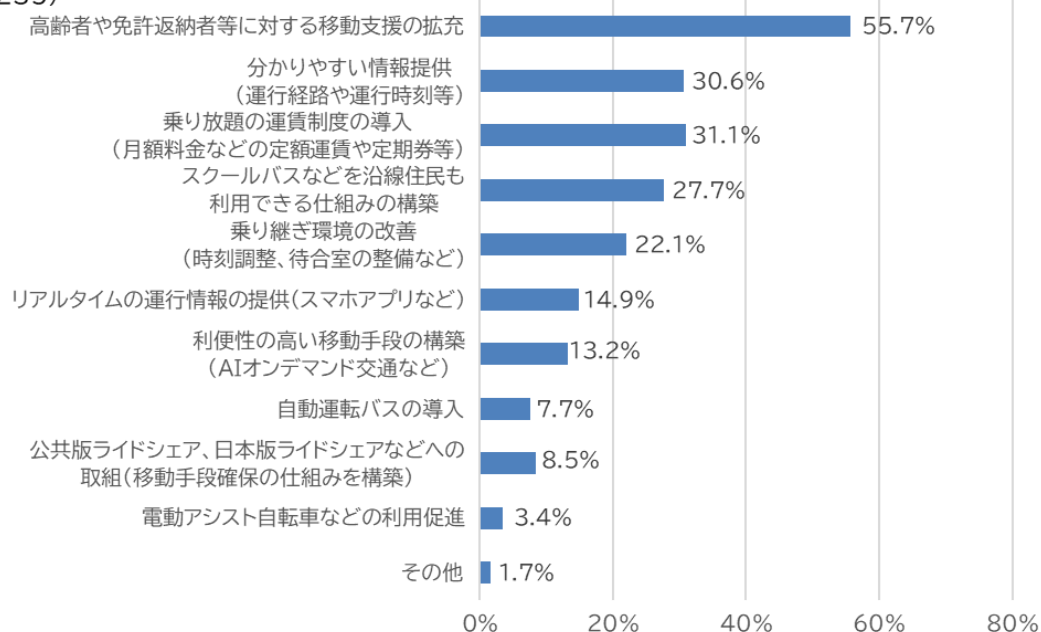


■その他

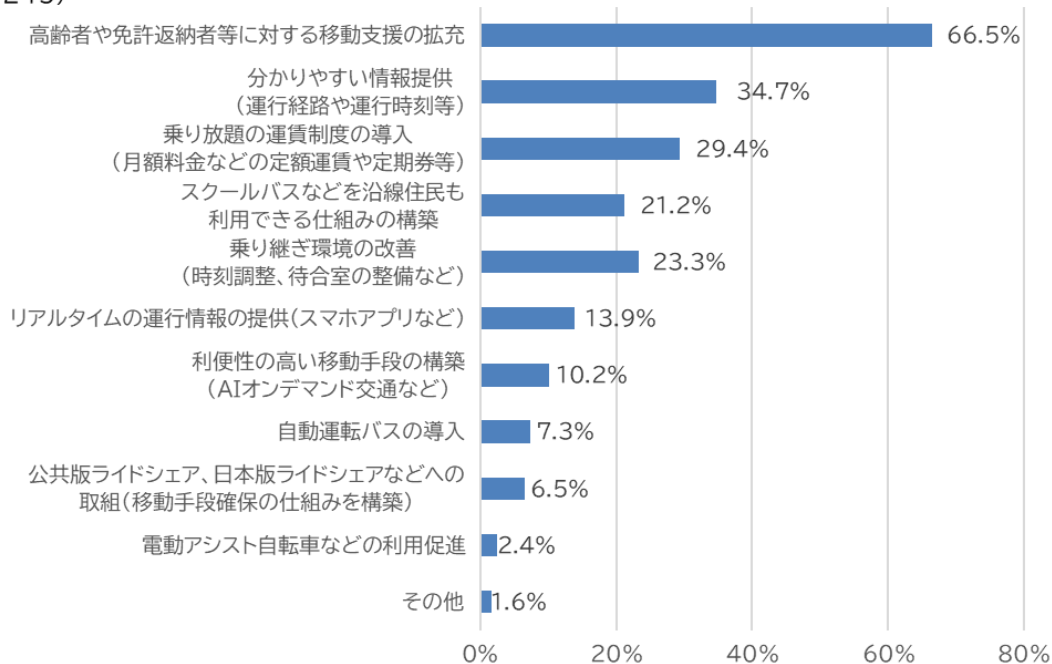
- コミュニティバスがないため 路線を増やして欲しい。
- 免許返納して、足が無いのにタクシー券の手続きを役所に行かなければならない。本末転倒ではないか。
- 公用車を使用したライドシェア。
- 同地域からのバスやタクシーの乗合い 通院など一般の方との乗合い導入。
- 自分の住んでいるところに路線バスがない。
- 自動運転化やコンパクトシティなどを早期に検討し、20年後、30年後には実現できるように整備が必要と考える。

■性別

■男性(N=235)

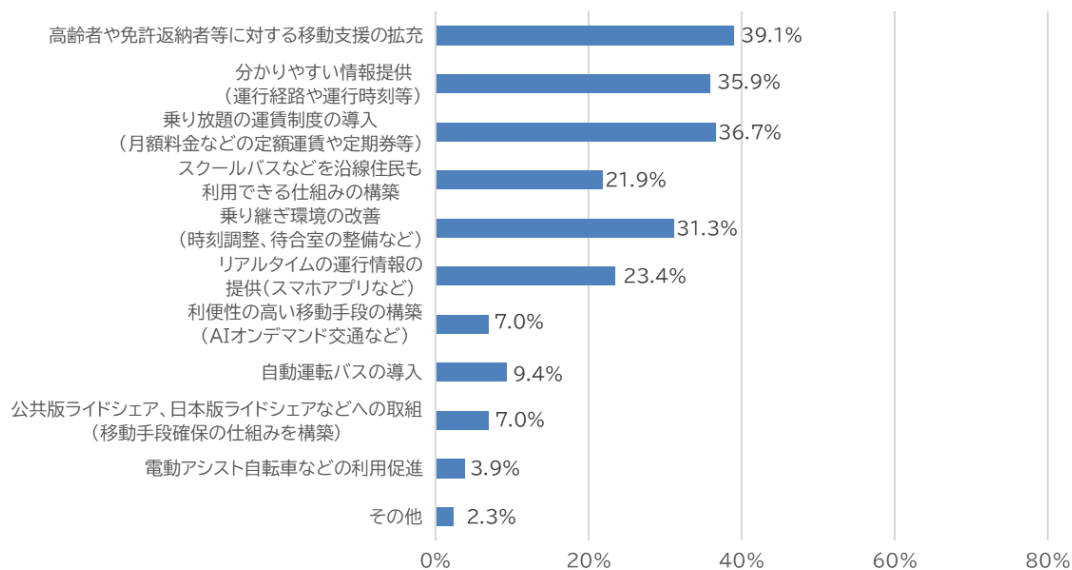


■女性(N=245)

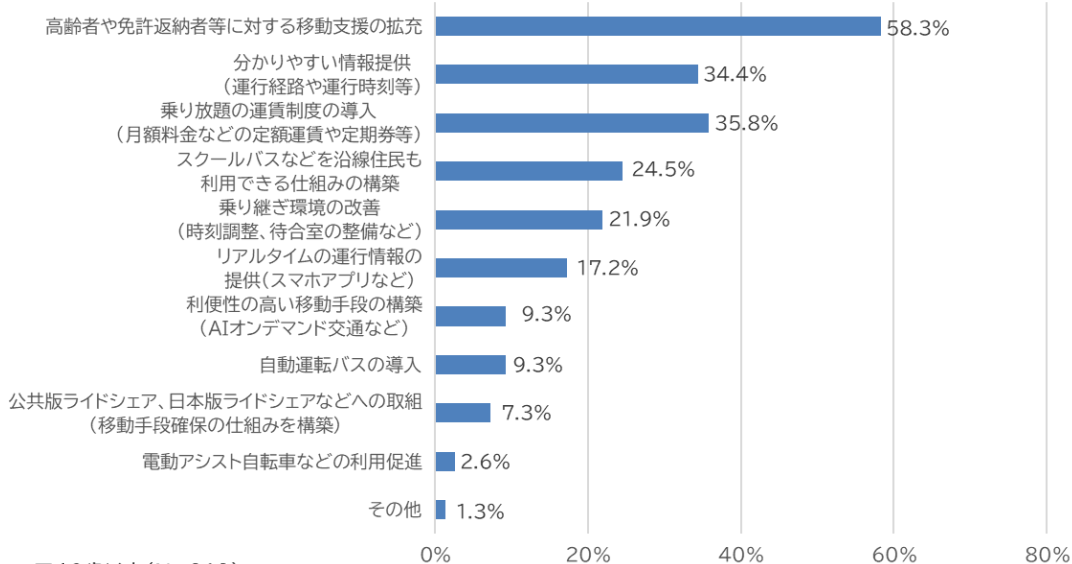


■年代別

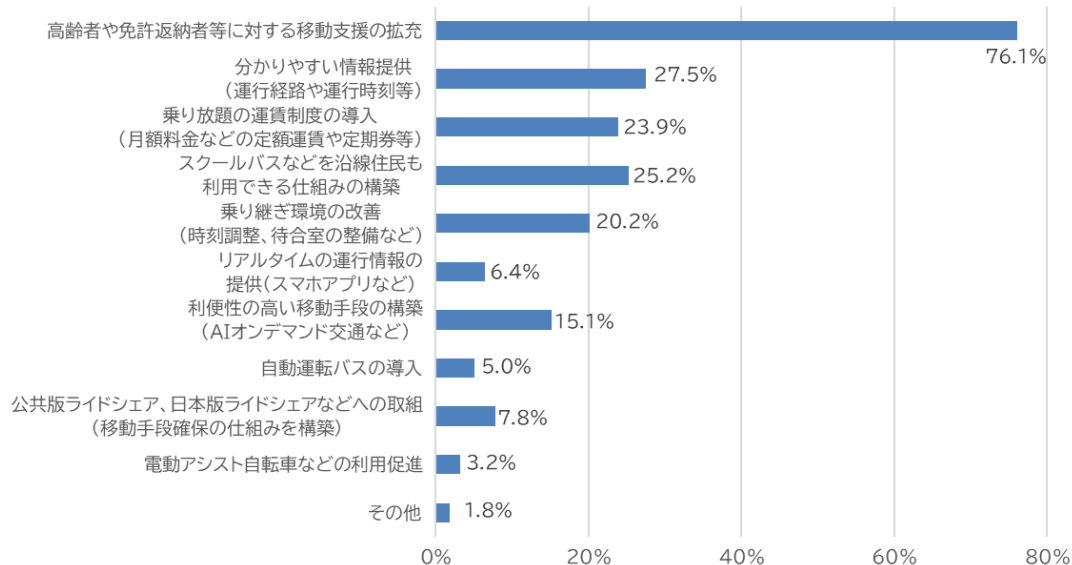
■16歳～39歳(N=128)



■40歳～59歳(N=151)



■60歳以上(N=218)



◆調査結果まとめ及び今後の方針

- 問1の公共交通の利用については、全体の約9割が「利用しない」と回答しており、特に50代では98.8%と最も高い結果となった。一方で、50代を境に年代が上がる、あるいは下がるにつれて利用している方の割合は増加し、80代が約4割と最も高く、10代が2割と続いており、若年層や高齢者層を中心に、自家用車の利用が難しい方にとっては、公共交通が生活を支える重要な基盤となっている。公共交通は、現在利用していない方であっても、いずれは必要となる可能性があり、こうした意味でセーフティネットの性格をもつ基礎的で重要なインフラであることから、周知・PRに努めながら、市全体の関心を喚起するとともに利用者の掘り起こしや利用の拡大を図っていく。
- 問2の公共交通を利用する際、困ることがあるかについては、「困ることがある」と「たまに困ることがある」をあわせた回答が6割を超える結果となっており、年代や地域別で差異があることが分かった。
- 問3の改善や充実すべき点については、「運行本数」「運行時間」「駅や停留所までの距離」の順で、回答した割合が高い結果となった。年代別では、全ての年代で「運行本数」と回答した割合が最も高く、40歳から59歳までは「駅や停留所までの距離」も同率の結果となった。次点となる項目については、16歳から39歳までが「運行時間」、40歳から59歳までが「運賃」「運行時間」「予約のしやすさ」、60歳以上が「運行時間」となっており、6割を超える方が利用に際して、何らかの困りごとを抱えている状況であり、求める改善方策は年代や地域によって異なることから、さらに深掘しながら、丁寧に対応していく。
- 問4の今後の公共交通のあり方については、利用者の少ない路線の見直しや便数の縮小を必要とする「利用者負担や財政負担を維持したまま、利用者の少ない路線の見直しなどを実施すべき」と「利用者の少ない路線の廃止や便数の縮小を図り、財政負担を減らすべき」をあわせた割合が45.9%となっている。一方、利便性の維持・向上を必要とする回答は「利用者負担や財政負担の増加は仕方ないので、今以上に利便性を向上させるべき」と「利用者負担や財政負担の多少の増加は仕方ないので、これまでの利便性は維持すべき」であり、これらはあわせて47.8%となっている。

利用者負担や財政負担が増加しても利便性を維持・向上させるべきと回答した割合と、利用者負担や財政負担の維持あるいは減少させたうえで路線の見直し等をするべきと回答した割合が拮抗しており、受益の程度に応じて応分の負担を求める応益負担の原則や利用者ニーズ、乗車率、運転手の充足状況に加え、国や県の支援、市の財政状況等を総合的に勘案しながら、全市的な議論として、利便性が高く、持続可能な公共交通サービスのあり方を検討していく。

- 問5の今後、必要となる公共交通の取組については、「高齢者や免許返納者等に対する移動支援の拡充」と回答した割合が最も高くなっており、「分かりやすい情報提供（運行経路や運行時刻等）」や「乗り放題の運賃制度の導入（月額料金などの定額運賃や定期券等）」が続いている。一方で、「自動運転バスの導入」「公共版ライドシェア、日本版ライドシェアなどへの取組（移動手段確保の仕組みを構築）」といった新しいサービスへの関心は低い傾向にあるが、公共交通の利便性と持続可能性を高めるためには、デジタル技術の活用や多様な主体の参画、分野の異なる輸送資源のシェアリングなど、これまでとは異なる視点が必要不可欠である。

こうしたことを踏まえ、運転免許返納者の増加による将来的な需要の増加を見据え、運転免許返納前の段階から公共交通の定義や意義、市の交通体系や利用方法などを幅広く周知・PRするとともに、移動支援や利用環境の充実、デジタル技術の活用や地域の共助による移動支援体制の構築を促進するほか、AI や自動運転など最新のデジタル技術の導入、目的に応じて個別に運行している様々な移動サービスと連携した混乗、公共版・日本版ライドシェアの活用も視野に、利用者の理解を得ながら、検討を進めていく。

3.1.3 地球温暖化対策事業

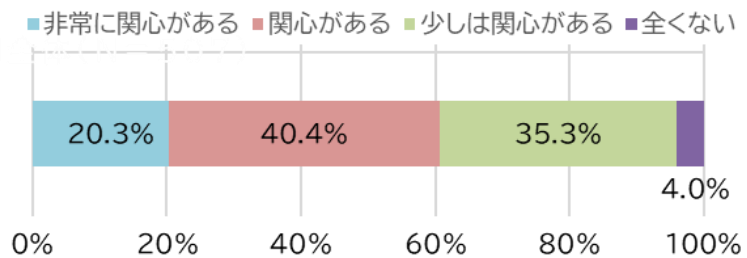
(市民部 生活環境課)

- ◆ 調査目的： 市では、令和4年3月に市議会と共同で「大仙市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、省エネの推進と最大限の再生可能エネルギーの導入により、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて取組を進めている。また、令和6年3月には、大仙市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、市域全体で温暖化対策に取り組んでいくこととしている。本調査では、市民の皆さまの地球温暖化対策への関心等についてご意見を伺い、今後の取組の参考とする。

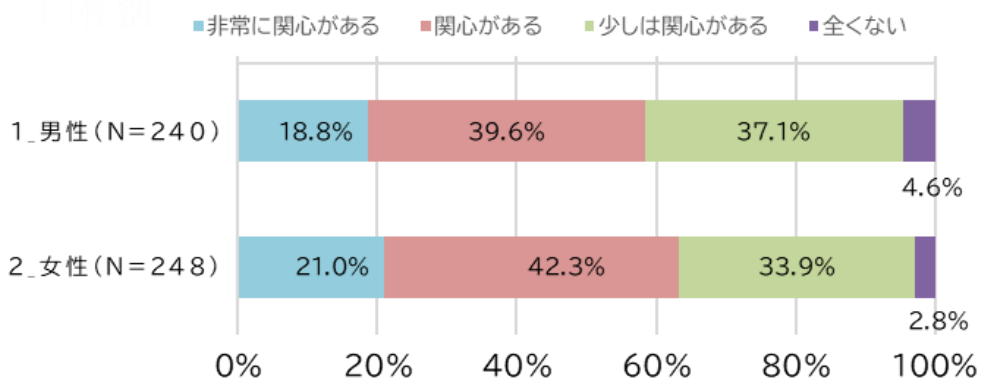
【問1】地球温暖化対策に関心がありますか。

- 全体では「非常に関心がある」「関心がある」「少しは関心がある」をあわせた割合は96.0%となっており、大多数の方が「地球温暖化対策」に関心があると回答している。
- 性別で見ると、「非常に関心がある」「関心がある」「少しは関心がある」をあわせた割合は女性が97.2%と、男性の95.5%を1.7ポイント上回っている。
- 年代別で見ると、20代を除く全ての年代で「非常に関心がある」「関心がある」「少しは関心がある」をあわせた割合が9割を超えており、特に70代は99.0%となっている。

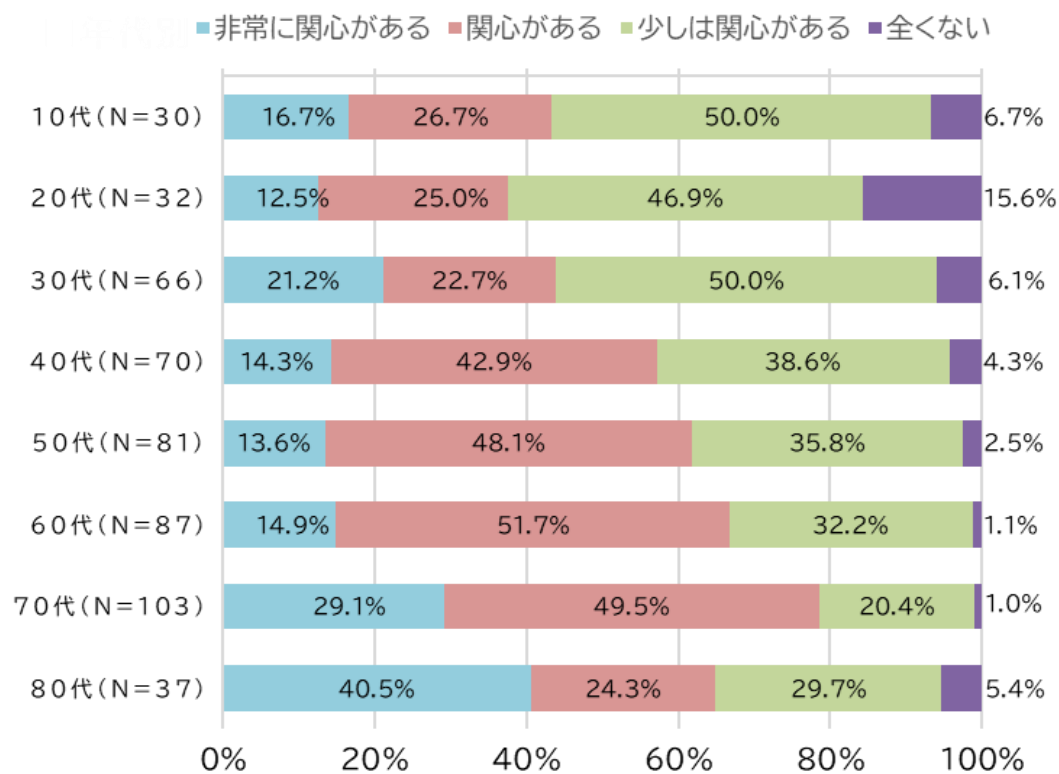
■全体 (N=507)



■性別



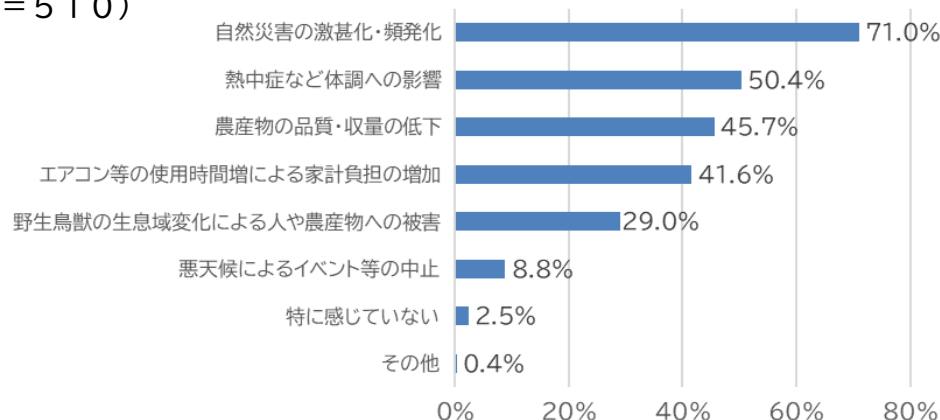
■年代別



【問2】地球温暖化による影響として身近に感じていることはありますか。（3つまで）

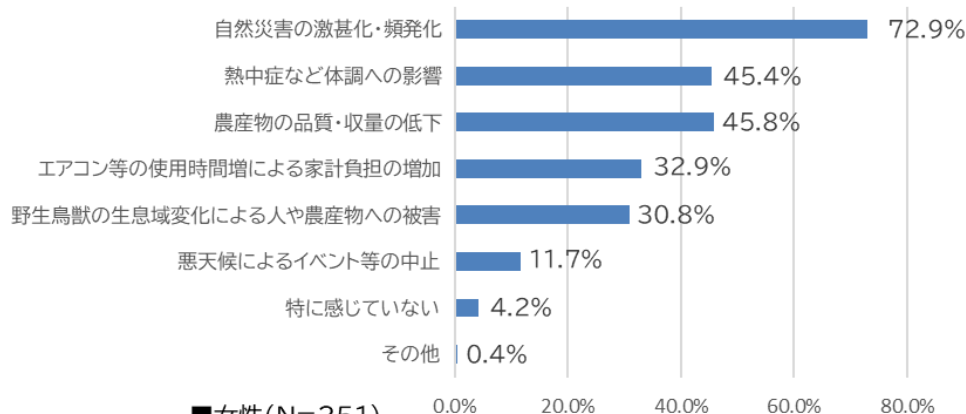
- 全体では、「自然災害の激甚化・頻発化」と回答した割合が71.0%と最も高く、次いで「熱中症など体調への影響」が50.4%、「農産物の品質・収量の低下」が45.7%、「エアコン等の使用時間増による家計負担の増加」が41.6%と続いている。
- 性別では、「熱中症など体調への影響」や、「エアコン等の使用時間増による家計負担の増加」と回答した割合は、男性より女性が高く、それぞれ55.8%、48.6%になっている。一方で、男性は「特に感じていない」が4.2%で、女性よりも3.4ポイント高くなっており、男性よりも女性が温暖化の影響を身近に感じている結果となった。

■全体（N=510）

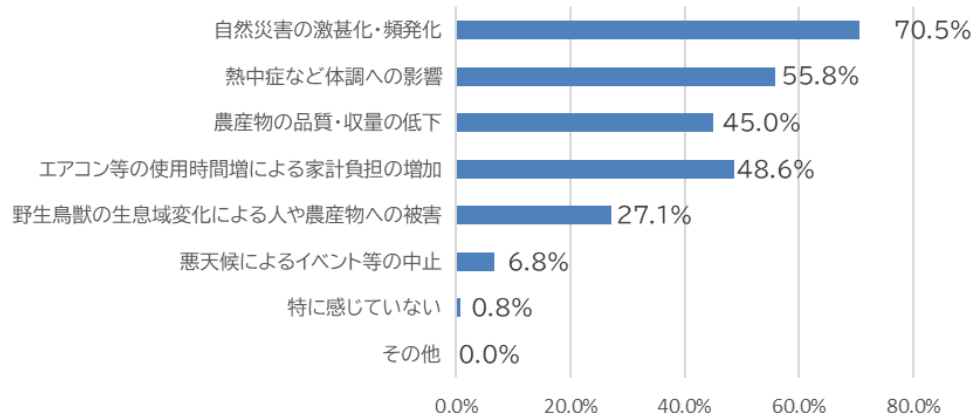


■性別

■男性（N=240）



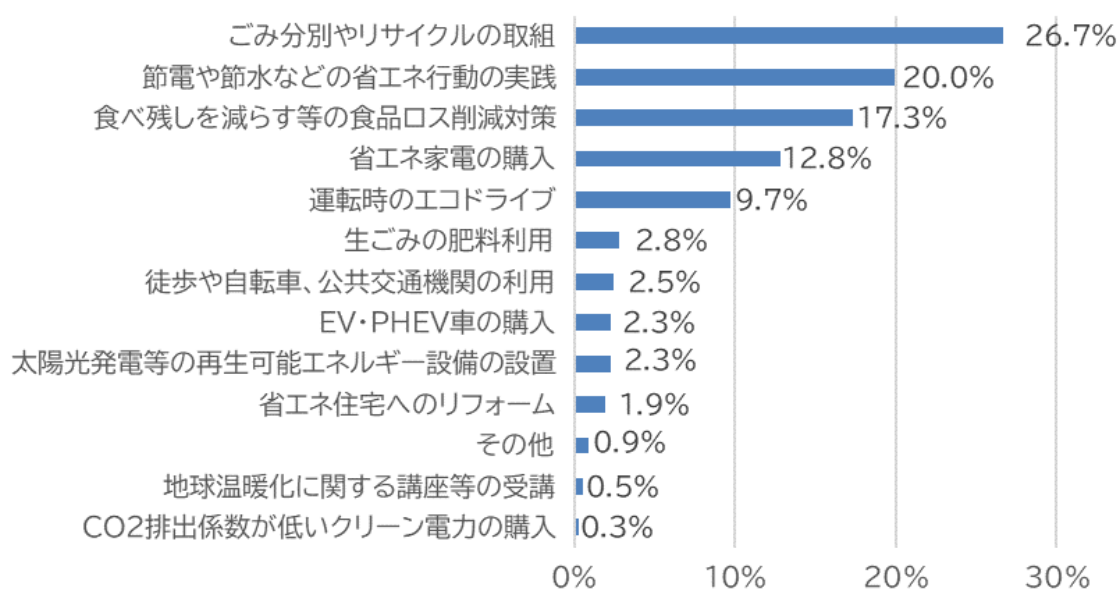
■女性（N=251）



【問3】ご家庭で地球温暖化対策として取り組んでいることはありますか。（3つまで）

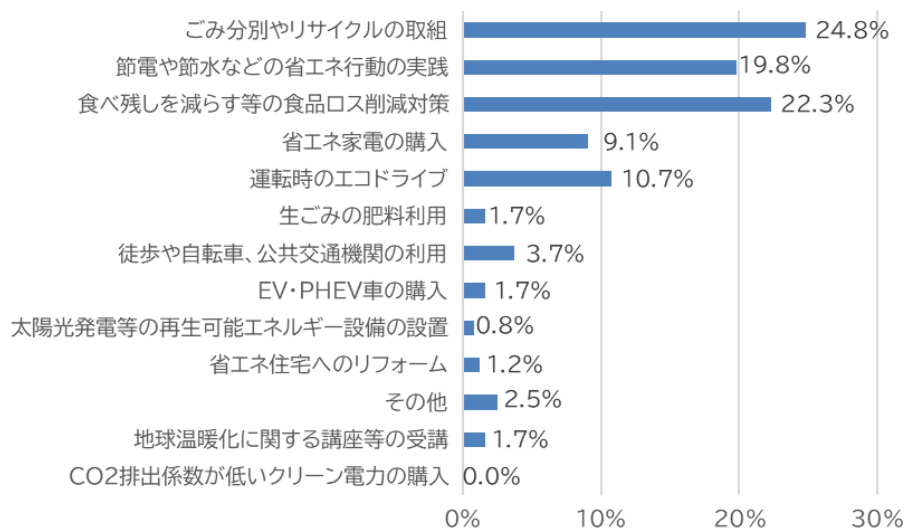
- 全体では、「ごみ分別やリサイクルの取組」と回答した割合が26.7%と最も高く、次いで「節電や節水などの省エネ行動の実践」が20.0%、「食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策」が17.3%と続いている。一方で、「EV・PHEV車の購入」が2.3%、「太陽光発電等の再生可能エネルギー設備の設置」が2.3%、「省エネ住宅へのリフォーム」が1.9%などハード面での対策についての取組は低い結果となった。
- 年代別で見ると、全ての年代で「ごみ分別やリサイクルの取組」の割合が最も高くなっている。次いで、16歳から39歳までは「食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策」「節電や節水などの省エネ行動の実践」の割合が高く、続いて「運転時のエコドライブ」となっている。40歳から59歳までと60歳以上では、「節電や節水などの省エネ行動の実践」「食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策」の割合が高く、続いて「省エネ家電の購入」となっている。

■全体（N=488）

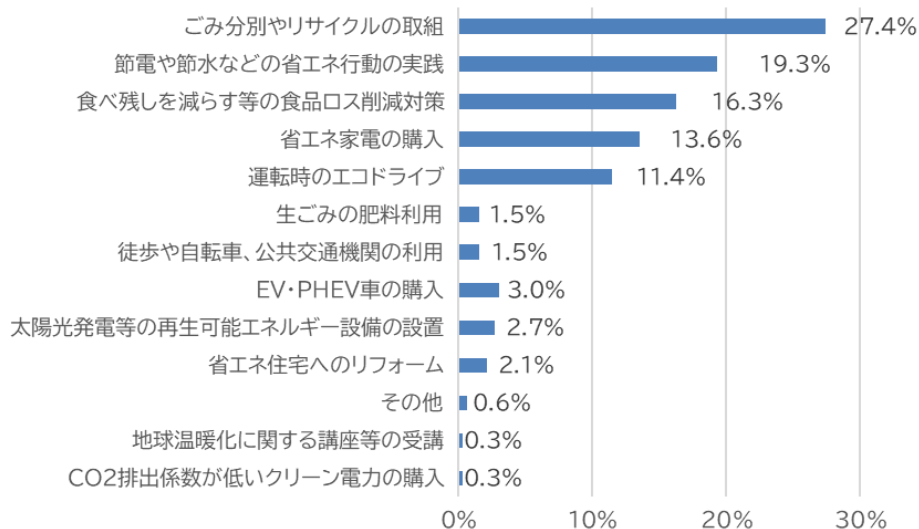


■年代別

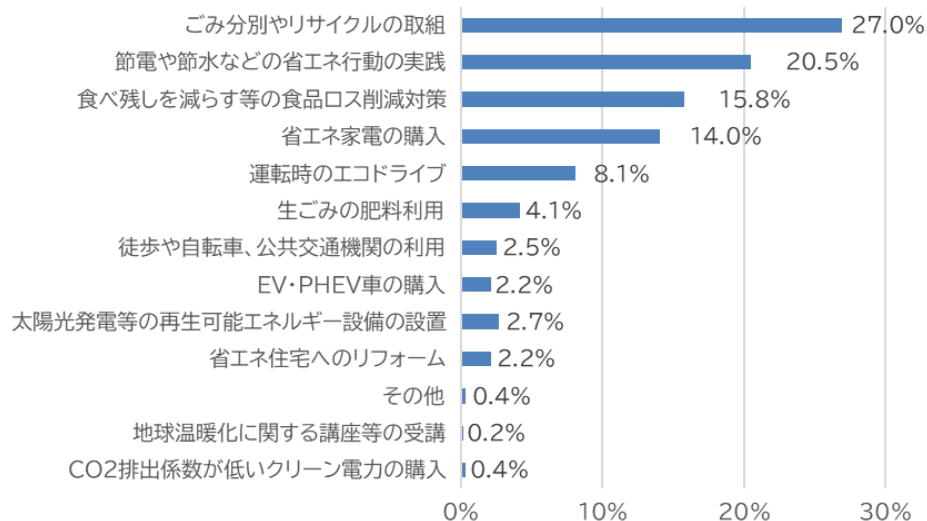
■16歳～39歳(N=118)



■40歳～59歳(N=146)



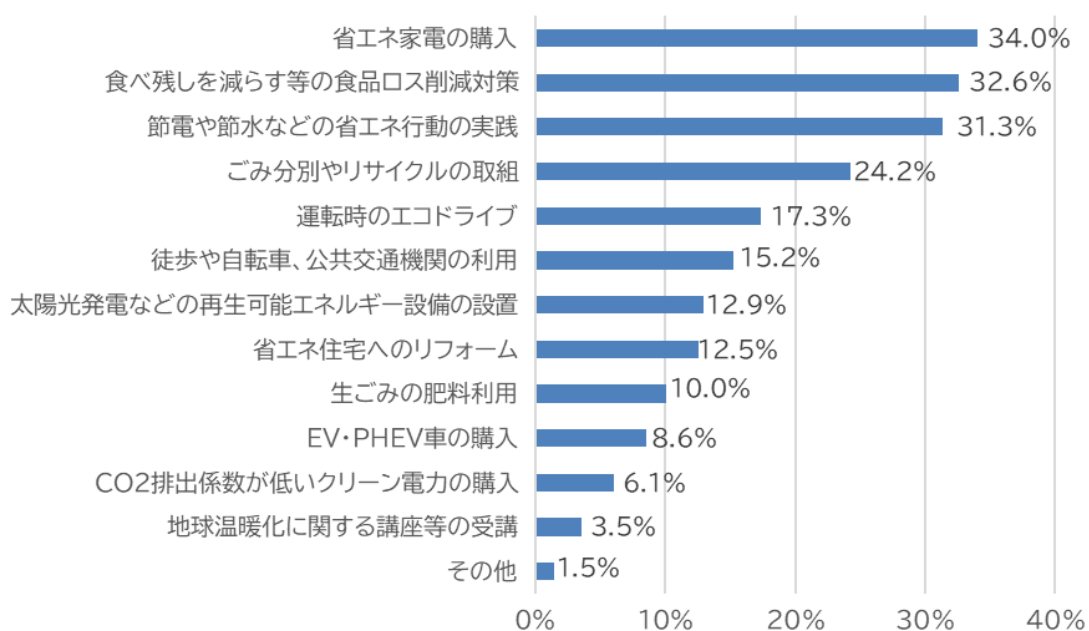
■60歳以上(N=223)



【問4】あなたが地球温暖化対策として新たに取り組みたいことはありますか。
(〇は3つまで)

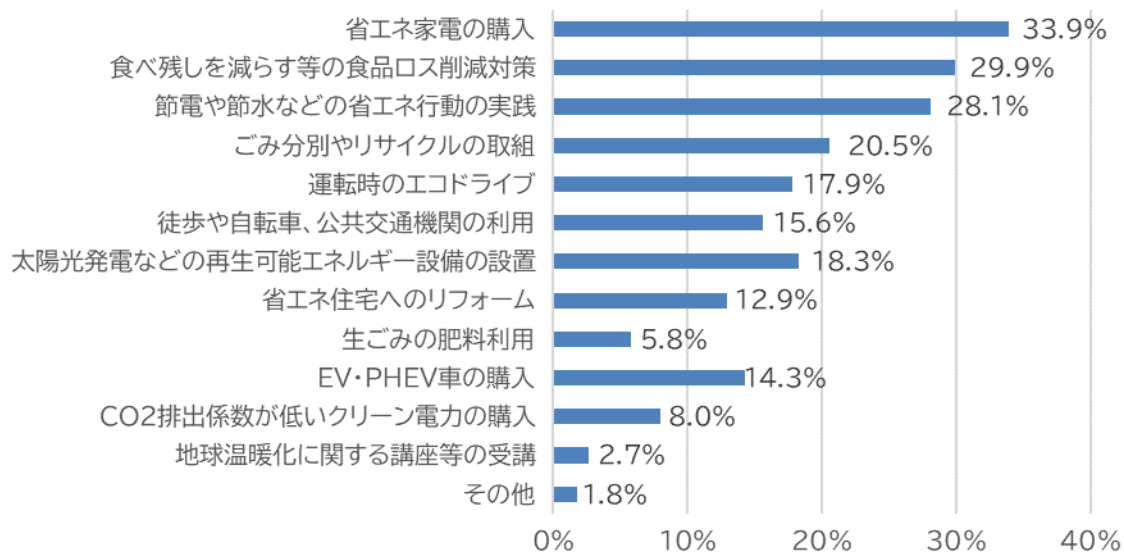
- 全体では、「省エネ家電の購入」と回答した割合が34.0%と最も高く、次いで「食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策」が32.6%、「節電や節水などの省エネ行動の実践」が31.3%と続いており、いずれも3割を超えている。一方で、問3で実践している割合が低い「地球温暖化に関する講座等の受講」などの項目でも、本設問では高くなっている。
- 性別で見ると、「太陽光発電などの再生可能エネルギー設備の設置」では男性が18.3%、女性が8.0%、「EV・PHEV車の購入」では男性が14.3%、女性が3.8%と女性よりも男性が高い結果となった。一方で、「ごみ分別やリサイクルの取組」は男性が20.5%、女性が28.3%、「生ごみの肥料利用」は男性が5.8%、女性が14.3%と女性が高い結果となった。

■全体 (N=479)

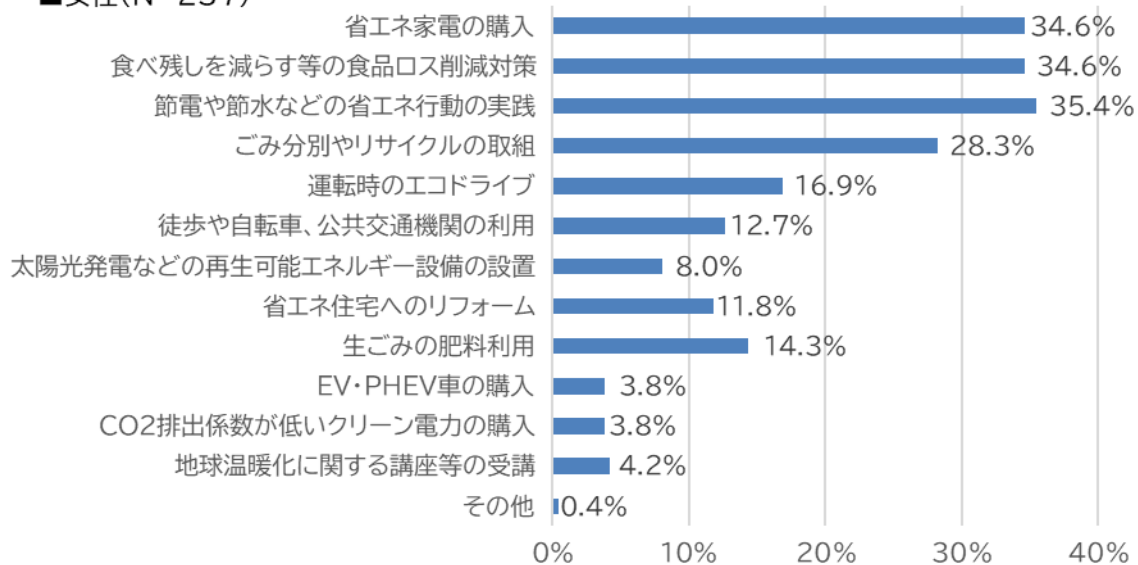


■性別

■男性(N=224)



■女性(N=237)



■その他の回答

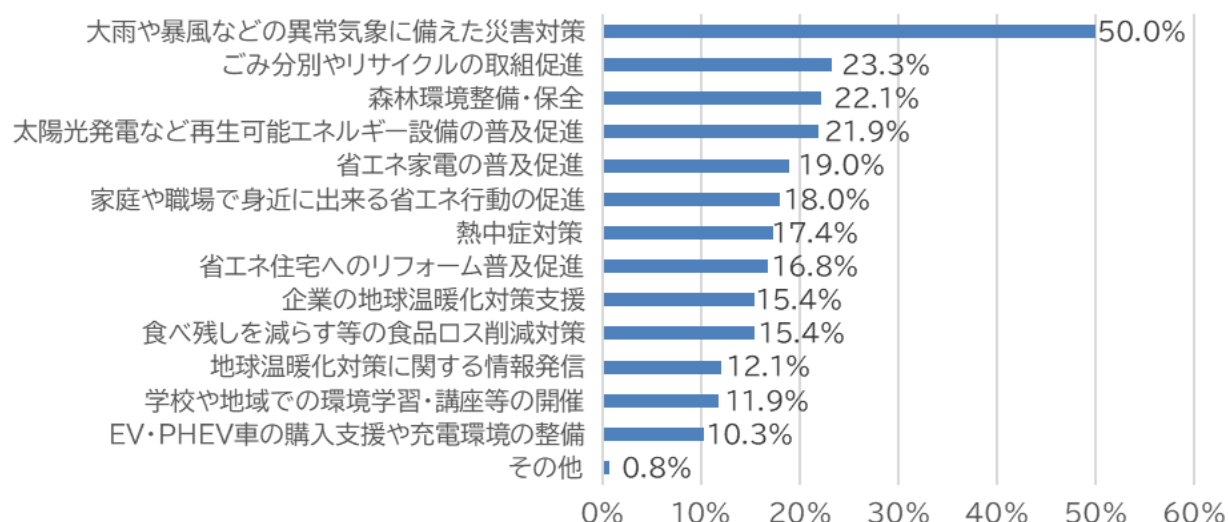
- 温暖化とは思っていない。(20代/男性)
- 取り組みたいと思うが、コストや時間が掛かるので意識して取り組む気はない。
(30代/女性)
- 温暖化対策をしたいが、個人で出来ることは限られる。1番の問題は費用の負担。
(50代/男性)

【問5】今後、市が地球温暖化対策として重点的に取り組むべきだと思う取組は何ですか。

(〇は3つまで)

- 全体では、「大雨や暴風などの異常気象に備えた災害対策」と回答した割合が50.0%と最も高く、次いで「ごみ分別やリサイクルの取組促進」「森林環境整備・保全」「太陽光発電など再生可能エネルギー設備の普及促進」が続いている。
- 年代別にみると、全ての年代で「大雨や暴風などの異常気象に備えた災害対策」と回答した割合が最も高く、「ごみ分別やリサイクルの取組促進」とともに、年代が上がるにつれて回答割合が高くなっている。一方、年代が下がるにつれて、「食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策」や「EV・PHEV車の購入支援や充電環境の整備」と回答した割合が高くなっている。

■全体（N＝506）

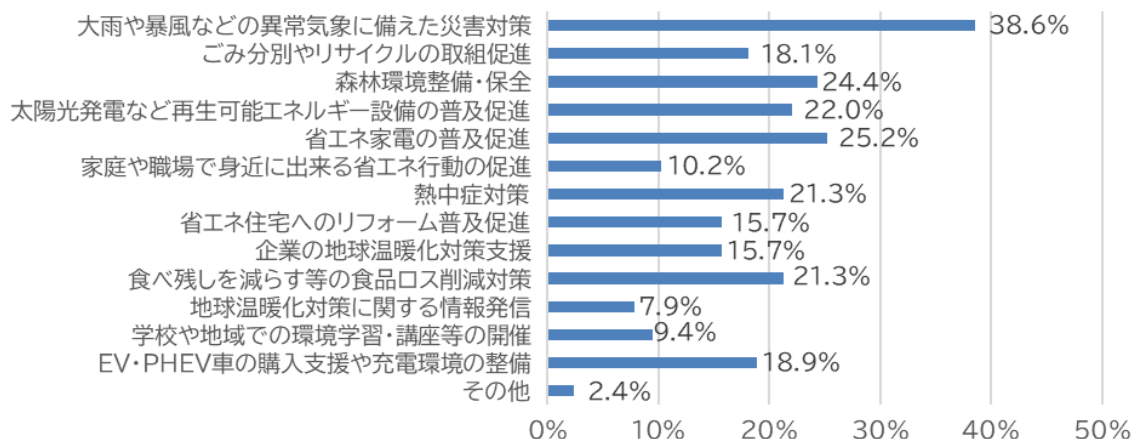


■その他の回答

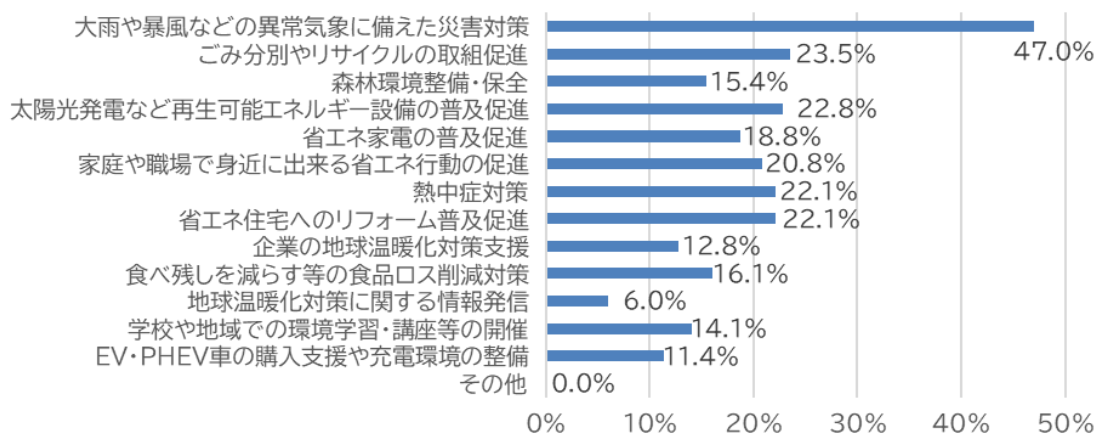
- 税金があまりかからない事業を実施してほしい（30代/男性）
- 正しい地球温暖化の影響を発信してほしい（70代/男性）

■年代別

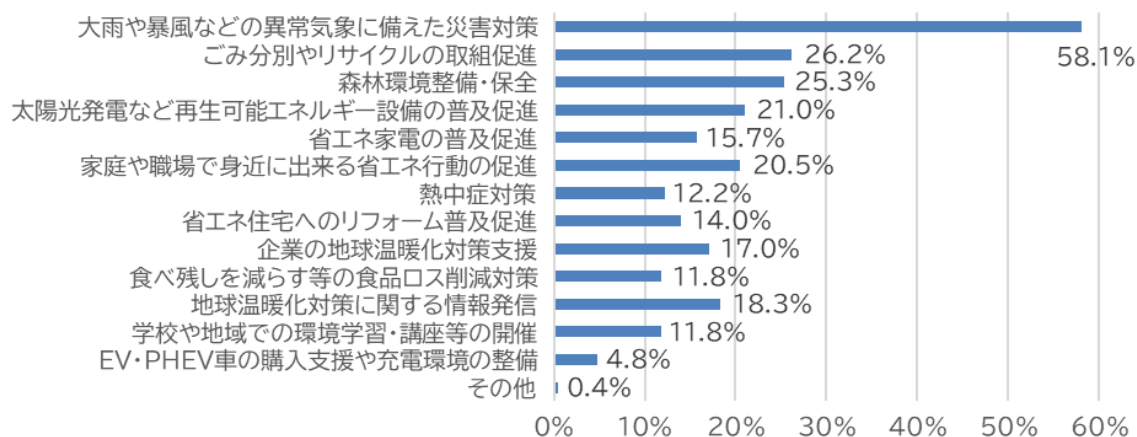
■16歳～39歳(N=127)



■40歳～59歳(N=149)



■60歳以上(N=229)



◆調査結果まとめ及び今後の方針

- 問1の地球温暖化への関心について、「非常に関心がある」「関心がある」「少しは関心がある」をあわせた割合は9割を超え、問2の地球温暖化による影響で身近に感じていることについては、「自然災害の激甚化・頻発化」が最も高く、次いで「熱中症など体調への影響」となっており、近年、激甚化・頻発化している大雨や台風、記録的な高温などの身近な出来事や体験が地球温暖化対策への関心を高める一因になっているものと思われる。一方で、年代別に見ると、30代以下の関心が低い傾向にあり、地球温暖化対策の実効性を高めていくためには、ひとり一人の理解と行動が重要であることから、こうした層の関心を喚起する情報発信を強化していく。
- 問3の地球温暖化対策として家庭で取り組んでいることについて、「ごみ分別やりサイクルの取組」が最も高くなっており、令和7年4月に『プラスチック資源ごみ回収』がスタートしたことも一因となっているものと推察される。次いで「節電や節水などの省エネ行動の実践」「食べ残しを減らす等の食品ロス対策」となっており、身近なところから取り組まれていることがうかがえる。今後は、こうした身近な取組の継続と普及を促進しながら、特に循環型社会の実現に向けた取組の一つである「ごみ分別やりサイクルの取組」をさらに広げるため、市の公式 SNS やホームページなどを通じて情報発信を強化し、意識醸成に繋げていく。
- 問4の地球温暖化対策として新たに取り組みたいことについて、「省エネ家電の購入」「食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策」「節電や節水などの省エネ行動の実践」の割合が高い結果となった。性別でみると、男性は「太陽光発電など再生可能エネルギー設備の設置」や「EV・PHEV車の購入」などのハード面の回答割合が高くなっている。一方、女性は「ごみ分別やりサイクルの取組」や「生ごみの肥料利用」などの日常生活で取り組みやすいソフト面の回答割合が高くなっている。また、問5の地球温暖化対策として市が重点的に取り組むべきことについては、「大雨や暴風などの異常気象に備えた災害対策」が最も高く、次いで、「ごみ分別やりサイクルの取組促進」「森林環境整備・保全」が続く結果となった。

今後は、節電などの省エネや食品ロス削減などの身近にできるエシカル消費などのソフト面の取組を推進しながら、再生可能エネルギー設備の設置やEV車の導入といったハード面の支援にも取り組んでいく。

また、問3と問4を比較すると、問3で割合が低い「公共交通機関等の利用」や、「省エネ住宅へのリフォーム」をはじめ、ほとんどの項目について問4での回答割合が高くなっており、こうした取組意欲を後押しする施策も展開しつつ、温室効果ガスを削減するための対策である「緩和策」と、温暖化の影響を回避、あるいは最小化するための対策である「適応策」のバランスを図りながら、市民や企業、団体の皆さんと連携して「ゼロカーボンシティだいせん」に取り組んでいく。

4 自由意見

4 自由意見

令和7年度「市民による市政評価」の調査票に記述のあった、市政に関するご意見・ご提案などの自由意見について、主なものを分野別に掲載した。

産業分野

(1) 農林水産業について

- 大仙市は、花火とお米が目玉だと思います。農業の後継者不足でお米を作る人がいなくならないようにしてほしいです。(70代/女性/大曲)
- 兼業農家ですが、市役所とJAへの提出物等で休暇を取得する回数が多いとよく聞きます。この連携をうまくって頂き、極力同じ時期に訪問するようにできないでしょうか。(50代/女性/大曲)
- 今回の米の価格問題も米農家が多くいる大仙市として現場の意見を吸い上げ、もっと国に意見しても良いのではないのでしょうか。(40代/女性/中仙)

(2) 商工業について

- もう少しお店を増やして欲しいです(10代/女性/太田)
- 中高生が集える施設やショッピング施設を設けて欲しい(10代/女性/大曲)

(3) 花火産業構想について

- 花火大会に金を使いすぎ(年中花火)地元の事を考えていない。天下りを考えて若い人に仕事を！！(60代/男性/大曲)
- 花火にかかる予算や労力が多いと思います。花火の日にそれが回収出来ているのか成果が見える化して欲しいです。(50代/女性/西仙北)
- 花火産業に多く税金を使うべきではない。(70代/男性/神岡)
- 花火にばかり金を使うな。もっと旧町村の事も考えて下さい。旧大曲市ばかりでなく。(20代/男性/太田)
- 大曲市内の花火だけで田舎は繁栄してないと思います！！(70代/不明/西仙北)
- 花火に頼りすぎている印象。(30代/男性/大曲)
- 地元の人が花火を観られない(40代/男性/大曲)

- 花火関係に力を入れているような気がする（60代／女性／大曲）
- 最近、船場町に建てたホテルに関してなんですが宿泊料金が高額なのなのに夕食がつかないのはなぜですか？あと花火産業ばかりに力を入れるのではなく他の分野も良い所あるはずなのでそちらにもっと力を入れてください。1年中花火だけでなく他の観光地も宣伝した方がいいです。（30代／男性／神岡）
- 少し花火に頼り過ぎではないか？もちろん花火の文化がダメだということでは無く、何か他に頼れるモノがあれば良いと思う。（20代／男性／中仙）
- 花火を栈敷席に戻してください。（10代／男性／大曲）
- 花火の入場料は高すぎて中々見に行けない。（70代／男性／太田）
- 花火の街大曲と言われてる我が街ですが、近年は花火が打ち上がる頻度も多く、花火に対しての特別感がなくなっているように思います。（30代／男性／大曲）
- 花火の街として有名ですが市民の声を聞くと、「またか、疲れる 市民にやさしくない」、…と聞こえてきます。今後についてこのまま4回/年継続でしょうか。（70代／女性／神岡）

(4) 観光について

- 目先のことを重視した政策が多いように感じます。花火ばかり優先する必要性を感じず、市外の方角へのイベントになったと思う。（40代／女性／協和）
- 中里温泉の玄関の中のスロープ・階段に手すりが欲しい。老人は大変困ります。（70代／男性／太田）
- 観光に関しては、花火に頼りすぎて、一部の人達にしか恩恵がなく、ほとんどの市民が置いてけぼりと感じています。もっと恒常的に大曲に来てもらえるような観光や街づくりをして駅から歩いたり、バスに乗って気軽に行けるような観光資源があれば大仙市全体が盛り上がるのではないのでしょうか。今の市政はどこかずれているような気がしています。（40代／女性／大曲）
- 大曲には花火大会がある。でも、大曲には花火大会しかない。（年数回）商店街、食事、宿泊に結び付く事が少ない。由利本荘ナイスアリーナがうらやましいです。今年も送料無料の（大仙食品）企画がありがたかったのでぜひ続けてほしいです。（お歳暮やバレンタインなど使いました。）（60代／女性／大曲）
- 観光物産とか温泉施設を多くして、県外等の来客を多くして活性化して市の財政を上げて欲しい。物産館や大仙市経営の温泉があれば、経営の雇用も潤うのではと思いますが。（60代／女性／仙北）

- 花火会場すぐのホテルですが、ホテルのみで他は住宅です。何か発展できるような施設、利便性の向上を周辺でやっていった方がいいのでは??と思っています。他県から泊まりにくる方が不便を感じてしまうかと思っています。たくさんすみません。今後もよろしくお願いします。（30代／女性／大曲）

(5) 雇用・就労について

- 若い人が働く場所があまりにもなくAターンしたくても出来ない。（60代／女性／仙北）
- 働き場の確保。安定した収入が欲しい。そうでないと普通の生活しかできず子育ては無理なので結婚は出来ない。（自分が生きていくだけでいっぱい家庭はもてない）
（50代／男性／太田）
- 「産業の充実」特に秋田の米づくりの重要性を感じる近頃は、担い手の減少がみられます。市としてどう考えていくのかが大きいと思われます。まだ周りをみると60歳以上の方の人材をもっと活かすことはできないのかな～と日々思います。適材適所一日でもできる派遣があってもいいのかなと思います。様々な職種で活かされるキャリアは高齢化社会でも必要とされると思います。花火も大切ですが市民の生活目線で対処していただけたらと思います。（60代／女性／大曲）
- 花火産業に注力しているが、大仙市及び市民の生活は豊かになっているのか疑問に思う。魅力ある企業や商業施設を誘致し、人が集う大仙市にしてもらうことで秋田市に次ぐ秋田県第二の都市を目指して欲しい。（40代／男性／大曲）
- 税金を花火ばかりに使わないで欲しい。
若者が地元で働くメリットを増やして欲しい。（10代／女性／大曲）

(1) 子育てについて

- 子育て支援策の一環として、中学校給食費無償化はとてありがたいことですが、小学校は無償化にならないのでしょうか？？予算など簡単なことではないのは分かっていますが、若干、不平等感を感じてしまいます。周りからの声もあり意見をさせていただきます。今は、マッチングアプリなどが、かなり普及しているようで結婚や出会いのためのイベントよりも、その後の妊娠応援や妊婦健診への助成費用拡大が望ましいと思っています。
(30代／女性／大曲)
- 子育て世帯への給付金を増やして欲しい。現状では足りない。(30代／男性／大曲)
- 自分は横手出身ですが、大仙市に来てよかったと感じています。教育の面で（小学生1人と幼稚園1人）子どもが、のびのびと遊べる施設など充実するといいなと思います。
(40代／女性／大曲)
- 保育料全額補助はとても助かります。2人目を視野に入れられるようになりました。子供が体調不良になった際に会社を休みにくいです。(30代／女性／協和)
- 子育て支援に関して、今、何が本当に求められているのか。遊ぶ場所はもちろんですが、食事を宅配してくれたり、ドライブスルーがある店など大仙市は非常に少ないと思います。子供が一人でも二人でも、子供を連れての買い物は大変で、自分の食事も取れずに忙しくしている親御さんは沢山いると思います。そんな時に上記のようなサービスがあると非常に助かります。隣街横手市のように。(30代／男性／大曲)
- 子育て世代が暮らしやすい、どんどん移住者を迎えられる市にしてほしい。
(30代／女性／仙北)
- 子育て支援を充実させてほしい。遊べる・学べる施設など。(30代／女性／大曲)
- 子供などの遊び場が少ないような気がします。(10代／男性／中仙)
- 産前産後で給付金を頂いたが、とても足りないくらい出産準備にお金が掛かって大変だった。市としてリースでもいいからベビー用品を支給して欲しい。全部じゃなくても1人一つとか選べるものがあったもいいと思う。授乳室がどこにあるのか分かりづらいし、少ないと思う。(30代／男性／中仙)

(1) 保健・医療について

- 健幸まちづくりプロジェクトの目的は医療費削減だと思うのですが、実際どのくらい削減できて効果があるのか詳しく教えてもらいたいです。ポイントを貯めて獲得する賞品もありますが、内容にあまり魅力を感じていない声を多く聞きます。税金を使っているのかどうなのか良くわかりませんが、市民の意見も聞いて、一方的なものになっていないか考えてもらいたいです。（50代／女性／大曲）

(2) 社会福祉について

- 花火産業の振興ばかりに力を注がず、社会福祉に注力してほしい。（60代／男性／中仙）
- スマホは持っていますが、耳や体が不自由で役所関係へ連絡するのにメール（LINE）しか出来ないため、何か方法を考えて下さい。福祉協議会とはメールで連絡取れますが、他とはできません。（80代以上／女性／大曲）
- 高齢化により、認知症の方が増える中、対応できる施設が少なく家族への負担が大きくなっているように思います。市としても、家族へのケア・施設の充実を望みます。また、障害者への迅速な対応も望みます。（70代／不明／大曲）
- 81歳の女性です。のりのりキップ、指圧の補助券、温泉の無料券を発行していただいて、大いに助かっています。3年前に夫がなくなって、現在は、ひとり暮らしです。娘と息子は結婚して独立しています。健康に生活できるようにバランスの良い食事、体操教室、畑仕事、雑草とりと体を動かす努力をしています。（80代以上／女性／神岡）
- 私は低所得ですが、息子夫婦と同居していると灯油代とか国からの補助金もらえないですか。（80代以上／男性／大曲）
- 自分は後期高齢者になります。市民に対する市のいろんなサービス、行事、催し等まとめた一覧表があると助かります。（70代／女性／大曲）
- 障がい者福祉の更なる充実をお願いします。療育手帳を所持し、現在は在宅で家族の支援を受けて就労し、生活していますが、両親も高齢化しているため将来が不安でなりません。福祉施設等を利用していないため、情報も入ってきにくく、在宅介護している人へ（障がい者や家族を継続的に細かく支援）支援制度があれば助かります。目先の事では、一時預かり宿泊や移動通勤サポート等の相談もしたいです。いずれ、この先1人になりますがそれでも安心して生活出来るよう、受け入れ施設の拡充や支援体制の検討を是非是非よろしくお願いします。（30代／男性／中仙）
- 帯状疱疹の補助が欲しい。（40代／女性／仙北）

(3) 社会保障について

- 介護認定に不安が感じられた。自身も 70 代、叔母は 87 歳一人暮らし、子どもは県外に暮らしています。介護認定を受けましたが、ひとりで出来る様だからと要支援となり介護支援は受けられませんでした。ひとりで出来るけど、歳ですからいつなんどき何が起こるか分かりません。少し 80 代半ばの人にはもう少しやわらいだ認定が欲しいです。
(70 代／女性／大曲)

(4) スポーツについて

- 現在のソーラーレですが、ドーム型は考えなかったのでしょうか？冬期を考えると半年は使用不可・グランドゴルフなど諸々に使えたのではと思っています。(70 代／女性／神岡)

(1) 自然・環境衛生について

- 私は転勤族でした。こちらに戻ってきて、20年以上になりますが、やっとプラスチックのゴミが始まりました。私が以前いたところでは、もうすでに資源ゴミ問題はその当時普通にやられてました。あまり言いたくはないのですが、すべてにおいて遅れが目立ちます。色々なところを見て、どんどん参考にすべきだと思います。花火も大切ですが、それにばかりに頼りすぎているように思います。緑が多く水資源も豊富です。こんな自然豊かなところはないですよ。先を見越して考えるべきだと思います。（70代／女性／大曲）
- プラスチック資源ゴミの収集日を増やしていただきたい。（50代／男性／西仙北）
- ゴミを減らすよう努力していますが、プラスチックごみを出すようになって、実際ここまでプラごみが多い事に驚きです。その分、燃やせるごみ袋は40円から30円になりましたが、やはり袋の値段が高いと思っています。（70代／女性／中仙）
- 歩道や街路樹回りの雑草対策や電線下などに多く見られる路上のカラスや野鳥のフンの衛生保全を改善していただけたらと日頃から感じております。また、花火で訪れる観光客が増加し、見終わってからの夜間の駐車場で宿泊される方も多く、エンジン音が一日中鳴り響いていたり、路上排泄する方も見られて毎年悩んでおります。街の衛生管理を地域住民の一人として考えていけたらと常に思っております。対策の提案として聞いていただけたら幸いです・・・どうぞ宜しくお願いいたします。（40代／女性／大曲）

(2) 安全・安心体制について

- 大曲駅周辺の自転車マナーが悪い、ヘルメットもかぶってない、横に広がるなど歩行者が危険です。市として対応して下さい。（50代／男性／協和）
- 花火のためだけでなく、もっと地域の環境整備などにも目を向けていただけるとありがたいです。夜に自転車で帰っている時に街灯が少なく、道が暗くて危ないので街灯を増やして頂きたいです。（10代／男性／大曲）

(3) 空き家対策について

- 隣の家が空き家でくずれ落ちているため、白ビシン、アナグマ等が住みついて、とても不安です。屋根の雪下ろしもしないし、役場の方に伝えてもどうにもなりませんので、とても不安です。（80代以上／女性／神岡）

- 私的なことですが、空き家の事で悩んでいます。今は簡単に、土地家を放棄する事が出来、私の隣の土地家を放棄されて困っています。かなり古い家（70 年～80 年）で外観はごく普通の家に見えますが、我家との境や裏外に回ると、ほとんど土台のない状態です。中はネズミ等の巣になっているようだし、いつ倒れるだろうか？心配で神経が休まりません。冬の積雪は行政に連絡して降ろしてもらいましたが……。他の事は行政が入ることが出来ないとの事で困っています。（1 度見てもらいたいと思っていますがそれも出来ません）
（80 代以上／女性／神岡）
- 崩壊状態の空き家が長期間放置されており、雑草や虫発生、立木の害虫に対して苦情を申し述べても、対処せず放置するのは止めてもらいたい。（70 代／男性／大曲）
- 簡単じゃないと思いますが、空き家を市が買い取り解体して大仙市の業者に建築をしてもらい、売買するか市が賃貸にして子育て世代の人に貸したりするのはどうでしょうか？
潟上市追分は、土地の区画整理をし、若者世代を含む人口が増え、小学校の増築をしたり人が増えたそうです。協和は空き家が沢山あるので、空き家改革をして協和に来たくなるような施設を建築してもらいたいです。（30 代／女性／協和）

(1) 公共交通について

- 運転免許証を返納した後の足の確保を心配しております。(80代以上／男性／西仙北)
- 運転免許の返納を、今以上にスムーズにする為にも、市民の「足」をもう少し利用しやすくする事は難しいのでしょうか。やはり、返納後の事を考えると、不安しかないと思います。私もその一人です。(50代／女性／大曲)
- 自分も年を取って、親も年を取り運転できなくなる日が近いと思います。グランドゴルフに行きたくても車がなくて行けない人もいるのではないかと思います。送迎付きのそのようなサークルを市でやっていただけると、安心して年を取れると思います。車がなくても生活できるようにしてほしいです。(50代／女性／大曲)
- 交通の便が悪くなり免許証返納すれば自分の足で歩く他ないと思います。老後への不安があるように感じます。町に活気がなく淋しさを感じる事もあります。
(70代／女性／大曲)
- 高齢者が多い地域なのに移動手段がありません。もう少し大仙市の隅の方まで見てほしい。買い物、病院など行くのに大変です。(60代／女性／協和)
- のりのりきっぷは、ありがたいが、毎月病院に行くため往復二千円かかります。そのため、五千円ののりのりきっぷを一万円にしていただけたら助かります。お願いします。(70代／女性／大曲)
- 交通の便が悪い上に、近くにスーパー等がなく困っております。また、病院に通う事が多いため、今後、タクシー等の確保が難しくなると聞いているので不安です。
(80代以上／女性／神岡)
- バス廃止路線になり、乗合タクシーがあっても、とても不便な地域になってしまった。せめて、午前と午後それぞれ1便でいいので循環バスを走らせて欲しい。
(60代／女性／大曲)
- 高齢者がいるので、タクシー券を利用しています。5,000円／年の助成は少ないと思います。増額希望です。また、対象となっている方で使用していた方はどの位の割合でしょうか。年間の予算で余剰となるのであれば少し多く助成して頂きたいです。
(50代／女性／大曲)
- 無理かもしれませんが、交通網をもっと拡充してほしいです。
高齢者にはバスを無料で利用できるようにすれば、免許返納が進むのではないのでしょうか。こちらでも、高齢者の事故や逆走など良く見かけます。(50代／女性／大曲)
- 将来の高齢化社会に向け循環バスなどを整備してもらいたい。車の要らない社会。特に農村部への拡大。(50代／男性／仙北)

(2) 市街地について

- 花火産業が市のメイン産業であるならば、大曲駅からの「花火通り」を活性化させるべきだと考える。現状では、観光客にとっても寂れた街（＝大曲）の印象が強く最悪である。高齢化が進む中、地元産業を活性化させるためにも、市の支援により「花火通り」にコンパクト化した街づくりを切望する。（70代／女性／大曲）
- 更に人口減少が進む中、市街地に人が集まりコンパクトにする方が良い。お金のない人はまとまって暮らした方が良い。地域が広すぎて除雪費もバカにならない。広大な農地を若者が担える様、税金を投入しましょう。（60代／男性／中仙）
- 周りの人たちの間で、よく話が出るのは駅の近くにごはん食べられて買い物が出来る店があるといいなという話が出ます。病院に行ってもとんぼ帰りだと。（50代／男性／仙北）
- 他市町村に比べて子どもの室内遊技場がなく、横手市や秋田市に遊びに行くのが普通になってしまっている。今後、神岡の広い公園の側にできるのはありがたいが、駅前の空洞化に拍車をかけるような気がしてしまう。それこそ横手市みたいな駅前の活性化が望めるような仕組みづくりをして欲しい。（30代／男性／大曲）
- 若者が大曲に住める街づくりを推進して下さい。企業誘致、各種学校誘致など。あとは、大曲は、なんと言っても花火が有りますが、まだ一体感が足りません。年間4回の花火大会をもっとアピールしても良いと思います。
（60代／男性／大曲）
- 花火に予算を割きすぎではないでしょうか。社会インフラにもっと投資すべきかと思います。県内有数の面積を有する大仙市ですが、空き家問題、人口減少を鑑みコンパクトシティ化を推進すべきでは？（40代／男性／神岡）
- 横手市と比べると道も全体的にせまく走りにくい街で、場所と場所のつながりをあまり考えていない都市作りをしている気がします。子供達が集う所や公園の整備もいまいち。横手市の図書館は本当に素晴らしいと思いました。全体を考えた効率の良い街作りを望みます。（50代／女性／大曲）

(3) 道路・河川について

- 除雪体制について 雪が多いと時間がかかり交通に支障が出るので、1業社1路線でなく応援出来る体制にならないか。（60代／男性／協和）
- 大仙市内の冬季除雪に問題が有ると思いませんか？（60代／男性／大曲）
- 子供の通学などで危険と思われる道路が多々散見されるので、整備していただきたい。
（40代／男性／大曲）
- 道路の舗装の悪い箇所を直ぐに修繕して欲しい。（50代／男性／大曲）

- 市道に大きな穴があいて数ヶ月になるが、穴埋めをしてもらえない。1か月に一回でもいいので市道のパトロールをして穴埋め（道路のメンテナンス）をしてほしい。市中心部だけでなく町村部にも目配りしてほしい。（60代／男性／中仙）
- 雪国の為、毎年除雪で苦労しています。細い道路で寄せ場も無くシニアには厳しくなっています。町内でも苦情で人間関係も悪くなっています。もう少し細かい配慮をお願いします。子供達の通学にも危険！！（70代／女性／大曲）
- いつも除雪をきれいにしていただきありがとうございます。
十数年前に大仙市に引っ越してきましたが、その時より除雪の技術が上がって車の運転がしやすくなりました。大仙消防署の前ももう少し除雪がきれいなら救急車も通りやすいと思いました。（40代／女性／大曲）
- 市道のアスファルトリペアの対応はすごく良くなりましたが、修理前に飛び散ったものはそのまま放置され、散らかりっぱなしで汚いです！なんとか回収をお願いします。家の前だと塵取りとホウキで集めた後の処理にも困っています。
冬は除雪です。せっかく自宅前、車の出入り口と歩行者のためきれいに雪寄せしても、寄せた隙間にびっしり詰めていくやり方はやめてほしいと思います。歩行者に優しい除雪をお願いします。（50代／男性／大曲）
- 除雪に関しても、細かい道路は置き去りにされ、主要道のみ。融雪溝がない所は捨てるどころもなく、まして高齢で身体障害者のところに、除雪車がこれみよがしに雪塊を置いていく。陳情しても改善ない。（80代以上／女性／大曲）

(4) 上・下水道について

- 秋田市から越して来て9年目。下水道がないのに毎月の水道代が高くビックリ。そのうえ赤い水が（帰宅後夕食を作る時になると）出て二度ビックリ。ここ数年対策してくれている。この先の心配は買い出し。送迎バスを出してくれるような大きなスーパーができたらいいなと思う。（60代／女性／協和）

(5) 住環境、公園、緑地について

- 大曲地域に戸建ての市営住宅を建ててほしい。（40代／女性／大曲）
- 子供の遊び場、公園や児童館などを充実させてほしい。近所の公園は遊具もほとんどなく草も伸び放題で、遊ぶことができない。（50代／女性／大曲）

(1) 学校教育について

- 子供がいるのでこれからの学校の統合について気になる。大きく統合しすぎるのも不安な気がする。（30代／女性／中仙）
- 大仙市内に農業か花火の大学を新設できる様にして下さい。人口と仕事の発展に継がると思います。（不明／男性／大曲）
- 交通機関に関してはスクールバスを利用した地域の便の確保は大変良いと思う。子供と大人の交流の場にもなる。スクールバスの中の子供同士のトラブルへ地域の方の目があることにより減ると思う。（10代／女性／西仙北）

(2) 生涯学習について

- 大曲図書館は暗いイメージがあります。電気代はかかるかもしれませんが、明るくして、エアコンで涼しくすれば、もっと利用が増えると思います。高齢者も涼みにくるかもしれません。（50代／女性／大曲）
- 生涯学習で山登りとか大曲市内の神社を回って歩くとかシニアの為の学習とかあったらいいと思う。（70代／女性／大曲）

(1) 地域間・国際交流について

- 中高生が集える場所があればいいと思う。横手市みたいに。（40代／女性／大曲）
- 大曲の花火に力を入れてるのは分かりますが、他のことに行き渡っていないように感じます。
春の章、秋の章、冬の章、など回数を多くやれば良いとは思えないです。花火だけではなく、もっと地元の人が何かできる施設、例えば横手市だとアオーナ等とても良いと思います。そういった花火以外の施設などを考えたりはどうでしょうか？花火関連のホテルが建ちましたが、泊まることは無いと思います…。
普段から利用できたり活用できる、実用性のある取り組み、大仙市民がもっと暮らしやすくなるような、資金の使い方を考えてほしいです（30代／男性／神岡）

(2) 地域活性化について

- 高齢者への施策が目立つが、若年者向けの施策が目立たないため、若者が離れていくのではないか。中心部の公共交通は充実しているが、それ以外は全く不足している。
（50代／男性／協和）
- はなびアムは、イベントがあまり行われていないのもったいなく感じます。施設をサークルに貸すだけではなく、市民向けの講座などを頻繁に開いて欲しいです。
（40代／女性／大曲）
- 大仙市は、花火を観光の目玉として力を入れていて、四季ごとに実施したりしていますが、メインの八月の花火は、どれくらい住民の方が観賞できているのでしょうか。入場料が高額なので、年金だけ花火の実施地域（大曲）に程遠い地域に住む住民は無縁のもので、ただ遠く聴こえる音だけを耳にするだけです。大曲の花火だけに力を注がず合併後にシャッター化しつつある他地域の現状に目を向けるべきです。（70代／女性／協和）
- 花火事業だけに力を入れるのではなく、もっと若い世代や中高年の人達が楽しく暮らしやすい街作りをしなければ人口は減っていく一方だと思います。仕事がなく賃金が低いので若者は都会に出てしまい戻ってこないと思います。（50代／女性／大曲）
- 大仙市が良くなる様に頑張ってください。大曲の「花火通り商店街」のシャッターが閉まっていて恥ずかしい。（不明／男性／大曲）
- 市政の取り組みの現状や地域活性化の取り組みなど、良い面がたくさんあると思うので、新聞や放送を積極的に活用して、情報発信してほしい。（60代／女性／大曲）

- 花火だけでなく、大仙市のよい所をもっと伝えてほしい。また、県外の人だけでなく、もっと市民を大切にしてほしい。市民へのおもてなし。最低賃金引上げ（国家資格の福祉系の給料アップ）少子化を止めるためには、経済的な支援の充実が重要だと感じる。子育て世代だけでなく、その前の働き盛りの方々への支援や環境を整えてあげることも必要だと感じる。高齢者が集えるような場所や車がなくても気軽にでかけられるような環境を整えてほしい。（スポーツをやらない人のための）（40代／無回答／大曲）
- 大曲の花火に力を入れるのも結構ですが、他地域の整備の方にも、もっと目を向けてほしいです。（70代／男性／中仙）
- 花火の時に屋台や、花火通りにお店が出るのが嬉しい。地域のお祭などが縮小傾向にあり、若い世代が友達と出かけたり、遊べる機会が減ってきた。夜のお祭りは楽しいので、大仙市が盛り上がるようなイベントや交流の機会があればよい。ライブを招致して、男鹿ロックのような市全体で集客するイベントが花火の他にもあるとよい。（10代／女性／西仙北）

(3) 移住・定住について

- 一旦、大学などで地域を離れたとしても、また戻ってくるような施策を強く打ち出さないと、人口減少の急速な進行がとめられない。（60代／女性／大曲）
- 少子高齢化に歯止めをかける市の方針が伝わってこない。花火は有名であるが、農業以外の産業や観光、施設などの「売り」が少ないため、活力が感じられない。定住や移住を推進する方策を一層打ち出してほしい。（60代／男性／仙北）
- 花火事業にだけ注力するのではなく、未来につながる事業を模索してほしい。大仙市は県内でも温泉の多い地域である。県外から来る人達には、とてもこんなに安い料金で温泉に入れるところはない、魅力のある地域で、うらやましいと言われる。災害の少ない住みやすい地域であることも魅力の一つだ。除雪対策や支援をしっかりと、冬に雪で困ることではない住みやすい地域としてもっとPRできれば、もっともっと移住してくる人が多くなるのではないか。（60代／女性／太田）

(4) 市民協働について

- 地域の高齢化や人口減少が進み、自治会の運営が厳しくなっている。特に、共同水道の管理や地域河川の草刈りなど、本来は行政が担う事業ではないか。これまで地域のマンパワーに委ねられてきた活動が難しくなる状況を市ではどのように把握し、今後どのように対処しようと考えているのか、明らかにしてほしい。（60代／男性／仙北）

- 首都圏のような都市開発よりも、秋田県、大仙市ならではのまちづくりを希望します。具体的には、山や川など自然の手入れをしたり、今ある街並みを無理に新しくせず大切に管理して地域の自然と共生していけたらと願っています。また、地域の中小企業の振興でチェーン店だけでなく商店街のような場所にも活気が戻ったり、地域企業と住民の結びつきが増え、人と人との適度なつながりを得て、維持できる機会があれば嬉しいです。特に服や雑貨の店舗が少なく、スーパー等、限られた場所しか身近にないので困っています。今回、このように市民アンケートに答えることが出来、嬉しく思います。満足・不満を持つ市民の声を届けられる機会がもっと増えればいいなと思いつつ、重ねてになりますが、大好きな大仙市ならではの、のんびりした良い意味での田舎として地域の自然との共生、人と人とのあたたかいつながりを持つことのできる街であって欲しいと心から願っております。以上、長文失礼しました。（20代／無回答／大曲）
- 市の職員が、集落関係の事業、活動に参加しないのが見うけられます。どこの地区、地域でも参加人数が減少しているなかで大変だと思います。少なからず、職員が参加してもらうようにしてもらいたい。（50代／男性／協和）

(5) 行財政運営について

- 施策の満足度と重要度を評価しろといわれても、具体的にどのような施策が行われているかをほとんど知らない（自分に関りがあることを除いて）ため、困るのが正直なところです。それぞれの項目で関りがありそうなターゲット層に評価を依頼すべきではないでしょうか？何をしているか知らないため、「どちらともいえない」しか書きようがないです。このような漠然とした内容のアンケートを取ることで、税金の無駄ではないでしょうか？（40代／女性／大曲）
- 市政上のしがらみや利権の影響が強く、合理的な判断が出来ていないと感じる。市政運営上に自身の損得を優先されると困る。（30代／男性／大曲）
- 収益が伴わない負の財産が多すぎる気がします。（60代／女性／西仙北）
- 扶養がいないので高額な住民税を納めていますが単身者にも何かしらの優遇措置があってもいいのでは無いかと思います。（60代／男性／中仙）
- 物価高に補助金を出してほしい。（50代／男性／大曲）
- こども支援課と保健センターは同じ場所に合ったほうが利用しやすい。（30代／男性／神岡）
- 支援給付金は住民非課税世帯ばかりに給付されますが、その他の住民の方も困っていると思います。物価高な今何か対策をして欲しいと日々思っています。（50代／無回答／太田）

- 自由意見に対しての回答がほしい。昨年の市政評価調査を見たが、自由意見に関しては集まった意見を羅列しているだけだった。意見を求められて書いたのに無反応は失礼だと思う。各意見に対しての現況や今後の方針など市側の想いを返答していただきたい。
どの分野の政策においても取り組みに対しての効果があまり感じられない。効果を出している他の自治体や企業にアプローチして、どんどん取り入れてほしい。上記のような情報提供や市のための取り組み案等を投稿できる意見箱的なものを市のホームページ上に作ってほしい。（30代／男性／大曲）
- 大仙市の現状として市職員が減っているのが気になりました。一般市民から見て、選挙場所などももう少し縮小して人件費削減はどうかと思います。人数が少ない地域は隣の地域とまとめたの公民館にするなどしてスタッフの人数を減らして負担を減らすのも1つでは??と思っています。（30代／女性／大曲）

(6) 人口減少・少子化について

- 大曲地域人口の減少率は低いけど旧町村は減少率が高いと思う。（70代／男性／西仙北）
- 大仙市誕生20年を迎え急激な人口減少に今後どのように対応していくのか。大きくは国の問題ではありますが、市政への期待が膨らんでしまいます。（60代／女性／大曲）
- 私は大仙市に限らず、土木事業関連に税金を使いすぎと感じている。トンネルやダム、新しい道路、田んぼなどはいつでもできることであって、何故秋田県は人口増加に本気とならないのか不思議だ。何かしらのことはやっているだろうが、市民県民がその取組みを言える位でないとやっている意味が無いのでは?と思う。多くの税金をたれ流すのではなく、キレイ事は二の次にして、本気でやらねばならない事に尽力してほしい。やらねばならない事は人口増加だ。（30代／男性／西仙北）
- 少子高齢化社会の中で、大仙市がどうなっていくのか不安です。このままでは、消えてなくなってしまうのではないのでしょうか。大きな変化が求められる時期だと思います。是非市民の為に大きな決断をお願いします。（40代／女性／中仙）
- 国会でも取り上げられている少子化問題。子供のいる世帯にはいろいろ優遇されている援助はありますが、我が家のように子供が自立し、老人2人の世帯は少ないです。年金の中からいろいろ差し引きされ、手元に届く金額は減っています。他町村からは「大仙市は花火にだけ力を入れて、金を使っている」と良く言われます。美郷町はいろいろ援助していると聞きます。人口が安定しているのもこんな点もあるのかなと思います。
（80代以上／女性／仙北）

- 人口減少が流出・自然減（死去等）、出生者減などで私の勤務先も後継者不足、高齢化退職者続いております。ハローワーク募集も続けている様ですが、なかなか人が集まりません。（個人的に私の後継人が必要です。）機械に明るい人が来てもらいたいです。以前テレビ番組で山形県遊佐町の地元定着に関する取組について、放送しておりました。参考の余地が有るかと思います。一度そちらに赴いて町の人口減歯止め・活性化相談を遊佐町役場へ申し入れしてみてもどうかと思います。（60代／男性／西仙北）
- 昨年度から不妊治療助成制度を利用させていただいています。市外での治療と仕事の両立が難しく、今は専業主婦になり治療に専念しているため、この制度は本当にありがたいです。不妊治療中は心身ともにつらいことが多く、それに加えて経済的な負担もかかってくるので、お金の面で負担が減ることで、治療をもう少し続けてみよう、ステップアップしてみよう考える方もいると思います。私もその一人です。少子化対策の一つとして、とても良い制度だと思います。（30代／女性／大曲）

(7) デジタル化について

- 近年は何でもスマートフォンアプリとかインターネットで確認とか、持っていない人は困ります。（70代／女性／神岡）
- デジタル化は大いに賛成ですので、誰も躓くことなく、簡単にスムーズに進行できるような市政を期待いたします。（30代／男性／大曲）
- 今年、子供が生まれ産後ケアを利用したところ、市役所に直接申込まなければならなかったのがオンライン申請にしてほしい。（30代／男性／神岡）

その他

(1) その他

- 今回のアンケートは母にはむずかしいと思う。（80代以上／女性／太田）

5 資料（調査票）

大仙市の将来のために
令和7年度市民による市政評価
ご協力をお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

市では、『人が活き 人が集う 夢のある田園交流都市』を将来都市像に掲げ、平成28年度から10年間のまちづくりの指針となる「第2次大仙市総合計画基本構想」のもと、より市民目線に立った実効性のある取組を推進しています。

この「市政評価」は、市民の皆さまが日ごろ感じていることや、市政に対するご意見をお伺いするもので、いただいたご回答は、施策の見直しや市民の皆さまとの協働まちづくりを進めるための基礎資料として活用させていただきます。

令和7年度は、第2次大仙市総合計画の最終年度であり、次期計画の策定に向けた大切なタイミングでもありますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきまして、アンケートにお答えいただきますようお願いいたします。

令和 7年 4月
大仙市長 老 松 博 行

《回答にあたって》

- ◆ このアンケートは、市内にお住まいになっている16歳以上の方の中から無作為(性別、年齢、地域については考慮)に1,000人を抽出させていただき、無記名形式で行います。
- ◆ このアンケートは、原則として封筒の宛名にあるご本人がお答えください。やむを得ず、ご本人がお答えできない場合は、ご家族の方(ただし、16歳以上の方)がお答えいただいても結構です。また、設問が難しいと感じられた場合は、ご家族の方と相談しながらお答えいただいても結構です。
- ◆ ご回答いただいた内容等につきましては、すべて統計的に処理し、個人に関する情報が明らかになることはありません。※宛名ラベル右下の4桁の番号は回答状況を確認するためのものです。
- ◆ このアンケートの結果は、後日(秋頃を予定)市のホームページや広報にて公表します。

《回答方法について》

- ◆ **5月22日(木)**までに、ご回答いただきますようお願いいたします。

スマートフォンまたはパソコンを持っていますか？

はい

インターネット回答



左の2次元コードを読み込んでください。
または、次のURLを直接入力してください。
<URL>
<https://ttzk.graffer.jp/city-daisen/smartapply/surveys/0001507412398590998>

いいえ

調査票回答

- ・同封している調査票に直接ご記入いただき、返信用封筒に入れてご投函ください。(切手は不要です。)
- ・返信用封筒の宛先は、大仙市がアンケートを委託した『(株)あきぎんリサーチ&コンサルティング』となっています。

- ◆このアンケートは、『株式会社 あきぎんリサーチ&コンサルティング』に委託して実施しています。

【このアンケートに関するお問い合わせ先】

<実施主体> 大仙市 企画部 総合政策課 政策調整班
電話:0187-63-1111(内線233) FAX:0187-63-1119
メール:sougou@city.daisen.lg.jp

■あなたご自身のことについてお伺いします。

・あなたの性別を、次の中から1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 無回答 |
|-------|-------|--------|

・あなたの年齢を、次の中から1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 16～19歳 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60～64歳 | 7. 65～69歳 | 8. 70～74歳 |
| 9. 75～79歳 | 10. 80歳以上 | | |

・あなたの現在の就業状況を、次の中から1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|------------|---------------------|--------------|-------|
| 1. 正規社員・職員 | 2. 自営業・家族従業者(農林業含む) | 3. パート・アルバイト | |
| 4. 派遣・契約社員 | 5. 専業主婦・主夫 | 6. 学生(高校生含む) | 7. 無職 |
| 8. その他() | | | |

・あなたの居住地域を、次の中から1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 大曲地域 | 2. 神岡地域 | 3. 西仙北地域 | 4. 中仙地域 |
| 5. 協和地域 | 6. 南外地域 | 7. 仙北地域 | 8. 太田地域 |

・あなたの家族構成を、次の中から1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 単身世帯 | 2. 夫婦世帯 | 3. 二世帯世帯 |
| 4. 三世帯世帯 | 5. その他() | |

■自由意見

今回のアンケートの内容に関わらず、市政に関してご意見やご提案などがありましたら、ご記入ください。

.....

ご記入いただいたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**5月22日(木)**までに、切手を貼らずに、ご投函くださいますようお願いいたします。

I 施策の満足度と重要度について

あなたは、下表の設問項目について、大仙市の取組にどのくらい「満足」していますか。また、今後、大仙市のまちづくりにとってどのくらい「重要」であるとお考えですか。

下表の設問項目ごとに、「満足度」と「重要度」について、あなたの考えに一番近い番号を選んで、○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらでもない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらでもない	2 あまり重要ではない	1 重要ではない
魅力ある産業振興・雇用のまちを創ります！	① 【農林水産業】 売れる米づくりの推進や複合農業化、6次産業化、通年農業化、担い手の育成、生産基盤の整備などに取り組んでいます。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	② 【商工業】 企業誘致の推進や地元企業の規模拡大、企業の人材獲得に対する支援、商店街の取組や創業への支援などに取り組んでいます。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	③ 【花火産業構想】 「大曲の花火」ブランドを戦略的に活用し、観光、商工業、農業など、幅広い分野にわたる活性化策を展開しています。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	④ 【観光】 各地の花火大会や祭り、史跡・文化財、温泉、自然等の地域資源を活かした観光振興に取り組んでいます。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	⑤ 【雇用・就労】 雇用・就業支援や資格取得支援、職場見学事業、Aターン希望者への就業支援などに取り組んでいます。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

大仙市の現状・取組状況

【令和7年4月1日現在】

新規就農者数	H26 157人 → R5 380人
農業産出額	H26 183億8千万円 → R5 204億円
製造品出荷額等※1	H26 646億9千万円 → R3 959億6千万円
新規雇用創出数※2	H27～R5の累計 837人
新規誘致企業数	H27～R6の累計 17社
創業者数	H27～R5の累計 142人
市内の煙火出荷額	H26 7億6百万円 → R5 12億2千2百万円
観光入込客数※3	H26 263万1千人 → R5 165万8千人
Aターン就職者数※4	H27～R5の累計 654人

※1 製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額及びくず・廃物の出荷額の合計

※2 雇用助成金交付人数と地域雇用活性化推進事業により新規雇用された人の合計

※3 コロナ禍の影響による減少

※4 Aターン／秋田県へのUターン・Iターン・Jターンの総称

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度						
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらとも いえない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらとも いえない	2 あまり重要 ではない	1 重要ではない		
Ⅱ みんなの元気を応援します！ 出会い・結婚・子育て、健康・福祉など	①	【出会い・結婚】 出会いイベントの開催に対する支援による交流、出会いの場づくりや、結婚に伴う住居取得への支援などを通じ、地域全体で応援する環境づくりを進めています。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	②	【子育て】 全年齢層の保育料無償化など、保育サービスの充実や放課後児童クラブの設置、高校生までの医療費助成など、安心して子育てできる環境づくりを進めています。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	③	【保健・医療】 特定健診・がん検診の受診促進や地域医療体制の充実、予防接種の推進など、よりよい保健・医療体制づくりを進めています。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	④	【社会福祉】 母子福祉、父子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など、安心して暮らせる社会福祉の充実に努めています。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	⑤	【社会保障】 国民健康保険、生活保護制度など、市民の皆さまの生活を守る社会保障の充実に努めています。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	⑥	【スポーツ】 500歳野球大会の開催、スポーツ少年団への支援、スポーツ施設の充実など、生涯スポーツの推進、スポーツによる地域の活性化に取り組んでいます。		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

大仙市の現状・取組状況

【令和7年4月1日現在】

出会い・結婚・子育てに関する市民満足度	H27 3.10 → R6 3.19
不妊治療による出産数	H27～R5の累計 185件
子育てサポート会員登録者数	H27 81人 → R6 60人
放課後児童クラブ実施箇所数	H27 21箇所 → R6 37箇所
特定健康診査受診率	H27 39.1% → R5 44.2%
介護予防いきいき隊養成者累計数	H27 106人 → R6 222人
全国500歳野球大会参加チーム数	R6 32チーム（県外25チーム、県内7チーム）
スポーツ合宿実施団体数	H27 15団体 → R6 12団体

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらでもない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらでもない	2 あまり重要ではない	1 重要ではない
Ⅲ 住みよ 安全・安心、まちを築きます！ 都市整備など	①	【自然・衛生環境】 豊かな自然の保護や環境に優しいまちづくり、ごみの減量化、公害防止など、自然環境の保全と衛生環境の整備に努めています。									
	②	【安全・安心体制】 消防・防災体制や雪対策の強化、交通安全の推進、防犯体制の強化など、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。									
	③	【空き家対策】 所有者への助言や指導、解体補助、空き家バンクによる移住希望者への情報提供など、空き家の適正管理と活用促進に努めています。									
	④	【公共交通】 地域の実情に応じて循環バスや市民バス、コミュニティバス、乗合タクシーを運行するなど、公共交通の維持確保に努めています。									
	⑤	【地域情報化】 地上デジタル放送難視聴地域の解消やインターネット環境の整備、FMはなびによる防災・災害情報発信などに取り組んでいます。									
	⑥	【市街地】 利便性が高く機能的な都市づくりや無秩序な市街地の拡散抑制、中心市街地の活性化などに取り組んでいます。									
	⑦	【道路・河川】 幹線・生活道路の整備、迅速な道路修繕、橋りょうの長寿命化、国県河川の早期整備要望、内水対策などに取り組んでいます。									
	⑧	【上・下水道】 施設設備の計画的な更新や、適正な維持管理など、生活の基盤となる上・下水道事業の安定した運営に努めています。									
	⑨	【住環境】 住宅リフォームへの支援、市営住宅や公園・緑地の維持管理など、良好で快適な住生活環境づくりに努めています。									

大仙市の現状・取組状況

【令和7年4月1日現在】

自主防災組織の組織率

H26 67.5% → R6 91.6%

地域公共交通運行状況

地域の実情に合わせて6システム 51路線を運行

R6利用実績 循環バス 15,381人 コミュニティバス 34,100人 乗合タクシー 12,137人

市ホームページ閲覧数

H26 64万9千人 → R6 300万1千人

都市計画道路整備率

H26 59.8% → R6 62.0%

住宅リフォーム支援制度利用件数

H28～R6の累計 3,386件

満足度と重要度 設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらとも いえません	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらとも いえません	2 あまり重要 ではない	1 重要ではない
IV 豊かな心と想像力を育みます！ 教育、生涯学習、 芸術・文化など	①	【学校教育】 キャリア教育の推進、英語教育の充実、地域との交流による多様な学びなど、地域一体となって社会で活躍できる子どもを育む取組を進めています。									
	②	【生涯学習】 ライフステージにあわせた学習活動の提供、生涯学習施設の整備など、生涯を通じて学び、活かせる環境づくりを進めています。また、図書館運営の充実などにより、読書活動の促進に取り組んでいます。									
	③	【芸術・文化】 芸術鑑賞機会の創出や音楽祭の開催、文化財を活用したイベントなど、芸術・文化を通じた潤いのあるまちづくりを進めています。									
	④	【地域間・国際交流】 宮崎県宮崎市、神奈川県座間市、岩手県宮古市、韓国唐津市、台湾新北市との間で多様な交流を行っています。									

大仙市の現状・取組状況

【令和7年4月1日現在】

学校生活支援員の配置数	H27 56人 → R5 63人
ALT・CIRの配置数※1	H27 8人 → R6 12人
学校のトイレ改修率（洋式化）	H27 73.0% → R5 96.1%
異校種間連携実施率※2	H27 90.6% → R6 100.0%
生涯学習事業への参加延べ人数	H27 116,772人 → R5 74,134人
芸術文化協会の団体数	H27 245団体 → R6 165団体
国内友好交流都市との交流	H27 8回 → R6 14回
国内外交流自治体数	R6現在 5団体（座間市、宮崎市、宮古市、韓国唐津市、台湾新北市）

※1 ALT／外国語指導助手 CIR／国際交流員

※2 異校種間連携／幼保・小中学校・高校・支援学校・大学など異校間の交流。

設問項目		満足度					重要度				
		5 満足	4 まあ満足	3 どちらでもない	2 やや不満	1 不満	5 重要	4 やや重要	3 どちらでもない	2 あまり重要ではない	1 重要ではない
V 時代 に 合 っ た 地 域 社 会 の 維 持 ・ 活 性 化 、 行 政 運 営 な ど	①	【地域活性化】 地域協議会の活動や地域予算の確保、自治会活動への支援など、住民主体の地域づくりを応援しています。									
	②	【移住・定住】 無料職業紹介所の設置など、移住やAターンの促進と定住に向けた環境づくりを進めています。									
	③	【市民協働】 ボランティアやNPOなどの市民主体の活動に対する支援や、ふるさと納税制度を通じた大仙ファンの創出など、協働・共創のまちづくりを進めています。									
	④	【男女共同参画】 男女共同参画や女性活躍の推進に関する講座の開催など、性別にかかわらず、誰もが活躍できる社会づくりを進めています。									
	⑤	【行財政運営】 財政健全化や組織機構改革、人口規模に見合った公共施設の配置適正化、行政サービスのデジタル化など、効率的かつ効果的で持続可能な行財政運営に努めています。									

大仙市の現状・取組状況

【令和7年4月1日現在】

地域予算（市民主導型）活用数	H27 73件 → R6 95件
地域おこし協力隊員数	H27～R6の累計 13人（うち5人が定住、4人が活動中）
本市への移住者数※1	R2～R6の累計 1,964人
本市への移住相談件数	H28 42件 → R6 154件
市職員数	H27 992人 → R6 838人
ふるさと納税寄付額	H27 901万3千円 → R6 7億9百万円
財政力指数※2	H27 0.342 → R6 0.349
将来負担比率※3	H27 136.9% → R5 72.4%
全会計市債現在高	H27 991億7千5百万円 → R5 763億3百万円

※1 R2年度から移住者の定義を見直し。

移住者：大仙市への転入者の内、転入後5年以上大仙市に居住する意思のある定住希望者

※2 財政力指数／地方公共団体の財政力を示すもの。数値が高いほど財政力が強いことを示す。

※3 将来負担比率／市が将来負担を予定する負債の大きさを示すもの。400%超で早期健全化団体に該当。

2 今後、さらに推進すべき取組について

問1

あなたが「産業分野」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 農業の担い手確保、育成 | 2. 農業生産基盤の整備 |
| 3. 稲作・畑作等複合経営 | 4. 農産物の6次産業化 |
| 5. 畜産業、林業、水産業の振興 | 6. 地域商業の活性化 |
| 7. 企業誘致の強化 | 8. 中小企業の振興 |
| 9. 若者の起業促進 | 10. 花火産業の振興 |
| 11. 特産品の振興 | 12. 魅力ある観光地づくり |
| 13. 雇用の安定と就労環境の充実 | 14. 外国人を含む観光誘客 |
| 15. その他() | |

問2

あなたが「出会い・結婚・子育て分野」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 結婚を応援する環境づくり | 2. 結婚相談会・出会いイベントの充実 |
| 3. 結婚に関わる経済的負担の軽減 | 4. 妊娠、出産、育児を応援する環境づくり |
| 5. 健診や相談等の母子保健事業の充実 | 6. 妊娠中から切れ目のない子育て支援 |
| 7. 保育ニーズに対応した受入体制の整備 | 8. 夜間・休日保育の充実 |
| 9. 子育てに関わる経済的負担の軽減 | 10. 放課後児童クラブ・子供教室の充実 |
| 11. 虐待防止対策の強化 | 12. ワーク・ライフ・バランスの実現 |
| 13. その他() | |

問3

あなたが「健康福祉・スポーツ分野」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. からだの健康づくり | 2. こころの健康づくり |
| 3. 地域医療体制の充実・強化 | 4. 病気予防体制の充実 |
| 5. 地域住民による支え合い体制の構築 | 6. ひとり親家庭への福祉の充実 |
| 7. 地域包括ケアの充実 | 8. 生活支援サービスの充実 |
| 9. 介護サービス基盤等の強化 | 10. 障がい者福祉サービスの充実 |
| 11. 社会保障制度の周知 | 12. 生活保護制度の適正な運用 |
| 13. スポーツ活動の活性化 | 14. スポーツ環境の充実 |
| 15. その他() | |

問4

あなたが「**環境・安全分野**」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。
 あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 自然環境の保全 | 2. 再生可能エネルギーの導入 |
| 3. 交通安全、防犯体制の強化 | 4. 交通弱者への福祉施策 |
| 5. 消費者トラブル対策 | 6. 消防団員の確保と活動の活発化 |
| 7. 地域防災体制の整備・強化 | 8. 水害対策設備の充実 |
| 9. 除排雪体制の充実 | 10. 消融雪設備の充実 |
| 11. 空き家の適正管理と利活用 | 12. 廃棄物の排出抑制・適正処理 |
| 13. 河川とその周辺環境の保全・整備 | 14. 公園・緑地の整備、緑化の取組 |
| 15. その他() | |

問5

あなたが「**都市基盤分野**」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。
 あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 主要道路網・幹線道路の整備 | 2. 生活道路の整備 |
| 3. 道路・橋りょうの適正な維持管理 | 4. 駅舎、駐車場の整備・維持管理 |
| 5. 地域や生活の実情に即した公共交通の整備 | 6. 計画的な市街地整備 |
| 7. 人口減少社会に対応した機能集約型まちづくり | |
| 8. 住生活環境の充実 | 9. 住宅の耐震化率向上 |
| 10. 情報基盤の整備による地域情報化 | 11. 安全で安定した水道水の供給 |
| 12. 下水道施設の適正管理と更新 | 13. 下水道未普及地区の解消 |
| 14. その他() | |

問6

あなたが「**教育・交流分野**」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。
 あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 生きる力を育む学校教育 | 2. 学校と地域の交流・連携 |
| 3. 児童・生徒数にあわせた学校施設の整備 | 4. 家庭教育の充実 |
| 5. 地域と連携したふるさと教育 | 6. 特別支援教育の充実 |
| 7. デジタルを活用した学習環境の充実 | 8. 生涯学習の機会拡大・情報発信 |
| 9. 芸術、文化活動の振興 | 10. 文化財の保全と活用 |
| 11. 非核平和の啓発 | 12. 他自治体との連携・交流 |
| 13. 国際交流の促進 | |
| 14. その他() | |

問7

あなたが「地域活性化・市民との協働・行財政運営分野」で、さらに推進すべきであるとする取組はどれですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 地域資源の掘り起こしと活用 | 2. 地域活動の情報発信 |
| 3. 行政への市民参加機会の拡大 | 4. 自治組織づくり、自治会活動の促進 |
| 5. 地域主体の課題解決や活性化の促進 | 6. 小規模集落・高齢化集落への支援 |
| 7. 移住・定住の促進 | 8. 若者が活躍できる環境づくり |
| 9. 男女共同参画社会の形成 | 10. 事務組織の見直しと職員資質の向上 |
| 11. 行政情報の提供や公開の充実 | 12. 各種行政手続きのデジタル化 |
| 13. 利用状況等に合わせた公共施設の見直し | 14. 公文書の保存・公開 |
| 15. その他() | |

3 市の情報発信や行政サービスのデジタル化について

市では「行かなくても済む『市役所』」を目指し、情報発信や行政サービスのデジタル化を進めています。これまで、各種証明書のコンビニ交付サービス、市役所窓口での発行手数料のキャッシュレス化、市公式LINEアカウントから各種オンライン申請が可能となる機能追加や、公共施設オンライン予約サービスの導入などに取り組んできました。

人口減少が進行する中であっても、持続可能で質の高い行政サービスを提供し続けていくためには、あらゆる場面におけるデジタル化が急務となっています。デジタルに不慣れな方のサポートや対面による窓口サービスの充実に努めながら、「誰一人取り残されない人にやさしいデジタル化」を推進するにあたり、市民の皆さまのご意見をお伺いします。

問1

市では様々な方法で市政情報を発信していますが、あなたがその情報を入手するため、主に利用している手段は何ですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は2つまで)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 市広報「だいせん日和」 | 2. コミュニティFM「FMはなび」(ラジオ) |
| 3. 市公式SNS(LINE、Facebook等) | 4. 市ホームページ |
| 5. 市役所の窓口(支所等を含む) | 6. 家族や知人からの口コミ |
| 7. その他() | |

問2

あなたにとって問1の情報入手手段は利用しやすいと思いますか。(情報入手のしやすさ)あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. ある程度そう思う | 3. どちらとも言えない |
| 4. あまりそう思わない | 5. そう思わない | |

問3

あなたにとって市のサービスは利用しやすいと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. そう思う | 2. ある程度そう思う | 3. どちらとも言えない |
| 4. あまりそう思わない | 5. そう思わない | |

問4

あなたは、今後行政サービスのデジタル化が進むことで、市が行っているサービスがどのように良くなることを期待しますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

1. 市役所に行かなくてもオンラインで手続きができる
2. 各種相談をオンライン(メールやウェブ相談など)で行うことができる
3. 市役所窓口での申請などが簡単で分かりやすくなる
4. 自分に必要な市の情報がアプリやメールなどで入手できる
5. 市が保有するデータ(人口や各種調査結果など)をウェブ上で入手・利用できる
6. 災害発生時の緊急情報などを迅速かつ正確に入手できる
7. その他()

4 あなたが思う大仙市について

問1

あなたが現在大仙市に住んでいる経緯はどれですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

1. 生まれてからずっと住んでいる
2. 市外に住んだことがあり、家族、仕事などの理由で引っ越して来た
3. 市外に住んだことがあり、自分の意志で引っ越して来た

問2

大仙市は、住みやすいまちだと思いますか。
あなたの考えに一番近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. どちらかといえば住みにくい | 4. 住みにくい |

問3

これからも大仙市に住み続けたいと思いますか。
あなたの考えに一番近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. 今の場所に住み続けたい | 2. 市内の別の場所へ移りたい |
| 3. 市外に移りたい | 4. 住み続けたいが、移らざるを得ない |

次のページからは、市が行っている個別の事務事業に対して、市民の皆さまから評価・意見等をお伺いするアンケート調査です。

ご自身に直接関係がないと思われる設問もあるかもしれませんが、市民の皆さまのご意見を幅広く伺い、今後の事業の参考とさせていただきますので、可能な限りすべての設問にお答えいただきますようご協力をお願いいたします。

テーマⅠ 広報活動について

市では、市民の理解と信頼に基づく公正で開かれた市政の発展に資することを目的に、市広報紙「だいせん日和」の発行をはじめ、ホームページ、SNS、コミュニティFM、アプリ等を活用して、市の施策等に関する情報を分かりやすく提供することに努めてきました。

一方で、広報紙をはじめとする行政刊行物の配布に携わる行政協力員の担い手不足や、近年のSNS等の普及に伴う情報入手手段の多様化など、広報紙等を取りまく環境が変化しています。

本調査では、幅広い年代の生活スタイルに即した広報活動を行うために市民の皆さまのご意見を伺い、今後の取組の参考とさせていただきます。

問Ⅰ

これまで市では、市広報「だいせん日和」を紙版の全戸配布のほかに、WEBやアプリから閲覧できるデジタル版でも配信してきました。市広報「だいせん日和」をどのようにして見えていますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 自宅に配布される広報紙を見る | 2. 公共施設等の外出先にある広報紙を見る |
| 3. 市ホームページから見る | 4. 市公式LINEから見る |
| 5. 広報閲覧アプリで見る | 6. その他() |
| 7. 見ない | |

問Ⅰ-Ⅰ

今後、さらに人口減少が進み、個人の考え方が多様化する中、行政協力員の担い手不足も懸念されます。また、情報入手手段が多様化し、広報紙のあり方を見直しせざるを得ない状況になりつつあります。広報紙をデジタル版に切り替えることについてどう思いますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. デジタル版と広報紙の両方が必要 | 2. デジタル版のみでよい |
| 3. 広報紙のみでよい | 4. 両方不要 |

問2

コミュニティFM「FMはなび」を聞いたことがありますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. よく聴いている | 2. とくとき聴いている |
| 3. ほとんど聴かない | 4. 聴いたことがない |

→ 「3. ほとんど聴かない」、「4. 聴いたことがない」と回答された方は問5へお進みください。

問3

問2で「1. よく聴いている」、「2. とくとき聴いている」と回答された方にお聞きします。
主にどのような場面で聴いていますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 通勤中・通学中 | 2. 作業中・仕事中 |
| 3. 休憩中 | 4. その他() |

問4

問2で「1. よく聴いている」、「2. ときどき聴いている」と回答された方にお聞きします。
コミュニティFM「FMはなび」で、充実してほしい情報は何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 料理や買い物等の生活情報 | 2. 行政情報 |
| 3. 地域の情報 | 4. ニュース報道 |
| 5. 趣味・音楽 | 6. 防災情報 |
| 7. その他() | |

問5

緊急時の避難情報や災害情報をどのようにして入手していますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 市ホームページ | 2. 市公式LINE |
| 3. 市公式X(旧Twitter) | 4. 防災ネットだいせん |
| 5. FMはなび | 6. FMはなび以外のラジオ放送 |
| 7. テレビ | 8. 市の広報車、消防団 |
| 9. 家族・親族からの連絡 | 10. 自治会や自主防災組織等の連絡網 |
| 11. その他() | |

テーマ2 地域公共交通対策事業について

市では、地域間を結ぶ基幹路線として路線バスを維持するとともに、地域の実情にあわせて循環バスや市民バス、コミュニティバス、乗合タクシーを運行することで公共交通の維持確保に努めています。

本調査では、市民の皆さまの公共交通に対するご意見を伺い、今後の取組の参考とさせていただきます。

■ 公共交通の定義：不特定多数の人々が、一定の運賃を支払って自由に利用することができる交通機関

【公共交通システムの一覧】

単位（人）

公共交通システム	内 容	直近1年間の利用者数
路線バス	羽後交通（株）の路線バスで、他市町と大仙市を結ぶ基幹路線や、市内を運行する路線 【運行路線】 ・横手大曲線 ・大曲角館線 ・角館六郷線 ・川西線 ・千屋線 ・稲沢線 ・船岡線 ・淀川線 ・峰吉川線 ・イオンイーストモール線	201,070
コミュニティバス	市営の路線バスで、市内の各地域を結ぶ路線 【運行路線】 ・長信田線 ・杉山田線 ・南外線	34,100
循環バス	決められた時間に決められたルートを走行するバス 【運行地域】 ・大曲駅、市役所周辺を運行。	15,381
市民バス	市の車両を使用した予約専用のバス【指定の停留所で乗降必要】 【運行地域】 ・西仙北地域大沢郷地区～刈和野地区・南外地域外小友地区～南外支所	803
乗合タクシー	予約専用のタクシー【指定の停留所で乗降必要】 【運行地域】 ・大曲地域6路線 ・中仙地域1路線 ・協和地域1路線 ・仙北地域3路線 ・太田地域8路線	9,878
乗合タクシー ドアツードア型	予約専用のタクシー【自宅付近で乗降可能】 【運行地域】 ・神岡地域4路線 ・西仙北地域3路線・南外地域4路線	2,259
中仙乗合自動車	中仙タクシー（資）が独自に運行する乗合タクシー 【運行地域】 ・清水、豊川、豊岡地区～中仙地域中心地、仙北市立角館総合病院	3,211

問1

普段、主にどの公共交通を利用していますか。
あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 路線バス | 2. コミュニティバス |
| 3. 循環バス | 4. 市民バス |
| 5. 乗合タクシー | 6. 中仙乗合自動車 |
| 7. 利用しない | |

→ 「7. 利用しない」と回答された方は問4へお進みください。

問2

問1で「1.2.3.4.5.6.」と回答された方にお聞きします。
公共交通を利用する際、困ることはありますか。
あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つ）

1. 困ることがある
2. たまに困ることがある
3. 困ることはない

→ 「3. 困ることはない」と回答された方は問4へお進みください。

問3

問2で「1. 困ることがある」、「2. たまに困ることがある」と回答された方にお聞きします。
どのような点を改善や充実すると利用しやすくなると思いますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 運賃 | 2. 運行本数 |
| 3. 駅や停留所までの距離 | 4. 運行時間 |
| 5. 予約のしやすさ | 6. 運行情報 |
| 7. 乗り換えのしやすさ | 8. バリアフリー対応 |
| 9. スマホ・ICカード決済 | 10. その他() |

問4

市では、公共交通における利用者の減少や運行経費の増加により、利用者負担(運賃収入)だけでは路線の維持が難しいため、毎年多くの税金を投入しています。
こうした状況を踏まえて、今後の公共交通のあり方について、あなたの考えにあてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

1. 利用者負担や財政負担の増加は仕方ないので、今以上に利便性を向上させるべき
2. 利用者負担や財政負担の多少の増加は仕方ないので、これまでの利便性は維持するべき
3. 利用者負担や財政負担を維持したまま、利用者の少ない路線の見直しなどを実施するべき
4. 利用者の少ない路線の廃止や便数の縮小を図り、財政負担を減らすべき
5. 脱炭素社会の視点を含め、市の財政負担を減らすよう市民などが公共交通の利用に協力するべき

問5

今後、公共交通が利用しやすくなる、あるいは暮らしに必要な移動手段を確保していくためには、どのような取組が効果的だと思いますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

1. 乗り放題の運賃制度の導入(月額料金などの定額運賃や定期券等)
2. 乗り継ぎ環境の改善(時刻調整、待合室の整備等)
3. 分かりやすい情報提供(運行経路や運行時刻等)
4. リアルタイムの運行情報の提供(スマホアプリなど)
5. 利便性の高い移動手段の構築(AIオンデマンド交通※1等)
6. 公共版ライドシェア、日本版ライドシェアなどへの取組(移動手段確保の仕組みを構築)
7. スクールバスなどを沿線住民も利用できる仕組みの構築
8. 高齢者や免許返納者等に対する移動支援の拡充
9. 自動運転バスの導入
10. 電動アシスト自転車などの利用促進
11. その他()

※1【解説】AIオンデマンド交通とは

地域特性や一人ひとりの移動ニーズに合わせて、AIが自動的に最適な運行ルートや運行スケジュールを提案することで、移動を効率的に行うサービス。

テーマ3 地球温暖化対策事業について

市では、令和4年3月に市議会と共同で「大仙市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、省エネの推進と最大限の再生可能エネルギーの導入により、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて取組を進めています。また、令和6年3月には、大仙市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、市域全体で温暖化対策に取り組んでいくこととしています。

本調査では、市民の皆さまの地球温暖化対策への関心等についてご意見を伺い、今後の取組の参考とさせていただきます。

■ ゼロカーボンシティ推進事業費補助金



■ 食品ロス削減への取組



問 1

地球温暖化対策に関心がありますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

1. 非常に興味がある
2. 興味がある
3. 少しは興味がある
4. 全くない

問2

地球温暖化による影響として身近に感じていることはありますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

1. 農産物の品質・収量の低下
2. 野生鳥獣の生息域変化による人や農産物への被害
3. 自然災害の激甚化・頻発化
4. 悪天候によるイベント等の中止
5. 熱中症など体調への影響
6. エアコン等の使用時間増による家計負担の増加
7. 特に感じていない
8. その他（ ）

問3

ご家庭で地球温暖化対策として取り組んでいることはありますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| 1. 太陽光発電等の再生可能エネルギー設備の設置 | 2. EV・PHEV車の購入 |
| 3. 省エネ家電の購入 | 4. 省エネ住宅へのリフォーム |
| 5. 節電や節水などの省エネ行動の実践 | 6. 食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策 |
| 7. ごみ分別やりサイクルの取組 | 8. 生ごみの肥料利用 |
| 9. 地球温暖化に関する講座等の受講 | 10. 運転時のエコドライブ |
| 11. 徒歩や自転車、公共交通機関の利用 | 12. CO ₂ 排出係数が低いクリーン電力の購入 |
| 13. その他 () | |

問4

あなたが地球温暖化対策として新たに取り組みたいことはありますか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------|--------------------------------------|
| 1. 太陽光発電などの再生可能エネルギー設備の設置 | 2. EV・PHEV車の購入 |
| 3. 省エネ家電の購入 | 4. 省エネ住宅へのリフォーム |
| 5. 節電や節水などの省エネ行動の実践 | 6. 食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策 |
| 7. ごみ分別やりサイクルの取組 | 8. 生ごみの肥料利用 |
| 9. 地球温暖化に関する講座等の受講 | 10. 運転時のエコドライブ |
| 11. 徒歩や自転車、公共交通機関の利用 | 12. CO ₂ 排出係数が低いクリーン電力の購入 |
| 13. その他 () | |

問5

今後、市が地球温暖化対策として重点的に取り組むべきだと思うことは何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 太陽光発電など再生可能エネルギー設備の普及促進 | 2. EV・PHEV車の購入支援や充電環境の整備 |
| 3. 省エネ家電の普及促進 | 4. 省エネ住宅へのリフォーム普及促進 |
| 5. ごみ分別やりサイクルの取組促進 | 6. 食べ残しを減らす等の食品ロス削減対策 |
| 7. 企業の地球温暖化対策支援 | 8. 学校や地域での環境学習・講座等の開催 |
| 9. 家庭や職場で身近に出来る省エネ行動の促進 | 10. 森林環境整備・保全 |
| 11. 大雨や暴風などの異常気象に備えた災害対策 | 12. 熱中症対策 |
| 13. 地球温暖化対策に関する情報発信 | 14. その他 () |